茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 18 集

# 北　原　遺　跡　Ⅰ

道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

平成 26 年 11 月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 18 集

# 北原遺跡（きたはらいせき） I

道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

平成 26 年 11 月

常陸大宮市教育委員会

北原遺跡全景（北方に久慈川を望む）

墨書土器（上段左から「占・上家」「福良・福圓」「□本」「吉」「真家」「稲村卍」）

# ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県の北西部に位置し，県都水戸から北へ約20kmの，平成の大合併で誕生した人口約４万３千人の市です。

市域は，鷲子山塊の南端と関東平野周縁台地の北端の境界部にあたります。東部には久慈川，南西部には那珂川，中央部には緒川や玉川の清流が流れ，山間には美林が涵養されていて，まさに山紫水明の地となっております。また，河川の流域や台地上には肥沃な田畑が広がり，大きな農業生産力の基盤となっております。

こうした豊かな自然に恵まれた常陸大宮市は，古くから人々の生活の場となり，多くの歴史を重ねております。そのため市域には，各時期の集落跡をはじめ，古墳・城館跡・塚など多くの遺跡が存在しているのです。

これらの遺跡は，私たちの祖先がどのように生活したのか，そして現在の豊かな生活の礎がいかに築かれてきたのかを知る手がかりになります。遺跡は，私たちが心豊かな生活をするうえで根源的かつ必要な情報を与えてくれていると言えましょう。この貴重な文化遺産を後世に伝えることは，私たちの大切な任務であり，郷土の発展のためにも重要なことと考えております。

このたび発掘調査が行われた北原遺跡では，今回が初めての記録保存の調査となりました。調査は平成25年11月2日から平成26年11月6日まで関東文化財振興会株式会社に委託して実施され，古墳・奈良・平安時代の遺構・遺物が出土して，この地に大規模な集落が営まれていたことが確認されました。この時期の集落は，上ノ宿遺跡等に見られるように，他の集落とある程度の間隔を空けて立地しており，北原遺跡の集落も同様の立地を示しております。こうした調査成果は，久慈川中流域における社会の成り立ちを理解するために，非常に貴重な知見を与えてくれました。

本書は，この発掘調査の成果を報告するものです。歴史研究の学術資料としてはもとより，地域の教育・文化の向上のために十分に活用していただくことを希望いたします。また，この機会に文化財愛護の意識を一層高めていただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査にあたりご指導いただきました茨城県教育庁文化課，全般にわたりご協力いただきました地元の皆様，適正かつ慎重な調査をしていただいた関東文化財振興会株式会社様，その他ご指導・ご協力をいただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

平成26年11月

茨城県常陸大宮市教育委員会
教育長　　上久保　洋一

# 例　言

1　本書は，道の駅整備用地遺跡調査業務に伴う，茨城県常陸大宮市岩崎726番地１外に所在する北原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本調査は，常陸大宮市教育委員会による試掘確認調査に基づいて，常陸大宮市教育委員会から業務委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。

3　発掘調査及び整理作業は，常陸大宮市教育委員会から業務委託を受けた関東文化財振興会株式会社が，常陸大宮市教育委員会の指導のもとに実施した。

遺跡所在地　茨城県常陸大宮市岩崎726番地１ほか
調 査 面 積　7,433㎡
調 査 期 間　平成25年11月２日～平成26年４月30日
整 理 期 間　平成26年３月10日～平成26年11月６日
調 査 指 導　後藤俊一・萩野谷悟（常陸大宮市教育委員会）
調 査 担 当　宮田和男･高野恒一･萩原宏季･林邦雄･西森忠幸（関東文化財振興会株式会社）

4　本書の執筆は第１章１節を常陸大宮市教育委員会が，第１章２節～第４章までを常陸大宮市教育委員会の指導を受け関東文化財振興会株式会社の調査員４名が担当した。

第１章　第１節　調査に至る経緯 …… 後藤俊一
　　第２節　調査の経過 …… 宮田和男
第２章　第１節　地理的環境 …… 高野恒一
　　第２節　歴史的環境 …… 高野恒一
第３章　第１節　調査の概要 …… 宮田和男
　　第２節　基本層序 …… 宮田和男
　　第３節　遺構と遺物
　　１　竪穴住居跡・第１～40・42～44号住居跡 …… 宮田和男
　　・第46～52・55～60号住居跡 …… 西森忠幸
　　・第61～79・81～97・100号住居跡 …… 萩原宏季
　　２　掘立柱建物跡 …… 萩原宏季
　　３　溝跡 …… 萩原宏季
　　４　地下式坑 …… 萩原宏季
　　５　墓壙 …… 萩原宏季
　　６　ピット列 …… 萩原宏季
　　７　性格不明遺構 …… 西森忠幸
　　８　土坑 …… 西森忠幸
第４章　総　括 …… 宮田和男

5　調査及び本報告書の作成にあたり，次の方々からご指導・ご協力を賜った。ここに記して感謝の意を表する次第である。（五十音順・敬称略）

相田美樹男　荒蒔克一郎　鴨志田篤二　川井正一　瓦吹堅　桐谷優　後藤一成　佐々木藤雄　清水哲　鈴木邦夫　杉山浩一　田中陽一　富澤敏之　長山直子　白田正子　羽石徹　松田政基　吉田功一　茨城県教育庁文化課　茨城県教育財団　常陸大宮市シルバー人材センター　那珂市シルバー人材センター　上野矯正歯科医院　ＪＴ空撮　塚田工務店　カワヒロ産業　古川市郎土地家屋調査士事務所

6　本調査における出土遺物・実測図及び写真等は，常陸大宮市教育委員会が保管している。

7　調査参加者（50音順，敬称略）

（発掘調査）　飯田昭　石崎靖也　石橋美智代　市川ひで子　大津正子　岡崎稔　小沢明子　鬼沢勲　笠井尹孚　川又恵美子　郡司ゆき子　齋藤周三　坂場光雄　佐久間順美　佐久間憲子　佐久間弘美　佐々木由二　沢田すみ江　清水昊　白土和夫　菅谷末吉　菅原裕子　鈴木潤一　鈴木めぐみ　高久照美　高野正行　高柳悦子　立原正一　谷川明正　飛田けい子　西宮芳江　根本四郎　根矢稔　浜敏子　平田圭子　藤倉秋之助　藤田理子　益子光江　皆川典子　矢代伸子　山崎美知子　渡辺義雄　渡辺律子

（整理作業）　益子光江　大越慶子　平井百合子　大山晴美　川又恵美子　倉田典子

# 凡　例

1　本書に記してある座標値は，世界測地系第Ⅸ系を用いている。方位は，座標北を示す。

2　本文中の色調表現は，『新版標準土色帖』2008年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所指色票監修）を用いた。

3　標高は，海抜標高である。

4　掲載した図面の基本縮尺は，以下のとおりである。

遺構図　グリッド設定図　1/1000　　調査区全体図　1/400

竪穴住居跡・掘立柱建物跡・地下式坑・ピット列・性格不明遺構・土坑…1/60

溝跡…1/60，1/150，1/300　　墓壙…1/30

なお，変則的な縮尺を用いた場合には，スケールによってその縮尺率を表した。

遺物図　土器・土製品・石製品・金属製品…1/3を原則とする。ただし種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

5　遺物写真は，原則として実測図の縮尺に合わせて掲載した。

6　遺構・遺物実測図中のスクリーントーン及び記号は，以下に示すとおりである。

竈構築材・黒色処理　　竈火床面・焼土

墨書・朱墨　　煤

●　土器・土製品・石製品　　－－－　硬化面

7　実測図・本文中に用いた略記号は以下を示す。

SI：竪穴住居跡　　SB：掘立柱建物跡　　SD：溝跡　　SX：性格不明遺構

SK：土坑　　P：ピット　　TP：テストピット　　K：攪乱

8　遺物観察表の法量単位はｃｍである。法量に付した〔〕は復元値，（）は残存値を示す。

9　「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については，長軸（長径）を軸とみなした。また「主軸・長軸（長径）方向」は，その主軸が座標北から見て，どの方向にどれだけ触れているかを角度で表示した。（例　N－10°－W）

10　本遺跡の略号は，ＨＩＫである。遺物の注記もこれに従っている。

11　トレンチャーによる攪乱の表記については調査区全体に及ぶため，断面図のみ表記を行った。

# 目　次

巻頭写真図版
ごあいさつ
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査に至る経緯と調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 7
　第１節　調査の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 13
　　1　竪穴住居跡 …… 13
　　2　掘立柱建物跡 …… 194
　　3　溝　跡 …… 199
　　4　地下式坑 …… 202
　　5　墓　壙 …… 205
　　6　ピット列 …… 207
　　7　性格不明遺構 …… 208
　　8　土　坑 …… 209
　　9　遺構外出土遺物 …… 218
第４章　総　括 …… 221
付　章　自然科学分析 …… 227
写真図版
抄　録
奥　付

# 北原遺跡　挿図目次


第１図　茨城県における北原遺跡の位置
第２図　調査対象地の位置
第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡
第４図　基本土層図
第５図　グリッド設定図
第6-1図　第１調査区遺構全体図
第6-2図　第２調査区遺構全体図
第6-3図　第３調査区遺構全体図
第6-4図　第４調査区遺構全体図
第７図　第１号住居跡・出土遺物実測図
第８図　第２号住居跡実測図
第９図　第２号住居跡出土遺物実測図
第10図　第３号住居跡・出土遺物実測図
第11図　第４号住居跡実測図
第12図　第４号住居跡出土遺物実測図
第13図　第５号住居跡・出土遺物実測図
第14図　第６号住居跡・出土遺物実測図
第15図　第７号住居跡実測図
第16図　第７号住居跡出土遺物実測図（1）
第17図　第７号住居跡出土遺物実測図（2）
第18図　第８号住居跡実測図
第19図　第８号住居跡出土遺物実測図
第20図　第９号住居跡実測図
第21図　第９号住居跡出土遺物実測図
第22図　第10号住居跡実測図
第23図　第10号住居跡出土遺物実測図
第24図　第11号住居跡・出土遺物実測図
第25図　第12号住居跡実測図
第26図　第12号住居跡出土遺物実測図
第27図　第13号住居跡実測図
第28図　第13号住居跡出土遺物実測図
第29図　第14号住居跡実測図
第30図　第14号住居跡出土遺物実測図（1）
第31図　第14号住居跡出土遺物実測図（2）
第32図　第15号住居跡実測図
第33図　第15号住居跡出土遺物実測図
第34図　第16号住居跡・出土遺物実測図
第35図　第17号住居跡実測図
第36図　第17号住居跡出土遺物実測図
第37図　第18号住居跡・出土遺物実測図
第38図　第19・20住居跡実測図
第39図　第19号住居跡出土遺物実測図
第40図　第20号住居跡出土遺物実測図
第41図　第21号住居跡・出土遺物実測図
第42図　第22号住居跡実測図
第43図　第22号住居跡出土遺物実測図
第44図　第23号住居跡実測図
第45図　第23号住居跡出土遺物実測図
第46図　第24号住居跡・出土遺物実測図
第47図　第25号住居跡実測図
第48図　第25号住居跡出土遺物実測図
第49図　第26号住居跡実測図
第50図　第26号住居跡出土遺物実測図
第51図　第27号住居跡実測図
第52図　第27号住居跡出土遺物実測図
第53図　第28号住居跡・出土遺物実測図
第54図　第29・30号住居跡実測図
第55図　第31号住居跡・出土遺物実測図
第56図　第32号住居跡・出土遺物実測図
第57図　第33号住居跡出土遺物実測図
第58図　第33・34・35号住居跡実測図（1）
第59図　第33・34・35号住居跡実測図（2）
第60図　第34・35号住居跡出土遺物実測図
第61図　第36号住居跡出土遺物実測図
第62図　第36・37・38号住居跡実測図
第63図　第37号住居跡出土遺物実測図
第64図　第38号住居跡出土遺物実測図
第65図　第39号住居跡実測図
第66図　第39号住居跡出土遺物実測図
第67図　第40号住居跡実測図
第68図　第40号住居跡出土遺物実測図
第69図　第42号住居跡実測図
第70図　第42号住居跡出土遺物実測図
第71図　第43号住居跡実測図
第72図　第43号住居跡出土遺物実測図
第73図　第44号住居跡・出土遺物実測図
第74図　第46・47号住居跡実測図
第75図　第46号住居跡出土遺物実測図
第76図　第48号住居跡・出土遺物実測図
第77図　第49号住居跡実測図
第78図　第49号住居跡出土遺物実測図
第79図　第50号住居跡実測図
第80図　第50号住居跡出土遺物実測図
第81図　第51号住居跡実測図
第82図　第52号住居跡実測図
第83図　第52号住居跡出土遺物実測図

第84図　第55・56号住居跡実測図
第85図　第55号住居跡出土遺物実測図
第86図　第56号住居跡出土遺物実測図
第87図　第57・58号住居跡実測図
第88図　第57号住居跡出土遺物実測図
第89図　第59号住居跡・出土遺物実測図
第90図　第60号住居跡実測図
第91図　第60号住居跡出土遺物実測図
第92図　第61号住居跡実測図
第93図　第61号住居跡出土遺物実測図（1）
第94図　第61号住居跡出土遺物実測図（2）
第95図　第61号住居跡出土遺物実測図（3）
第96図　第62号住居跡実測図
第97図　第62号住居跡出土遺物実測図
第98図　第63号住居跡・出土遺物実測図
第99図　第64号住居跡実測図
第100図　第64号住居跡出土遺物実測図
第101図　第65号住居跡実測図
第102図　第65号住居跡出土遺物実測図
第103図　第66号住居跡実測図
第104図　第66号住居跡出土遺物実測図
第105図　第67号住居跡実測図
第106図　第67号住居跡出土遺物実測図
第107図　第68号住居跡実測図
第108図　第69号住居跡・出土遺物実測図
第109図　第70号住居跡実測図（1）
第110図　第70号住居跡実測図（2）
第111図　第70号住居跡出土遺物実測図
第112図　第71号住居跡・出土遺物実測図
第113図　第72号住居跡実測図
第114図　第73号住居跡・出土遺物実測図
第115図　第74号住居跡出土遺物実測図
第116図　第75号住居跡実測図
第117図　第75号住居跡出土遺物実測図
第118図　第76号住居跡実測図（1）
第119図　第76号住居跡実測図（2）
第120図　第76号住居跡出土遺物実測図（1）
第121図　第76号住居跡出土遺物実測図（2）
第122図　第77号住居跡・出土遺物実測図
第123図　第78号住居跡実測図
第124図　第78号住居跡出土遺物実測図
第125図　第79号住居跡実測図
第126図　第81号住居跡実測図
第127図　第81号住居跡出土遺物実測図
第128図　第82号住居跡実測図
第129図　第83号住居跡実測図
第130図　第83号住居跡出土遺物実測図
第131図　第84号住居跡実測図
第132図　第84号住居跡出土遺物実測図
第133図　第85・86号住居跡実測図
第134図　第85号住居跡出土遺物実測図
第135図　第86号住居跡出土遺物実測図
第136図　第87号住居跡・出土遺物実測図
第137図　第88号住居跡実測図
第138図　第88号住居跡出土遺物実測図
第139図　第89号住居跡・出土遺物実測図
第140図　第90号住居跡実測図
第141図　第91号住居跡実測図
第142図　第91号住居跡出土遺物実測図
第143図　第92号住居跡実測図
第144図　第93号住居跡・出土遺物実測図
第145図　第94号住居跡実測図
第146図　第95号住居跡実測図
第147図　第95号住居跡出土遺物実測図
第148図　第96号住居跡・出土遺物実測図
第149図　第97号住居跡・出土遺物実測図
第150図　第100号住居跡実測図
第151図　第1号掘立柱建物跡実測図
第152図　第２号掘立柱建物跡実測図
第153図　第３号掘立柱建物跡実測図
第154図　第４号掘立柱建物跡実測図
第155図　第２号溝跡・出土遺物実測図
第156図　第３・４号溝跡実測図
第157図　第１号地下式坑実測図
第158図　第１号地下式坑出土遺物実測図
第159図　第１号墓壙実測図
第160図　第２号墓壙・出土遺物実測図
第161図　第１号ピット列実測図
第162図　第１号性格不明遺構実測図
第163図　第20号土坑実測図
第164図　その他の土坑出土遺物実測図
第165図　遺構外出土遺物実測図（1）
第166図　遺構外出土遺物実測図（2）
第167図　北原遺跡の住居配置（6世紀）
第168図　北原遺跡の住居配置（7世紀）
第169図　北原遺跡の住居配置（8世紀）
第170図　北原遺跡の住居配置（9世紀）
第171図　北原遺跡の住居配置（10世紀）

# 北原遺跡　表目次


表１　周辺遺跡一覧表
表２　第１号住居跡出土遺物観察表
表３　第２号住居跡出土遺物観察表
表４　第３号住居跡出土遺物観察表
表５　第４号住居跡出土遺物観察表
表６　第５号住居跡出土遺物観察表
表７　第６号住居跡出土遺物観察表
表８　第７号住居跡出土遺物観察表
表９　第８号住居跡出土遺物観察表
表10　第９号住居跡出土遺物観察表
表11　第10号住居跡出土遺物観察表
表12　第11号住居跡出土遺物観察表
表13　第12号住居跡出土遺物観察表
表14　第13号住居跡出土遺物観察表
表15　第14号住居跡出土遺物観察表
表16　第15号住居跡出土遺物観察表
表17　第16号住居跡出土遺物観察表
表18　第17号住居跡出土遺物観察表
表19　第18号住居跡出土遺物観察表
表20　第19号住居跡出土遺物観察表
表21　第20号住居跡出土遺物観察表
表22　第21号住居跡出土遺物観察表
表23　第22号住居跡出土遺物観察表
表24　第23号住居跡出土遺物観察表
表25　第24号住居跡出土遺物観察表
表26　第25号住居跡出土遺物観察表
表27　第26号住居跡出土遺物観察表
表28　第27号住居跡出土遺物観察表
表29　第28号住居跡出土遺物観察表
表30　第31号住居跡出土遺物観察表
表31　第32号住居跡出土遺物観察表
表32　第33号住居跡出土遺物観察表
表33　第34号住居跡出土遺物観察表
表34　第35号住居跡出土遺物観察表
表35　第36号住居跡出土遺物観察表
表36　第37号住居跡出土遺物観察表
表37　第38号住居跡出土遺物観察表
表38　第39号住居跡出土遺物観察表
表39　第40号住居跡出土遺物観察表
表40　第42号住居跡出土遺物観察表
表41　第43号住居跡出土遺物観察表
表42　第44号住居跡出土遺物観察表
表43　第46号住居跡出土遺物観察表
表44　第48号住居跡出土遺物観察表
表45　第49号住居跡出土遺物観察表
表46　第50号住居跡出土遺物観察表
表47　第52号住居跡出土遺物観察表
表48　第55号住居跡出土遺物観察表
表49　第56号住居跡出土遺物観察表
表50　第57号住居跡出土遺物観察表
表51　第59号住居跡出土遺物観察表
表52　第60号住居跡出土遺物観察表
表53　第61号住居跡出土遺物観察表
表54　第62号住居跡出土遺物観察表
表55　第63号住居跡出土遺物観察表
表56　第64号住居跡出土遺物観察表
表57　第65号住居跡出土遺物観察表
表58　第66号住居跡出土遺物観察表
表59　第67号住居跡出土遺物観察表
表60　第70号住居跡出土遺物観察表
表61　第71号住居跡出土遺物観察表
表62　第73号住居跡出土遺物観察表
表63　第75号住居跡出土遺物観察表
表64　第76号住居跡出土遺物観察表
表65　第77号住居跡出土遺物観察表
表66　第78号住居跡出土遺物観察表
表67　第81号住居跡出土遺物観察表
表68　第83号住居跡出土遺物観察表
表69　第84号住居跡出土遺物観察表
表70　第85号住居跡出土遺物観察表
表71　第86号住居跡出土遺物観察表
表72　第87号住居跡出土遺物観察表
表73　第88号住居跡出土遺物観察表
表74　第89号住居跡出土遺物観察表
表75　第91号住居跡出土遺物観察表
表76　第93号住居跡出土遺物観察表
表77　第95号住居跡出土遺物観察表
表78　第96号住居跡出土遺物観察表
表79　第97号住居跡出土遺物観察表
表80　第2号溝跡出土遺物観察表
表81　第1号地下式坑出土遺物観察表
表82　第2号墓壙出土遺物観察表
表83　第3号土坑出土遺物観察表
表84　第18号土坑出土遺物観察表
表85　第139号土坑出土遺物観察表
表86　第164号土坑出土遺物観察表
表87　第209号土坑出土遺物観察表
表88　第217号土坑出土遺物観察表
表89　その他の土坑一覧表
表90　表採遺物観察表
表91　攪乱部出土遺物観察表
表92　遺構外出土遺物観察表
表93　北原遺跡出土の墨書土器一覧表

# 北原遺跡　写真目次


PL 1　第１・２調査区完掘状況
PL 2　第３・４調査区完掘状況，第３テストピット
PL 3　第１～４号住居跡完掘状況，第１・２号住居跡遺物出土状況，第１住居跡竈埋没状況，第２号住居跡竈遺物出土状況
PL 4　第５～７・14号住居跡完掘状況，第４～７・14号住居跡遺物出土状況
PL 5　第７号住居跡竈遺物出土・埋没状況，第８・９・15号住居跡完掘状況，第８・９・14・15号住居跡遺物出土状況
PL 6　第10・12・13・16・17号住居跡完掘状況，第９・10・11・13・15・16号住居跡遺物出土状況
PL 7　第18～21号住居跡完掘状況，第17～20号住居跡遺物出土状況，第19・20号住居跡埋没出土状況
PL 8　第22・24・25号住居跡完掘状況，第22・23号住居跡遺物出土状況，第24号住居跡竈遺物出土状況，第21・23号住居跡埋没状況
PL 9　第26～28号住居跡完掘状況，第26・27号住居跡遺物出土状況，第26・27号住居跡竈遺物出土状況，第26号住居跡埋没状況
PL10　第29～35・36・38号住居跡完掘状況，第31号住居跡竈遺物出土状況，第33～35号住居跡埋没状況
PL11　第39・40・42号住居跡完掘状況，第42号住居跡遺物出土状況，第40号住居跡竈遺物出土状況，第38・40号住居跡埋没状況
PL12　第43・44号住居跡完掘状況，第42～44号住居跡遺物出土状況，第44号住居跡埋没状況
PL13　第46～48・50号住居跡完掘状況，第49号住居跡遺物出土状況，第44・46～48号住居跡掘方完掘状況
PL14　第51・52号住居跡完掘状況，第50・52号住居跡遺物出土状況，第52号住居跡竈遺物出土状況
PL15　第55～60号住居跡完掘状況，第55・56・59号住居跡遺物出土状況，第52・59号住居跡掘方完掘状況
PL16　第61～63号住居跡完掘状況，第61号住居跡遺物出土状況，第55～62号住居跡掘方完掘状況
PL17　第64～67号住居跡完掘状況，第63・65号住居跡遺物出土状況，第63・64・66号住居跡掘方完掘状況
PL18　第68～70号住居跡・第260号土坑完掘状況，第67号住居跡遺物出土状況，第67～69号住居跡掘方完掘状況
PL19　第70号住居跡遺物出土・竈袖部断ち割り状況，第71～73号住居跡完掘・掘方完掘状況
PL20　第74～76号住居跡完掘状況，第74・75号住居跡掘方完掘状況，第76号住居跡遺物出土・埋没状況
PL21　第76・78号住居跡竈完掘状況，第76・77号住居跡掘方完掘状況，第76号住居跡竈袖部断ち割り状況，第77号住居跡遺物出土・埋没・完掘状況
PL22　第79・81～84号住居跡完掘状況，第81～86・97号住居跡遺物出土状況，第81～83・85・86・97号住居跡埋没状況
PL23　第81号住居跡竈遺物出土状況，第81～83・85・86・97号住居跡掘方完掘状況，第85・86号住居跡埋没状況，第87～89号住居跡完掘状況
PL24　第90～92・100号住居跡完掘状況，第91・92号住居跡掘方完掘状況，第92号住居跡遺物物出土・埋没状況

PL25　第93～96号住居跡完掘・掘方完掘状況，第93号住居跡埋没状況
PL26　第96号住居跡掘方完掘状況，第97号住居跡遺物出土状況，第１号掘立柱建物跡確認状況，第１・２号掘立柱建物跡完掘状況
PL27　第２～４号溝跡完掘状況，第２号溝跡遺物出土状況，第１号地下式坑完掘・天井崩落状況，第１号墓壙遺物出土状況
PL28　第２号墓壙遺物出土状況，第20・22・35号土坑完掘状況，第20・22・35号土坑埋没状況，第１号性格不明遺構完掘状況，第１調査区土坑群完掘状況①
PL29　第１調査区土坑群完掘状況②～⑥，第３調査区撹乱部
PL30　第１～３号住居跡出土遺物
PL31　第４～７号住居跡出土遺物
PL32　第７号住遺物UP居跡出土遺物
PL33　第８・10号住遺物UP居跡出土遺物
PL34　第10・12～14号住居跡出土遺物
PL35　第14・16号住居跡出土遺物
PL36　第16・17号住遺物UP居跡出土遺物
PL37　第17～19号住居跡出土遺物
PL38　第20～22号住居跡出土遺物
PL39　第23・24号住居跡出土遺物
PL40　第25・26号住居跡出土遺物
PL41　第27・28・31号住居跡出土遺物
PL42　第31～35号住居跡出土遺物
PL43　第35・36・38・39号住居跡出土遺物
PL44　第39・40・42・43号住居跡出土遺物
PL45　第43・44号住居跡出土遺物
PL46　第46・48～50号住居跡出土遺物
PL47　第50・52・55～57号住居跡出土遺物
PL48　第59・60号住居跡出土遺物
PL49　第60・61号住居跡出土遺物
PL50　第61～63号住居跡出土遺物
PL51　第63・66・67・70号住居跡出土遺物
PL52　第70・71・73・75号住居跡出土遺物
PL53　第75・76号住居跡出土遺物
PL54　第76・77・81号住居跡出土遺物
PL55　第81・83～87・89号住居跡出土遺物
PL56　第89・91・93・95～97号住居跡出土遺物
PL57　第２号溝跡・第１号地下式坑・第１・２号墓壙出土遺物
PL58　第２号墓壙・第３・18・139・164・209・217号土坑出土遺物，表採遺物
PL59　第７・９・14号住居跡出土遺物（墨書）
PL60　第15・16・26号住居跡出土遺物（墨書）
PL61　第38・50・55・59・61・65号住居跡出土遺物（墨書）
PL62　第81・83・84・88号住居跡・第１号地下式坑・第217号土坑出土遺物，表採遺物（墨書）
PL63　第61号住居跡出土管状土錘，出土鉄製品（1）～（3）
PL64　撹乱部・遺構外出土遺物

# 第１章　調査に至る経緯と調査経過

## 第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は，道の駅整備事業に伴う事前調査である。

平成25年５月13日，常陸大宮市長　三次　真一郎から常陸大宮市教育委員会に，同事業予定地内における埋蔵文化財の所在の有無について照会が提出された。開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地北原遺跡内であったため，試掘調査が必要と判断された。

開発予定地は3.7haと広大であったため，区域を便宜的に３つに分けて同年５月から６月にかけて，市教育委員会生涯学習課　主幹　後藤　俊一，嘱託職員　中林　香澄が，順次トレンチ方式の試掘調査を実施した。

その結果，まず久慈川に近い低地においては，氾濫による土砂の堆積が見られるなど，遺構・遺物の所在は確認できなかったため，工事を進めても支障ないと判断した。一方，低地からの比高差２～４ｍの低位段丘面上のトレンチ内からは竪穴住居跡，土坑等が確認され，併せて土師器等が確認されたことにより，古代の集落が所在することが判明した。このため，区域を低位段丘面上に限定した発掘調査が相当と考えられた。

この結果を受けて，同年９月10日に茨城県教育委員会と協議を行ったところ，同年９月17日，茨城県教育委員会から，市教育委員会案のとおり発掘調査を実施すべき旨回答を受けた。

これを受けて，同年11月１日，常陸大宮市長　三次　真一郎は，関東文化財振興会株式会社に調査を委託した。同年11月６日，常陸大宮市・常陸大宮市教育委員会・関東文化財振興会株式会社は常陸大宮市北原遺跡埋蔵文化財に関する協定書を締結して，同年11月２日から平成26年４月30日まで本調査を実施した。

## 第２節　調査の経過

平成25年11月上旬より機材整備・確認等の調査準備に入り，11月下旬から看板設置，残土置き場の草刈等を進めた。12月中旬に重機による表土除去を第１調査区から開始し，併せて調査区周囲における杭打ちやネット張り等の安全対策を行った。平成26年１月７日から第１調査区の遺構確認調査に入り，その後遺構掘削作業へと進んだ。途中，調査面積の拡張があり，常陸大宮市と関東文化財振興会株式会社との間で第１回目の契約変更が行われ，その結果，調査面積は5,459㎡から7,433㎡へと変更になった。

第２調査区の発掘作業は３月中旬に終了したが，作業に遅れが出てきたため，第３・４調査区は発掘作業員を増員し２班体制で調査を行い，３月31日をもって遺構調査は終了した。その後，補足調査と航空写真撮影，撤去作業を行い，4月30日に発掘作業の全工程が終了した。

整理作業は，発掘調査と併行し３月10日から行われた。初めに出土遺物の洗浄・注記・接合，遺構図面や撮影画像の整理等を行ったが，出土遺物数が多く作業日程に遅れが生じることが予想されたため，当初の契約終了日である９月26日から40日間の期間延長を関東文化財振興会株式会社から常陸大宮市に願い出て受理された。その結果，第２回目の契約変更が行われ11月６日まで整理作業を行うこととなった。その後，遺物の実測や写真撮影，報告書の原稿執筆，図版の版下作成などの作業を経て，報告書・図面・遺物・台帳類を常陸大宮市教育委員会に返還し，整理作業の全工程が終了した。

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

北原遺跡は，茨城県常陸大宮市岩崎字北原744番地ほかに所在する。

常陸大宮市は県の北西部に位置し，北は大子町，東は常陸太田市，南は那珂市・城里町，西は栃木県那珂川町・那須烏山市・茂木市と接している。

市内の地形は，市域北部に尺丈山（511m）を最高峰とする八溝山地系の鷲子山塊が連なり，その南方に標高200m前後の瓜連丘陵が延びている。市域南部は標高15 ～ 30mの沖積地となっており，全体として北高南低の様相を呈する。

市内を流れる主要河川は，市の東を南流する久慈川と市の西を南東に流れる那珂川がある。この両水系には河岸段丘が発達し，下流には若干の低地も認められる。また，久慈川の西側を南流する玉川は『常陸国風土記』久慈群の条に「北に小水（おがわ）あり，丹（あか）き石交雑（まじ）れり。色は瑠碧（へんぺき）に似て，火を鑽（き）るにいと好し。因りて玉川と號（なず）く」と記されており，古くから瑪瑙の産地として知られている。

北原遺跡は，久慈川右岸にある標高35mの低位段丘面縁辺部に立地する。JR常陸大宮駅から北に約5.6kmの旧大宮町域に位置し，国道118号線が遺跡のそばを南北に縦貫する。遺跡の北側から東側にかけて久慈川は大きくカーブし，付近の農村をぐるりと囲むように蛇行した後南へ流れる。遺跡の西側には段丘崖があり，段丘崖の先は標高50 ～ 70mほどの中位段丘面となっている。この他，本遺跡周辺には多くの段丘面が複雑に発達しており，各段丘面からは旧石器時代から近世に至る多くの遺跡が確認されている。

第１図　茨城県における北原遺跡の位置

第２図　調査対象地の位置（国土地理院地図より加筆）

## 第２節　歴史的環境

ここでは常陸大宮市域のうち，主に本遺跡の周辺に当たる久慈川右岸の台地上について記述する。

### 旧石器時代

北原遺跡周辺における人々の営みの痕跡は旧石器時代まで遡る。本地点から約1.6km南西に位置する梶巾遺跡（012）は，久慈川右岸の中位段丘面上にあり，昭和50年の発掘調査において関東ローム層より石器製作跡が検出された。出土した石器群は主に珪質頁岩製とガラス質黒色安山岩製で，槍先形尖頭器，石核，剥片など約2,000点が確認されている。

本地点から約４km北方に位置する山方遺跡は，昭和39年に珪質頁岩製の石核２点が発見され，その後昭和50年の発掘調査でホルンフェルス製礫器を含む23点の石器がローム層より出土している。

### 縄文時代

久慈川流域に立地する縄文時代の遺跡は，坪井上遺跡，梶巾遺跡，諏訪台遺跡などが知られている。本地点から約8.5km南方に位置する坪井上遺跡は，平成５年度と平成８年度の調査で縄文時代中期の住居跡や袋状土坑が多数確認されており，遺跡内からは表面採集のものを含めて８点の翡翠製大珠が発見されている。また，平成８年度の調査で検出された第182号土坑からは，茨城・千葉・栃木を中心に分布する「阿玉台式土器」と，新潟県域を中心に分布する「馬高式土器」が土坑底面において共伴して出土しており，「阿玉台式と馬高式の平行関係を直接的に示す稀有の事例」と捉えられている〔鈴木1999・2001〕。

本地点から約2.8km南西にある諏訪台遺跡（028）は平成２年度に発掘調査が行われ，中期前半の袋状土坑13基，竪穴住居跡1軒が検出されている。遺構からは板状土偶，獣面把手付深鉢形土器などが出土している。

### 弥生時代

弥生時代の遺跡は，泉坂下遺跡，上岩瀬富士山遺跡，梶巾遺跡，坪井上遺跡などが知られている。本地点から約8.6km南方の泉坂下遺跡は，久慈川右岸の低位段丘面上にあり，平成18年度に実施された学術調査で弥生時代中期の再葬墓７基，土坑墓３基が検出された。再葬墓からは，国内最大規模の人面付壷形土器が出土している。泉坂下遺跡の南方約1.3kmにある上岩瀬富士山遺跡は後期の集落跡で，竪穴住居跡７軒が確認されており，遺跡からは紡錘車が数多く出土している。

### 古墳時代

市内の久慈川流域には特に多くの古墳が存在し，富士山古墳群，糖塚古墳群，一騎山古墳群，岩崎古墳群，鷹巣古墳群などが知られている。また，雷神山横穴群，岩欠横穴墓群などの横穴群や，梶巾遺跡，西坪井遺跡では集落跡が確認されている。本地点から約8.9km南方に位置する富士山古墳群は，前期古墳の富士山４号墳，中期古墳の五所皇神社裏古墳（富士山５号墳）などがある。このうち富士山４号墳は，墳長37.8mを測る前方後方墳で，県内における出現期古墳の一つとされ，久慈川中流域の首長墓である可能性が高いと考えられている。本地点のから約２km南西に位置する糖塚古墳群（016）は，中期の大型前方後円墳である小祝糖塚古墳があり，一部削平されているが墳長は88mと推定されている。本地点から約8.4km南方に位置する一騎山古墳群は後期の古墳群で，前方後円墳である一騎山４号墳からは，人物・動物等の形象埴輪，円筒埴輪，

朝顔形埴輪など，豊富な埴輪の出土が知られている。そのほか後期の古墳群として，本地点から約1.1km北東の岩崎古墳群（005），約2.5km南方の鷹巣古墳群（026）などがある。

当該期の集落跡としては，梶巾遺跡で前・中期の竪穴建物跡４軒，西坪井遺跡で後期の竪穴建物跡7軒が検出されている。

### 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は，上ノ宿遺跡，鷹巣原遺跡，鷹巣瓦窯跡，鷹巣戸内遺跡，上坪遺跡などが知られている。本地点から約5.5km南方に位置する上ノ宿遺跡は，久慈川右岸の標高55mほどの中位段丘面上にあり，平成18年度・20年度・24年度の3度の調査で，合計126軒もの竪穴住居跡が検出されている。住居跡からは「真家」と墨書された土師器皿や，風字硯，耳皿など特殊な遺物も出土しており，この地域の拠点的集落であったと考えられている。一方，本地点から約3.5km南西に位置する鷹巣原遺跡（034）は，標高61m前後の中位段丘面に立地し，昭和56年度と61年度の調査で，８世紀中葉から10世紀初頭に至る竪穴住居跡38軒，掘立柱建物跡２棟，柱穴列を伴う溝状遺構１条が確認された。遺物は土師器，須恵器，鉄滓などとともに，瓦が多数確認されており，その多くは住居内のカマド構築材として使用されている。また，この瓦は鷹巣原遺跡の西側斜面に所在する鷹巣瓦窯跡群（038）で焼かれたもので，平瓦には凸面に斜格子叩きが施されたものと，長縄叩きが施されたものがみられる。

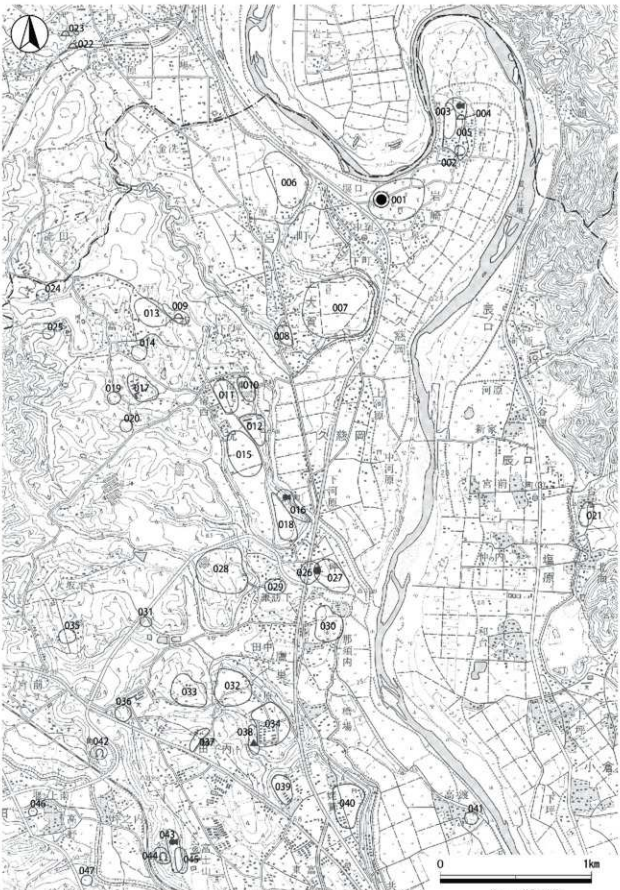
江戸時代後期に編纂された『新編 常陸国誌』では，本遺跡が立地する岩崎地内は当時「久慈郡・八部郷」の南端で，上ノ宿遺跡が所在する字留野と，鷹巣原遺跡，鷹巣瓦窯跡が所在する横瀬［鷹巣］は「久慈郡・真野郷」であったとしている。また，久慈郡の郡役所については現在の常陸太田市大里付近と推定しており，『常陸国風土記』久慈郡の条に記載されている「鯨鯢の岡」からの方位が合っていること等から「大里の地に郡家が置かれたのは明らかである」と述べている。この大里付近は瓦の破片や焼米が散布する場所として早くから注目されており，現在でも多くの研究者が常陸太田市大里の「長者屋敷遺跡」を久慈郡の郡衙跡・寺院跡とする見解を示している。この長者屋敷遺跡で出土した瓦と常陸大宮市の鷹巣原遺跡で出土した瓦を比較すると，制作方法・胎土・焼成などの特徴が同じものが含まれており，鷹巣瓦窯跡で生産された瓦は，久慈川・山田川の水運を利用して久慈郡の郡衙・郡寺へ供給されたものと考えられている〔金砂郷村史1989〕。

### 中世～近世

中世については城館跡が多数確認されており，旧山方町域の山方城跡，竜ケ谷城跡，旧大宮町域の部垂城跡，宇留野城跡，前小屋城跡などがある。いずれも佐竹氏との関連が深く，久慈川の水運や砂金採取等，産業を背景とした交通の要衝である地に築城されている。本地点から4.5km北方に位置する山方城跡には土塁や空堀が現存し，昭和61年度の発掘調査では墨書が施された石，銭貨，灰釉陶器，カワラケなどが出土している。

近世の常陸大宮市域は水戸藩の領地であり，遺跡としては岩花塚群（004），弁慶松塚群（009）などの塚群が知られている。また，本地点の西側には水戸と奥州棚倉をむすぶ南郷道が南北に伸びており，近世においても交通の要衝であったことが窺える。

（高野）




**第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡**（茨城県遺跡地図平成13年版より作成）

**表１　周辺遺跡一覧**

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代・時期 | | | | | | | 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代・時期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 中世 | 近世 | | | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 中世 | 近世 |
| 001 | 北原遺跡 | 集落跡 | | | | ○ | ○ | | | 025 | 後田B遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | | | |
| 002 | 岩花遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | | 026 | 鷹巣古墳群 | 古墳群 | | | | ○ | | | |
| 003 | 後原遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | | 027 | 上坪遺跡 | 集落跡 | ○ | ○ | | | ○ | | |
| 004 | 岩花塚群 | 塚群 | | | | | | | ○ | 028 | 諏訪台遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | | | |
| 005 | 岩崎古墳群 | 古墳群 | | | | ○ | | | | 029 | 諏訪下遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | | | |
| 006 | 下地後遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | | 030 | 鷹巣戸内遺跡 | 集落跡 | ○ | | | | ○ | | |
| 007 | 東平遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | | 031 | 大阪平A遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | |
| 008 | 下坪遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | | 032 | 鷹巣原B遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | ○ | |
| 009 | 弁慶松塚群 | 塚群 | | | | | | | ○ | 033 | 河井台遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | |
| 010 | 馬場先遺跡 | 集落跡 | | ○ | | ○ | ○ | | | 034 | 鷹巣原遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | |
| 011 | 宿東遺跡 | 集落跡 | | | ○ | ○ | ○ | | | 035 | 大阪平B遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | |
| 012 | 梶巾遺跡 | 集落跡 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | 036 | 犬道遺跡 | 集落跡 | | | | | | | |
| 013 | 弁慶松遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | | 037 | 田子内遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | |
| 014 | 原坪遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | | 038 | 鷹巣瓦窯跡群 | 瓦窯跡 | | | | | ○ | | |
| 015 | 京塚遺跡 | 集落跡 | | | ○ | | ○ | | | 039 | 姥賀遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | |
| 016 | 糖塚古墳群 | 古墳群 | | | | ○ | | | | 040 | 姥賀東遺跡 | 集落跡 | | | | ○ | ○ | | |
| 017 | 中丸遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | | 041 | 高渡遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | |
| 018 | 糖塚遺跡 | 集落跡 | | | ○ | | ○ | | | 042 | 雷神山横穴群 | 横穴群 | | | | ○ | | | |
| 019 | 向山遺跡 | 集落跡 | ○ | | | | ○ | | | 043 | 富士権現古墳群 | 古墳群 | | | | ○ | | | |
| 020 | 西沢遺跡 | 集落跡 | ○ | | | | ○ | | | 044 | 岩欠横穴墓群 | 横穴群 | | | | ○ | | | |
| 021 | 台坪遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | | 045 | 富士山遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | | | |
| 022 | 経塚 | 塚 | | | | | | ○ | | 046 | 八田向原遺跡 | 集落跡 | | | | | | ○ | |
| 023 | 十三塚 | 塚 | | | | | | ○ | | 047 | 三藏遺跡 | 集落跡 | | ○ | | | ○ | | |
| 024 | 後田A遺跡 | 集落跡 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |

# 北原遺跡　参考文献


秋本吉郎　1958 『風土記』 岩波書店

伊東重敏　1983 『常陸鷹巣遺跡（第1次調査）』 大宮町教育委員会　鷹巣遺跡発掘調査会

井上義安他　1985 [茨城県梶巾遺跡- 大賀小学校校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-]
　大宮町教育委員会　梶巾遺跡発掘調査会

井上義安　1987 『常陸鷹巣遺跡- 第2次発掘調査報告-』 大宮町教育委員会　鷹巣遺跡発掘調査会

井上義安他　1987 [茨城県梶巾遺跡- 第2次発掘調査報告書-]　大宮町教育委員会　梶巾遺跡発掘調査会

井上義安他　1991 『諏訪台遺跡』 諏訪台遺跡発掘調査会

小川和博他　2009 [上ノ宿遺跡- 第2次調査Ⅰ・Ⅱ-]　常陸大宮市教育委員会

小川和博他　2013 [上ノ宿遺跡Ⅲ - 診療所・調剤薬局造成に伴う埋蔵文化財発掘調査-]
　茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第13 集　常陸大宮市教育委員会

金砂郷村史編さん委員会　1989 『金砂郷村史』　金砂郷村

瓦吹堅　1998 「茨城県の大珠」 [列島の考古学] 渡辺誠先生還暦記念論集刊行会

後藤俊一　2013 『鷹巣戸内遺跡- 市道1418 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-』
　茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第12 集　常陸大宮市教育委員会

常陽藝文編集部　1992 『常陸国風土記』　（財）常陽藝文センター

鈴木素行　1999 [越の旅人　望郷編　- 坪井上遺跡B 地区第182 号土坑の土器について-]
　[茨城県考古学協会誌] 第11 号　茨城県考古学協会

鈴木素行　2001 [坪井上遺跡の伝習- 久慈川下流域における縄文時代中期中葉の土器群-]
　『嚶真岐考古』第23 号　嚶真岐考古同人会

鈴木素行　2011 [泉坂下遺跡の研究- 人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について-]

高野浩之他　2013 [赤岩遺跡Ⅱ　三美中通遺跡Ⅰ - 畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査2-]
　茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第15 集　常陸大宮市教育委員会

千種重樹　1999 [坪井上遺跡- 大宮ショッピングセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-]
　大宮町教育委員会　坪井上遺跡発掘調査会

中山信名　栗田寛　1969 『新編常陸国誌』　宮崎報恩会

# 第Ⅲ章　調査の成果

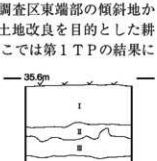
## 第１節　調査の概要

調査区は，総面積7,433㎡を便宜上第１～４区に分けた。調査の結果，遺構は竪穴住居跡93軒，掘立柱建物跡４棟，溝跡３条，地下式坑１基，墓壙２基，性格不明遺構１基，土坑287基，柱穴38基が確認された。縄文土器や弥生土器は数点出土しているものの，縄文時代や弥生時代に比定される遺構は確認されておらず，主に古墳時代から平安時代まで営まれた集落跡であることが判明した。墓壙は２基確認されたが，いずれも近世のものである。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に44箱，段ボール８箱出土しており，土器類（縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，緑釉陶器，陶器，磁器）や石器・石製品（尖頭器・剥片・紡錘車・砥石），土製品（紡錘車・管状土錘・支脚），金属製品（紡錘車・鎌・刀子・釘・銭貨）などである。なお，墨書土器が９世紀代に比定される住居跡を中心に36点出土している。

## 第２節　基本層序

第１～３テストピット（ＴＰ）を設け観察した。第１ＴＰは第１調査区北東部の標高35.50m地点，第２ＴＰは第３調査区西部の標高34.10m地点，第３ＴＰは第４調査区東端部の傾斜地から低地に移る標高33.70m地点に設置した。しかし，第２・３ＴＰでは土地改良を目的とした耕作土の入れ替えにより耕作土の下層まで大きく削平されていたため，ここでは第１ＴＰの結果について述べることとしたい。



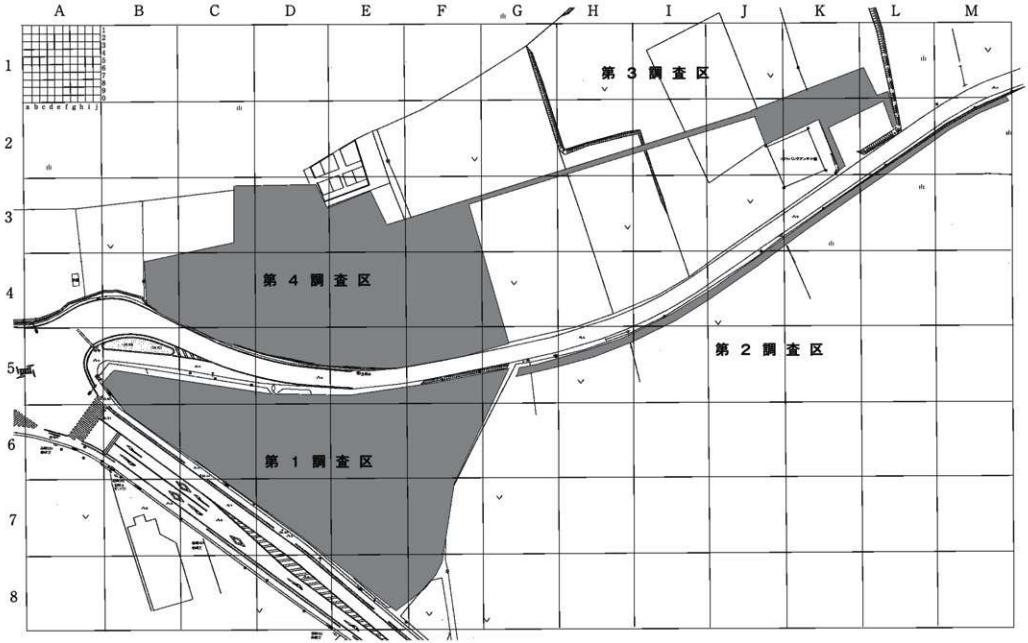
第４図　基本土層図

層序はⅠ～Ⅸ層まで認められ，Ⅰ層は現耕作土，Ⅱ層は旧耕作土である。Ⅲ層は明黄褐色で白色粒子・赤色粒子を含み比較的締まりに欠ける軟質ローム層で，遺構確認面となっている。なお，Ⅱ層には今市・七本桜パミスが部分的に確認されたが，これは耕作によって削平された後の残存部と考えられる。Ⅳ層はにぶい黄橙色の硬質ローム層で，Ⅴ～Ⅸ層は流水による堆積層である。当遺跡北側に流れる久慈川は幾多の河岸侵食を繰り返し石礫河川を形成しており，これらの流水層は旧久慈川あるいは久慈川支流の河床材料の堆積層の可能性がある。また，第Ⅴ層は亜角礫や亜円礫を多く含有し小礫や砂粒等の含有量は少ない。河川蛇行部では直線部と比べ大きな流体力が働く傾向があるため，今回の部分的観察だけで氾濫流量を比較することはできないが，このⅤ層は，以下の層と比べ掃流力の大きさが窺われる。

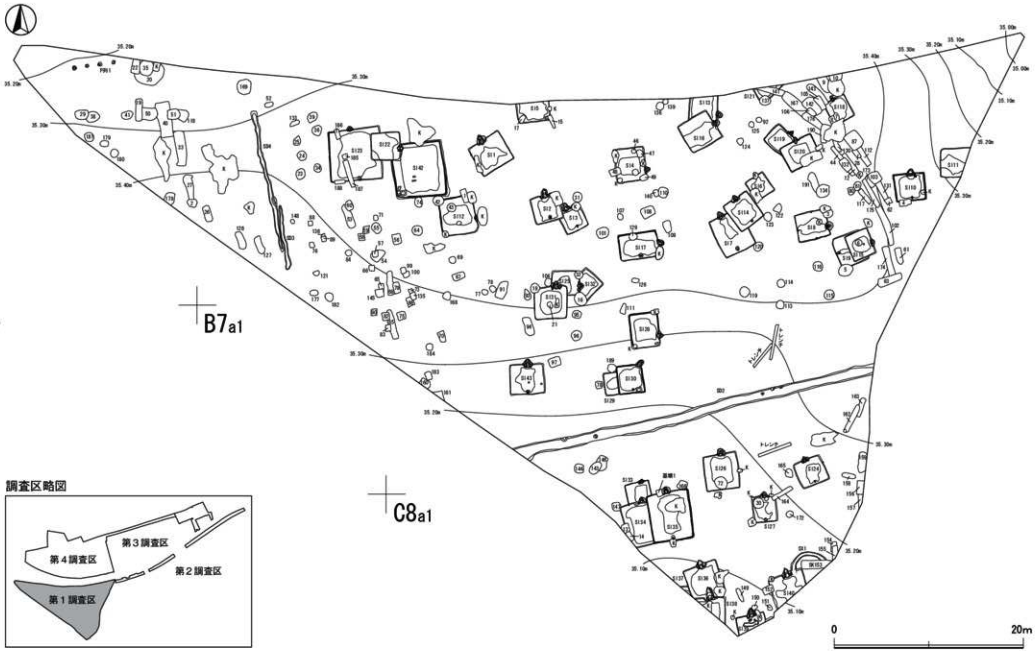
なお，赤城-鹿沼軽石テフラ（Ag－KP：31,000～32,000年前）は第１ＴＰからは確認されないが遺構覆土の一部に混入している。

**土層解説**

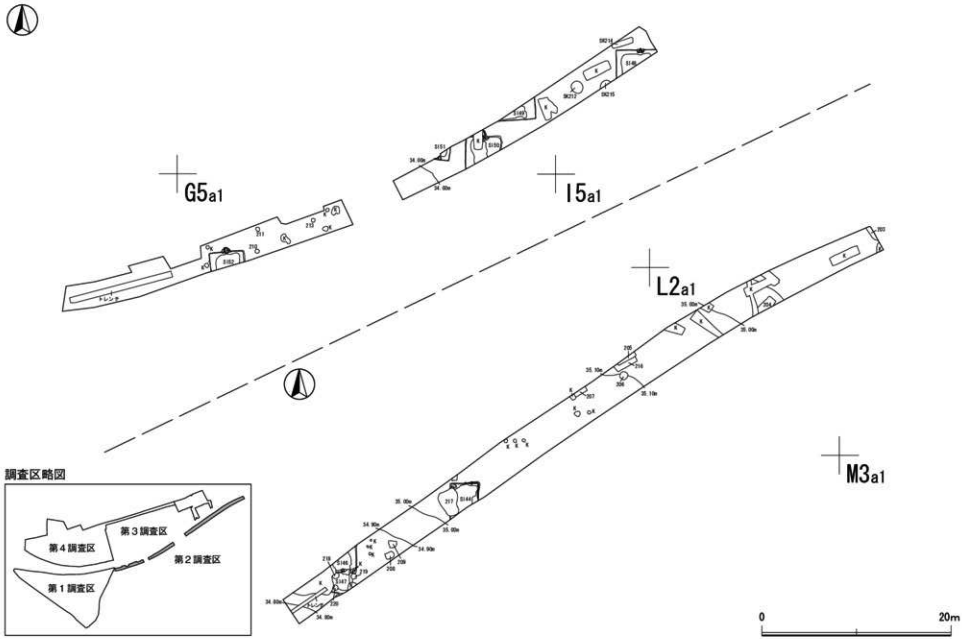
| | | | |
|---|---|---|---|
| Ⅰ | 10YR | 3/1 | 黒 褐 色：耕作土 |
| Ⅱ | 10YR | 3/2 | 暗 褐 色：旧耕作土（今市パミスが部分的に残存） |
| Ⅲ | 10YR | 6/6 | 明黄褐色：軟質ローム層，赤色粒子・白色粒子少量含む，遺構確認面 |
| Ⅳ | 10YR | 6/3 | にぶい黄褐色：硬質ローム層，白色粒子少量含む |
| Ⅴ | 10YR | 6/2 | 灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，砂粒子少量，礫多量，締まりあり |
| Ⅵ | 10YR | 5/2 | 灰黄褐色：ローム粒子少量，赤褐色粒子少量，砂粒子中量，礫少量，締まりあり |
| Ⅶ | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐色：ローム粒子微量，砂粒子少量，シルト多量，礫微量，粘性あり |
| Ⅷ | 10YR | 5/4 | にぶい黄褐色：ローム粒子微量，赤褐色粒子・白色粒子少量，砂粒子少量，シルト多量，礫少量，粘性あり，締まりやや弱い |
| Ⅸ | 10YR | 5/6 | 黄 褐 色：赤褐色粒子・白色粒子少量，砂粒子少量，シルト多量，礫微量，粘性あり，締まりやや弱い |


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
1
2
3
4
5
6
7
8
a b c d e f g h i j
第３調査区
第４調査区
第２調査区
第１調査区

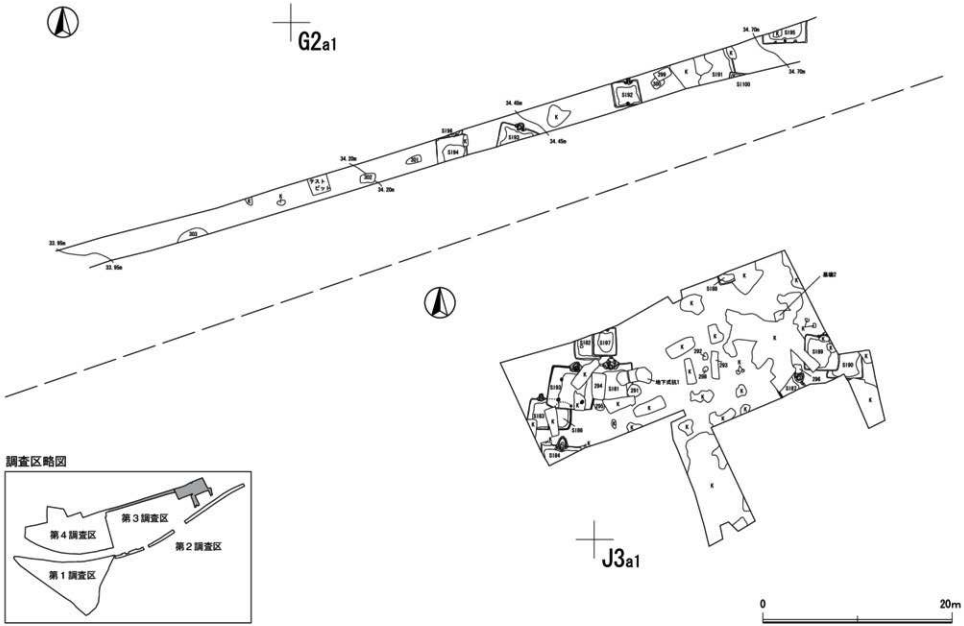
第５図　グリッド設定図



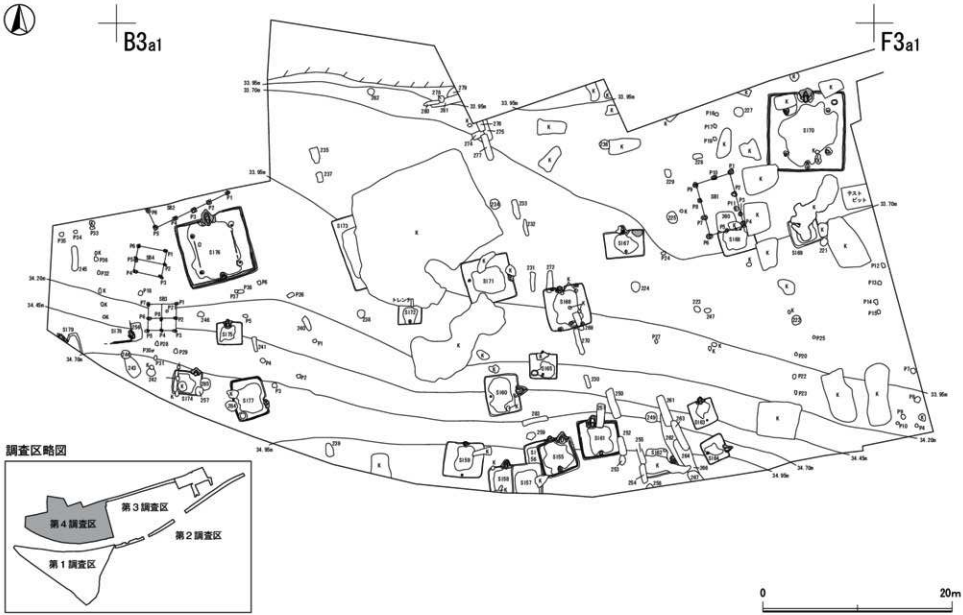

第６－１図　第１調査区遺構全体図




第６－２図　第２調査区遺構全体図




第６－３図　第３調査区遺構全体図




第６－４　第４調査区遺構全体図

## 第３節　遺構と遺物

### １　竪穴住居跡

竪穴住居跡は，第１調査区から42軒，第２調査区から８軒，第３調査区から18軒，第４調査区から25軒，確認された。時期的には６世紀前半から10世紀前半に比定される住居である。

#### 第１号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6f2グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.96m，短軸3.82mの方形を呈し，主軸方向はN―30°―Wである。壁高は確認面から最大高24cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 色 | ：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量，粘性・締まりややあり |

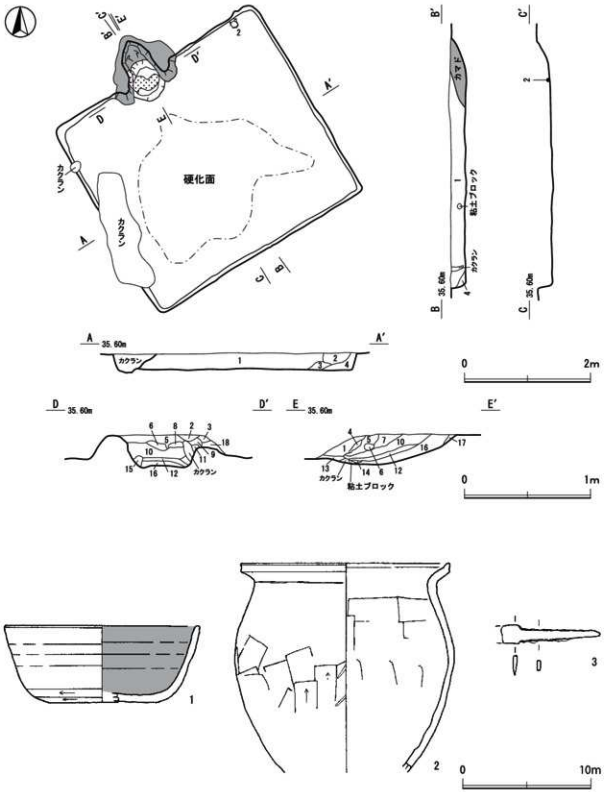
**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは102cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第８・９層が相当する。袖部の基部の最大幅は約36cmである。火床部は床面から3.5cmほど掘りくぼめて火床面としている。なお，煙道は壁外へ59cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 5YR | 3/2 | 黒 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い |
| 2 | 7.5YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量 |
| 4 | 5YR | 5/2 | 灰 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 5 | 5YR | 6/2 | 灰 褐 色 | ：焼土粒子少量，炭化物微量，粘土ブロック多量 |
| 6 | 10YR | 5/2 | 灰黄褐色 | ：粘土ブロック多量，締まりあり |
| 7 | 5YR | 5/2 | 灰 褐 色 | ：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量 |
| 8 | 10YR | 5/2 | 灰黄褐色 | ：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック多量，締まりあり |
| 9 | 10YR | 6/2 | 灰黄褐色 | ：炭化粒子微量，砂質粘土ブロック多量，締まりあり |
| 10 | 10YR | 3/3 | 褐　　色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 11 | 5YR | 5/3 | にぶい赤褐色 | ：焼土粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 12 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 13 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 14 | 5YR | 4/6 | 赤 褐 色 | ：焼土ブロック多量，焼土粒子少量，締まり弱い |
| 15 | 5YR | 5/2 | 灰 褐 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 16 | 10YR | 3/3 | 褐　　色 | ：ロームブロック多量，砂質粘土粒子中量，粘性あり |
| 17 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 18 | 7.5YR | 3/3 | 褐　　色 | ：ロームブロック多量，ローム粒子中量，鹿沼パミス少量，粘性弱い |




**第７図　第１号住居跡・出土遺物実測図**

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏・高台付坏類１），土師器片110点（坏・高台付坏類16，甕類94），金属製品２点（刀子１，不明１）。１の土師器坏は南東部の覆土中から，２の土師器甕は北壁際と南部から，３の刀子は竈覆土中から確認された。これらはいずれも住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見**　遺物の大半は住居廃絶後の埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したもので，本跡に帰属する土器は少ない。しかし，覆土下層から確認された土器片の中で断面が摩耗していない土器を観察すると９世紀後葉に比定される遺物が多いことや，同時期に比定できる第２・32号住居跡とは規模や形状が酷似しており，主軸方向も同一であることなどから，本跡の廃絶時期は９世紀後葉と推測した。

**表２　第１号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (15.2) | 6.0 | (8.5) | 石英，長石，白雲母，赤色粒子，黒色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面磨滅しているヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り | 2区１層覆土中 | 20% PL30 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (16.6) | (16.4) | － | 石英，白雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラ削り，内面横ナデ | NO.2 1・2・3区1層覆土中 | 20% PL30 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 金属製品(刀子) | (7.78) | (1.46) | 0.3 | (7.9) | 鉄 | 刃部断面三角形，茎部断面方形 | カマド覆土中 | PL63 |

## 第２号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6i5グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.54m，短軸3.08mの方形を呈し，主軸方向はN―13°―Wである。壁高は確認面から最大高36mを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南東部で第３号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　4/5　褐　　色：ローム粒子少量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5　10YR　5/6　黄 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量
7　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
8　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物中量，砂質粘土ブロック微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは100cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第10層上にある砂質粘土ブロックが崩落土と考えられる。また火床部上にある焼土ブロックは袖部の内壁が崩落したものと推測される。袖部は比較的良好に遺存しており，袖部の基部の最大幅は約36cmである。火床部は床面から６cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ62cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

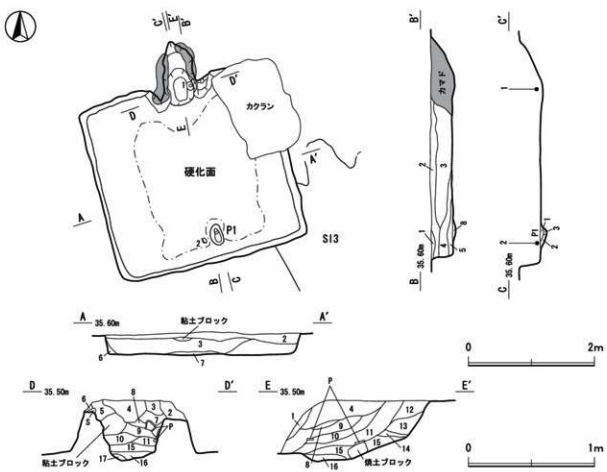
**土層解説**

1　7.5YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　7.5YR　5/2　灰 褐 色：焼土ブロック少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック多量
3　10YR　5/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック多量
4　5YR　4/1　褐 灰 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量，鹿沼パミス少量
6　10YR　7/1　灰　　色：砂質粘土ブロック多量
7　10YR　5/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量
8　7.5YR　3/2　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量
9　5YR　4/2　灰 褐 色：砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量
10　5YR　5/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，砂質粘土ブロック中量
11　10YR　6/2　灰黄褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量
12　10YR　5/2　灰黄褐色：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量
13　7.5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
14　7.5YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量
15　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性弱い
16　7.5YR　5/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い
17　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性弱い

**柱穴**　１ヶ所確認され，位置的に出入口ピットと考えられる。規模はＰ１：18×32cm，深さ10cmである。

**Ｐ１土層解説**

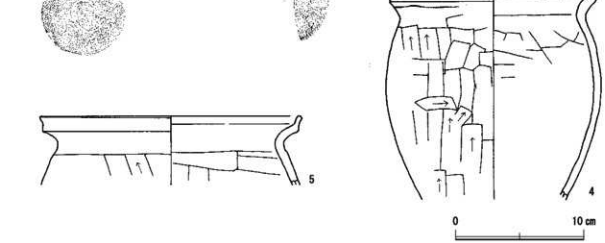
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　7.5YR　4/3　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，締まりあり




**第８図　第２号住居跡実測図**

**遺物出土状況**　須恵器片３点（坏・高台付坏類１，甕類２），土師器片319点（坏・高台付坏類30，甕類289）。１と３の土師器坏は竈中から，２の土師器坏は出入口ピット近くの覆土下層から出土したものである。４と５の土師器甕はいずれも覆土中から出土したもので，５は断面が摩耗している。遺物の多くは住居廃絶後に投棄されたもので，床面直上から出土した土器は少ない。

**所見**　図化した遺物は竈中あるいは床面に近いレベルで出土したものであり，住居廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。時期は遺物から判断して９世紀中～後葉と考えられる。なお，本跡と重複している第３号住居跡は主軸が同方位を示しており，建て替えの可能性がある。




**第９図　第２号住居跡出土遺物実測図**

**表３　第２号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12.8 | 4.2 | 6.6 | 石英，白雲母，赤色粒子，長石 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後ナデ | カマドNO.1 | 95% PL30 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (12.6) | 4.1 | (5.8) | 石英，白雲母，白色粒子，小礫 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端ヘラ削り | NO.2 | 25% PL30 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (13.3) | 4.3 | 6.5 | 石英，白雲母 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面ロクロナデ | カマド覆土中 | 20% PL30 |
| 4 | 土師器 | 甕 | (16.0) | (16.3) | － | 石英，長石，小礫 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラ削り | カマド覆土中 | 15% PL30 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (20.4) | (5.4) | － | 石英，長石 | 褐色 | 口縁部内外面横ナデ | カマド覆土中 | 5% PL30 |

## 第３号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6j6グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.20m，短軸2.54mの方形を呈し，主軸方向はN―24°―Wである。壁高は確認面から最大高22cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　北西部を第２号住居跡に掘り込まれている。

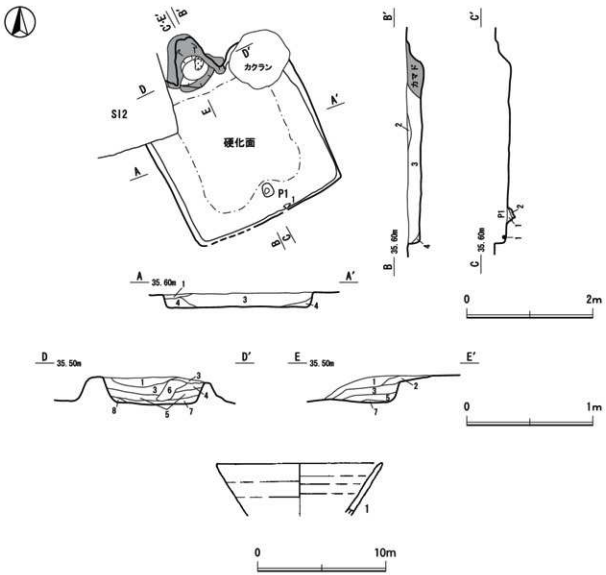
**土層**　各層にロームブロックを含み人為的な堆積状況を示している。また第４層には壁部の崩落がみとめられた。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，炭化粒子中量，粘性・締まりともに弱い

**床**　ほぼ平坦で，竈周辺から住居中央部にかけてやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。




第10図　第３号住居跡出土遺物実測図

**竈**　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは84cmである。また袖部の基部の最大幅は約28cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ48cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは段をなして立ち上がる。

**土層解説**

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：焼土ブロック微量，炭化粒子多量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
6　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
7　5YR　3/6　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
8　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。規模はＰ１：16×21cm，深さ12cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　4/3　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏・高台付坏類１），土師器片４点（坏・高台付坏類１・甕類３）。１の須恵器坏は南壁際の床面から出土したものであるが，本跡から出土した須恵器はこの１点だけである。

**所見**　遺物の出土が５点のみで時期判断に苦しむが，本跡を掘り込んでいる第２号住居跡と主軸が同様であることや床上に主柱を持たない建物構造であること，住居廃絶時に遺棄された遺物等から判断して，時期は９世紀前～中葉と考えられる。

**表４　第３号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | (13.2) | (4.2) | － | 石英，長石，小礫 | 灰白色 | ロクロナデ | NO.1 | 15%<br>PL30 |

## 第４号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6c3グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸［3.68］m，短軸3.54mの方形を呈し，主軸方向はN―78°―Eである。壁高は確認面から最大高19cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部を第46・47号土坑に，南部を第45・49号土坑に，西部を第48号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く，判然としなかった。

**土層解説**

1　10YR　4/3　褐　　色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子中量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

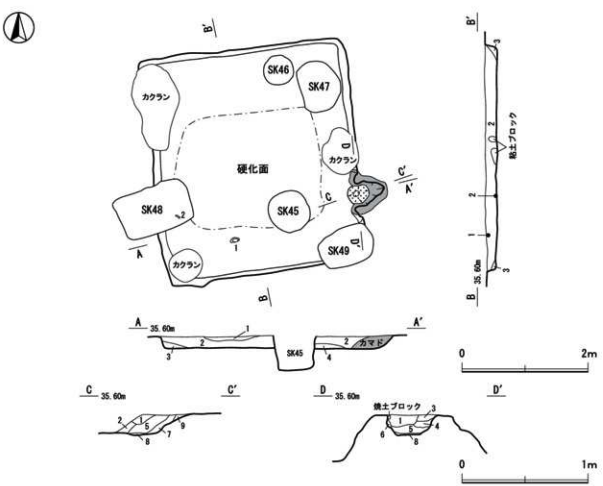
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　東壁中央部やや南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは60cmである。袖部は内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認され，基部の最大幅は約32cmである。火床部は炭化物と焼土が混じった締まりの弱い層である。火床面は判然とせず，被熱により硬化したブロック状の焼土の広がりが床面から４cmほど下がった位置にわずかにみとめられたため，この面を火床面と判断した。煙道は壁外へ39cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 3 | 5YR | 4/2 | 灰 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量 |
| 4 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い |
| 5 | 5YR | 4/6 | 赤 褐 色 | ：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い |
| 6 | 5YR | 5/2 | 灰　　色 | ：砂質粘土ブロック多量 |
| 7 | 10YR | 5/2 | 灰黄褐色 | ：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量 |
| 8 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量 |
| 9 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |

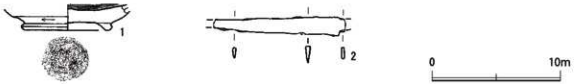
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。




第11図　第４号住居跡実測図

**遺物出土状況**　須恵器片９点（坏・高台付坏類２，甕類７），土師器片111点（坏・高台付坏類34，甕類77），金属製品１点（刀子１），碗状滓１点。１の土師器高台付坏は中央部南寄りの覆土上層から，２の刀子は西壁際の床面に近い位置から出土している。

**所見**　遺物の大半は覆土中から出土したものであるが，土器類に混じり小礫が多数出土している。これらの小礫には加工痕や被熱の痕跡はないが，当遺跡からは刀子などの金属製品や碗状滓等が確認されているため記載しておく。時期は覆土下層から出土した遺物から判断して９世紀後葉と考えられる。




**第12図　第４号住居跡出土遺物実測図**

**表５　第４号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | － | (2.0) | 6.8 | 石英，長石，小礫，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後指ナデ | NO.2 | 20%<br>PL31 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 金属製品(刀子) | (10.32) | 1.46 | 0.4 | (14.7) | 鉄 | 刃部断面三角形，茎部断面方形 | NO.3 | PL63 |

## 第５号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C5h10グリッド，標高35.70m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸（2.11）m，短軸35.2mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高16cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南東部を第15号土坑に，南西部を第17号土坑に掘り込まれている。

**土層**　本跡の大半は削平されており判然としない部分も多いが，覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為堆積の可能性が高い。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量，粘性・締まりややあり
3　7.5YR　4/3　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除く全域がよく硬化している。

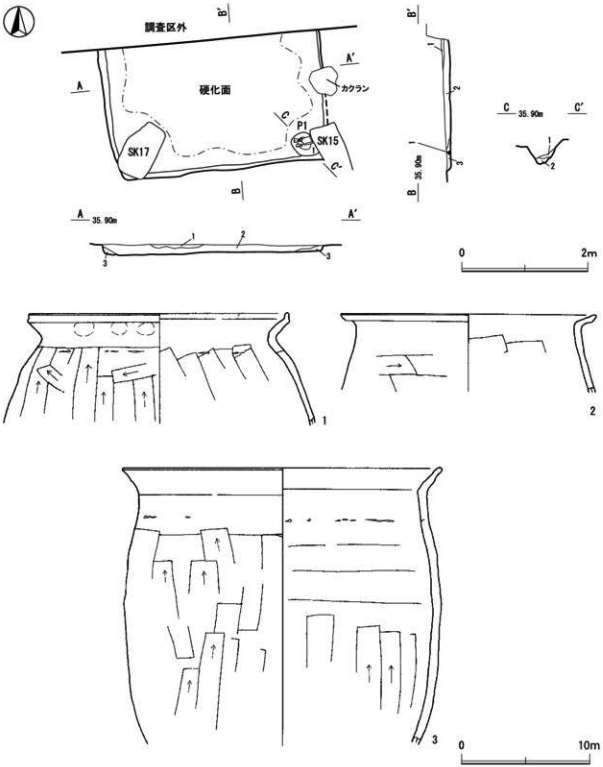
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　検出されていないが，砂質粘土ブロックが散在しており，未調査部分に付設されていると推測される。

**柱穴**　１ヶ所確認されたが，位置的に出入口ピットとは考えにくく，性格は不明である。Ｐ１：38×34cm，深さ28cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量




**第13図　第５号住居跡・出土遺物実測図**

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏・高台付坏類１），土師器片72点（坏・高台付坏類11，甕類58，鉢３）。図化した遺物はすべて土師器甕で１はＰ１が埋め戻された後に投棄あるいは遺棄されたものである。２・３は東部の覆土下層から出土している。

**所見**　東壁を壊している攪乱部は焼土や炭化物が目視で確認されたため，当初竈と仮定して調査を行ったが，本跡を掘り込んでいることや，攪乱部からは竈構築材である砂質粘土が確認されなかったこと等から後世の攪乱によるものと判断した。時期は遺物が少なく断定はできないが，９世紀中～後葉と考えられる。

**表６　第５号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 甕 | (20.4) | (8.8) | － | 石英，長石，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラナデ | NO.3 | 10% PL31 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (20.0) | (6.1) | － | 石英，長石 | にぶい黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ | 覆土下層 | 5% PL31 |
| 3 | 土師器 | 甕 | (24.9) | (21.8) | － | 石英，長石，小礫，赤色粒子 | 灰褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位の指ナデ，内面輪積痕 | 覆土下層 | 15% |

## 第６号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6j4グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.34m，短軸2.26mの方形を呈し，主軸方向はN―29°―Wである。壁高は確認面から最大高14cmを測り，ほぼ外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置するが，南部と北部が後世の攪乱により壊されている。

**土層**　各層にロームブロックを含み人為的な堆積状況を示しているものの，堆積層厚が薄く，判然としなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，締まりあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。また，竈構築材と推測される砂質粘土ブロックが北西壁部付近の床面に飛散していた。

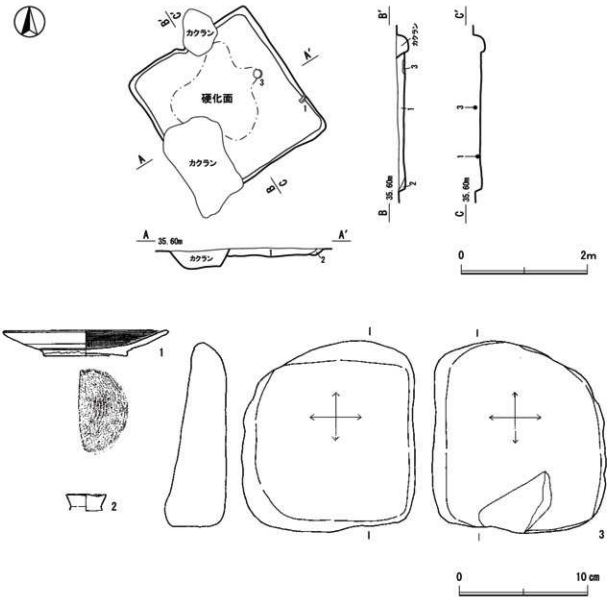
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　検出されていないが，竈構築材と推測される砂質粘土ブロックが北西壁部付近の床面に飛散しており，後世の攪乱により壊されたものと推測される。。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（甕類４），土師器片151点（坏・高台付坏類43，甕類108），石製品１点（砥石１）。１の高台付皿は北東壁際から，２の土師器蓋は南部から，３の砥石は中央部やや東寄りから，いずれも床面よりやや高い位置から出土している。

**所見**　当遺跡から出土する土師器皿は内黒土器の占める割合が多く，また高台は貼り付け技法ではなく，成形の段階で底部を高台のように残すのが特徴となっている。時期は投棄された土器から判断して９世紀後葉と考えられる。




第14図　第６号住居跡・出土遺物実測図

表７　第６号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付皿 | (12.8) | 2.0 | (6.5) | 石英，長石，赤色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，ヘラミガキ，底部削り出し高台，回転糸切り後ナデ | NO.1 | 50% PL31 |
| 2 | 土師器 | 蓋 | 3.1 | (1.3) | － | 石英，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 摘み部，丁寧な指ナデ | 2区覆土中 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 石製(砥石) | 15.0 | 13.5 | 4.7 | 1310 | ホルンフェルス | 砥面２面，その他は自然面 | NO.2 | |

## 第７号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6h6グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.76m，短軸3.64mの長方形を呈し，主軸方向はN―26°―Wである。壁高は確認面から最大高41cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　北東部を第14号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第３層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 3 | 10YR | 4/3 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック少量，炭化物微量，炭化粒子微量 |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部から竈付近がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは76cmである。また袖部は比較的良好に遺存しており内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。基部の最大幅は約26cmである。火床部は床面から４cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，支脚はほぼ当時のまま遺存しており，被熱を受けている。煙道は壁外へ48cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 | 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐 | 色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い |
| 5 | 10YR | 3/4 | 暗赤褐 | 色：焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 6 | 10YR | 4/6 | 赤 褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子微量 |
| 7 | 10YR | 4/8 | 赤 褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 8 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化物微量 |
| 9 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 10 | 10YR | 4/6 | 赤 褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い |

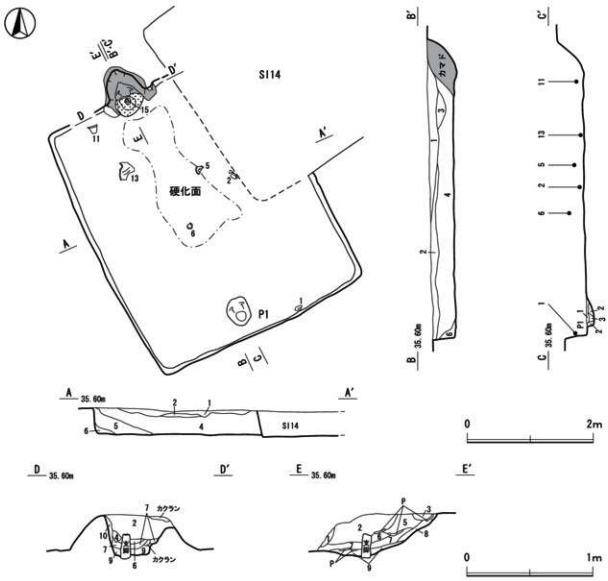
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：35×44cm，深さ12cmである。

**Ｐ１土層解説**

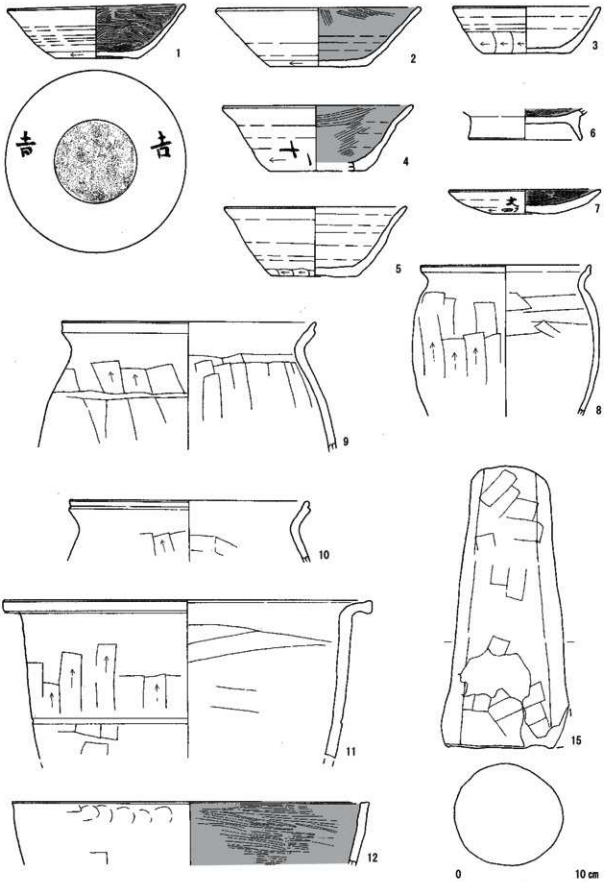
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い |

**遺物出土状況**　須恵器片36点（坏・高台付坏類２，甕類32，蓋１，鉢１），土師器片573点（坏・高台付坏類136，甕類427，皿４，鉢６），土製品１点（支脚１），石製品２点（砥石２）。１～４は土師器坏で１は南壁際から，２は中央部やや東寄りから，３・４は中央部から出土している。いずれも覆土下層から確認されたものである。５の須恵器坏・６の高台付坏・７の土師器皿は中央部の覆土下層から出土している。８と９は土師器甕で，いずれも竈中から，11の土師器鉢と13の須恵器甕は北西部の覆土下層から出土している。14の手捏土器は南西部の覆土下層から出土している。なお，１・４・７は墨書土器で，それぞれ「吉」，「本」ヵ，「本町」ヵと書されている。

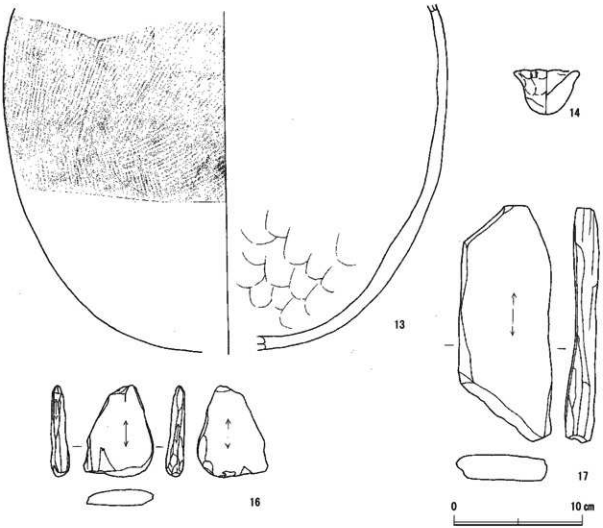
**所見**　本跡は第14号住居跡に掘り込まれているが，時期差はほんの僅かであり，９世紀中葉～後葉と考えられる。なお，本跡の遺物からは墨書が３点確認されているが，当遺跡からは墨付きの土器も含めると総数は33点に上り，その大半は９世紀代に比定される。また墨書土器の中には，土師器坏や須恵器坏などのほか内面に黒色処理を施した蓋に記されているものもあり，吉祥文字が大半であることも加味し，祭祀的要素が高いと判断できる。




第15図　第７号住居跡実測図




第16図　第７号住居跡出土遺物実測図（１）




**第17図　第７号住居跡出土遺物実測図（２）**

**表８　第７号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.9 | 4.3 | 6.4 | 石英，長石，小礫，白雲母 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | NO.5 | 100% 墨書「吉」 PL59 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (16.1) | 4.4 | (7.7) | 石英，赤色粒子，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.2 | 45% PL31 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (11.5) | 3.7 | (7.0) | 石英，白雲母，白色粒子，黒色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ，体部外面下端手持ちヘラケズリ | 覆土下層 | 40% PL31 |
| 4 | 土師器 | 坏 | (15.6) | 5.1 | (15.2) | 長石，石英，赤色粒子 | 灰褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端手持ちヘラ削り | 覆土下層 | 40% 墨書「本」カ PL59 |
| 5 | 須恵器 | 坏 | 14.7 | 5.5 | 6.8 | 石英，長石，小礫 | 灰色 | ロクロナデ，底部ヘラ切り後多方向のヘラナデ | NO.1 覆土下層 | 90% PL31 |
| 6 | 土師器 | 高台付坏 | － | (2.4) | (8.8) | 石英，赤色粒子，白色粒子，黒色粒子 | 橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，ナデ | NO.8 | 20% PL31 |
| 7 | 土師器 | 皿 | (11.9) | 1.9 | (5.3) | 石英，赤色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端手持ちヘラ削り | 1区覆土下層 | 40% 墨書「水町」カ PL59 |
| 8 | 土師器 | 甕 | 13.4 | (11.8) | － | 石英，長石 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ | カマド覆土中 | 20% PL31 |
| 9 | 土師器 | 甕 | (20.0) | (10.1) | － | 石英，長石，小礫 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面縦位のヘラナデ | カマド覆土中 | 5% PL31 |
| 10 | 土師器 | 甕 | (18.8) | (4.8) | － | 石英，長石，小礫，赤色粒子 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ | 覆土中 | 5% PL31 |
| 11 | 土師器 | 鉢 | (28.8) | (12.5) | － | 白雲母，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面中位に一条の沈線を施す | NO.11 | 10% PL31 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 土師器 | 鉢 | (27.9) | (5.0) | － | 石英，長石，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 3区2層覆土中 | 5% PL31 |
| 13 | 須恵器 | 甕 | － | (27.3) | － | 長石，小礫 | 灰白色 | 体部縦位の平行叩き，底部内面指ナデ | NO.13 | 15% PL31 |
| 14 | 手捏 | － | 4.8 | 3.5 | － | 赤色粒子，白雲母 | にぶい黄橙色 | 口縁部指押え，体部外面指ナデ | 3区2層覆土中 | 100% PL1 |

| 番号 | 器種 | 最小径(cm) | 最大径(cm) | 高さ(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 土製品(支脚) | 5.9 | (9.7) | 22.2 | 1608 | 長石，白雲母，白色粒子 | 側面指頭痕，裾部指ナデ，底部ヘラナデ，被熱痕 | カマドNO.1 | PL31 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 石製品(砥石) | 7.1 | 5.55 | 1.43 | 61.8 | 砂岩 | 砥面２面，その他は自然面 | 覆土中 | |
| 17 | 石製品(砥石) | 18.5 | 7.5 | 2.3 | 470 | 片岩 | 砥面１面，その他は自然面 | 覆土中 | |

## 第８号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6c6グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.66m，短軸2.88mの長方形を呈し，主軸方向はN―75°―Eである。壁高は確認面から最大高14cmを測り，直立して立ち上がる。

**重複関係**　北東部を第３号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかったが，ロームブロックと鹿沼パミスブロック主体の人為的な堆積状況を示していると推測される。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，粘性・締まりややあり
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量
5　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量（Ｐ３第１層）
6　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量（Ｐ３第２層）
7　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量（Ｐ３第３層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　東壁中央部やや南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは60cmである。第４層内の焼土ブロックは天井部の内壁が崩落したものと推測される。また袖部の基部の最大幅は約28cmである。火床部は床面から２cmほど掘りくぼめて火床面としており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ26cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子中量
4　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック中量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりあり
5　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，灰少量，粘性あり
7　10YR　5/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，灰少量
8　10YR　5/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，灰中量，締まり弱い

**柱穴**　３ヶ所確認された。位置的に主柱穴や出入口ピットとは考えられず，性格は不明である。Ｐ１：10×16cm，深さ10cm，Ｐ２：10×14cm，深さ10cm，Ｐ３：12×22cm，深さ10cmである。

**Ｐ１・２土層解説**

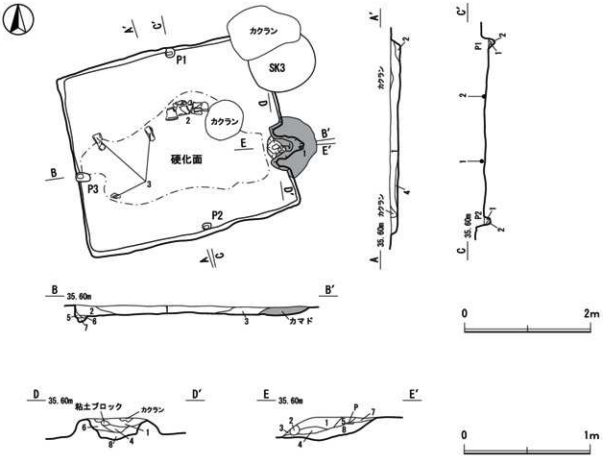
1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い
2　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量

**Ｐ３土層解説**

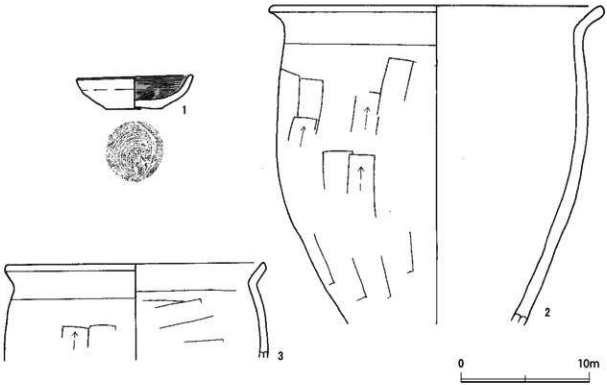
1　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量（住居跡覆土第５層）
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量（住居跡覆土第６層）
3　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量（住居跡覆土第７層）

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片174点（坏・高台付坏23，甕類151）。１の土師器皿は竈の煙道から，２の土師器甕は中央部床面から，３の土師器甕は南部の覆土下層から出土している。

**所見**　竈内から出土した土師器皿はほぼ完形で確認されたものであるが，他の住居跡の竈からも同じように完形のまま竈内から出土した坏や皿が確認されている。いずれも覆土中ではなく煙道直上からの出土であることから，住居を廃絶する段階で何らかの意図をもって遺棄されたことが想定される。時期は遺物から判断して９世紀後葉と考えられる。




第18図　第８号住居跡実測図




**第19図　第８号住居跡出土遺物実測図**

**表９　第８号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 小皿 | 9.1 | 2.6 | 4.6 | 石英，赤色粒子，黒色粒子，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，内外縁ロクロナデ，底部糸切り後箆抑え | カマドNO.1 | 95% PL33 |
| 2 | 土師器 | 甕 | 25.8 | (25.3) | － | 石英，小礫，白色粒子 | にぶい黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り，下半磨滅しているヘラミガキ，内面ヘラナデ | NO.1 4区1層覆土中 | 50% PL33 |
| 3 | 土師器 | 甕 | － | (7.5) | － | 石英，長石，赤色粒子，小礫 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ | NO.2 | 5% PL33 |

## 第９号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6d8グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.32m，短軸［3.16］mの方形を呈し，主軸方向はN―67°―Eである。壁高は確認面から最大高42cmを測り，直立して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第15号住居跡・第６号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。第６層は竈火床部の焼土である。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック多量
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土粒子中量，炭化粒子少量，締まり弱い

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部はよく踏み固められ硬化していた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　第15号住居跡に壊されており，火床部の焼土が確認されただけである。

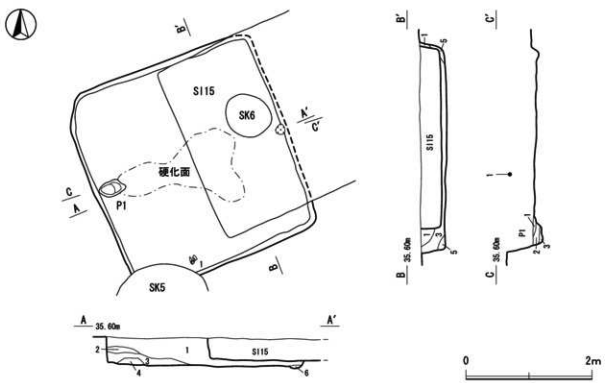
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：16×43cm，深さ16cmである。

**Ｐ１土層解説**

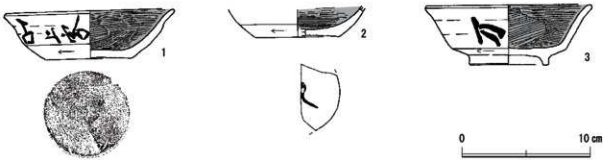
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片13点（坏・高台付坏類２，甕類10，鉢１），土師器片140点（坏・高台付坏類44，甕類95，鉢１），土製品２点（紡錘車１，不明１）。図化した遺物はすべて墨書土器で南部の覆土中から出土したものである。１は「占･上家」，３は「万」と記され，２は判読不明である。

**所見**　確認された墨書土器はいずれも住居廃絶後に投棄されたものである。他の住居跡から確認された墨書土器も投棄されたものが大半であり，遺棄されたものは出土していない。なお，これら投棄された遺物から判断して，時期は９世紀前葉と考えられる。




第20図　第９号住居跡実測図




**第21図　第９号住居跡出土遺物実測図**

**表10　第９号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.4 | 3.8 | 6.8 | 石英，白色粒子，小礫 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.3 | 90% 墨書「占・上家」PL59 |
| 2 | 土師器 | 坏 | － | (2.3) | (6.6) | 白色粒子，白雲母 | 灰褐色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 3区覆土中 | 10% 墨書「口」PL59 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 13.1 | 4.7 | 6.2 | 石英，白色粒子 | 灰褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，ナデ | 3区覆土中 | 50% 墨書「万」PL59 |

## 第10号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6h4グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.32m，短軸3.22mの方形を呈し，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は確認面から最大高34cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　南西部を第４号土坑に掘り込まれている。

**土層**　各層にロームブロックを含む人為的な堆積状況を示している。なお，第８層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量（壁溝第１層）
6　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，締まりあり

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除いた全域で硬化している。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅２～６cmで巡る。断面はU字形である。

**土層解説**

1　5YR　4/2　灰褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量（住居跡覆土第５層）

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。また，焚口部から煙道までは68cmである。袖部は比較的良好に遺存しており，基部の最大幅は約26cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめており，炭化物と焼土が混じった締まりの弱い層で，火床面も硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ38cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして立ち上がる。

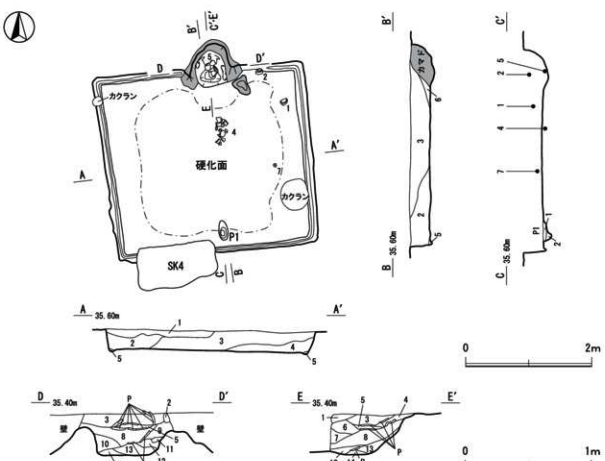
**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：焼土ブロック少量，炭化物多量，炭化粒子多量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　10YR　4/6　褐　　色：焼土ブロック少量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック少量
8　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土粒子少量，炭化物中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
9　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
10　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量
11　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
12　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
13　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量
14　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子微量，締まりあり
15　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量

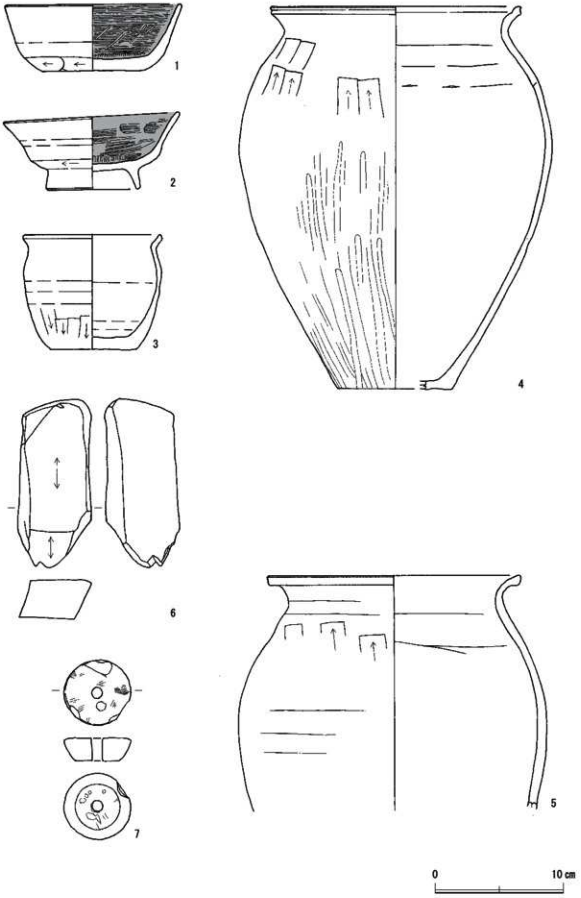
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：14×30cm，深さ14cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量




**第22図　第10号住居跡実測図**




第23図　第10号住居跡出土遺物実測図

**表11　第10号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.9 | 5.2 | (8.2) | 長石，石英，白色粒子，白雲母 | 明褐灰色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | NO.4 | 40% PL.33 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 13.7 | 6.1 | 7.6 | 長石，石英，白雲母，小礫，白色粒子，黒色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後指ナデ | NO.3 | 85% PL.33 |
| 3 | 土師器 | 小形甕 | (10.7) | 9.0 | 6.7 | 長石，白雲母，白色粒子，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，底部ヘラ切り後，ナデ | 3区 覆土中 | 50% PL.33 |
| 4 | 土師器 | 甕 | (19.7) | 30.0 | (9.0) | 石英，長石，白雲母，小礫，白色粒子 | 灰褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ， | NO.2 1・4区 覆土中 | 30% PL.33 |
| 5 | 土師器 | 甕 | 19.9 | (18.4) | － | 石英，黒雲母，白色粒子 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面横ナデ， | カマドNO.2 カマド 覆土中 | 35% PL.34 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 石製品(砥石) | 13.2 | 5.9 | 4.3 | 310 | 凝灰岩 | 砥面２面，その他は自然面 | 覆土中 | PL.34 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 石製品(紡錘車) | 5.1 | 5.2 | 1.8 | 67.3 | 粘板岩 | 台形状を呈する，両面穿孔，無紋 | NO.1 | PL.34 |

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏・高台付坏類１，甕類１），土師器片149点（坏・高台付坏類12，甕類137），石製品２点（砥石１，紡錘車１），金属製品１点（不明１）。４の土師器甕以外は覆土中あるいは竈内から確認されたものである。１・２の土師器坏は北東コーナー部から，３の土師器小形甕は南東部から，４は中央部床面から，５の土師器甕は竈内から，６の砥石は覆土中から，７の紡錘車は中央部東寄りからそれぞれ出土している。

**所見**　時期は遺物から判断して９世紀前～中葉と考えられる。本跡は壁溝を伴う住居であるが，当遺跡で壁溝を伴う住居16軒しか該当せず，その中でも廃絶時期が合致する住居跡は３軒のみである。なお，これら３軒の住居跡は隣接しており，性格等は不明であるものの，集落内で何らかのユニット分けが成されていたと推測される。

## 第11号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6j3グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の東部分は調査区外に延びているが，床部硬化面の範囲及び竈構築材である砂質粘土ブロックの遺存状況から長方形を基調としたプランが想定される。長軸(3.11) m，短軸3.04 mである。壁高は確認面から最大高11cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　調査範囲内では他の遺構との重複関係はみとめられない。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

**床**　ほぼ平坦である。住居中央部がやや硬化しているものの，全体的には軟らかい印象がある。

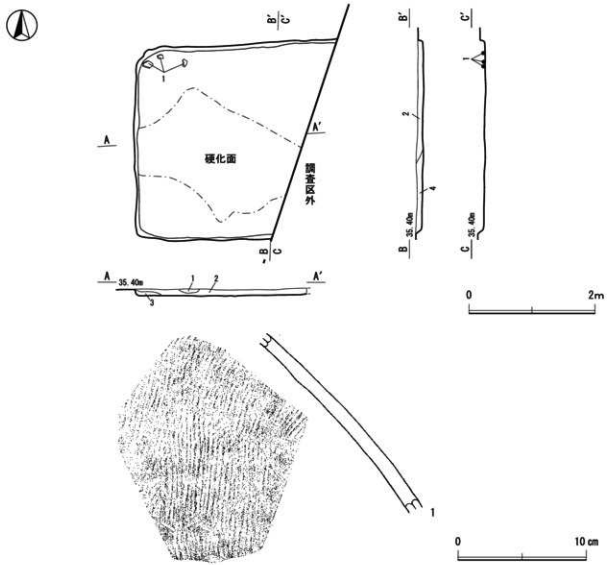
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材や焼土の範囲から，竈は未調査部分である東壁部に付設されていたと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片２点（甕類２），土師器片８点（坏・高台付坏類４，甕類４）。北西部で床面から少し浮いた状態で出土した破片が接合したものである。

**所見**　本跡は遺物の出土数が少なく大半が細片であるため時期を特定するだけの根拠に乏しい。しかし当遺跡では東壁に竈をもつ住居跡が多数確認されており，これらは９世紀前葉から10世紀までの約１世紀の間に限定されるため，本跡もこの時期内であると考えられる。




**第24図　第11号住居跡・出土遺物実測図**

**表12　第11号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 甕 | － | (14.6) | － | 石英，長石，黒色粒子 | 黄灰色 | 体部外面縦位の平行叩き，内面指頭痕 | NO.1 | 5% |

## 第12号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6d6グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸（3.94）m，短軸3.94mの方形を呈し，主軸方向はN―77°―Eである。壁高は確認面から最大高８cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北東部を第１号土坑に，北西部を第42号土坑に，中央部を第43号土坑に，東部の竈煙道付近を第２号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

土層解説

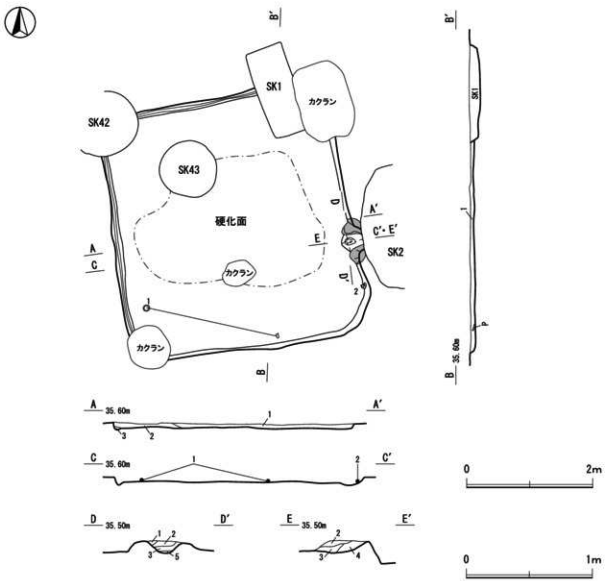
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子中量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子少量，締まりあり
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量（壁溝第１層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　北壁際と西壁際で確認され，幅１～５cmで巡る。断面はU字形状である。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量（住居跡覆土第３層）




第25図　第12号住居跡実測図

**竈**　東壁中央部やや南寄りにあり，砂質粘土で構築されているが，煙道は第２号土坑に壊されている。袖部の基部の最大幅は約23cmである。火床部は床面から２cmほど掘りくぼめて火床面としているが一部赤変しているものの硬化はしていない。

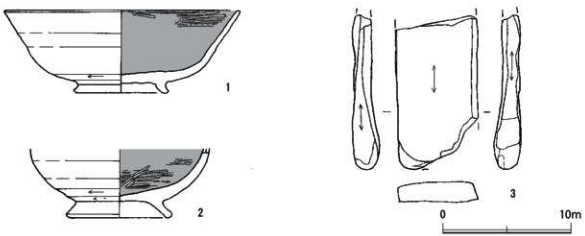
**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，締まりあり
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
4　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
5　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類２，甕類２），土師器片100点（坏・高台付坏類91，甕類９），石製品１点（砥石１）。１の土師器高台貼付は南西部の壁際と竈内から出土した破片が接合したものである。２の高台付坏と３の砥石は南東部からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は住居廃絶時に遺棄あるいは投棄された遺物から判断して，９世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。




**第26図　第12号住居跡出土遺物実測図**

**表13　第12号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | (18.6) | 6.5 | 7.3 | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，指ナデ | NO.4・8 1区1層・カマド覆土中 | 35% PL34 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | － | (5.4) | 7.9 | 長石，石英，白雲母，小礫，白色粒子，黒色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後指ナデ | NO.2 | 30% PL34 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 石製品（砥石） | (12.0) | 7.5 | 2.1 | (213) | 粘板岩 | 砥面３面，その他は自然面 | 1区覆土中 | |

### 第13号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D5g10グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡北部が調査区外に延び，南部が第16号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが，遺存部の形態から方形または長方形を基調としたプランが想定され，長軸3.58m，短（2.34）mである。また，主軸方向はN―86°―Eである。壁高は確認面から最大高26cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部を第16号住居跡に掘り込まれている。

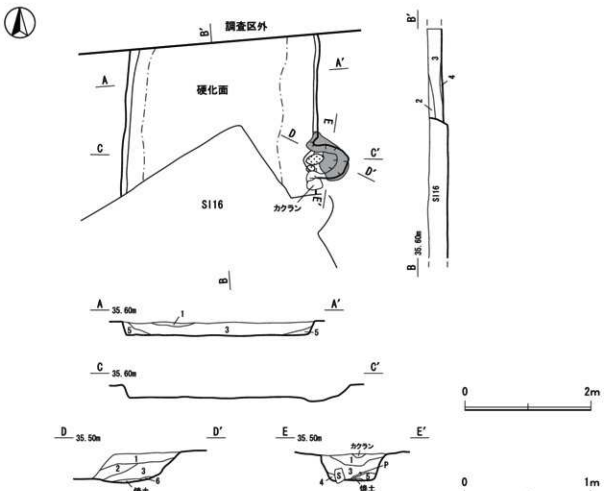
**土層**　ローム粒子主体の堆積状況を示し，また各粒子の目が細かいため，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，締まり弱く粒子細かい
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦である。遺存していた部分は，よく踏み固められ硬化していた。

**壁溝**　検出されていない。




第27図　第13号住居跡実測図

**竈**　東壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは71cmである。また袖部の基部の最大幅は約22cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ52cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

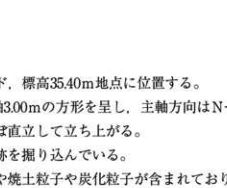
**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　5YR　4/2　灰 褐 色：焼土ブロック少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック多量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量
4　5YR　4/1　褐 灰 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　5/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量，鹿沼パミス少量
6　10YR　5/2　灰黄褐色：砂質粘土ブロック中量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片５点（甕類５），土師器片147点（坏・高台付坏類５，甕類142）。１の須恵器坏は西部の覆土上層から出土している。なお，床面から出土した遺物はなく，すべて投棄あるいは埋土に混入した遺物である。

**所見**　時期は住居跡に伴う遺物がなく，また遺物年代も様々であり判然としないが，覆土中の遺物の多くが８世紀後葉～９世紀前葉に比定されるものが比較的多くあることや，本跡を掘り込んでいる第16号住居跡の廃絶時期が９世紀前葉～中葉であることから，９世紀前葉以前と推測される。




**第28図　第13号住居跡出土遺物実測図**

**表14　第13号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | [14.1] | 4.3 | [7.9] | 石英，長石，白色粒子，黒色粒子 | 黄灰色 | ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後ナデ | 2区1層覆土中 | 30% PL34 |

## 第14号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6i5グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.62m，短軸3.00mの方形を呈し，主軸方向はN―38°―Wである。壁高は確認面から最大高45cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　西部で第７号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。また，第５層には壁部の崩落土が確認された。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土粒子少量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化材少量，炭化物中量，鹿沼パミス少量
5　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック中量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱い

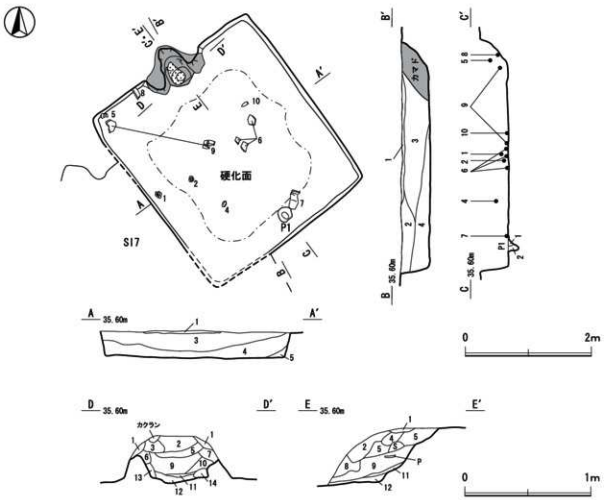
**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。なお，床面には炭化材や焼土が飛散している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北西壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは71cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第９層が崩落土と考えられる。内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。また袖部の基部の最大幅は約42cmである。火床面は床面とほぼ同レベルとなっており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ28cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量， |
| 5 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，鹿沼パミス微量 |
| 6 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | ：焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量 |
| 7 | 10YR | 5/2 | 灰黄褐色 | ：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量 |
| 8 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量 |
| 9 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | ：砂質粘土ブロック多量，砂質粘土粒子中量 |
| 10 | 5YR | 4/2 | 灰 褐 色 | ：ロームブロック微量，砂質粘土ブロック中量，砂質粘土粒子中量 |
| 11 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | ：焼土ブロック微量，砂質粘土ブロック少量 |
| 12 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | ：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土ブロック多量 |




第29図　第14号住居跡実測図

13　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量
14　5YR　4/2　灰 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土粒子少量

**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。P 1：16×21cm，深さ16cmである。

**P 1 土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量

**遺物出土状況**　須恵器片25点（坏・高台付坏類２，甕類21，盤１，蓋１），土師器片312点（坏・高台付坏類46，甕類265，甑１），土製品１点（管状土錘１），金属製品１点（刀子21）。１の土師器坏は南西壁際の覆土下層から，２の土師器高台付坏は中央部やや南西寄りの覆土下層から，４の土師器皿は中央部やや南寄りの覆土中層から出土している。なお，４は墨書土器で「真家」が記されている。５の須恵器盤は西コーナー部の覆土中層から，６の土師器甕は中央部の覆土下層から，７の土師器甕は出入口ピット近くの床面から，８の須恵器甕は竈西袖部の外側からそれぞれ出土している。９の須恵器甕は中央部と西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の管状土錘は中央部やや北東寄りの床面から，11の刀子は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

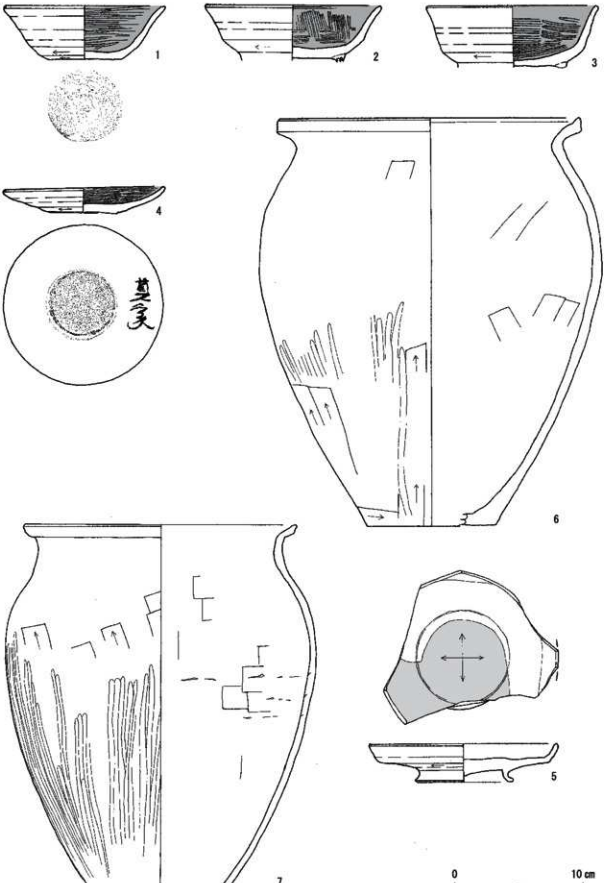
**所見**　焼失住居である。また確認された土器類の大半は覆土中から出土したもので被熱の痕跡もないことから，失火ではなく意図的に焼失させた住居であると推測できる。なお本跡は，９世紀中葉～後葉に比定される第７号住居跡を掘り込んでいるが，本跡の時期も遺物の形状からみて時期差をほとんど感じない。失火ではなく意図的に焼失させていることや営まれた時期が短期間であることから，想像の域を出ないものの，本跡は疫病等何らかの理由により廃絶せざるを得ない状況に置かれたものと推測される。

**表15　第14号住居跡出土遺物観察表**

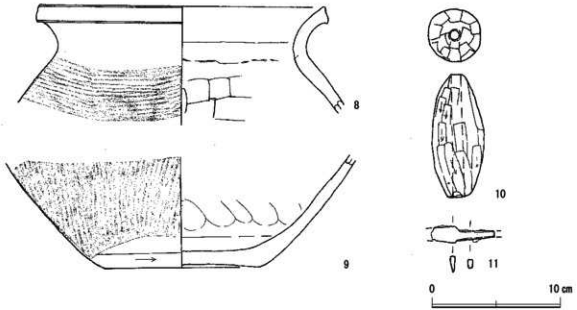
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (12.6) | 4.2 | 5.9 | 長石，石英，赤色粒子，黒色粒子，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.15 | 60% PL34 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | (13.7) | (4.4) | － | 石英，長石，赤色粒子 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部高台貼付後指ナデ | NO.18 | 50% PL34 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | (13.4) | (4.8) | － | 石英，白雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後指ナデ | 2区 覆土中 | 20% PL35 |
| 4 | 土師器 | 皿 | 12.5 | 5.3 | 5.3 | 石英，小礫，白雲母，黒色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後ヘラナデ | NO.1 | 100% 墨書「真家」 PL59 |
| 5 | 須恵器 | 盤 | (14.7) | 3.2 | 7.5 | 石英 | オリーブ灰色 | ロクロナデ，底部高台貼付後指ナデ | NO.17 | 碗転用か 50% PL35 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (23.6) | 32.0 | (10.0) | 石英，長石，金雲母，小礫 | 灰黄褐色 | 口縁部横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラ削り後ミガキ，内面横位のヘラナデ | NO2・3 1区1・2・3 層覆土中 | 30% PL35 |
| 7 | 土師器 | 甕 | (21.4) | (29.0) | － | 石英，長石，赤色粒子，白雲母 | にぶい赤褐色 | 口縁部横ナデ，体部外面中位以下縦位のヘラミガキ，内面横位のヘラナデ，輪積痕 | NO.4 | 25% PL35 |
| 8 | 須恵器 | 甕 | (22.4) | (8.4) | － | 長石，小礫，石英 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，外面横位の平行叩き，内面輪積痕 | NO.10 | 5% PL35 |
| 9 | 須恵器 | 甕 | － | (8.8) | (12.4) | 石英，長石，白雲母，小礫 | 灰白色 | 体部外面縦位の平行叩き，内面指ナデ | NO.5 SI-7　NO.19 | 15% PL35 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 土製品 (管状土錘) | 10.4 | 4.1 | 0.9 | 149.7 | 長石，黒色粒子 | 側面縦位のナデ | NO.9 | 100% PL35 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 金属製品 (刀子) | (5.0) | 1.28 | 0.4 | (5.3) | 鉄 | 刃部断面三角形，茎部断面方形 | 1区1層 覆土中 | PL63 |




第50図　第14号住居跡出土遺物実測図（1）




第31図　第14号住居跡出土遺物実測図（2）

## 第15号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6e7グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.92m，短軸2.60mの方形を呈し，主軸方向はN―66°―Eである。壁高は確認面から最大高34cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　西部で第９号住居跡を掘り込み，中央部を第６号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロックと鹿沼パミスブロック主体の人為的な堆積状況を示している。なお，第４層のロームブロックは，壁部の崩落土と推測される。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量 |
| 4 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 10YR | 6/2 | 灰黄褐 | 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，粘性弱い |
| 6 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量 |
| 7 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量 |
| 8 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化物中量，砂質粘土ブロック微量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは38cmである。また袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床部は床面から５cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ14cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

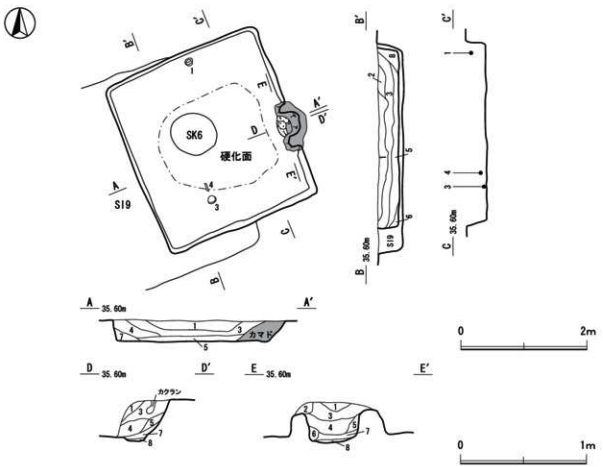
**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子微量，締まり弱い
7　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量
8　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化物微量

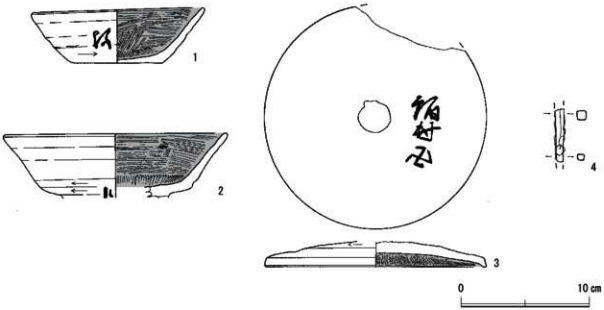
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類２，甕類２），土師器片22点（坏・高台付坏類４，甕類18），金属製品１点（釘カ１）。１の土師器坏は北壁際の覆土中層から，２の土師器高台付坏は南東部の覆土上層から，３の土師器蓋と４の釘は中央部やや南寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。なお，１～３は墨書土器で，１は「得」，３は「稲村卍」と記されており，２は判読不明である。

**所見**　本跡は第９号住居跡と重複しているが，主軸が同方位であることや廃絶時期にほとんど差がないことから建て替えの可能性が高い。時期は遺物から判断して９世紀中葉～後葉と考えられる。




第32図　第15号住居跡実測図




第33図　第15号住居跡出土遺物実測図

表16　第15号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.7 | 4.4 | 7.1 | 石英，長石，白雲母，白色粒子 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端回転ヘラ削り | NO.5 | 75%　墨書「得」PL60 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | (17.5) | (5.0) | － | 長石，白雲母，赤色粒子，白色粒子 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 1区覆土中 | 30%　墨書「□」PL60 |
| 3 | 土師器 | 蓋 | 17.4 | (2.0) | － | 長石，石英，白雲母 | 灰黄褐色 | 天井部ヘラ削り，内面黒色処理，ヘラミガキ，つまみ欠損 | NO.1 | 90%　墨書「福村寸」PL60 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 金属製品(釘) | (4.17) | 0.74 | 0.76 | (5.1) | 鉄 | 断面方形 | NO.4 | PL63 |

## 第16号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6g1グリッド，標高35.40m地点に位置する。

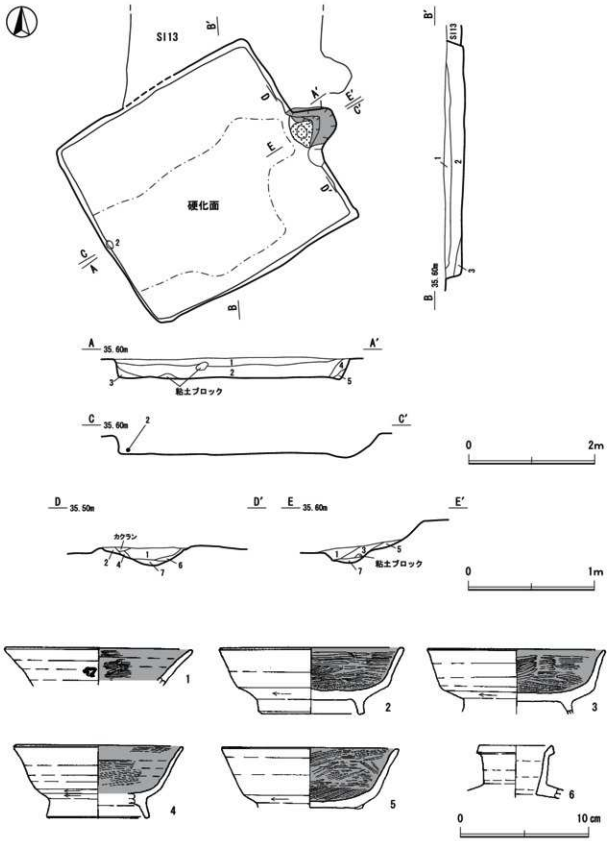
**規模と形状**　長軸5.80m，短軸3.50mの長方形を呈し，主軸方向はN―59°―Eである。壁高は確認面から最大高36cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部で第13号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　各層にロームブロックを含み人為的な堆積状況を示しているものの，堆積層厚が薄く，判然としなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物中量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物中量，鹿沼パミス少量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子中量，砂質粘土ブロック微量




第34図　第16号住居跡・出土遺物実測図

**表17　第16号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (14.6) | (2.9) | – | 石英，白雲母，黒色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 1区1層覆土中 | 5%<br>墨書「□」<br>PL60 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | 14.3 | 5.3 | 7.6 | 白雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後ナデ | NO.1 | 95%<br>PL35 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | 13.9 | (5.1) | – | 長石，石英，白雲母，黒色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付の痕跡有り | 3区覆土中 | 50%<br>PL36 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | (13.2) | 5.6 | (7.7) | 長石，石英，白雲母，小礫，赤色粒子，黒色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，高台貼付後指ナデ | 1区覆土中 | 20%<br>PL36 |
| 5 | 土師器 | 高台付坏 | (13.8) | (4.7) | (7.5) | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付 | 3区覆土中 | 30%<br>PL36 |
| 6 | 須恵器 | 長頸瓶 | (5.8) | (4.1) | – | 石英，長石，黒色粒子 | 灰白色 | 頸部ロクロナデ，二次焼成 | 1区1層覆土中 | 5%<br>PL36 |

**床**　ほぼ平坦で，竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また竈全面部から南西壁にかけてよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは73cmである。また袖部の基部の最大幅は約32cmである。火床部は床面から９cmほど掘りくぼめて火床面としており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ53cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い
6　5YR　6/2　灰 褐 色：焼土粒子微量，砂質粘土ブロック中量
7　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片13点（坏・高台付坏類６，甕類５，盤２），土師器片96点（坏・高台付坏類36，甕類60）。１の土師器坏，４の土師器高台付坏，６の須恵器長頸瓶は南東部の覆土中から，２の土師器高台付坏は南西壁際の床面から，３・５の土師器は北西部の覆土中からそれぞれ出土している。なお，１は細片で体部外面に墨書「□」されている。

**所見**　時期は９世紀前～中葉と考えられる。なお，当該期には東壁部に竈を付設している例が若干見られるようになり，本跡の周辺では第８・15・60号住居跡が相当する。

## 第17号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6d7グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.77m，短軸2.77mの長方形を呈し，主軸方向はN―81°―Eである。壁高は確認面から最大高16cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北壁付近を第129号土坑に，南東コーナー部を第11号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかったが，覆土に焼土粒子や炭化物が含まれており，人為的な埋没が見られる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量（Ｐ１第１層）
4　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化粒子中量（Ｐ１第２層）
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い（壁溝第１層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　北壁際から西壁際にかけて，幅６～12cmで巡っている。断面はＵ字形状である。

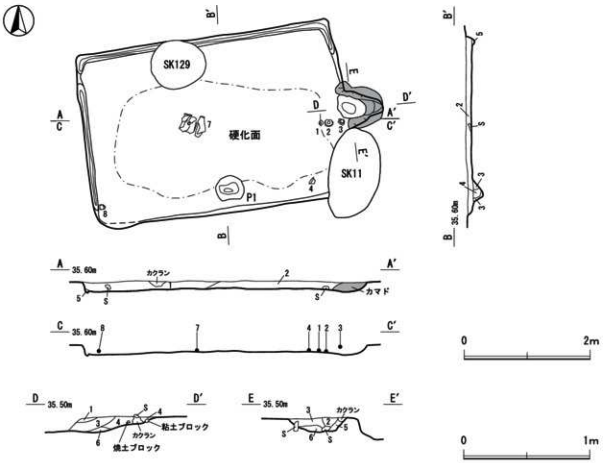
土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い（住居跡覆土第５層）

**竈**　東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは72cmである。第４層内の焼土ブロックは天井部の内壁が崩落したものと推測される。また袖部の基部の最大幅は約20cmである。火床部は床面から２cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ58cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
5　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性あり，締まり弱い
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い




第35図　第17号住居跡実測図

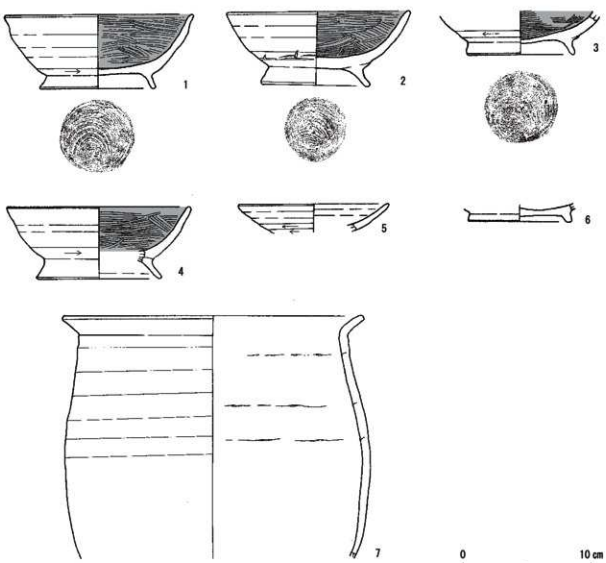
**柱穴**　1ヶ所確認された。竈のある東部と対峙していないが，南壁際にあることから，出入口ピットの可能性もあろう。Ｐ１：38×45cm，深さ16cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量（住居跡第３層）
2　5YR　4/2　灰 褐 色：焼土粒子微量，炭化粒子中量（住居跡第４層）

**遺物出土状況**　須恵器片４点（甕類４），土師器片120点（坏・高台付坏類20，甕類94，甑６）。１～３の土師器高台付坏は竈前面から，７の土師器甕は中央部床面から押し潰された状態で，いずれも床面から出土している。また，５の灰釉陶器皿・６の緑釉陶器皿は南部の覆土中から出土しており，投棄あるいは埋土に混入していたものと考えられる。

**所見**　本跡は東西軸が南北軸に比して長い住居跡で，建物の造り替えあるいは工房跡の可能性を考慮し調査を開始したが，礫や鉄滓等は出土しておらず，床面に焼成跡等の作業痕も見当たらなかった。なお，５の灰釉陶器皿と６の緑釉陶器皿はいずれも投棄あるいは埋土に混入していたものと考えられるが，猿投窯産のものである。時期は９世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。




**第36図　第17号住居跡出土遺物実測図**

**表18　第17号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | (15.0) | 5.8 | 9.0 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，指ナデ | NO.3 1区1層覆土中 | 35% PL36 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | 14.2 | 6.0 | 8.1 | 長石，小礫，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，指ナデ | NO.1 | 90% PL36 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | － | (3.4) | 8.3 | 石英，長石，白色粒子，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後指ナデ | カマドNO.1 | 20% PL36 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | (14.4) | 5.6 | (9.8) | 長石，石英，黒雲母，小礫，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | NO.2 | 30% PL36 |
| 5 | 灰釉陶器 | 皿 | (11.8) | (2.1) | － | 黒色粒子，長石 | 灰白色 | 口縁部～体部ロクロナデ，釉薬漬け掛け | 2区1層覆土中 | 10% 東遺産 PL36 |
| 6 | 緑釉陶器 | 高台付皿 | － | (1.4) | 8.0 | 長石，黒色粒子 | 灰黄色 | 底部回転糸切り後高台貼付 | 3区1層覆土中 | 20% 猿投産ヵ PL36 |
| 7 | 土師器 | 甕 | 23.5 | (19.2) | － | 石英，長石，小礫，金雲母 | にぶい褐色 | 口縁部横ナデ，体部外面横位のヘラナデ，内面ヘラナデ，輪積痕 | NO.4 | 50% PL37 |

## 第18号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E5d10グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.99m，短軸2.43mの長方形を呈し，主軸方向はN―26°―Wである。壁高は確認面から最大高27cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　南部を第７・８号土坑に，西部を第142・143号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，粘土ブロック少量
3　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/3　暗褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子中量，粘性・締まりともに弱い

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

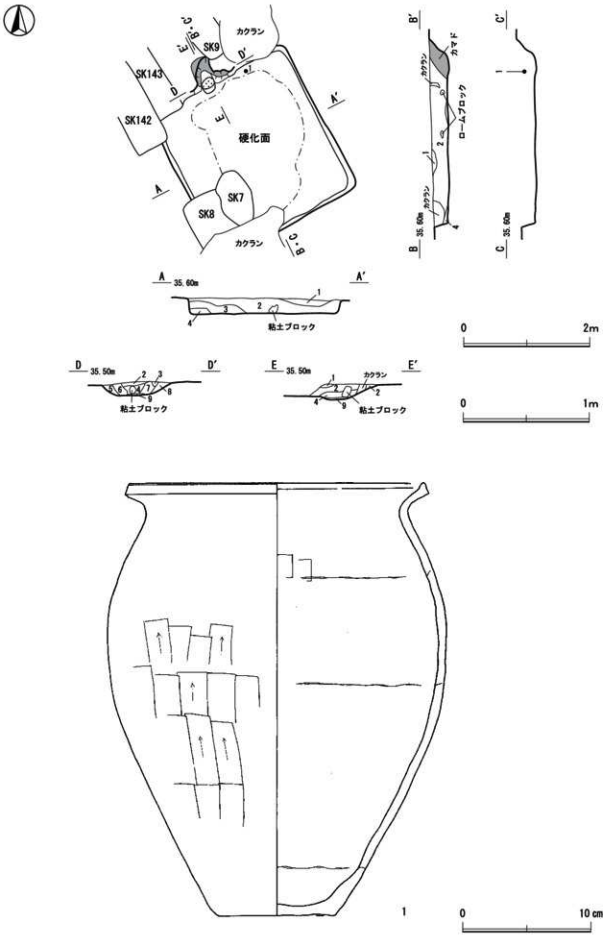
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北西壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは58cmである。第７層の焼土ブロックは天井部の内壁が崩落したものと推測される。また袖部の基部の最大幅は約40cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて構築されているが，火床面は判然とはしていない。なお，煙道は壁外へ46cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量
2　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　10YR　4/4　褐　色：焼土ブロック少量，炭化粒微量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　3/2　黒褐色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
6　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
7　5YR　4/6　赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
8　10YR　3/2　黒褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
9　5YR　4/2　灰褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。




第37図　第18号住居跡・出土遺物実測図

表19　第18号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 甕 | [23.0] | 34.1 | 9.3 | 長石，小礫，白色粒子，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部横ナデ，体部外面下半縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積痕 | NO.1 1区 覆土中 | 40% PL37 |

**遺物出土状況**　土師器片51点（甕類51）。１の土師器甕は竈袖部の東側床面から出土している。その他の遺物は住居廃絶後に投棄あるいは埋土中に混入したもので，すべて土師器甕である。

**所見**　本跡は土坑や後世の攪乱により各所が壊され調査が難航した。遺物はすべて土師器甕であるため明確な時期の特定には至らなかったが，９世紀代の産物である。

## 第19号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6a2グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡東部が第20号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが，長軸（2.66）m，短軸2.84mの長方形を呈し，主軸方向はN―48°―Eである。壁高は確認面から最大高21cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第20号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土ブロックや炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まりやや弱い
2　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，ほぼ壁際を除くほぼ全域がよく硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

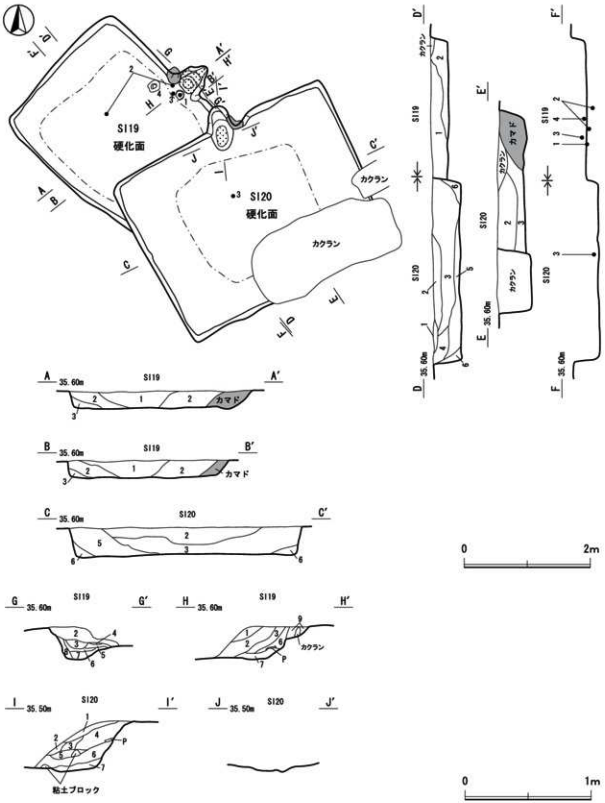
**竈**　北東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは52cmである。また袖部の基部の最大幅は約18cmである。火床部は床面から２cmほど掘りくぼめて火床面としており，硬化した焼土ブロックが散在している。なお，煙道は壁外へ32cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒褐色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/1　黒褐色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3　10YR　3/3　暗褐色：ロームブ粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い
5　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量
6　5YR　4/6　赤褐色：焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子微量
7　5YR　4/6　赤褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量
8　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
9　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

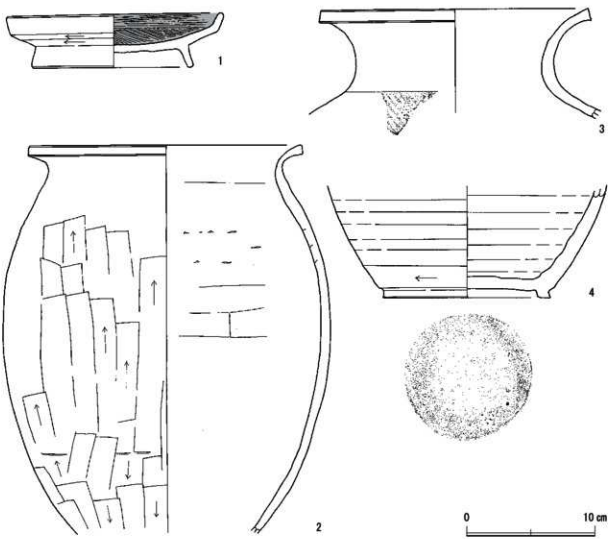
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片３点（坏・高台付坏類１，蓋２），土師器片29点（甕類29）。遺物多くは竈内と竈前面から出土したものである。１の土師器盤と３の須恵器甕は焚口部から重なって出土している。２の土師器甕は袖部と中央部床面の破片が接合したもので，４の須恵器長頸瓶は竈前の覆土下層で出土している。これら竈内から確認された１～４の土器には火熱を受けた痕跡がなく，すべて住居廃絶後に遺棄あるいは投棄されたものと考えられる。




第38図　第19・20号住居跡実測図

**所見**　時期は9世紀中頃と考えられる。なお，当遺跡にみる当該期の特徴のひとつとして，共膳具・煮炊具ともに土師器製品が圧倒的に多く，須恵器製品が客体的であるという点が挙げられる。理由としては須恵器供給地が遠いという距離的な要因が最も大きいと考えられるが，内面黒色処理を施した製品が多数を占めるという点からも，太平洋側の南部東北文化圏の影響を色濃く受けていることもまた要因のひとつであろうと推測される。




**第39図　第19号住居跡出土遺物実測図**

**表20　第19号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 盤 | 17.2 | 4.2 | 12.6 | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子，黒色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，ナデ | NO.1 | 95% PL37 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (21.4) | (30.4) | － | 石英，長石，赤色粒子，白色粒子，小礫 | 灰褐色 | 口縁部横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積痕 | NO.2 カマドNO.4 カマド覆土中 | 35% PL37 |
| 3 | 須恵器 | 甕 | (21.0) | (8.1) | － | 長石，石英，白雲母，小礫，赤色粒子，白色粒子 | 灰黄色 | 口縁部ロクロナデ，内外面剥離顕著 | カマドNO.3 カマド覆土中 | 5% PL37 |
| 4 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (8.8) | 13.1 | 長石，石英，白雲母，黒色粒子，小礫 | 黄灰色 | 体部外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後高台貼付，ナデ | NO.1 | 70% PL37 |

### 第20号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E6b2グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡南部が後世の攪乱により壊されている。平面形は長軸3.73m，短軸3.20mの長方形を呈し，主軸方向はN―26°―Wである。壁高は確認面から最大高47cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　北西部で第19号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，粘性弱い |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量 |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まりややあり |

**床**　ほぼ平坦であるが，硬化している住居中央部に若干高まりを持つ。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北西壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは71cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第５層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約32cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，被熱により赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ32cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

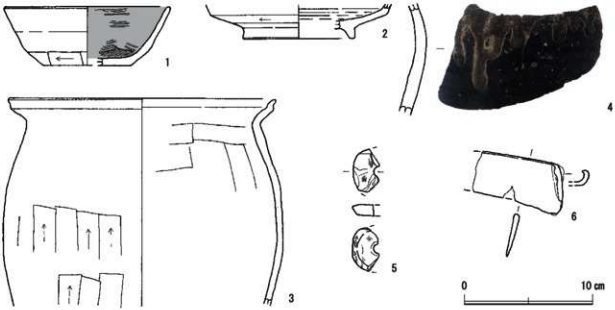
土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，．焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量 |
| 2 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量 |
| 4 | 5YR | 4/6 | 赤褐 | 色：焼土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量，粘性弱く締まりあり |
| 5 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量 |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子少量 |
| 7 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐 | 色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量 |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片７点（坏・高台付坏類１，甕類５，盤１），土師器片171点（坏・高台付坏類19，甕類152），石製品１点（紡錘車１），金属製品１点（鎌１）。１の土師器坏は東部，２の須恵器盤は北西部の，いずれも覆土中から出土している。３の土師器甕は中央部やや北寄りの床面から出土した破片が接合したものである。４の須恵器甕・５の紡錘車はそれぞれ竈中から出土している。

**所見**　時期は住居廃絶時に遺棄された遺物からみて９世紀中～後葉と考えられるが，遺構が一部壊され，土層も薄く十分な調査結果は得られなかった。なお，重複する第19号住居跡とは規模や形状が酷似しており時期差もほとんどないことから，主軸方向の差異はあるものの，建て替えの可能性が示唆されよう。




**第40図　第20号住居跡出土遺物実測図**

**表21　第20号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.0) | 4.6 | (7.0) | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，体部外面下端手持ちヘラ削り | 1区覆土中 | 25% PL38 |
| 2 | 須恵器 | 甕 | － | (2.6) | (8.8) | 長石，小礫 | 褐灰色 | 体部内外面ロクロナデ，底部高台貼付後ナデ | 3区覆土中 | 10% PL38 |
| 3 | 土師器 | 甕 | 21.0 | (16.3) | － | 石英，長石，小礫，白色粒子 | 橙色 | 口縁部横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ | NO.2 | 35% PL38 |
| 4 | 須恵器 | 甕 | － | (8.7) | － | 石英，長石，黒色粒子 | 黄灰色 | 体部内外面ロクロナデ，外面自然釉薬顕著 | 覆土中 カマド覆土中 | 5% PL38 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 石製品（紡錘車） | (3.8) | 0.87 | (0.7) | (7.8) | 滑石 | 遺存部少なく穿孔方向不明，無紋 | カマド覆土中 | 35% PL38 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 金属製品（鎌） | (7.3) | 3.9 | 0.4 | (38.4) | 鉄 | 刃部断面三角形，柄付部折り曲げ | 覆土中 | PL63 |

## 第21号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E5a9グリッド，標高35.80m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外にあると推測され，調査できた部分は長軸（2.08）m，短軸（1.44）mの範囲であったため明確ではないが，硬化した床面の範囲から，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高31cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部を第137号土坑に，北東部から北西部にかけてを第141号土坑に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子中量，粘性・締まりともに弱い
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。

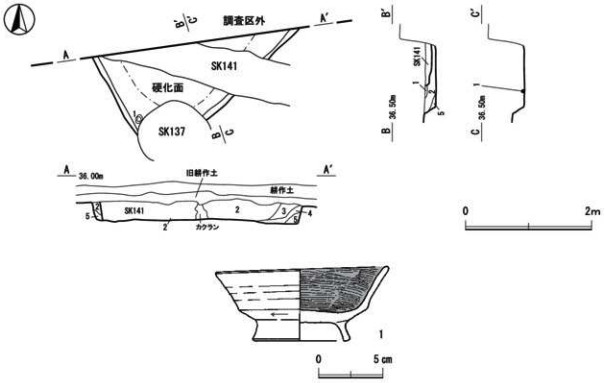
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材である砂質粘土ブロックの範囲から，竈は調査区外の未調査部分に付設されていると推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片５点（坏・高台付坏類１，甕類４）。１の土師器高台付坏は南コーナー部の床面から出土している。ほかに土師器甕の破片が確認されたが，断面が摩耗しており，すべて埋土に混入したものと推測される。

**所見**　本跡の大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，床面に硬化した面が広がっていることや，竈構築材である砂質粘土ブロックが確認できたことから住居跡と判断した。なお，遺物が少なく明確に時期を特定するには至らなかったが，これらの土器は９世紀に比定できるものである。




第41図　第21号住居跡・出土遺物実測図

表22　第21号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 13.6 | 5.7 | 7.7 | 長石，石英，白雲母，小礫，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，指ナデ | NO.1 | 70% PL38 |

### 第22号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区B6j2グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.38m，短軸2.96mの方形を呈し，主軸方向はN―88°―Eである。壁高は確認面から最大高36cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部で第42号住居跡を，西部で第23号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロックと鹿沼パミスブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

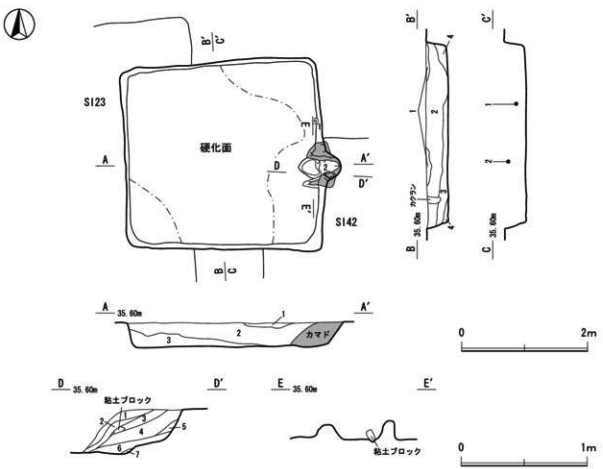
土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化材微量，炭化物中量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，東部と南西壁コーナー部を除き硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは67cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第５層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約20cmである。火床面は床面とほぼ同レベルとなっており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ28cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。




第42図　第22号住居跡実測図

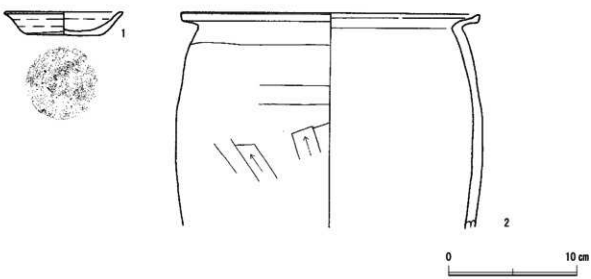
**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり
4　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック多量，粘性弱い
6　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量
7　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器９点（坏・高台付坏類３，甕類６），土師器片77点（坏・高台付坏類24，甕類53）。１の土師器皿は東壁際の床面から出土しているが，ほかに接合関係にある破片はなく，投棄されたものであろう。２の土師器甕は南袖部の内壁に貼りついた状態で出土していたが，二次焼成は受けておらず，竈廃絶直後に遺棄されたと考えられる。

**所見**　３軒重複している中で一番新しい住居跡である。須恵器製品はすべて破片で，断面が摩耗しているものも多く，埋め戻しの段階で埋土中に混入したものであろう。特定できる遺物が少なく時期を断定するには至らなかったが，皿や甕の形状から，10世紀に入ってから廃絶された住居跡と推測される。




**第43図　第22号住居跡出土遺物実測図**

**表23　第22号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 小皿 | 9.2 | 1.9 | 5.9 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転糸切り後ナデ | NO.3 | 80% PL38 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (23.4) | (16.9) | － | 石英，長石，黒色粒子，白色粒子，小礫 | 灰黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部縦位のヘラナデ | NO.1 | 10% PL38 |

## 第23号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区B6h2グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸5.58m，短軸5.58mの方形を呈し，主軸方向はN－5°－Wである。壁高は確認面から最大高32cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第22号住居跡に，西部を第185～188号土坑に掘り込まれている。

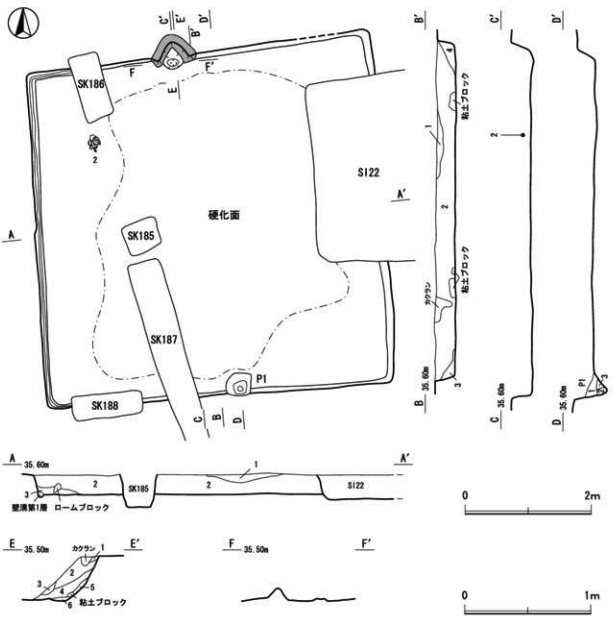
**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，炭化粒子微量
4　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック中量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　西壁際のみで確認され，幅２～４cmで巡る。断面はU字形状である。




第44図　第23号住居跡実測図

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，炭化粒子微量

**竈**　北壁中央部やや西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは42cmである。袖部の遺存状態は非常に悪く，袖部の基部と推測される砂質粘土ブロックが幅約20cmほど確認された程度である。火床面は床面と同レベルで，掘り込んだ形跡はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ25cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量

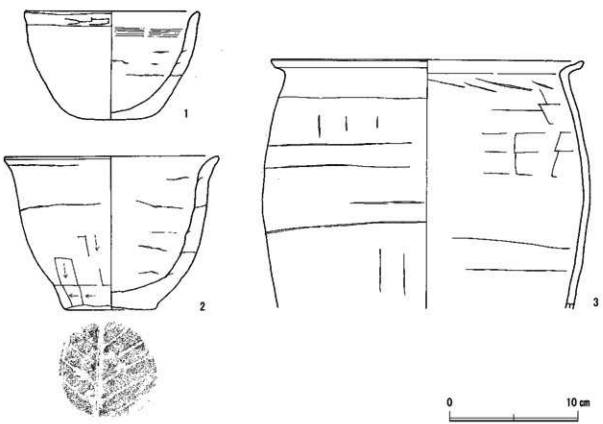
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。P1：34×41cm，深さ34cmである。

**P1土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**遺物出土状況**　須恵器片1点（甕類1），土師器片48点（坏・高台付坏類7，甕類41）。床面から出土した土器は中央部やや北西寄りから確認された2の小形甕のみで，大半は埋め戻しの段階で投棄されたものと埋土中に混入していたものであるが，遺物数自体も少ない。

**所見**　なお，本跡に伴う遺物が1点のみのため時期を特定する資料に乏しいが，投棄あるいは埋土中に混入していた遺物の大半は7世紀代の産物である。




**第45図　第23号住居跡出土遺物実測図**

**表24　第23号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坩 | (13.7) | 8.4 | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，白色粒子，赤色粒子 | にぶい褐色 | 口縁部～体部横ナデ，底部一方向のヘラナデ，輪積痕 | 覆土中 | 50% PL.39 |
| 2 | 土師器 | 小形甕 | (16.8) | 12.0 | 7.2 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，白色粒子，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラナデと指ナデ，内面横ナデ，底部木葉痕 | NO.1 | 50% PL.39 |
| 3 | 土師器 | 甕 | (24.4) | (19.5) | － | 石英，長石，小礫，白色粒子 | 灰黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面横ナデ，輪積痕 | 1区覆土中 | 10% PL.39 |

## 第24号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E7b9グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.20m，短軸3.06mの方形を呈し，主軸方向はN－23°－Wである。壁高は確認面から最大高34cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北西壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは60cmである。袖部は比較的良好に遺存しており，内壁は被熱により赤変している。なお，第８層の焼土ブロックは袖部内壁が崩落したものと考えられる。火床部は床面から９cmほど掘りくぼめて火床面としており，焼土粒子及び焼土ブロックが散在している。なお，煙道は壁外へ37cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土粒子少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，，砂質粘土粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック多量
6　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，砂質粘土粒子微量
7　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，砂質粘土ブロック多量，締まりあり
8　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック多量，締まりあり
9　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
10　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量，砂質粘土粒子微量
11　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土粒子少量
12　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：12×15cm，深さ10cmである。

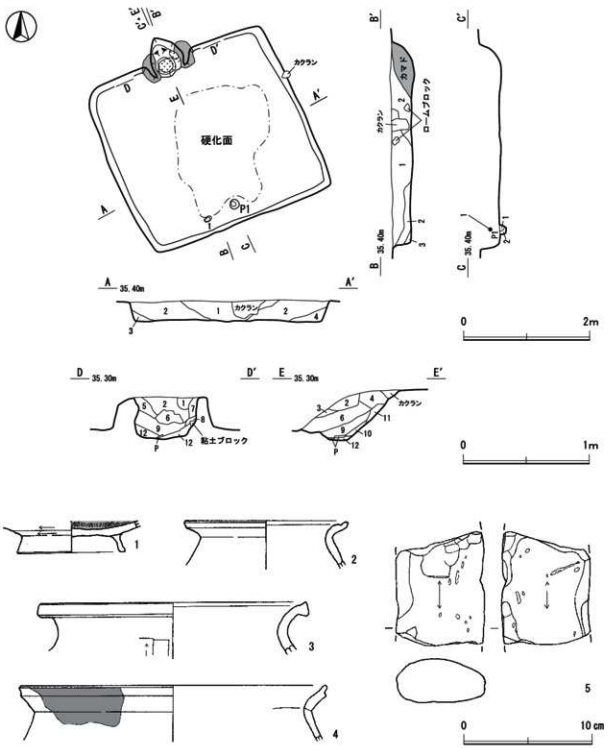
**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏・高台付坏類１），土師器片104点（坏・高台付坏類11，甕類

93)。1の土師器高台付坏は南壁際から，2・4の土師器甕は西部のそれぞれ覆土中から出土している。3の土師器甕は竈火床面直上と袖部上から出土した破片が接合したものである。5の砥石は北東コーナー部の床面から出土している。

**所見**　遺物の大半は竈内から出土しているが，天井部崩落後にも投棄された遺物が散見された。また土層観察の結果，本跡廃絶後すぐに一部埋め戻しが行われているが，その後しばらくは放置されていたものと考えられる。遺物が細片で時期を特定できない土器が多いが，9世紀後葉と推測される。




第46図　第24号住居跡・出土遺物実測図

**表25　第24号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | － | (2.5) | 8.4 | 長石，石英，金雲母，白雲母 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，ナデ | NO.1 | 20% PL.39 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (12.7) | (3.8) | － | 長石，石英，黒雲母，白色粒子，赤色粒子，小礫 | 灰黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ | 4区覆土中 | 5% PL.39 |
| 3 | 土師器 | 甕 | (21.0) | (4.1) | － | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | 口縁部～頸部内外面横ナデ | カマドNO.1 | 5% PL.39 |
| 4 | 土師器 | 甕 | (24.0) | (4.4) | － | 長石，石英，黒雲母，白雲母，小礫 | 灰褐色 | 口縁部内外面横ナデ，外面煤付着 | 4区覆土中 | 5% PL.39 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 石製品(砥石) | (8.7) | 7.0 | 3.4 | (235) | 凝灰岩 | 砥面2面，その他は自然面 | 1区1層 | PL.39 |

## 第25号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6j9グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.38m，短軸2.60mの方形を呈し，主軸方向はN―89°―Eである。壁高は確認面から最大高24cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南西部を第31号住居跡に，北東コーナー部を第32号土坑に，南東コーナー部を第16号土坑に掘り込まれ，東部で第32号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。また第４層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，締まり弱い
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土粒子微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　東壁中央部やや南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは59cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第３層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，内壁は被熱により赤変している。袖部の基部の最大幅は約44cmである。火床部は床面から６cmほど掘りくぼめて火床面としており，火熱を受けて赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ32cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　4/6　褐　　色：ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　5YR　5/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり
4　10YR　3/1　黒 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子少量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量

6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
7　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量
8　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子微量，粘性弱い
9　5YR　4/3　にぶ赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり
10　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量

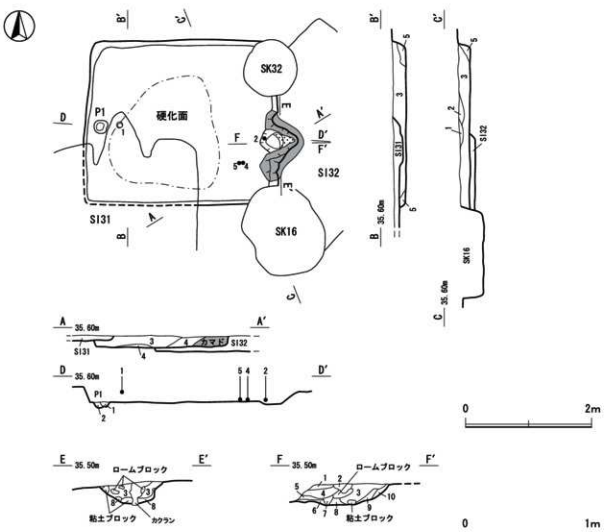
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：18×21cm，深さ９cmである。

**Ｐ１土層解説**

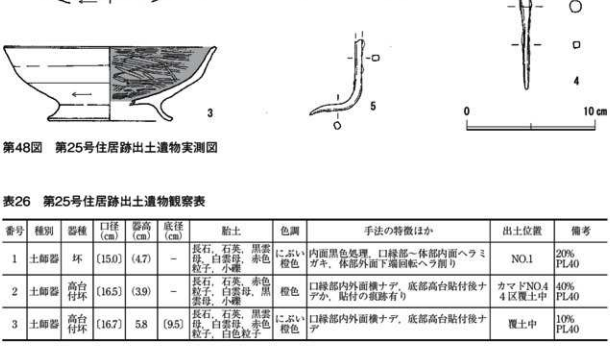
1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子ブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　土師器片46点（坏・高台付坏類32，甕類14），金属製品２点（鎌１・釘１）。１の土師器坏は出入口ピットの東側から出土している，２の土師器高台付坏は竈内と住居跡北部の覆土中から出土した破片が接合したものである。４の鎌と５の釘は南東コーナー部の覆土中から出土している。これら図化した遺物は投棄あるいは埋土中に混入した遺物である。

**所見**　時期は，本跡に伴う遺物が少ないものの，出土した高台付坏の中で，体部が内湾気味に推移している破片や高台が大きくひらく破片が比較的多くため，９世紀後葉～10世紀初頭の間と推測される。




第47図　第25号住居跡実測図




第48図　第25号住居跡出土遺物実測図

表26　第25号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (15.0) | (4.7) | － | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り | NO.1 | 20% PL40 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | (16.5) | (3.9) | － | 長石，石英，赤色粒子，白雲母，黒雲母，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，底部高台貼付後ナデか，貼付の痕跡有り | カマドNO.4 4区覆土中 | 40% PL40 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | (16.7) | 5.8 | (9.5) | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子，白色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，底部高台貼付後ナデ | 覆土中 | 10% PL40 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 金属製品（鎹） | (11.0) | (2.76) | 0.2～0.9 | (15.8) | 鉄 | 鏃身部堅股式，茎部断面方形 | NO.1 | PL63 |
| 5 | 金属製品（釘） | (5.9) | 0.51 | 0.43 | (6.5) | 鉄 | 断面方形 | NO.2 | PL63 |

## 第26号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D7h9グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.36m，短軸3.76mの方形を呈し，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は確認面から最大高26cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部を第12号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第３層のロームブロックは，壁部崩落土と推測される。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは82cmである。袖部の基部の最大幅は約35cmで，東袖部は比較的良好に遺存しており，内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。火床面は２面あり，床面から４cmほど掘りくぼめた初

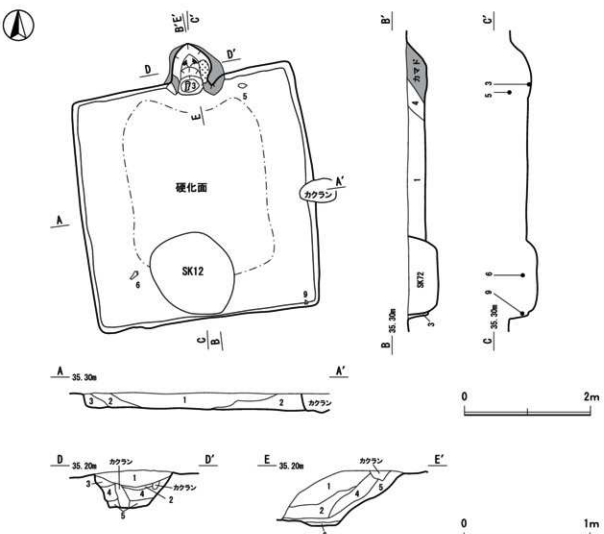
期火床面のほか，第６層上面に最終火床面が構築されている。なお，煙道は壁外へ58cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

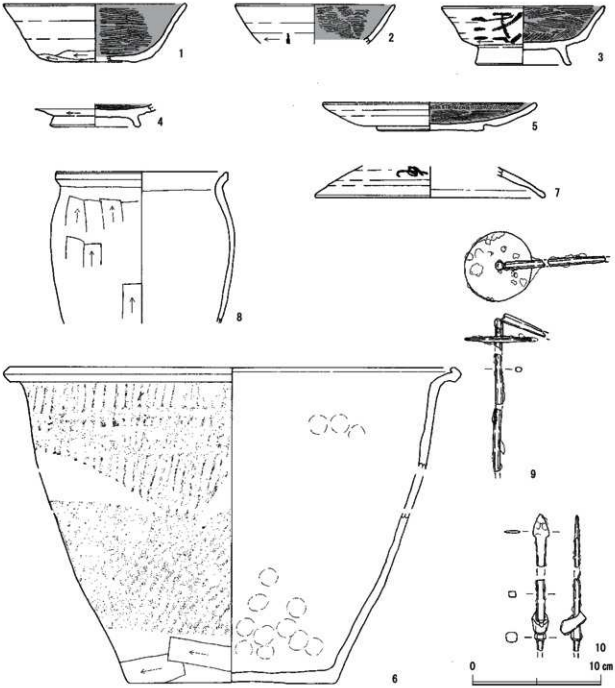
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 色：焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量 |
| 4 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 5 | 5YR | 4/6 | 赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 6 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片21点（坏・高台付坏類４，甕類15，壷２），土師器片301点（坏・高台付坏類69，甕類232），金属製品２点（紡錘車１・鎌１）。遺物は住居跡西部と竈内主体に散見されるが，床面から確認された遺物は少なく，埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したもので，図化した遺物もすべて同様である。３の土師器高台付坏は竈内から確認されているが，火熱を受けた痕跡はなく，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。なお，２の土師器坏，３の土師器高台付坏，７の須恵器蓋は墨書土器で，２と７は判読不明であるが，３は「川代」と記されている。




第49図　第26号住居跡実測図




**第50図　第26号住居跡出土遺物実測図**

**所見**　本跡から３点の墨書土器が確認されたが，これらは本跡に伴うものではなく，すべて住居廃絶後，投棄あるいは埋土中に混入したものと推測できる。なお，同一住居跡内で複数個確認され，なお且つ投棄あるいは埋土中に混入したと推測できる墨書土器は，住居跡内から出土した墨書土器総数31点中，実に20点に上り，住居跡数は７軒となる（第７・９・15・26・61・81号住居跡）。以上から，これらの墨書土器は埋土中に混入したとみるよりも，住居廃絶後，意図的に投棄されたと考える方が自然であろう。時期は９世紀中～後葉と考えられる。

**表27　第26号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | [14.4] | 4.5 | [6.4] | 長石，石英，黒雲母，白雲母，小礫 | 灰褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端手持ちヘラ削り | 覆土中<br>3区2層<br>覆土中 | 30%<br>PL40 |
| 2 | 土師器 | 坏 | [12.5] | (3.1) | – | 石英，白雲母，黒雲母 | 明褐灰色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 2区2層<br>覆土中 | 5%　墨書「□」<br>PL60 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | 12.9 | 4.6 | 7.4 | 長石，石英，白雲母，黒雲母 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，高台貼付後，指ナデ | カマドNO.1 | 95%　墨書「三代」<br>PL60 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | – | (1.8) | 7.0 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，高台貼付後指ナデ | 4区2層<br>覆土中 | 15%<br>PL40 |
| 5 | 土師器 | 皿 | [16.8] | 2.2 | 8.3 | 長石，石英，白雲母，金雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ削り後ナデ | NO.6 | 60%<br>PL40 |
| 6 | 須恵器 | 鉢 | [35.0] | (21.4) | 16.3 | 石英，長石，白雲母 | 黄灰色 | ロクロナデ，体部外面格子目叩き，内面指頭痕 | NO.4<br>カマド・1区<br>覆土中<br>3区1・2層覆土中 | 15%<br>PL40 |
| 7 | 須恵器 | 壺 | [17.8] | (2.5) | – | 長石，石英，針状鉱物，白色粒子，小礫 | 灰黄色 | ロクロナデ | 覆土中 | 10%　墨書「□」<br>PL60 |
| 8 | 土師器 | 甕 | 13.4 | (11.7) | – | 石英，長石，黒雲母，白色粒子，小礫 | 灰褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り | 1区2層<br>覆土中 | 60%<br>PL40 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 金属製品(紡錘車) | 5.4 | 0.5 | – | (52.9) | 鉄 | 軸部断面円形 | NO.7 | 棒軸長(15.3cm)<br>PL63 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 金属製品(鏃) | (10.36) | 1.3 | 1.95 | (15.3) | 鉄 | 鏃身部圭頭形，茎部断面方形 | 覆土中 | PL63 |

## 第27号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8j1グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.20m，短軸2.56mの長方形を呈し，主軸方向はN－7°－Wである。壁高は確認面から最大高29cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北東コーナー部を第164号土坑に，北西コーナー部を第30号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗褐色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，炭化粒子少量
5　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

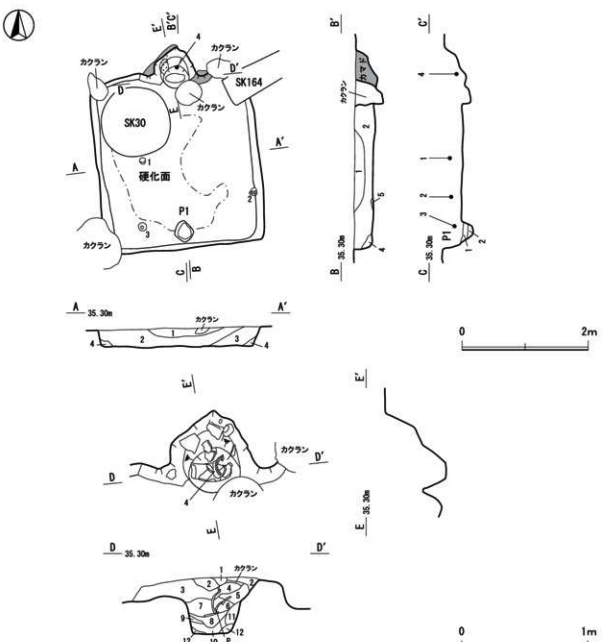
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは66cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第４層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約38cmである。火床部は床面から19cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ44cmほど削り出して造られ，火床部か

ら煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
4　10YR　4/2　灰黄褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック多量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
6　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
7　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
8　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
9　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
10　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱く締まりあり
11　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱く締まりあり
12　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い




第51図　第27号住居跡実測図

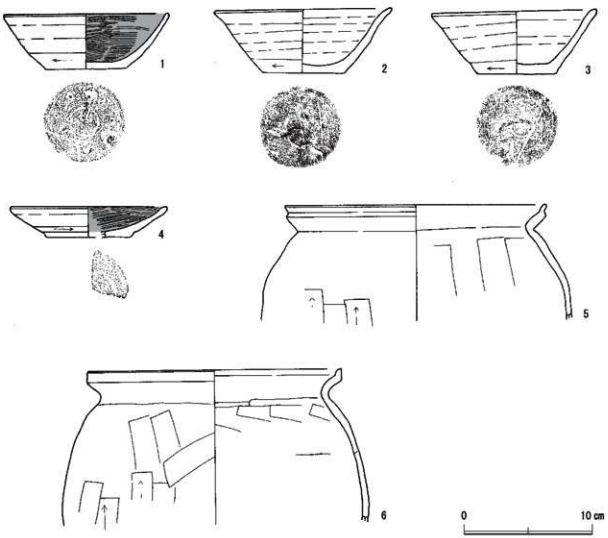
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：26×38cm，深さ29cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏・高台付坏類１，甕類１），土師器片253点（坏・高台付坏類43，甕類210）。１～３はすべて土師器坏で，１は中央部やや西寄りから，２は東壁際から正位で，３は南西コーナー部から逆位で，それぞれ床面からやや浮いた状態で出土している。５の土師器甕は住居跡中央部の覆土中と竈内から出土した破片が接合したもので，６の土師器甕は竈内から出土した破片が接合したものである。

**所見**　時期は９世紀後葉と考えられる。なお，土器をみると，煮炊具だけでなく共膳具でも土師器製品が圧倒的に多く，須恵器製品は客体的である。




**第52図　第27号住居跡出土遺物実測図**

**表28　第27号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.0) | 4.2 | 6.3 | 長石，白雲母，黒雲母，小礫，白色粒子，赤色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後指ナデ | NO.3 | 50%<br>PL41 |
| 2 | 須恵器 | 坏 | 14.0 | 5.1 | 6.4 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後指ナデ | NO.2 | 90%<br>PL41 |
| 3 | 須恵器 | 坏 | 12.8 | 5.0 | 6.2 | 長石，石英，白雲母，白色粒子，小礫 | 灰色 | ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後指ナデ | NO.1 | 90%<br>PL41 |
| 4 | 土師器 | 皿 | (12.2) | 2.4 | (6.7) | 長石，石英，白雲母，金雲母，白色粒子，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | カマドNO.1 | 20% |
| 5 | 土師器 | 甕 | 20.5 | (9.0) | － | 石英，小礫，白色粒子 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面縦位のヘラナデ | カマド覆土中 | 10%<br>PL41 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (20.0) | (12.0) | － | 石英，長石，小礫，黒色粒子，赤色粒子 | にぶい赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラナデ | カマドNO.4・11・覆土中 | 20%<br>PL41 |

## 第28号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D7d2グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.69m，短軸3.50mの方形を呈し，主軸方向はN―82°―Eである。壁高は確認面から最大高６cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量（壁溝第１層）
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　南壁際以外で確認でき，幅４～７cmで巡る。断面はU字形状である。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量（住居跡覆土第３層）

**竈**　東壁中央部南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは76cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第１・４層が崩落土と考えられる。袖部の遺存状態は非常に悪く，袖部の基部と推測される砂質粘土ブロックが幅約30cmほど確認された程度であり，内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ42cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

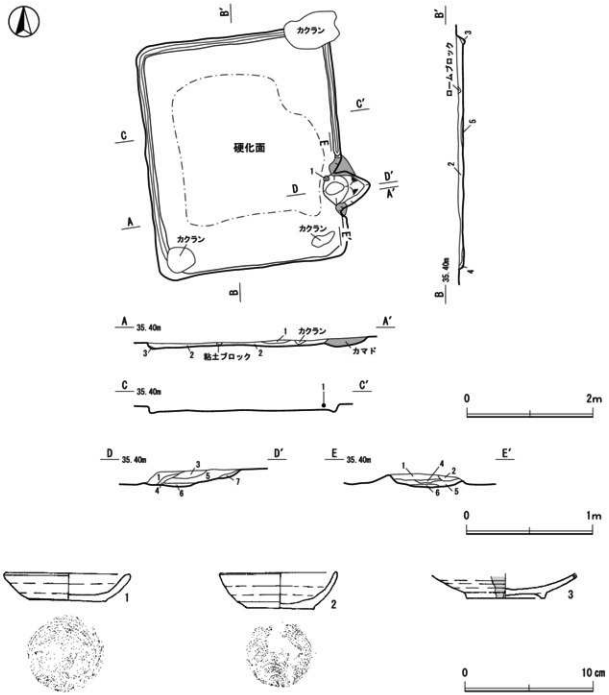
**土層解説**

1　10YR　6/1　褐 灰 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック多量，粘性弱い
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い
5　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量
6　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い
7　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片37点（坏・高台付坏類７，皿２，甕類28），灰釉陶器１点（皿１）。，大半が埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものと推測され，床面直上から確認されたものは少なかった。また細片が多く，図化できた遺物は３点のみである。１の土師器小皿は竈北袖部から出土したものであるが，完形で火熱を受けておらず，竈廃絶後，意図的に投棄あるいは遺棄されたものと推測される。２の土師器小皿は北西部の覆土中から，３の灰釉陶器皿は南西部の覆土中からそれぞれ出土したものである。

**所見**　層厚が薄く遺物数が少ないため，時期を特定するのは困難であるが，土師器小皿の形状から９世紀後葉から10世紀初頭と推測される。




第53図　第28号住居跡・出土遺物実測図

**表29　第28号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 小皿 | 10.0 | 2.2 | 6.0 | 長石，石英，金雲母，白雲母，赤粒子，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転糸切り後指ナデ | NO.1 | 100% PL41 |
| 2 | 土師器 | 小皿 | 9.3 | 2.8 | 5.3 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤粒子 | にぶい橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転糸切り後指ナデ | 3区覆土中 | 55% PL41 |
| 3 | 灰釉陶器 | Ⅲ | － | (2.0) | [6.1] | 長石 | 灰白色 | 体部内外面ロクロナデ，高台貼付ナデ | 覆土中 | 5% PL41 |

## 第29号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D7b5グリッド，標高35.20 m地点に位置する。

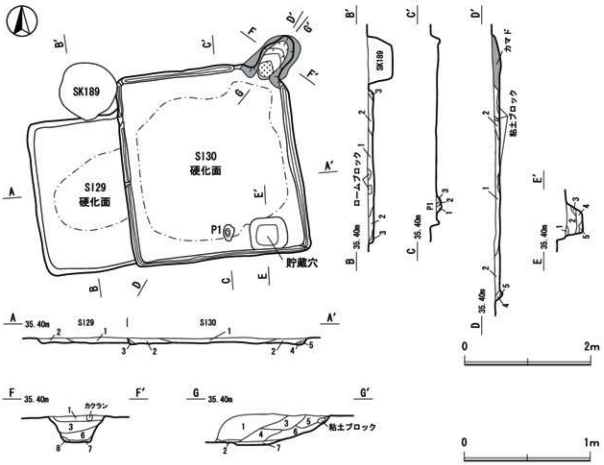
**規模と形状**　住居跡東部が第30号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが，遺存部の形態から方形または長方形を基調としたプランが想定される。調査範囲内は長軸(1.44) m，短軸(2.40) mである。壁高は層厚が薄く詳細は不明であるが，遺存部では確認面から最大高10cmを測る。

**重複関係**　東部部を第30号住居跡に，北部を第189号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量




第54図　第29・30号住居跡実測図

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる砂質粘土ブロックの範囲や遺物の形状から，竈は付設されていたものと考えられるが，第30号住居跡に壊されたと推測される。

**柱穴**　遺存している床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片２点(甕類２)。出土した遺物は２点とも細片であるため，図化できなかった。埋土中に混入した破片の可能性が高い。

**所見**　本跡東部が第30号住居跡に掘り込まれ竈は確認できなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。なお，出土した遺物は細片２点に留まり，本跡の時期を明確に判断するには至らなかったが，床面に主柱を持たず，北壁に竈を付設していない建物構造であることから，平安時代の住居跡と推測される。

## 第30号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D7c4グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.00m，短軸3.00mの方形を呈し，主軸方向はN－7°－Wである。壁高は層厚が薄く詳細は不明であるが，確認面から最大高９cmを測る。

**重複関係**　西部で第29号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量
4　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量（壁溝第１層）

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除く全域がよく硬化している。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅６～16cmで巡る。断面は皿状またはU字形状である。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量（住居跡覆土第５層）

**竈**　北東コーナー部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは79cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第３層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約26cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，一面赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ71cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック多量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
7　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
8　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い

**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：17×26cm，深さ８cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量

**貯蔵穴**　南東部に付設されている。平面形状はほぼ方形，断面は逆台形状である。底面は平坦で硬化している部分はなかった。遺物は出土していない。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，粘性なし
3　10YR　3/3　暗 褐 色：炭化粒子少量，礫微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量
5　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片25点（坏・高台付坏類３，甕類22）。出土した遺物はいずれも細片であるため，図化できなかった。埋土中に混入した破片の可能性が高い。

**所見**　床面がほぼ露出した状態で確認されたため遺物数が少なく，時期を特定するのは困難であるが，床上に主柱を持たない建物構造であることや遺物の形状から判断して，時期は重複する第９号住居跡より新しい平安時代の住居跡と推測される。

## 第31号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6i10グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.95m，短軸3.52mの方形を呈し，主軸方向はN－0°である。壁高は確認面から最大高11cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北東部で第25号住居跡を掘り込み，中央部が第21号土坑に，北西部が第18号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロックと鹿沼パミスブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量

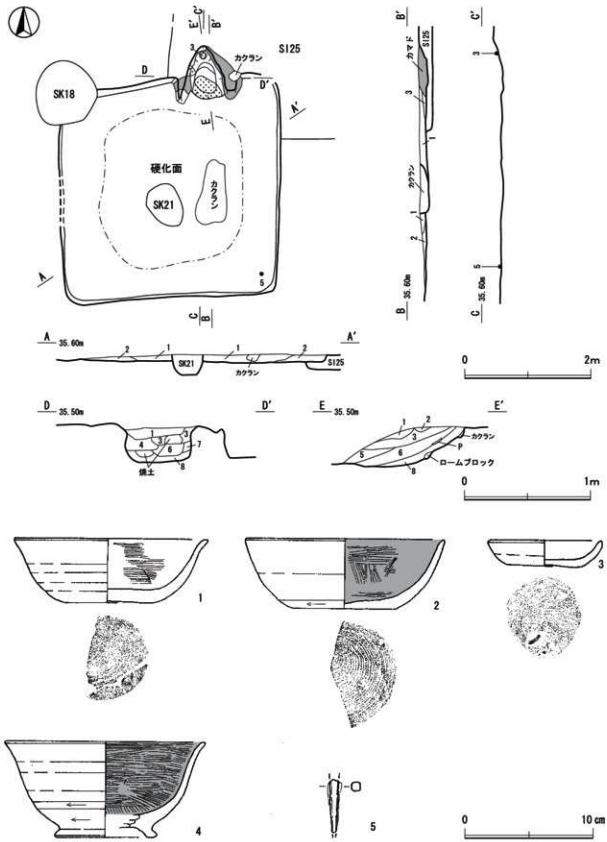
**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは84cmである。袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ46cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性あり
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
6　5YR　6/2　灰 褐 色：砂質粘土ブロック多量
7　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量
8　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量




第55図　第31号住居跡・出土遺物実測図

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片９点（坏・高台付坏類２，甕類７），土師器片200点（坏・高台付坏類48，甕類149，鉢３），金属製品１点（不明１）。１・２の土師器坏は北西部の覆土中から，３の土師器皿は竈の煙道直上から出土している。

**所見**　時期は遺物の形状から10世紀初頭～10世紀前葉と考えられる。なお，竈の煙道直上から二次焼成を受けていない土師器皿が完形のまま出土している。当遺跡において５軒の住居跡で煙道直上から火熱を受けていない完形の共膳具が出土しているが，偶然としては多い事例である。火を受けるべき場所で火を受けず，煮炊き具を据えるべき場所に共膳具を据えるという非日常性を感じざるを得ず，当集落においての竈廃絶に伴う祭祀的営みの跡と捉え検討する必要がある。

**表30　第31号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 〔15.4〕 | 5.0 | 6.7 | 長石，石英，赤色粒子，白雲母，金雲母，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後ナデ | 覆土中<br>4区<br>覆土中 | 20%<br>PL41 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 〔15.6〕 | 5.4 | 〔8.0〕 | 長石，石英，白雲母，黒雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後ナデ | 4区・カマド<br>覆土中 | 20%<br>PL41 |
| 3 | 土師器 | 小皿 | 8.9 | 2.2 | 5.7 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，金雲母，赤色粒子，白色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転糸切り | カマドNO.1 | 100%<br>PL42 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | 〔15.8〕 | 7.5 | 〔7.8〕 | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母，赤色粒子，針状鉱物 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部高台貼付後指ナデ | 1区<br>覆土中<br>覆土中 | 30%<br>PL42 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 金属製品(不明) | (4.23) | 0.7 | 0.7 | (5.5) | 鉄 | 断面方形 | NO.6 | PL63 |

## 第32号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D6a9グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸〔2.81〕m，短軸2.46mの方形を呈する。壁高は確認面から最大高25cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　西部を第25号住居跡に，北西壁中央部を第32号土坑に，南部を第16号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロックや炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。第４層のロームブロックは，壁部崩落土と推測される。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

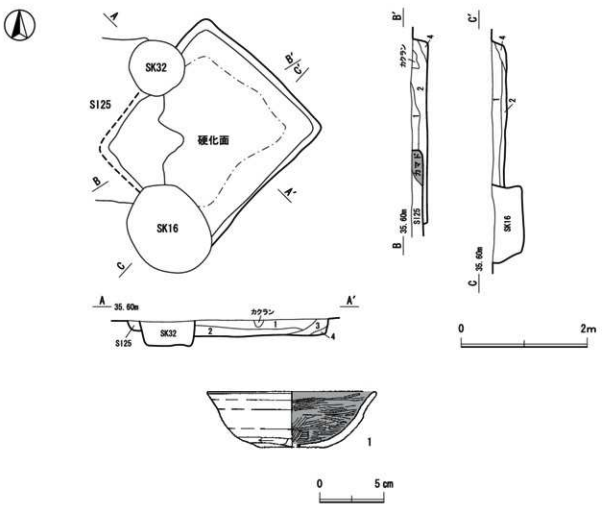
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　竈構築材である砂質粘土が床面から確認されており，第25号住居跡と第32号土坑に壊されたものと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片３点（坏・高台付坏類２，甕類１），土師器片20点（坏・高台付坏類７，甕類13）。１の土師器坏は東部の覆土中から出土している。

**所見**　攪乱を受けており竈は確認できなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが検出されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。遺存率が10パーセントを超える遺物は出土しておらず，時期を特定することはできないが，本跡に掘り込まれている第25号住居跡の比定年代から，９世紀後半と推測される。




第56図　第32号住居跡・出土遺物実測図

表31　第32号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.4) | 4.3 | (5.4) | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端手持ちヘラ削り | 覆土中 | 10% PL42 |

## 第33号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D7c10グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡南部が第34・35号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが，遺存部の形態から長軸（2.46）m，短軸2.64mの方形あるいは長方形を呈するものと推測される。主軸方向はN―13°―Wである。壁高は確認面から最大高14cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部で第34・35号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　6/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，砂質粘土ブロック中量，砂質粘土粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部東寄りにあり，砂質粘土で構築されているが，大半が削平されており，袖部の基部と焚口部・火床部および煙道の一部が確認されただけであった。焚口部から煙道までは46cmである。遺存している袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床部は床面から５cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化している感じはなかった。なお，煙道は壁外へ22cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

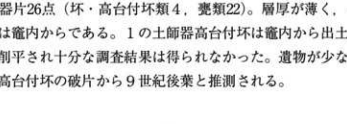
土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
4　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり
5　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
7　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片26点（坏・高台付坏類４，甕類22）。層厚が薄く，一部床面が露出しており出土遺物の大半は竈内からである。１の土師器高台付坏は竈内から出土している。

**所見**　本跡の大半が削平され十分な調査結果は得られなかった。遺物が少なく時期を明確にすることはできないが，高台付坏の破片から９世紀後葉と推測される。




第57図　第33号住居跡出土遺物実測図

表32　第33号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径（cm） | 器高（cm） | 底径（cm） | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | （15.6） | 5.2 | （5.7） | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部一体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ | カマド覆土中 | 45% PL42 |

### 第34号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D&2グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡東部が第35号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが，遺存部の形態から長軸（5.12）m，短軸（2.95）mの方形あるいは長方形を呈するものと推測される。主軸方向はN―16°―Wである。壁高は確認面から最大高44cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部を第33号住居跡に，東部を第35号住居跡に，西部を第13・14土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化物中量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化物中量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱い |
| 4 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化材微量，炭化物中量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量 |
| 7 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量 |

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除き全面が踏み固められている。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。竈上面が第33号住居跡に浅く掘り込まれているため煙道の一部が壊され，焚口部から煙道までは（63）cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土ブロックと砂質粘土ブロックを多量に含む第９層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約（36）cmである。火床部は床面から６cmほど掘りくぼめて火床面としており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ（38）cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

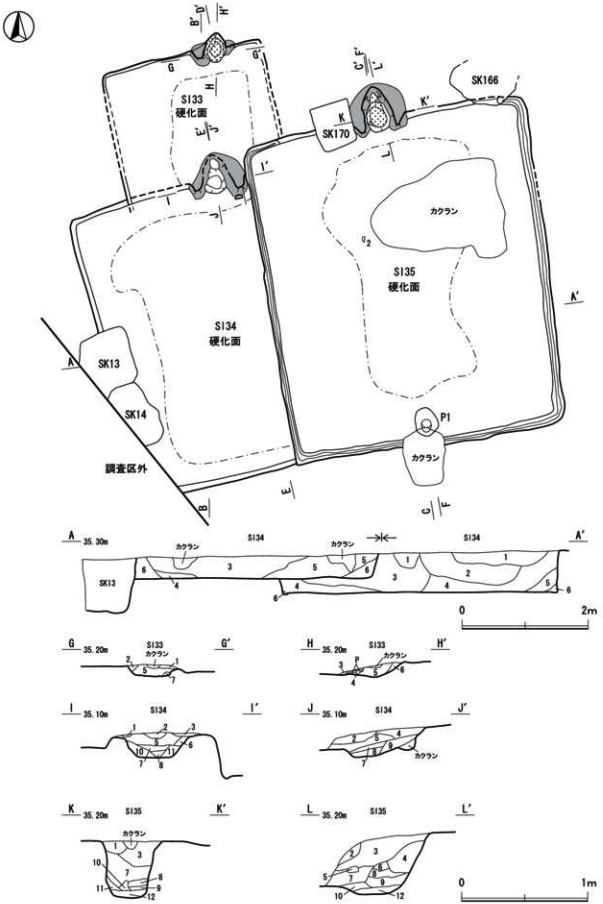
土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：焼土ブロック少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：焼土粒子微量，炭化物微量，炭化粒子少量 |
| 4 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 5 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 7 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い |
| 8 | 5YR | 4/4 | にぶい赤褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 9 | 5YR | 4/6 | 赤 褐 | 色：焼土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック多量，締まり弱い |
| 10 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い |
| 11 | 5YR | 4/6 | 赤 褐 | 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い |

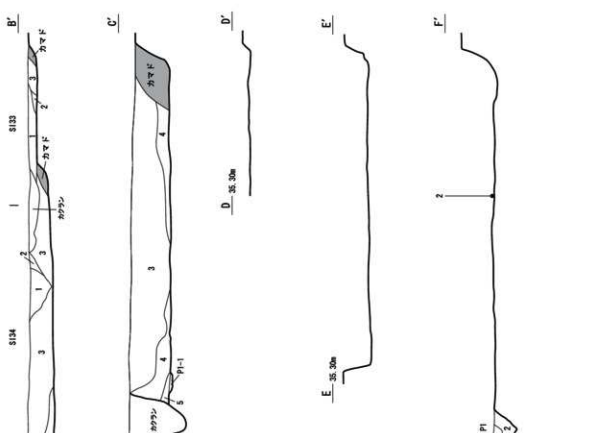
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片６点（甕類５，小形壷１），土師器片75点（坏・高台付坏類10，甕類65），石製品１点（不明１）。１の土師器坏は南部の覆土上層から出土している。大半が覆土上層から出土したもので，図化した遺物が相当する。また共膳具には土師器非ロクロ坏が見られたが，須恵器製品は少ない。他にも後世の耕作作業によって混入したと推測される須恵器製品が見られる。

**所見**　遺物は北西部を中心に出土している。しかし床面直上から出土した遺物は少なく，また摩滅しているものや接合しない遺物が多く，投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。時期は７世紀後葉と考えられる。




第58図　第33・34・35号住居跡実測図（1）




第59図　第33・34・35号住居跡実測図（2）

## 第35号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8e1グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸〔5.77〕m，短軸4.52mの長方形を呈し，主軸方向はN―10°―Wである。壁高は確認面から最大高68cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　北部を第33号住居跡，第166・170号土坑に掘り込まれ，西部で第34号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。第５層には壁部の崩落と推測されるロームブロックがみとめられた。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，締まりあり
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化物微量，，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量（壁溝第１層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅６～18cmで巡る。断面は皿状あるいは逆台形状である。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量（住居跡覆土第６層）

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは72cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土化した砂質粘土ブロックを多量に含む第７層が崩落土と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており，基部の最大幅は約29cmである。火床部は床面から７cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ50cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性あり，締まり弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
6　5Y　6/2　灰 褐 色：砂質粘土ブロック多量
7　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック多量
8　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量
9　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
10　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量，砂質粘土粒子中量
11　5YR　4/4　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
12　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量

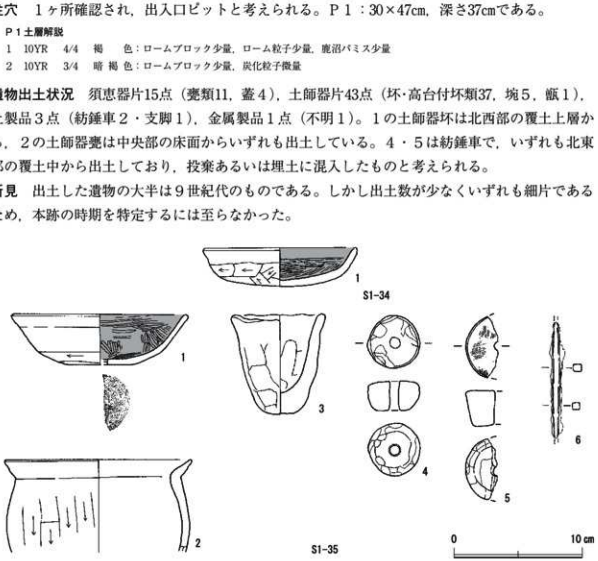
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：30×47cm，深さ37cmである。

Ｐ１土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片15点（甕類11，蓋４），土師器片43点（坏・高台付坏類37，埦５，甑１），土製品３点（紡錘車２・支脚１），金属製品１点（不明１）。１の土師器坏は北西部の覆土上層から，２の土師器甕は中央部の床面からいずれも出土している。４・５は紡錘車で，いずれも北東部の覆土中から出土しており，投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。

**所見**　出土した遺物の大半は９世紀代のものである。しかし出土数が少なくいずれも細片であるため，本跡の時期を特定するには至らなかった。




第60図　第34・35号住居跡出土遺物実測図

**表33　第34号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12.3 | 3.0 | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | 橙色 | 内面黒色処理，口縁部内外面横ナデ，体部外面～底部多方向のヘラ削り | 2区1層覆土中 | 80%<br>PL42 |

**表34　第35号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (14.0) | 3.9 | (5.0) | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り | 4区覆土中 | 35%<br>PL42 |
| 2 | 土師器 | 甕 | 14.8 | (7.2) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り | NO.11区1層覆土中 | 10%<br>PL42 |
| 3 | 手捏 | － | (7.2) | 7.8 | － | 長石，石英，白雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 内外面指ナデ，内面指頭痕，粗雑 | NO.2 | 60%<br>PL42 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 土製品(紡錘車) | 4.2 | 2.3 | 0.75 | (40.1) | 長石・赤色粒子・小礫・黒色粒子 | 指ナデ・ヘラ状工具痕，無紋 | 1区1層覆土中 | PL42 |
| 5 | 土製品(紡錘車) | (5.2) | 2.8 | 0.8 | (33.4) | 長石・砂粒 | 側面指ナデ，無紋 | 1区1層覆土中 | PL43 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 金属製品(不明) | (9.1) | 0.65 | 0.6 | (11.0) | 鉄 | 断面方形 | 1区2層覆土中 | PL63 |

## 第36号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8g5グリッド，標高36.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸（3.12）m，短軸3.68mの方形を呈し，主軸方向はN―20°―Wである。壁高は確認面から最大高63cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南西部で第37号住居跡を掘り込み，南部を第38号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。なお，第５層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北・東壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは94cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約37cmである。火床部は床面から５cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ50cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

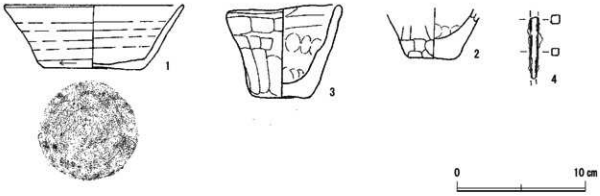
**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック多量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
4　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片17点（坏・高台付坏類8，甕類7，蓋2），土師器片144点（坏・高台付坏類19，甕類125），手捏土器2点，金属製品1点（釘ヵ1）。1の須恵器坏は竈東袖裾部から，2・3の手捏土器は中央部の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡出土の遺物は投棄されたものが大半を占めるが，図化した遺物は廃絶直後に投棄あるいは遺棄されたものである。時期は遺物の形状から，8世紀中～後葉と考えられる。

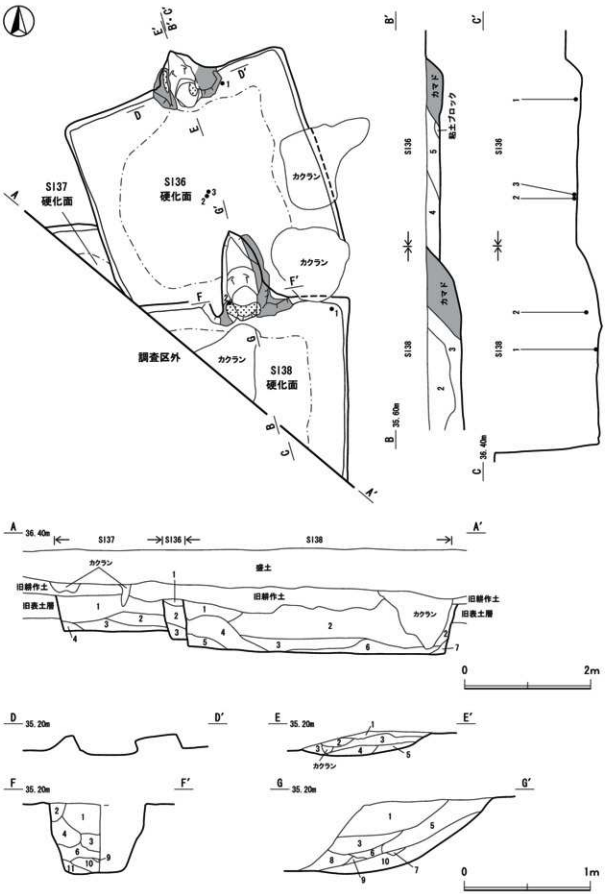



**第61図　第36号住居跡出土遺物実測図**

**表35　第36号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | 14.1 | 5.1 | 7.8 | 長石，石英，白色粒子，小礫 | 灰白色 | 口縁部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後丁寧な指ナデ | カマド袖部 | 60% PL43 |
| 2 | 手捏 | － | － | (4.0) | 3.5 | 長石，石英，赤色粒子 | 灰褐色 | 体部内外面指ナデ，内面指頭痕，底部一方向のヘラナデ | NO.2A | 40% PL43 |
| 3 | 手捏 | － | 8.8 | 7.3 | 4.6 | 長石，石英，小礫 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部内面指ナデ，内面指頭痕 | NO.2B | 100% PL43 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 金属製品（釘） | (4.8) | 0.66 | 0.72 | (6.8) | 鉄 | 断面方形 | 覆土中 | PL63 |




第62図　第36・37・38号住居跡実測図

## 第37号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8i5グリッド，標高36.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の大半は調査区外へと延びており，その規模は明確に把握できなかったが床面から竈構築材である砂質粘土ブロックを確認したため住居跡と判断した。確認できた範囲は長軸（3.7）m，短軸（0.9）mである。壁高は確認面から最大高58cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第36号住居跡に，南東部を第38号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，やや硬化している部分を確認した。

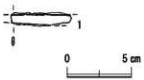
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　調査範囲からは確認されなかったが，床面から竈構築材である砂質粘土ブロックを確認したため，本来付設されていたものと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片７点（甕類７）。金属製品１点（刀子１）。遺物はすべて細片で，覆土中から出土したものである。摩滅しているものや接合しない遺物が多く，投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。１の刀子は覆土中から出土している。

**所見**　床面から竈構築材である砂質粘土ブロックを確認したため住居跡と判断した。なお，南部が調査区外へ延びており，東部を第36・38号住居跡に掘り込まれているため，詳細は明らかにできなかった。




**第63図　第37号住居跡出土遺物実測図**

**表36　第37号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 金属製品（刀子） | (4.76) | 0.7 | 0.18 | (4.0) | 鉄 | 刃部断面三角形 | 覆土中 | PL63 |

## 第38号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8g6グリッド，標高３6.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸（2.40）m，短軸（3.36）mの範囲を確認したが，大半は調査区外へ延びていると考えられる。主軸方向はN―０°である。壁高は確認面から最大高88cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部で第36号住居跡を，北西部で第３号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，炭化物微量，締まりあり |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 5 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 7 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは144cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第３・５層が崩落土と考えられる。内壁の一部が被熱により赤変硬化している。また袖部の基部の最大幅は約64cmである。火床面は床面と同レベルで，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ106cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

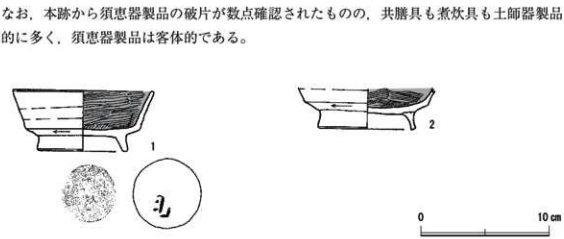
**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック多量 |
| 4 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 5 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量 |
| 6 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱く締まりあり |
| 7 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い |
| 8 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐 | 色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 9 | 5YR | 4/3 | にぶい赤褐 | 色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量 |
| 10 | 5YR | 4/6 | 赤褐 | 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物微量 |
| 11 | 5YR | 4/4 | にぶい赤褐 | 色：焼土粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片８点（坏・高台付坏類３，甕類５），土師器片92点（坏・高台付坏類16，甕類76）。１の土師器高台付坏は北東コーナー部の床面から，２の墨書は竈内からそれぞれ出土している。１は墨書が記されている。「代」ヵ

**所見**　大半の遺物は床面あるいは床面に近いレベルで出土したものであり，住居廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。これらの遺物からみて，時期は９世紀中～後葉頃と考えられる。なお，本跡から須恵器製品の破片が数点確認されたものの，共膳具も煮炊具も土師器製品が圧倒的に多く，須恵器製品は客体的である。




**第64図　第38号住居跡出土遺物実測図**

表37　第38号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 11.0 | 4.8 | 6.9 | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，高台貼付後，ナデ | NO.1 | 80% 墨書「代」 PL61 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | － | (3.3) | 7.6 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子，小礫 | 橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，指ナデ | カマドNO.1 | 20% PL43 |

## 第39号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区D8i7グリッド，標高36.30m地点に位置する。

**規模と形状**　南部が調査区外へと延びており明確ではないが，長軸（2.14）m，短軸3.18mの方形あるいは長方形を基調とするプランが想定される。主軸方向はN―12°―Wである。壁高は確認面から最大高98cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
6　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
7　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子少量

**床**　ほぼ平坦であるが，硬化していない。竈前面で砂質粘土ブロックが散在している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北東壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは98cmである。袖部は土師器坏を芯材とし構築しており，基部の最大幅は約34cmである。火床部は床面から1.5cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ66cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

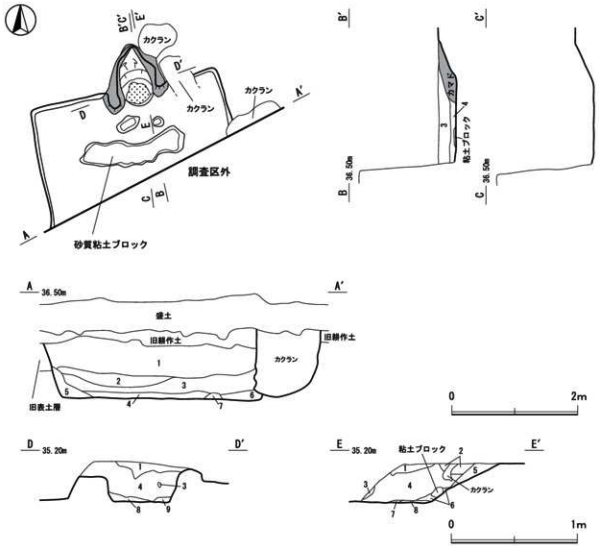
土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱く締まりあり
7　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い
8　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
9　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，締まり弱い

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片５点（坏・高台付坏類３，甕類１，鉢１），土師器片91点（坏・高台付坏類18，甕類72，甑１），金属製品１点（不明１）。１の土師器坏は竈西袖部の芯材として転用されたものである。２～６はすべて土師器甕の口縁部で，１は竈東袖部の芯材に転用されている。２～５は覆土中から，６は竈内からそれぞれ破片で出土している。

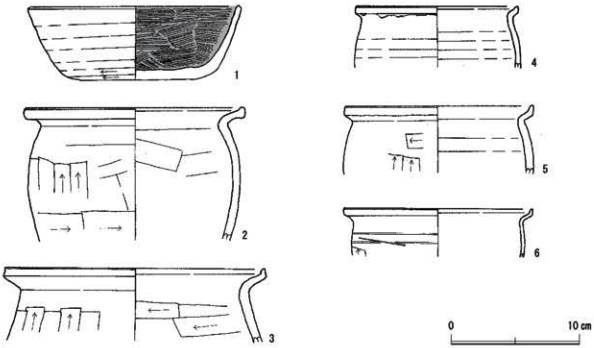
**所見**　時期は８世紀中葉頃と考えられる。なお，竈袖部の芯材として土師器坏が転用されているが，当遺跡内では本跡のみで，ロームの地山を掘り残しているものや砂質粘土ブロックを芯材にしているものが主であり，切石を芯材としているもの（第40号住居跡）が１軒あるだけである。




**第65図　第39号住居跡実測図**

**表38　第39号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 16.7 | 5.7 | 9.0 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り | カマド袖部覆土中 | 90% |
| 2 | 土師器 | 甕 | (17.3) | (10.4) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面下端横位のヘラ削り，内面ヘラナデ | 覆土中 | 10% |
| 3 | 土師器 | 甕 | (20.4) | (5.7) | － | 長石，石英，黒雲母，白雲母，小礫 | にぶい赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り | 2区1層覆土中 | 10% PL43 |
| 4 | 土師器 | 甕 | (12.8) | (4.8) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ | 覆土中 | 10% PL43 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (14.7) | (5.3) | － | 長石，石英，白雲母，金雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ | 1区覆土中 | 5% PL43 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (14.8) | (3.8) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，黒色粒子，赤色粒子 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面二条の沈線 | カマド覆土中 | 5% PL43 |




第66図　第39号住居跡出土遺物実測図

### 第40号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区E8a5グリッド，標高36.30m地点に位置する。

**規模と形状**　南部が調査区外へと延びており明確ではないが，長軸（3.10）m，短軸3.84mの方形あるいは長方形を基調とするプランが想定される。主軸方向はN―18°―Wである。壁高は確認面から最大高69cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北西部を第152号土坑に掘り込まれ，東部で第１号不明遺構を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

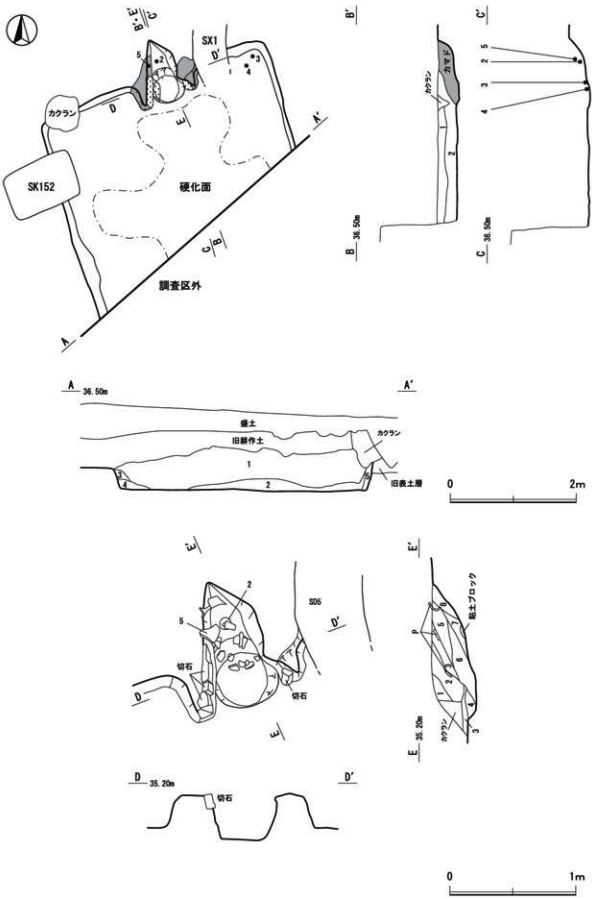
**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |
| 4 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まり弱い |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北西壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは103cmである。袖部は比較的良好に遺存しており，切石を芯材として使用している。内壁は被熱により赤変している。なお，袖部の基部の最大幅は約36cmである。火床部は床面から７cmほど掘りくぼめて火床面としており，赤変硬化している。煙道は壁外へ54cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。




第67図　第40号住居跡実測図

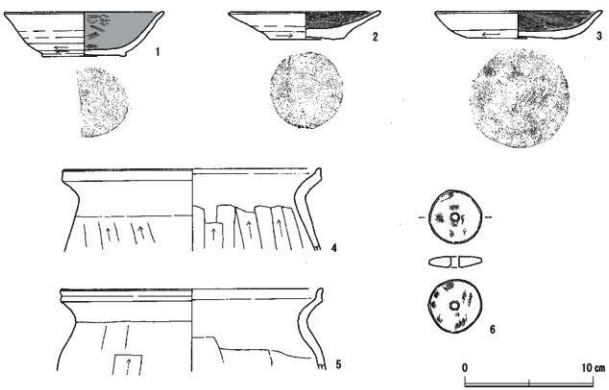
**土層解説**

1　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量
2　5YR　3/3　暗赤褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，砂質粘土ブロック微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量
4　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量，粘性弱く締まりあり
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子少量
7　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量
8　5YR　4/2　灰 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土粒子少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片17点（坏・高台付坏類２，甕類15），土師器片482点（坏・高台付坏類84，甕類393，鉢４，椀１），石製品１点（紡錘車１）。１の土師器高台付坏は東部覆土中と竈内の破片が接合したものである。２の土師器皿と５の土師器甕は竈内から出土しているが，２は完形で火熱は受けておらず，竈煙道直上から正位で確認されている。６の紡錘車は西部の覆土中から見つかったもので，埋土に混入していたと考えられる。

**所見**　時期は９世紀前～中葉と考えられる。なお，竈の煙道に据えられたかのように正位の状態で土師器皿が確認されたが，当遺跡では５例確認されている。




**第68図　第40号住居跡出土遺物実測図**

**表39　第40号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | [12.5] | 3.5 | 6.6 | 長石，石英，白雲母，黒雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部ヘラミガキ，底部回転糸切り後ナデ | I区覆土中<br>カマド覆土中 | 20%<br>PL44 |
| 2 | 土師器 | 皿 | 11.8 | 2.2 | 6.0 | 長石，石英，白雲母黒雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部ヘラミガキ，底部回転糸切り | カマドNO.1 | 100%<br>PL44 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 土師器 | 皿 | 13.0 | 2.2 | 7.8 | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転糸切り後一方向のヘラ削り | NO.1 | 100% PL44 |
| 4 | 土師器 | 甕 | 20.4 | (6.4) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | 明赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位の指ナデ | NO.4 | 10% PL44 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (20.6) | (6.4) | － | 長石，石英，赤色粒子，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，表面磨滅 | カマドNO.2 カマド覆土中 | 10% PL44 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 石製品[紡錘車] | 4.15 | 0.85 | 0.75 | 13.6 | 砂岩 | 両面穿孔，扁平，無紋 | 2区覆土中 | PL44 |

### 第42号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C6b3グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸5.82m，短軸5.64mの方形を呈し，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は確認面から最大高46cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。なお，床面だけでなく覆土下層中にも住居構築材と考えられる炭化材や炭化物が確認されている。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化材少量
5　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック多量，焼土粒子少量，締まり弱い
6　10YR　3/4　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり
7　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス微量
8　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
9　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物少量，鹿沼パミス少量
10　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量（壁溝覆土第１層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。壁際には炭化材が中心部に向かって放射線状に確認された。また中央部や西部には焼土塊が広がっている。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅６～19cmで巡る。断面は主にU字形である。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量（住居跡覆土第10層）

**炉**　中央部やや南西寄りにが検出されたが，床面は火熱を受けておらず，明確に炉跡の形跡を確認することはできなかった。

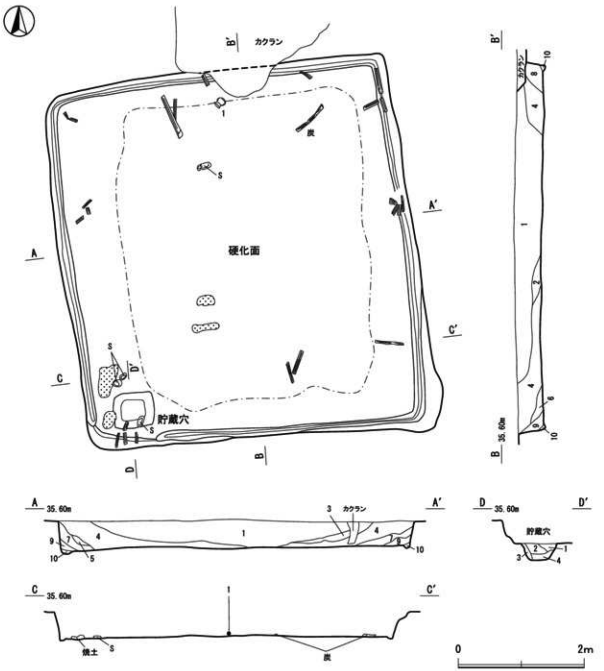
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**貯蔵穴**　南西部に付設され，平面形は66×57cmの方形で，深さは27cmである。底面は平坦で硬化している部分はなかった。遺物は出土していない。

土層解説

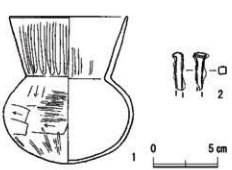
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性あり
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，締まり弱い
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂粒微量

**遺物出土状況**　須恵器片５点（甕類５），土師器片11点（埦３，坩１，甕類７），金属製品１点（釘１），炭化材。遺物は少ない。また須恵器片や２の釘等は後世の攪乱により混入したものである。１の坩は東壁際から出土している。炭化材は同定の結果，落葉樹であるシオジ節であることがわかった。




第69図　第42号住居跡実測図

**所見**　焼失住居である。住居の構築材が放射線状に確認されており，焼失時に上屋部が崩落したものと推測される。また確認された土器類の大半は覆土中から出土したもので被熱の痕跡もないことから，失火ではなく住居廃絶時あるいは廃絶直後に意図的に焼失させた住居であると推測できる。時期は遺物が少なく断定できないが，６世紀前半頃と推測される。




第70図　第42号住居跡出土遺物実測図

**表40　第42号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坩 | (9.2) | 11.5 | － | 石英，長石，白色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面・体部外面ヘラミガキ，表面磨滅 | NO.1 | 95%<br>PL44 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 金属製品(釘) | (2.87) | 0.97～0.55 | 0.85～0.57 | (4.1) | 鉄 | 断面方形 | 覆土中 | |

## 第43号竪穴住居跡

**位置**　第１調査区C7h4グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.71m，短軸3.70mの方形を呈し，主軸方向はN－1°－Wである。壁高は確認面から最大高28cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
4　10YR　4/6　褐　色：ローム粒子中量，炭化粒子少量（Ｐ１第３層）
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量

**床**　平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは86cmである。また袖部の基部の最大幅は約37cmである。火床部は床面から６cmほど掘りくぼめて火床面としており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ51cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱く締まりあり
7　5YR　3/3　暗赤褐色：ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，締まり弱い
8　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量
9　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，締まり弱い

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：12×22cm，深さ14cmである。

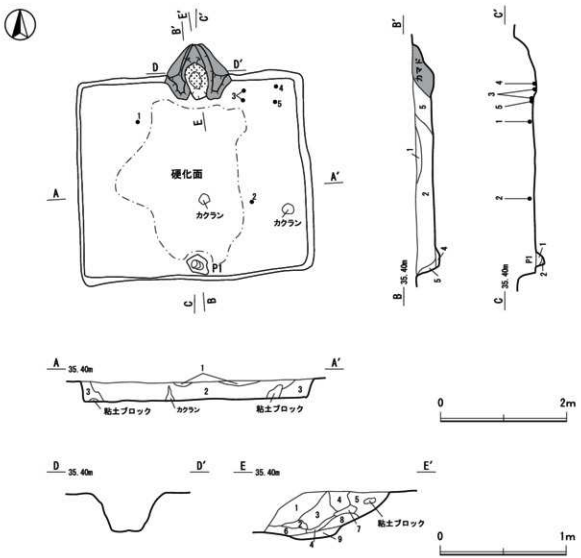
**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い
2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりなし

**遺物出土状況**　須恵器片６点（甕５・瓶１），土師器片59点（坏・高台付坏類３，甕類56），金属製品１点（不明１）。１の土師器坏は北西部と南東部のそれぞれ覆土中から出土した破片が接合したものである。２の須恵器坏は中央部やや東寄りの覆土下層から，３の須恵器横瓶は，竈東側

の覆土下層から，４・５の土師器甕は北東部の床面からそれぞれ出土している。

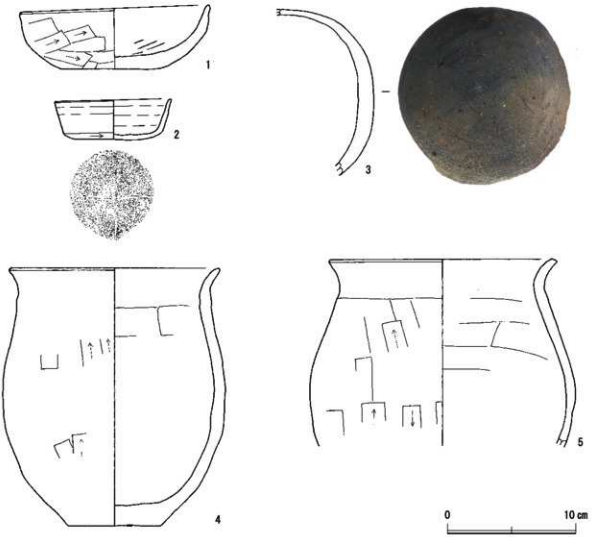
**所見**　遺物は全域に渡り確認されている。しかし床面直上から出土した遺物は少なく，摩滅しているものや接合しない遺物が多い。これらは住居廃絶後に投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。時期は本跡に伴う遺物が少なく明確にすることはできなかったが，埋土中の遺物からみて７世紀後葉と推測される。




**第71図　第43号住居跡実測図**

**表41　第43号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 15.0 | 5.1 | 8.6 | 長石，石英，赤色粒子，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，底部多方向のヘラナデ | NO.2 2区覆土中 | 30% PL44 |
| 2 | 須恵器 | 坏 | 9.2 | 3.3 | 6.4 | 長石，石英，小礫，針状鉱物 | 灰色 | ロクロナデ，底部丁寧なナデ，ヘラ記号「＋」 | NO.1 | 90% PL45 |
| 3 | 須恵器 | 横瓶 | － | (14.1) | － | 長石，石英，小礫 | 灰色 | ロクロ目顕著，内面火脹れ，上面自然釉 | NO.6 | 30% PL45 |
| 4 | 土師器 | 甕 | [16.6] | 20.3 | 7.2 | 石英，長石，小礫，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | NO.4 | 60% PL45 |
| 5 | 土師器 | 甕 | [17.5] | (14.8) | － | 石英，長石，小礫，白色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | NO.5 1区覆土中 | 10% PL45 |




第72図　第43号住居跡出土遺物実測図

## 第44号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区K3a3グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　南部が調査区外へ延びているが，長軸（3.84）m，短軸3.12mの長方形を呈していると推測される。壁高は確認面から最大高12cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　西部を第217号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。なお，第５層は壁溝の覆土である。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐色 | ：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化材少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量（壁溝覆土第１層） |

**床**　ほぼ平坦で，本跡全体がよく硬化している。また全域で焼土ブロックや炭化材が散見されるほか，東部では竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認された。

**壁溝**　北壁東部から東壁際にかけて，幅４～16cmで巡っている。断面は皿状である。

**土層解説**

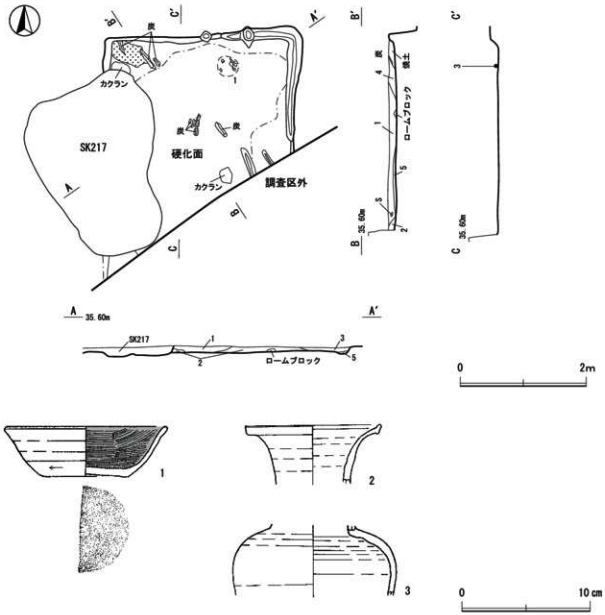
1　10YR　3/3　暗褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量（住居跡覆土第５層）

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，東壁部の調査区外部分に付設されていたと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片５点（甕類４，鉢１），土師器片46点（坏・高台付坏類22，甕類22，瓶２），金属製品２点（不明２），炭化材。１の土師器坏は北西部の覆土中から，２・３の須恵器長頸瓶は北東部の床面と南東部の覆土中の破片が接合したもので，同一個体と推測される。なお，構築材と推測される炭化材は，同定の結果，常緑樹であるアカガシ亜属であることがわかった。

**所見**　焼失家屋である。住居の構築材が中央部を中心に放射線状に確認されている。時期は住居廃絶時に遺棄された遺物からみて９世紀前葉と考えられる。




第73図　第44号住居跡・出土遺物実測図

表42　第44号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (12.6) | 3.8 | (6.8) | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後指ナデ | 4区覆土中 | 25% PL45 |
| 2 | 須恵器 | 長頸瓶 | (10.6) | (4.6) | － | 石英，長石，黒色粒子 | 灰黄色～暗灰黄色 | 口縁部～頸部ロクロナデ，3と同一個体か | NO.1 2区覆土中 | 5% PL45 |
| 3 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (5.5) | － | 石英，長石，黒色粒子 | 灰黄色～暗灰黄色 | 体部ロクロナデ，内面軸ダレ，2と同一個体か | NO.1 2区覆土中 | 15% PL45 |

## 第46号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区J3d6グリッド，標高36.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸（3.94）m，短軸（3.05）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高50cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部で第47号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まりあり
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
6　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物中量，砂質粘土ブロック微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，北壁部の調査区外部分に付設されていたと推測される。

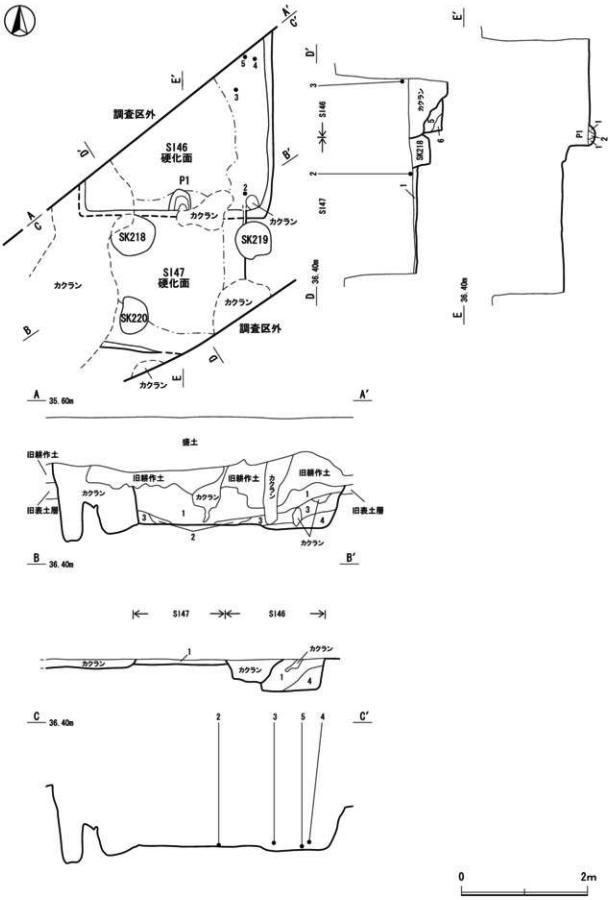
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：32×34cm，深さ10cmである。

Ｐ１土層解説

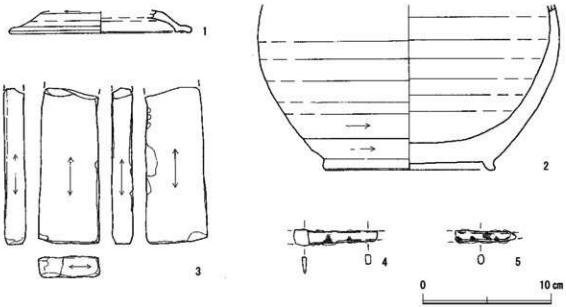
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**遺物出土状況**　須恵器片25点（坏・高台付坏類14，甕類９，蓋２），土師器片125点（坏・高台付坏類15，甕類110），石製品１点（砥石１），金属製品２点（刀子１，不明１）。１の須恵器蓋は細片で，西部の覆土中から出土しており，埋土に混入したものと考えられる。３の砥石・４の刀子・５の不明金属製品は東部の床面から出土している。

**所見**　遺構掘削時，床面を明確に把握できず，一部掘りすぎて壊してしまう結果となってしまった。なお，砥石と金属製品（刀子）がセットで確認された。時期は８世紀前葉～９世紀前葉と考えられる。




第74図　第46・47号住居跡実測図




**第75図　第46号住居跡出土遺物実測図**

**表43　第46号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 蓋 | (14.2) | (1.7) | − | 長石，石英，白色粒子 | 灰色 | ロクロナデ，カエリ有り | 4区覆土中 | 5% PL46 |
| 2 | 須恵器 | 長頸瓶 | − | (13.0) | 13.3 | 長石，白色粒子 | 褐灰色 | 体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後指ナデ | NO.1 | 30% PL46 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 石器(砥石) | (12.2) | 4.8 | 1.6 | (184) | 砂岩 | 砥面5面 | NO.4 | PL46 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 金属製品(刀子) | (6.55) | 1.28 | 0.35 | (7.7) | 鉄 | 刃部断面方形，茎部断面方形，不片付着 | NO.2 | PL63 |
| 5 | 金属製品(不明) | (4.73) | 0.9 | 0.5 | (4.4) | 鉄 | 不片付着 | NO.3 | PL63 |

## 第47号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区J3d7グリッド，標高36.40m地点に位置する。

**規模と形状**　北部を第46号住居跡に掘り込まれ，西部を後世の攪乱で壊されているため明確ではないが，調査できた部分は長軸（3.40）m，短軸（2.60）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高16cmを測る。

**重複関係**　北部を第46号住居跡に，北東部を第219号土坑に，西部を第218・220号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。中央部やや北寄りの範囲では砂質粘土ブロックが散在している。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，第46号住居跡に壊された北壁部にあったものと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片１点（甕類１）。覆土中から土師器甕片が１点出土したのみである。

**所見**　遺物が覆土中から１点確認されただけで，本跡に伴う遺物がなく時期は特定できなかった。

### 第48号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区I4d5グリッド，標高36.40m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡中央部～南東部が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸(3.18)m，短軸（4.38）mの範囲で，主軸方向はN－0°である。壁高は確認面から最大高71cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりあり |
| 3 | 10YR | 4/6 | 褐　色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 5YR | 4/1 | 褐灰色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子少量，，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量 |
| 6 | 5YR | 4/1 | 褐灰色 | ：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック多量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは45cmである。袖部の基部の最大幅は約28cmである。火床部は床面から４cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ17cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

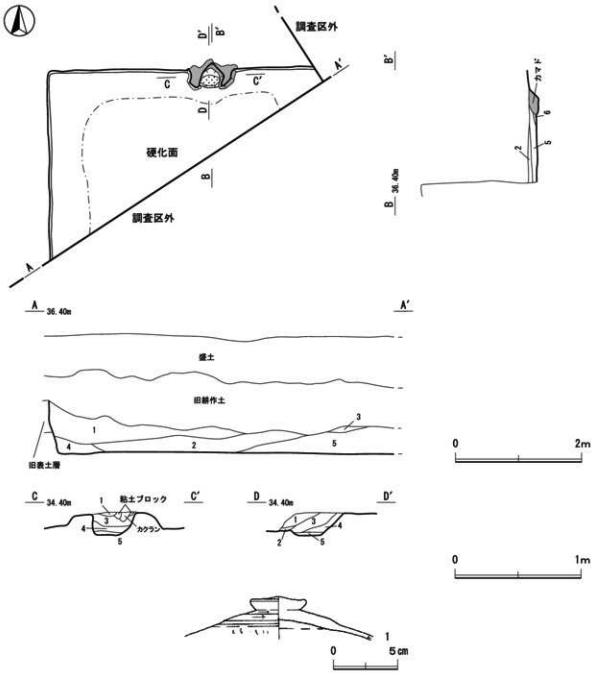
土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱い |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりあり |
| 3 | 10YR | 4/6 | 褐　色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐色 | ：ローム粒子少量，焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類３，甕類１），土師器片20点（坏・高台付坏類８，甕類12）。１の須恵器蓋は東部の覆土下層から出土しているが，他の遺物もすべて覆土中から確認されたもので，本跡に伴う遺物は出土していない。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。時期は，覆土中から確認された遺物の大半が８世紀前半に比定できることから当該期に廃絶された住居跡と考えられる。




**第76図　第48号住居跡・出土遺物実測図**

**表44　第48号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 蓋 | 4.4 | (3.5) | － | 長石，石英，白雲母，小礫 | 灰色 | 天井部ロクロナデ，内面剥離 | 1区覆土中 | 20%PL46 |

### 第49号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区H4i7グリッド，標高34.10m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の大半が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸（4.00）m，短軸（2.24）mの範囲である。壁高は確認面から最大高９cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く，遺存している土層は３層のみであるが，覆土に焼土ブロックや炭化物が含まれており，人為的な埋没が見られる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量 |
| 3 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック中量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

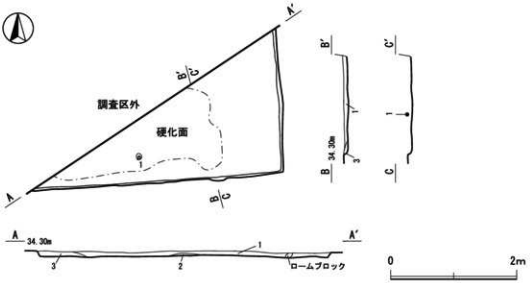
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材が散見されることから，調査区外に付設されていると推測される。

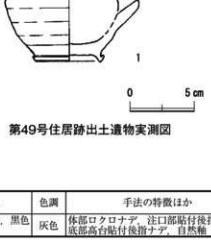
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（**鼎**１），土師器片２点（甕類２）。１の須恵器**鼎**は南西壁際の床面から出土している。他の遺物もすべて覆土中から確認されたもので，本跡に伴う遺物は出土していない。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。なお，床面から出土した**鼎**の形状は，注口が突出しており猿投の最終段階である。当遺跡ではこの形状の**鼎**が隣接する第50号住居跡からも確認されている。時期




第77図　第49号住居跡実測図




第78図　第49号住居跡出土遺物実測図

表45　第49号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 甕 | － | (7.1) | 4.9 | 長石，石英，黒色粒子 | 灰色 | 体部ロクロナデ，注口部貼付後指ナデ，底部高台貼付後指ナデ，自然釉 | NO.1 | 90%<br>PL46 |

## 第50号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区H4g9グリッド，標高35.80m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南半分が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸（3.01）m，短軸3.76mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－0°である。壁高は確認面から最大高62cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性・締まりややあり
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，竈の西半分が攪乱により壊されている。焚口部から煙道までは102cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１・２層が崩落土と考えられる。第４層内の焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。また袖部の基部の最大幅は約38cmで，内壁は赤変硬化している。火床部は床面から５cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ57cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

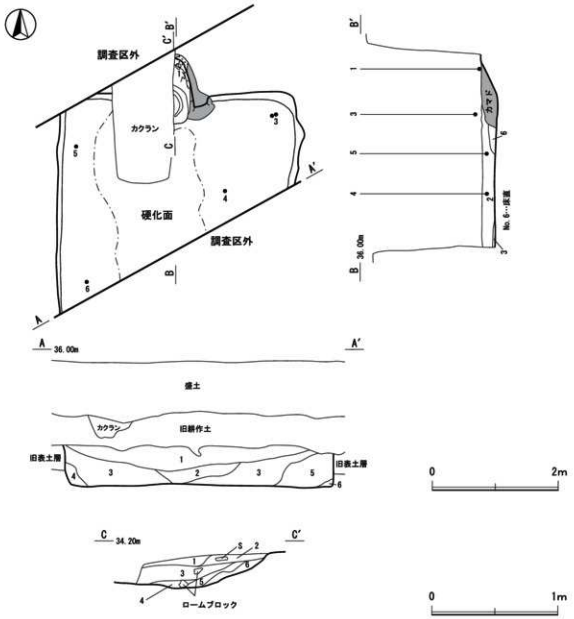
土層解説

1　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック中量，締まり弱い
2　10YR　6/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，鹿沼パミス少量，粘性あり，締まり弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
6　10YR　4/2　灰黄褐色：焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量

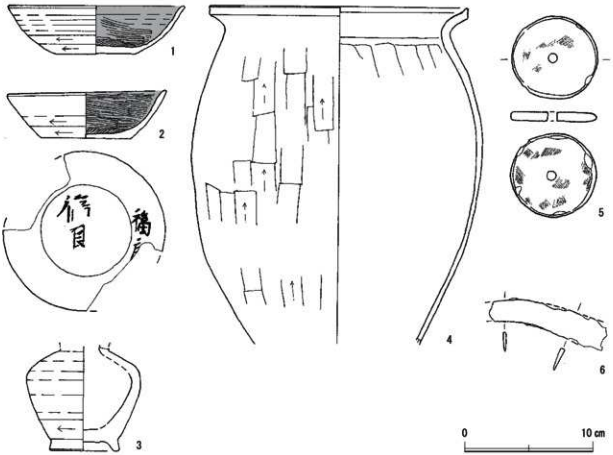
**柱穴**　調査範囲内では，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片10点（坏・高台付坏類２，甕類６，鉢２），土師器片221点（坏・高台付坏類31，甕類190），石製品１点（紡錘車１），金属製品１点（鎌１）。１の土師器坏は竈煙道直上から，２の土師器坏は東部の覆土中から，３の須恵器小形壺は北東部の覆土中から，４の土師器甕は床面から押し潰された状態でそれぞれ出土している。なお，２は体部外面と底部に「福良」の文字が墨書されている。５の石製紡錘車と６の鎌はそれぞれ北西部の覆土中と南西部の床面から出土している。

**所見**　覆土中から墨書土器（「福良」）が出土している。当遺跡から出土した墨書は36点に上るが「福」・「福良」・「吉」・「万」・「卍」等，吉祥文字が多く，併せて占術文字も見受けられることから，集落の繁栄等を祈る祭祀儀礼に使用されたものと推測される。時期は遺物から９世紀中～後葉と考えられる。




第79図　第50号住居跡実測図




**第80図　第50号住居跡出土遺物実測図**

**表46　第50号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.9) | 3.8 | 6.2 | 長石，石英，白雲母，小礫 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後指ナデ | カマドNO.1 | 70%<br>PL46 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 12.5 | 3.8 | 7.0 | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 1区覆土中 | 70%　墨書「福良」ヵ<br>PL61 |
| 3 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (8.1) | 5.3 | 石英，長石，小礫，白色粒子 | 灰色 | 体部ロクロナデ，高台貼付後指ナデ | NO.1 | 80%<br>PL46 |
| 4 | 土師器 | 甕 | 20.3 | (26.5) | － | 石英，長石，白色粒子，小礫 | 明赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ | NO.2 | 70%<br>PL46 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 石製品(紡錘車) | 6.78 | 0.73 | 0.72 | 41.1 | 凝灰岩 | 両面穿孔，無紋 | NO.3 | PL47 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 金属製品(鎌) | (9.33) | 2.36 | 0.33 | (20.6) | 鉄 | 刃部断面三角形 | NO.7 | PL63 |

## 第51号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区H4e9グリッド，標高34.00m地点に位置する。

**規模と形状**　大半が調査区外にあると推測され，調査できた範囲は長軸（1.58）m，短軸（1.56）mのみである。壁高は確認面から最大高18cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　大半が調査区外にあるため不明であるが，調査範囲内では単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い

**床**　ほぼ平坦で，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが散見された。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材が散見されることから，調査区外に付設されていると推測される。

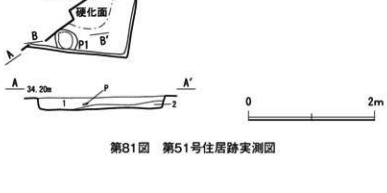
**柱穴**　調査範囲内では，出入口ピットのみ検出された。Ｐ１：30×35cm，深さ７cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**遺物出土状況**　土師器片２点（甕類２）。遺物は埋土中に混入した土師器甕の細片のみである。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。埋土に混入していた土師器甕の細片２点が確認されたのみで，時期は断定できなかった。




第81図　第51号住居跡実測図

## 第52号竪穴住居跡

**位置**　第２調査区G5c5グリッド，標高34.30m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南半分が調査区外にあると推測される。調査できた範囲は長軸（2.40）m，短軸3.72mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN―６°―Wである。壁高は確認面から最大高36cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　調査範囲内では単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。なお，第６層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子中量，
2　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土粒子微量，炭化粒子中量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量
6　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱い

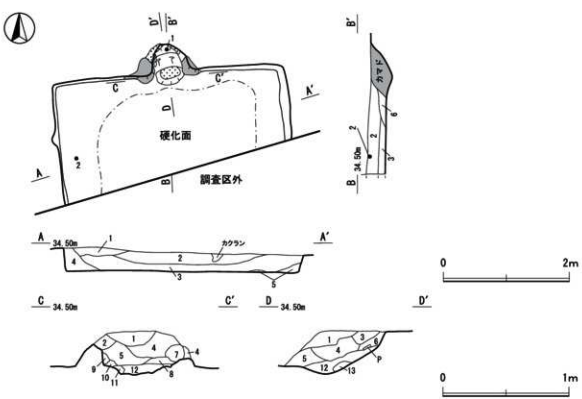
**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは65cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第５層が崩落土と考えられる。袖部は内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認され基部の最大幅は約18cmである。火床部は床面から18cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ45cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　5YR　5/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり
4　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物中量，炭化粒子少量
5　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
7　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり
8　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子微量，粘性弱い



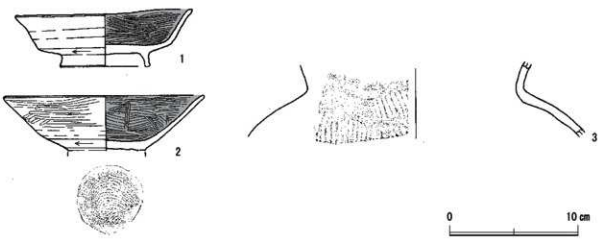

第82図　第52号住居跡実測図

9　5YR　4/4　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり
10　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量
11　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
12　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子微量，粘性弱い
13　5YR　4/4　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片13点（坏・高台付坏類3，甕類7，瓶3），土師器片152点（坏・高台付坏類18，甕類134）。1の土師器高台付坏は完形のまま，竈煙道直上から出土している。2の土師器高台付坏は西壁際の覆土上層から，3の須恵器甕は竈内からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は図化した遺物の形状から，9世紀中葉と考えられる。なお，完形の土師器高台付坏は竈の煙道直上から伏せた状態で確認された。火熱を受けておらず，竈廃絶時あるいは廃絶直後に遺棄されたものと考えられる。当遺跡で5例確認されているが，いずれも9世紀中葉頃に廃絶された住居跡であり，当該期に竈祭祀儀礼として行われていた可能性がある。




**第83図　第52号住居跡出土遺物実測図**

**表47　第52号住居跡出土遺物観察表**

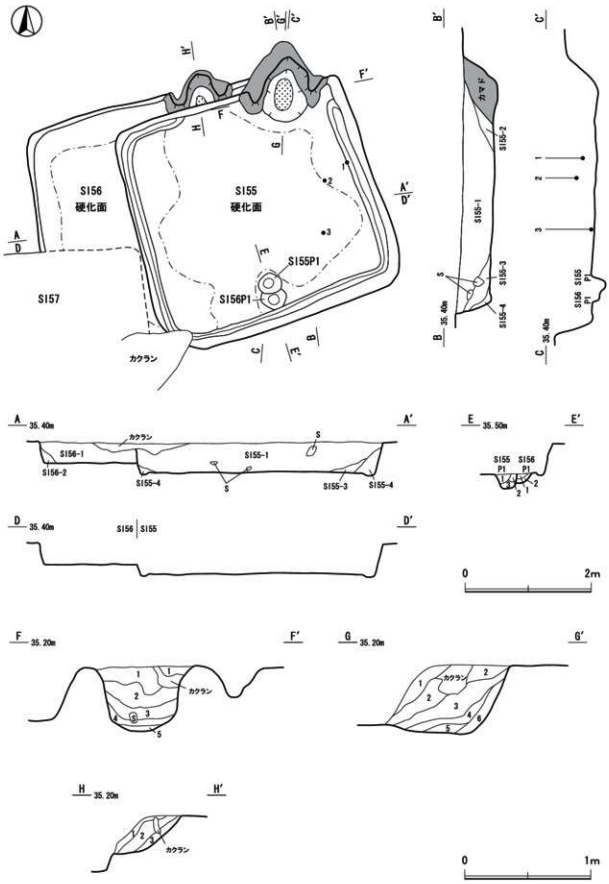
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 13.9 | 4.5 | 7.0 | 長石，石英，白雲母，金雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，ナデ | カマドNO.1 | 100% PL47 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | 15.8 | 4.3 | － | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，小礫 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，体部内外面ヘラミガキ，底部外面回転糸切り後高台貼付の痕跡有り | NO.1 | 90% |
| 3 | 須恵器 | 甕 | － | (6.0) | － | 石英，長石，白雲母 | 暗灰黄色 | 頸部内外面ロクロナデ，体部外面弱い擬格子状の叩き | カマド覆土中 | 5% PL47 |

## 第55号竪穴住居跡

**位置**　第4調査区D5d4グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.93m，短軸3.85mの方形を呈し，主軸方向はN―18°―Wである。壁高は確認面から最大高44cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　中央部から西部で第56号住居跡を掘り込んでいる。




第84図　第55・56号住居跡実測図

**土層**　第１層はロームブロック主体の層で厚く堆積しており，住居廃絶後の一括投棄と考えられる。また，礫が第１層の下面で確認された。なお，第２層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土ブロック少量，炭化物多量，炭化粒子多量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅４～１８cmで巡る。断面は逆台形状である。

**竈**　北壁中央部東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは102cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第２層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約22cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ46cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，礫中量
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック多量，砂質粘土粒子多量，締まりあり
3　5YR　3/2　暗赤褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，砂質粘土ブロック多量，鹿沼パミス少量
5　5YR　3/4　暗赤褐色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量
6　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：32×35cm，深さ12cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量

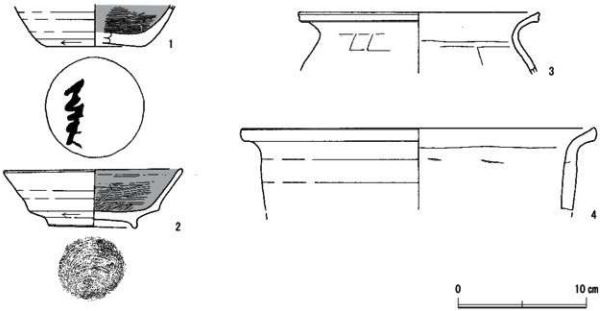
**遺物出土状況**　須恵器片７点（甕類３，塀２，蓋２），土師器片365点（坏・高台付坏類26，甕類338，鉢１）。１の土師器坏は東部～南部にかけて出土した３点の破片が接合したもので，判読はできないが底部に墨書文字が記されている。２の土師器高台付坏と３・４の土師器甕は東部の，いずれも覆土中から出土している。ほかに遺物収納箱に約７箱分の礫が投棄されていた。被熱痕のある礫が５点確認されたが，他は加工痕や擦り痕等のない自然礫である。本跡中央部から壁方向に向けて擂鉢状に堆積している。

**所見**　礫が多量に確認された。石質は様々だが俗に言う河原石である。加工痕や擦り痕等はなく火熱を受けた礫が数点あるのみである。他に礫がこれほど多量に確認された住居跡はなく，投棄された理由や礫の性格等は不明である。時期は９世紀後葉と考えられる。

**表48　第55号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | － | (3.2) | (7.6) | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 3区覆土中<br>2区覆土中<br>4区覆土中 | 20%<br>墨書「□」<br>PL61 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | 14.0 | 4.7 | 6.8 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，指ナデ | NO.1 | 90%<br>PL47 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 土師器 | 甕 | 〔18.8〕 | (4.8) | − | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母，小礫 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ | NO.2 | 5% PL47 |
| 4 | 土師器 | 甕 | 〔27.7〕 | (6.4) | − | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ | NO.3 | 5% PL47 |




**第85図　第55号住居跡出土遺物実測図**

## 第56号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D5b4グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の大半は第55・57号住居跡に壊されており正確なプランは不明であるが，長軸（3.60）m，短軸（3.64）mの範囲で確認でき，主軸方向はN－9°－Wである。壁高は確認面から最大高33cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　中央部から東部を第55号住居跡に，南西部を第57号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，調査範囲内では壁際を除き硬化している。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁中央部東寄りにあり，砂質粘土で構築されているが，火床部と袖部の南半分は第55号住居跡に壊されている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第２層が崩落土と考えられる。また第２層内の焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。袖部の基部の最大幅は約50cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ33cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

2　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量

3　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック中量，焼土粒子少量，粘性・締まりやや弱い

**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。P 1：(16) ×40cm，深さ22cmである。

P 1 土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量

2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量

**遺物出土状況**　須恵器片6点(坏・高台付坏類1，甕類4，蓋1)，土師器片35点(坏・高台付坏類3，甕類32)。1の土師器高台付坏は北部の掘方覆土中から，2の土師器皿は南部の覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　大半が第55・57号住居跡に壊されており，遺物も少なく不明な点も多いが，坏の破片や常総甕の口縁部の形状などから，時期は9世紀後葉と推測される。また，重複している第55号住居跡とは主軸方向がほぼ同一であることや，どちらの住居跡も竈が北壁部の最も東寄りに付設されていることなどの共通項から判断して，建て替えの可能性がある。なお，この2軒の住居跡から出土した土器の時期差がほとんどないことから，建て替えられた第55号住居跡の営まれた期間は短いものと推測される。

**第86図　第56号住居跡出土遺物実測図**

**表49　第56号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | － | (3.1) | (8.2) | 長石，石英，白雲母，黒雲母，針状鉱物・白色粒子 | 橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り | 掘り方1区覆土中 | 20% PL47 |
| 2 | 土師器 | 皿 | － | (1.3) | 6.7 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り | 4区覆土中 | 10% PL47 |

## 第57号竪穴住居跡

**位置**　第4調査区D5b5グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南半分が調査区外にあると推測される。調査できた範囲は長軸（3.19）m，短軸（3.36）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高18cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部で第56号住居跡を，西部で第58号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが散見された。

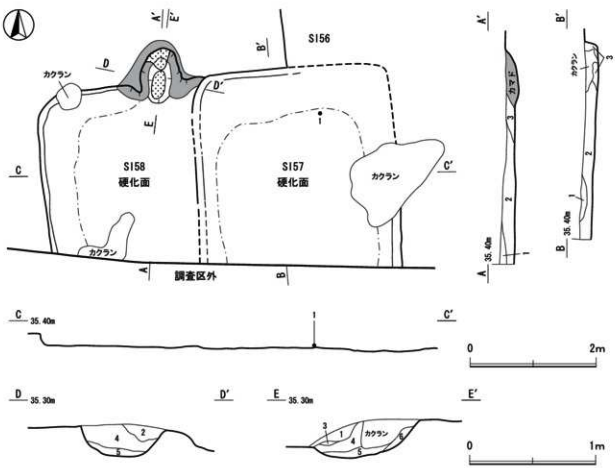
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　東壁部にあったものと推測されるが，後世の攪乱によって壊されている。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片37点（坏・高台付坏類５，甕類32），鉄滓１点。１の土師器皿は中央部北よりの床面から出土している。２の土師器高台付坏は北東部と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

**所見**　隣接する第58号住居跡とは規模や形状が酷似しており，時期も第58号住居跡が９世紀後葉に比定されることから，建て替えの可能性が示唆される。時期は遺物から10世紀前半と考えられる。




第87図　第57・58号住居跡実測図

第　図　第57号住居跡出土遺物実測図

表50　第57号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 小皿 | 10.4 | 2.2 | 6.4 | 長石，石英，白雲母，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | ロクロナデ，底部回転糸切り後指ナデ | NO.1 | 95% PL47 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | (15.0) | (4.7) | － | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい黄橙色 | 口縁部内外面横ナデ，口縁部～体部内面ヘラミガキ，高台部欠損 | 1・4区覆土中 | 25% PL47 |

## 第58号竪穴住居跡

**位置**　第4調査区D5a5グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南半分が調査区外にあると推測される。調査できた範囲は長軸（3.39）m，短軸（2.43）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN―6°―Wである。壁高は確認面から最大高22cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第57号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは87cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第1層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約50cmである。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ53cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，締まりあり
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
5　5YR　3/4　暗赤褐色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
6　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏･高台付坏類１，甕類１），土師器片16点（坏･高台付坏類７点，甕類９点）。遺物はすべて細片のため，図化できなかった。

**所見**　本跡廃絶後に第57号住居跡へと建て替えられており，時期は，第57号住居跡より若干古い段階の９世紀後葉と考えられる。

### 第59号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区C5i4グリッド，標高35.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.14m，短軸3.80mの方形を呈し，主軸方向はN―11°―Eである。壁高は確認面から最大高10cmを測る。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ローム粒子少量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは45cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第２層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ14cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 5YR | 4/1 | 褐 灰 色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | ：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック多量 |
| 3 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，締まり弱い |

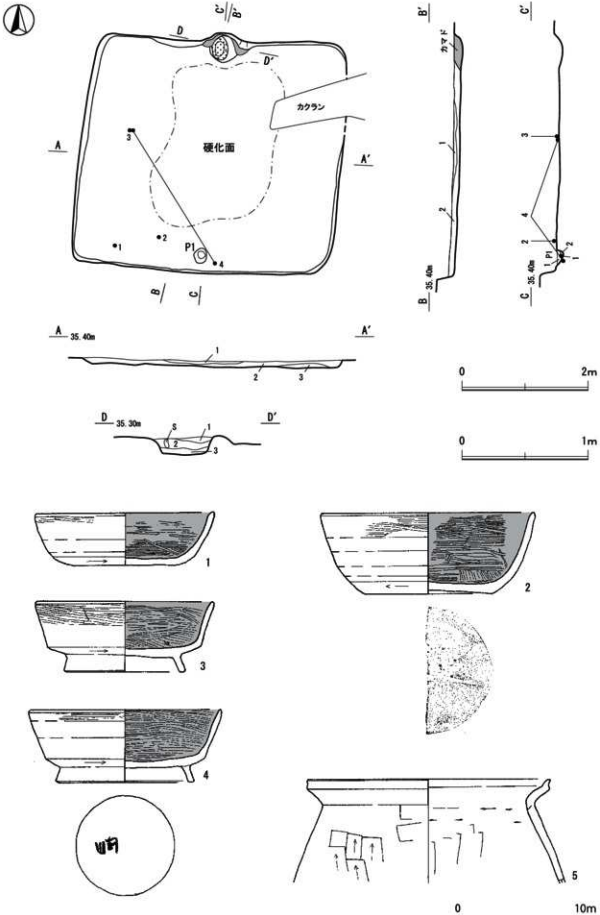
**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：20×24cm，深さ９cmである。

Ｐ１土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量 |

**遺物出土状況**　須恵器片８点（坏・高台付坏類５，甕類３），土師器片140点（坏・高台付坏類21，甕類119）。１・２の土師器坏は南西部の床面から出土している。３の土師器高台付坏は西部の床面から，４の土師器高台付坏は南壁際と西部のいずれも床面から出土した破片が接合したもので底部に墨書されている。（「福」ヵ）

**所見**　通常，床面で確認される破片は住居廃絶時に遺棄されたものや，住居廃絶後まもなく投棄あるいは遺棄されたものであるが，本跡では床面から出土した土器片の中に断面が摩耗している破片が数点確認された。埋め戻しの段階で埋土中に混入していた破片がたまたま床面で確認されたものであろうか。時期は断定できないが，遺物の大半は８世紀後～９世紀中葉に比定されるものである。




第89図　第59号住居跡・出土遺物実測図

**表51　第59号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (14.0) | 4.1 | 8.0 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，金雲母，赤色粒子，針状鉱物 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部切り離し後一方向のヘラナデ | NO.4 3区覆土中 | 45% PL48 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (16.7) | 6.3 | (9.9) | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後指ナデ | NO.3 | 40% PL48 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | (14.0) | 5.5 | 9.2 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | 橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，指ナデ | NO.8 | 70% PL48 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | (15.0) | 5.7 | (10.4) | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，回転糸切り後，高台貼付ナデ | NO.2 NO.8 | 50% 墨書「福」カ PL61 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (19.0) | (8.2) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母 | 灰黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面輪積痕，外面縦位の削り | 1区覆土中 | 5% PL48 |

## 第60号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D5a1グリッド，標高34.50m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.48m，短軸4.19mの方形を呈し，主軸方向はN―78°―Eである。壁高は確認面から最大高40cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土ブロックや砂質粘土ブロックが含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　6/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量
2　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子中量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性弱く締まりあり
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性・締まりややあり
6　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは91cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第６・７層が崩落土と考えられる。第５層内の焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。また袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床面は床面と同レベルでゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ90cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量
7　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い
8　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量

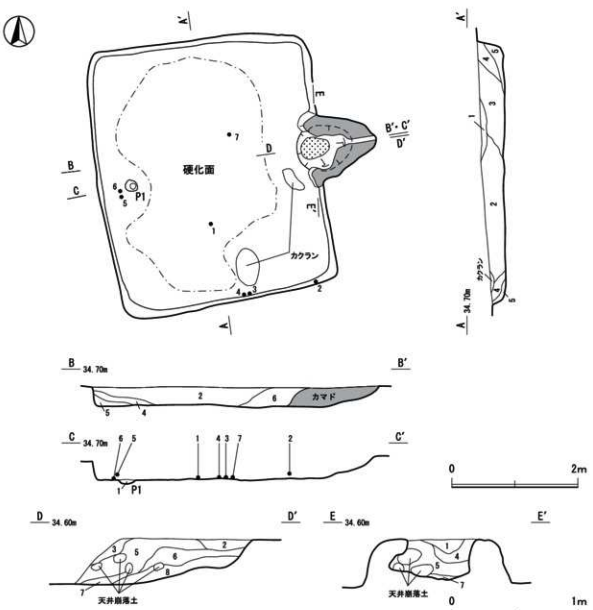
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：18×20cm，深さ９cmである。

**Ｐ１土層解説**

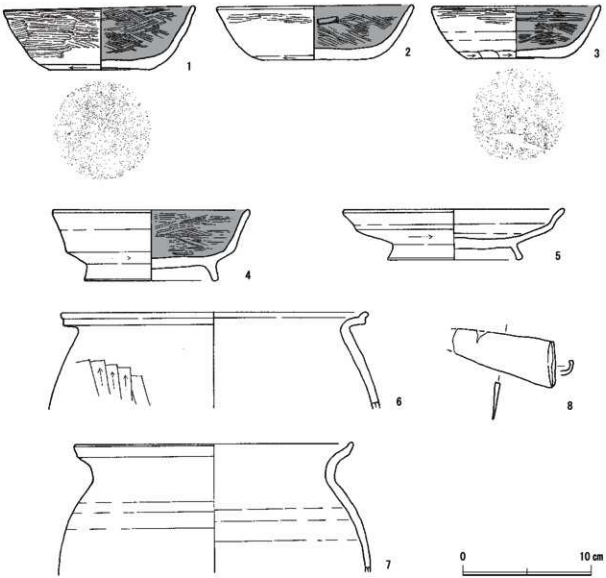
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，締まり弱い

**遺物出土状況**　須恵器片19点（坏・高台付坏類14，甕類５），土師器片232点（坏・高台付坏類46，甕類186），金属製品１点（鎌１）。１～３は土師器坏である。１は中央部やや南寄り，２～４は南壁際，５の須恵器盤・６の土師器甕は出入口ピット付近の，いずれも床面から少し浮いた状態で出土している。

**所見**　住居跡全域に投棄あるいは遺棄された遺物がみとめられるが，特に中央部と竈東側に遺物が集中していた。時期は須恵器盤の形状などから，９世紀中～後葉と考えられる。




第90図　第60号住居跡実測図




**第91図　第60号住居跡出土遺物実測図**

**表52　第60号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 15.1 | 5.0 | 7.7 | 長石，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内外面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.1 | 90% PL48 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 15.4 | 4.3 | 8.0 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，小礫，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内外面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.3 | 60% PL48 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (13.2) | 4.1 | 7.5 | 長石，石英，白雲母，金雲母，黒雲母，赤色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内外面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.6 2区覆土中 | 50% PL48 |
| 4 | 土師器 | 高台付坏 | (15.4) | 5.6 | 10.3 | 長石，石英，白雲母，金雲母，赤色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，指ナデ | NO.4 | 45% PL48 |
| 5 | 須恵器 | 盤 | (17.4) | 4.0 | (10.1) | 長石，石英，小礫 | 灰色 | 口縁部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，ナデ | NO.9 | 35% PL48 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (24.0) | (7.6) | － | 長石，石英 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内外面削り | NO.10 2区覆土中 | 10% PL48 |
| 7 | 土師器 | 甕 | (22.0) | 10.1 | － | 長石，石英 | にぶい褐色 | 口縁部内外面横ナデ | NO.1 | 15% PL48 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 金属製品(鎌) | (8.18) | 3.63 | 0.35 | (28.6) | 鉄 | 刃部断面三角形，柄付部折り返し | 2区覆土中 | PL63 |

## 第61号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D5f3グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.45m，短軸4.24mの方形を呈し，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は確認面から最大高50cmを測り，外傾して立ち上がる。

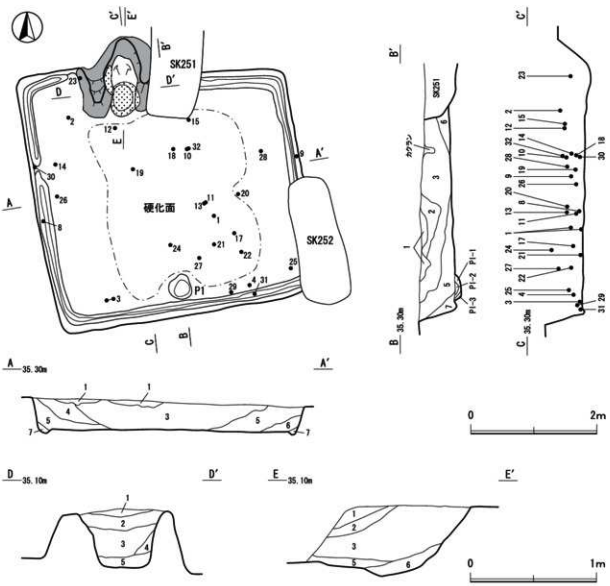
**重複関係**　竈東部を第251号土坑に，北壁南部を第252号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック中量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性あり
7　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック微量，炭化物微量，炭化粒子少量，締まり弱い（壁溝覆土第１層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。




第92図　第61号住居跡実測図

**壁溝**　全周し，幅11～20cmで巡る。断面はU字形状である。

**土層解説**

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック微量，炭化物微量，炭化粒子少量，締まり弱い（住居跡覆土第７層）

**竈**　北壁中央部西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは120cmである。袖部の基礎は地山を削り出し，その周囲に砂質粘土で構築されており，基部の最大幅は約45cmである。火床部は床面から11cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ49cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：136×40cm，深さ10cmである。

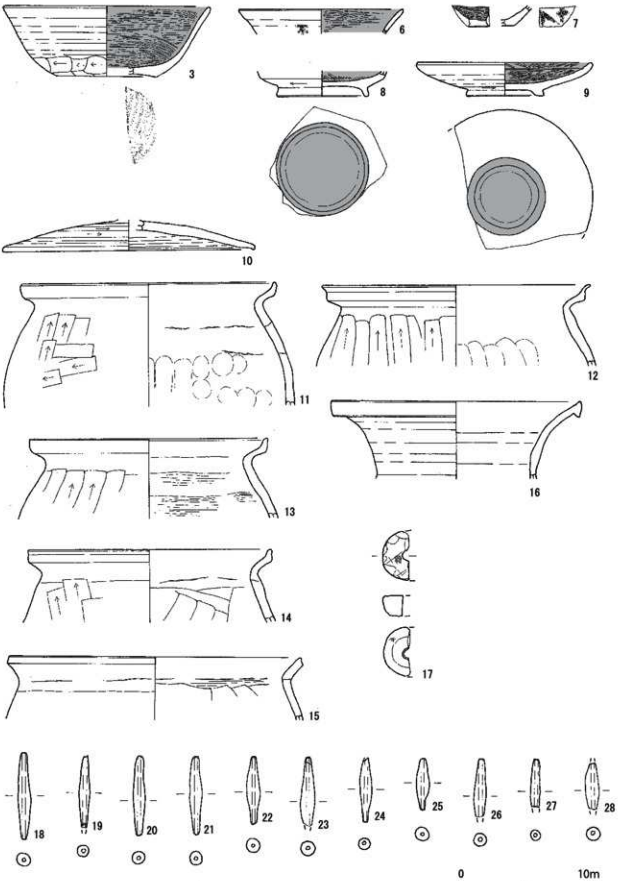
**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量

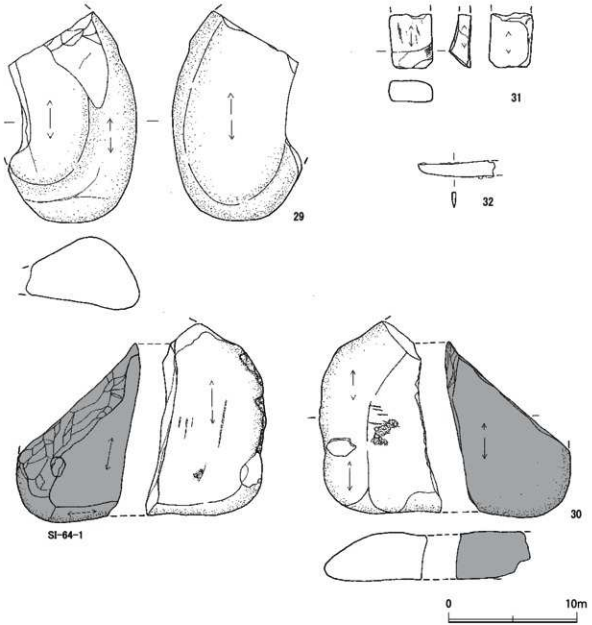
**遺物出土状況**　須恵器片50点（坏・高台付坏類８，甕類42），土師器片934点（坏・高台付坏類190，甕類742，皿１，鉢１），金属製品２点（刀子１・不明１），土製品12点（紡錘車１・管状土錘11），金属製品３点（砥石３），鉄滓１点。総数1000点を超える遺物が全域から出土している。しかし床面から確認された土器は若干数であるため，これらの遺物は主に住居廃絶後，投棄あるいは遺棄されたものと考えられる。図化した遺物はすべて覆土中から出土したものである。なお，墨書された土器が４点確認されたが，すべて土師器坏で，２は「□本」，５は「後□」と記されており，６・７は判読不明である。また，管状土錘は11点確認されているが，広範囲にばらまかれたかのような印象を受けるが，すべて完形である。他に29～31の砥石が南部から，32の刀子は南壁際から出土している。

**所見**　1000点を超える遺物が確認されたが，これらは埋土中に混入した破片を除き，主に住居廃絶後に一括投棄されたと考えられる。また，墨書土器は４点すべて破片で確認され，管状土錘は11点が広範囲で確認されたが，すべて完形である。なお，これらはいずれも覆土中から出土したものである。時期はこれらの遺物から判断して，９世紀中葉と考えられる。

第93図　第61号住居跡出土遺物実測図（１）




第94図　第61号住居跡出土遺物実測図（2）




**第95図　第61号住居跡出土遺物実測図（3）**

**表53　第61号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.5) | 4.2 | 5.9 | 長石，石英，白雲母，黒雲母，赤色粒子 | 黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ | NO.16 | 55%<br>PL49 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (14.0) | 4.5 | 6.2 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後回転ヘラ切り | NO.57 | 40%　墨書「□本」<br>PL61 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (12.8) | 4.8 | 4.9 | 長石，石英，白雲母，小礫 | 橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ | NO.24<br>NO.27 | 25%<br>PL49 |
| 4 | 土師器 | 坏 | (16.2) | 5.5 | (7.8) | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | 橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端手持ちヘラ削り | NO.39 | 35% |
| 5 | 土師器 | 坏 | (15.0) | (3.3) | － | 長石，石英，金雲母，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 覆土中 | 5%　墨書「後□」<br>PL61 |
| 6 | 土師器 | 坏 | (13.0) | (1.9) | － | 長石，石英，白雲母，金雲母 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 1区3層<br>覆土中 | 5%　墨書「□」<br>PL61 |
| 7 | 土師器 | 坏 | － | (1.6) | － | 長石，金雲母，白色粒子，赤色粒子，針状鉱物 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 2区3層<br>覆土中 | 5%　墨書「□」<br>PL61 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 土師器 | 高台付坏 | － | (2.0) | 7.1 | 長石，石英，白雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，多方向のヘラミガキ，高台貼付後指ナデ，朱墨付着 | NO.66 | 転用硯 20% PL49 |
| 9 | 土師器 | 皿 | (13.7) | 2.6 | 6.0 | 長石，石英，白雲母，金雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後高台貼付，ナデ，朱墨付着 | NO.7 | 転用硯 40% PL49 |
| 10 | 須恵器 | 蓋 | (20.0) | (2.3) | － | 長石，石英，小礫 | 黄灰色 | 天井部ヘラ削り | NO.9 | 20% PL49 |
| 11 | 土師器 | 甕 | (20.0) | (9.8) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面多方向のヘラナデ，内面縦位の指ナデ | NO.65 | 5% PL49 |
| 12 | 土師器 | 甕 | (21.0) | (6.3) | － | 長石，石英，黒雲母，小礫，赤色粒子 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面縦位の指ナデ，外面ヘラ削り | NO.60 | 5% PL49 |
| 13 | 土師器 | 甕 | (18.8) | (6.3) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り | NO.65 | 5% PL49 |
| 14 | 土師器 | 甕 | (19.0) | (5.7) | － | 長石，石英，白雲母，黒雲母 | 灰褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内外面ヘラナデ | NO.47 | 5% PL50 |
| 15 | 土師器 | 甕 | (23.0) | (4.9) | － | 長石，石英，黒雲母，白雲母，赤色粒子，針状鉱物，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内外面ヘラナデ | NO.2 | 5% PL50 |
| 16 | 須恵器 | 甕 | (9.8) | (6.1) | － | 長石，石英，小礫，赤色粒子 | 黒褐色 | ロクロナデ，自然釉 | 1区覆土中 | 5% PL50 |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 土製品(紡錘車) | 3.9 | 1.6 | 0.8 | (14.9) | 石英・白色粒子 | 側面研磨 | NO.18 | PL50 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 土製品(管状土錘) | 6.9 | 1.1 | 0.25 | 5.7 | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.10 | PL63 |
| 19 | 土製品(管状土錘) | 5.7 | 0.9 | 0.21 | (3.7) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.53 | PL63 |
| 20 | 土製品(管状土錘) | 6.2 | 1.0 | 0.24 | 5.0 | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.12 | PL63 |
| 21 | 土製品(管状土錘) | 6.2 | 1.0 | 0.21 | (4.9) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.31 | PL63 |
| 22 | 土製品(管状土錘) | 5.3 | 1.1 | 0.22 | 4.8 | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.19 | PL63 |
| 23 | 土製品(管状土錘) | 5.4 | 1.1 | 0.27 | (5.1) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.62 | PL63 |
| 24 | 土製品(管状土錘) | 5.1 | 0.9 | 0.25 | (3.0) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.35 | PL63 |
| 25 | 土製品(管状土錘) | 4.1 | 1.1 | 0.18 | 3.5 | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.21 | PL63 |
| 26 | 土製品(管状土錘) | 4.6 | 1.0 | 0.27 | (3.4) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.43 | PL63 |
| 27 | 土製品(管状土錘) | 3.8 | 0.8 | 0.23 | (2.5) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.33 | PL63 |
| 28 | 土製品(管状土錘) | 3.6 | 1.1 | 0.20 | (3.8) | 土製 | 穿孔1カ所，外面ナデ | NO.8 | PL63 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 石製品(砥石) | 16.1 | 8.9 | 5.7 | 1200 | 凝灰岩 | 砥面3面，その他は自然面 | NO.29 | |
| 30 | 石製品(砥石) | 21.0 | 12.6 | 5.0 | 1710 | 凝灰岩 | 砥面2面，その他は自然面，S164-1と接合 | NO.45 | PL50 |
| 31 | 石製品(砥石) | 4.2 | 3.5 | 1.6 | 29 | 粘板岩 | 砥面3面，規格性が高い | NO.25 | PL50 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 金属製品(刀子) | (6.02) | 1.20 | 0.27 | (4.8) | 鉄 | 刃部断面三角形 | NO.9 | PL63 |

### 第62号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D5i4グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡東部が第255・256・267号土坑に掘り込まれており，南半分が後世の攪乱により壊されているため明確ではないが，調査できた範囲は長軸（3.24）m，短軸（3.10）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN―90°―Eである。

**重複関係**　東部を第262号土坑に，西部を第255・256号土坑に掘り込まれている。

**土層**　床面まで削平されているため，詳細は不明である。

**床**　遺存している範囲ではほぼ平坦である。一部硬化している部分を確認した。

**竈**　東壁中央部南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。大半が削平されており，袖部の基部と火床面が調査できただけである。火床部は床面と同レベルで火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

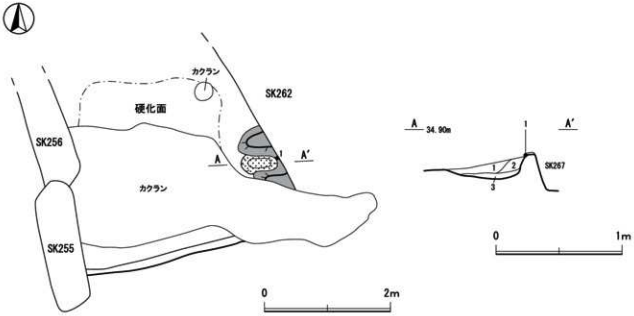
土層解説

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量
2　5YR　5/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片３点（甕類３），土師器片31点（坏・高台付坏類10，甕類20，鉢１），１の土師器坏は竈の煙道直上から出土している。

**所見**　時期は９世紀中～後葉と考えられる。なお，竈の煙道直上から土師器高台付坏が確認されたが，火熱を受けておらず，竈廃絶時あるいは廃絶直後に遺棄されたものと考えられる。当遺跡で５例確認されているが，いずれも９世紀中葉頃に廃絶された住居跡であり，当該期に竈祭祀儀礼として行われていた可能性がある。




第96図　第62号住居跡実測図

第97図　第62号住居跡出土遺物実測図

表54　第62号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 14.5 | (4.2) | － | 長石，石英，金雲母，白色粒子，針状鉱物 | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付 | NO.1 | 60%<br>PL50 |

## 第63号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区E5a2グリッド，標高34.60m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.02m，短軸2.72mの方形を呈し，主軸方向はN―19°―Wである。壁高は確認面から最大高24cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量
4　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量

**床**　ほぼ平坦で，竈前面から住居中央部が硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは76cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第３・４層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約46cmである。火床部は床面から４cmほど掘りくぼめて火床面としている。なお，煙道は壁外へ37cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり
4　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：16×18cm，深さ17cmである。

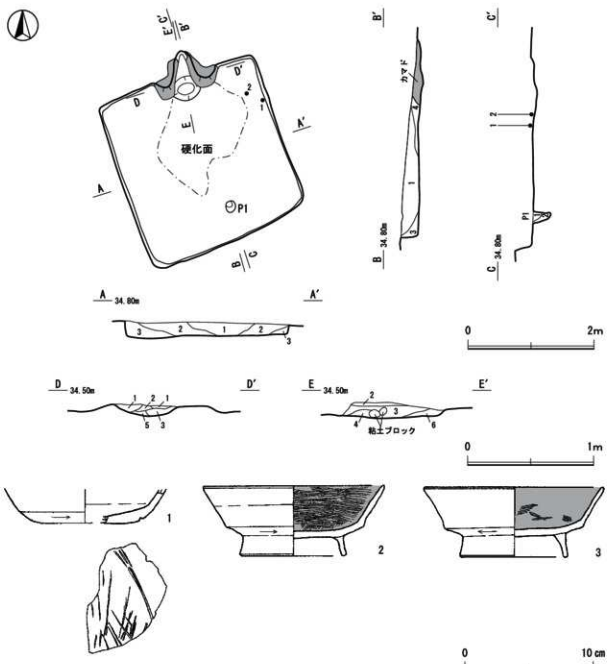
Ｐ１土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏１），土師器片17点（坏・高台付坏類８，甕類９）。１の須恵器

坏は東壁際の覆土中から，２の土師器坏は東部の床面から，３の土師器坏は竈内からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は住居廃絶時に遺棄された遺物からみて９世紀中葉と考えられるが，遺構全体が削平されているため土層の層厚も薄く十分な調査結果は得られなかった。




**第98図　第63号住居跡・出土遺物実測図**

**表55　第63号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | － | (2.7) | (8.0) | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子，小礫 | 褐灰色 | 体部ロクロナデ，砥石転用 | NO.5 | 25% PL50 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 14.7 | 5.5 | 7.9 | 長石，金雲母，白色粒子 | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，高台貼付後ナデ | NO.4 | 90% PL50 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 14.0 | 5.5 | 8.1 | 長石，石英，白色粒子 | にぶい褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，高台貼付後ナデ | カマド覆土中 | 50% PL51 |

### 第64号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区E5b4グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.88m，短軸2.58mの方形を呈し，主軸方向はN―65°―Eである。壁高は確認面から最大高15cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

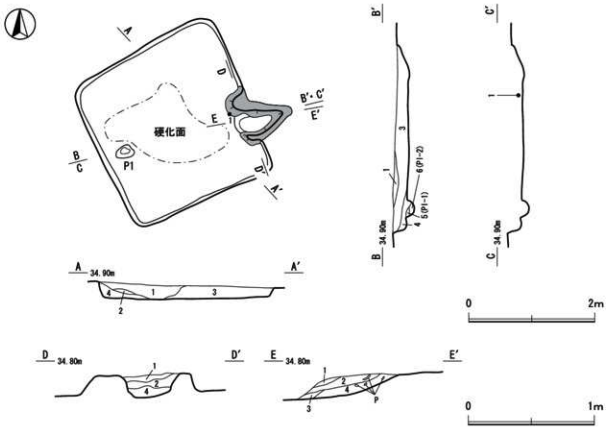
土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量 |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 3 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 4 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐 | 色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量 |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量（Ｐ１覆土第１層） |
| 6 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量（Ｐ１覆土第２層） |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北東壁中央部南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは78cmである。また袖部の基部の最大幅は約42cmである。火床部は掘りくぼめていないがゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ54cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。




第99図　第64号住居跡実測図

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い
2　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック中量，焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
6　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量

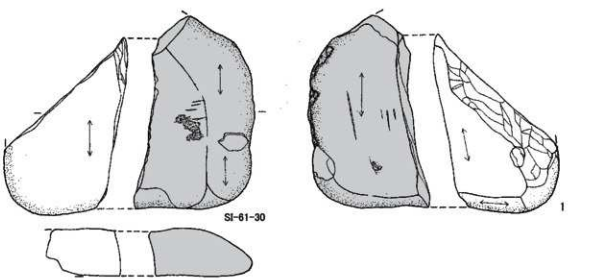
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。P1：20×29cm，深さ10cmである。

**P1土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量（住居跡覆土第5層）
2　10YR　4/6　褐　　色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量（住居跡覆土第6層）

**遺物出土状況**　土師器片47点（坏・高台付坏類5，甕類42），石製品1点（砥石1）。遺物は少なく，大半が破片である。なお，1の砥石は竈北袖部付近から出土している。

**所見**　本跡は，竈を北東壁中央部やや南寄りに付設している。同じような建物構造を持つ住居跡は近接する第77号住居跡が挙げられる。時期は，資料に乏しく断定できないが，住居廃絶後に遺棄あるいは投棄された破片の形状から9世紀後葉と推測される。




**第100図　第64号住居跡出土遺物実測図**

**表56　第64号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石製（砥石） | 18.3 | 11.1 | 4.9 | 1240 | 凝灰岩 | 波面2面，他は自然面，SI61-30と接合 | NO.1 | PL50 |

## 第65号竪穴住居跡

**位置**　第4調査区D4c9グリッド，標高34.30m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.91m，短軸2.91mの方形を呈し，主軸方向はN－1°－Wである。壁高は確認面から最大高13cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかったが，覆土に焼土ブロックや炭化粒子が含まれており，人為的な埋没が見られる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量，締まりあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，締まりあり
3　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，炭化物微量，締まりあり
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部から東部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，大半を攪乱で壊されているため，詳細は不明である。なお，煙道は壁外へ30cmほど削り出して造られている。

**柱穴**　２ヶ所確認された。Ｐ１は出入口ピットと考えられ，Ｐ１：14×42cm，深さ23cmである。Ｐ２の性格は不明で，Ｐ２：57×73cm，深さ24cmである。

**Ｐ１土層解説**

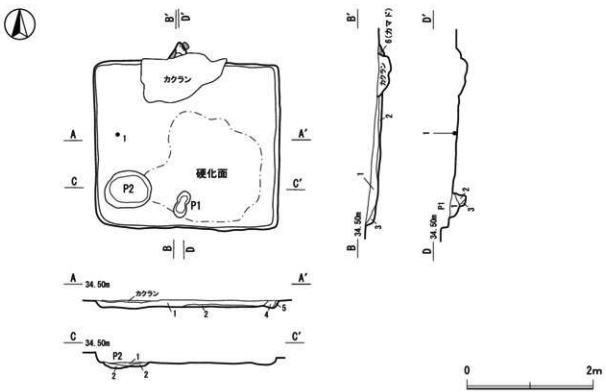
1　10YR　4/6　褐　色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

**Ｐ２土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，締まりあり

**遺物出土状況**　土師器片８点（坏・高台付坏類４，甕類４）。層厚が薄く，一部床面がほぼ露出した状態で確認されたため，遺物は少なく，図化できた遺物は１の土師器坏だけである。なお１は墨書土器である。（「大町」ヵ）

**所見**　床面がほぼ露出した状態で確認されたため，遺物が少なく，またいずれも細片であるため本跡の時期を特定するには至らなかった。




第101図　第65号住居跡実測図

第102図　第65号住居跡出土遺物実測図

表57　第65号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 14.0 | 4.2 | － | 長石，石英，白雲母，金雲母，小礫 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | NO.1 | 10%　墨書「大町」カ PL61 |

## 第66号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D4d6グリッド，標高34.00m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.67m，短軸4.54mの方形を呈し，主軸方向はN－11°－Wである。壁高は確認面から最大高17cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　南部を第269号土坑に，北西部を第272号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ローム ブロックや焼土ブロックが含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム ブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム ブロック少量，焼土ブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス微量，粘性弱い
5　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量，粘性弱い
6　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム ブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

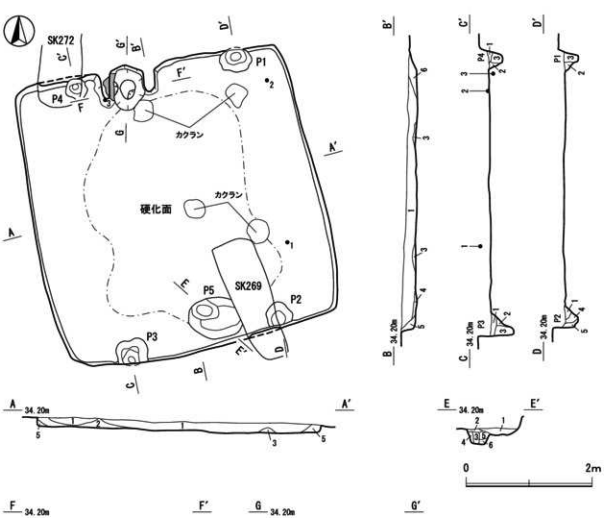
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは70cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第２層が崩落土と考えられる。また袖部の遺存状態は非常に悪く，袖部の基部と推測される砂質粘土ブロックが幅約35cmほど確認された程度であり，内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。火床部は床面から16cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ５cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム ブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　5YR　4/1　褐 灰 色：ローム ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
4　10YR　4/6　褐　　色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
5　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム ブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　4/4　褐　　色：ローム ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

**柱穴**　５ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ４は主柱穴でＰ５は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：39×50cm，深さ12cm，Ｐ２：36×41cm，深さ19cm，Ｐ３：39×50cm，深さ35cm，Ｐ４：32×34cm，深さ22cm，Ｐ５：66×（77）cm，深さ23cmである。




第103図　第66号住居跡実測図

P１～５土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，鹿沼パミス中量，締まり弱い
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
5　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

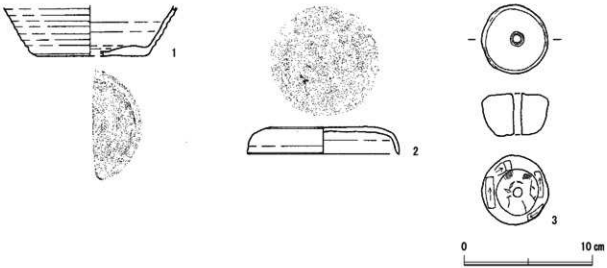
P５土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
6　10YR　4/4　褐　　色：ローム粒子微量，，鹿沼パミス微量

**遺物出土状況**　須恵器片21点（坏・高台付坏類13，甕類７，蓋１），土師器片146点（坏・高台付坏類12，甕類134），土製品１点（紡錘車１）。１の須恵器坏は東部と南西部のいずれも床面から出土した破片が接合したものである。２の須恵器蓋は北東部の覆土下層から出土している。

**所見**　時期は床面から確認された遺物から判断して８世紀前～中葉と考えられる。なお，北壁部

と南壁部にそれぞれ２ヶ所ずつ柱穴が確認されており，床上に４本の主柱を持っていない。同様の建物構造は第95号住居跡にも見られ，廃絶時期も本跡と一致している。




第104図　第66号住居跡出土遺物実測図

表58　第66号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | － | (3.9) | (8.6) | 長石，石英，白色粒子，針状鉱物 | 灰白色 | 体部ロクロナデ，底部回転糸切り後丁寧なナデ | NO.4掘り方4区覆土中 | 40% PL51 |
| 2 | 須恵器 | 蓋 | 11.8 | 2.1 | 8.4 | 石英，白雲母，白色粒子，小礫，針状鉱物 | 灰白色 | 天井部外面回転ヘラ削り | NO.2 | 75% |

| 番号 | 器種 | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 土製品(紡錘車) | 5.2 | 3.4 | 0.7 | 99.8 | 長石・白雲母・黒色粒子 | 片面穿孔，無紋，粗雑 | NO.12 | PL51 |

## 第67号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区D4g3グリッド，標高33.80m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸5.50m，短軸3.26mの長方形を呈し，主軸方向はN―６°―Wである。壁高は確認面から最大高18cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり

**床**　ほぼ平坦で，竈前面部分と住居中央部がよく硬化している。なお，北東部には焼土ブロック混じりの砂質粘土ブロックが確認された。

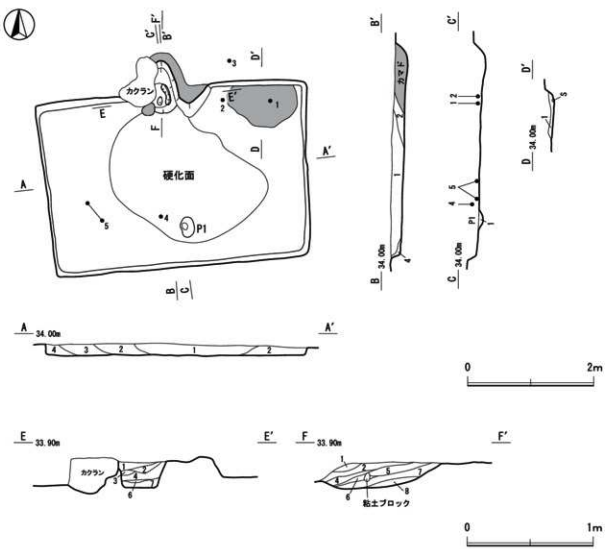
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは84cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第７層が崩落土と考えられ，同層内にある焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。また袖部の基部の最大幅は約62cmである。火床部は床面から５cmほど掘りくぼめて火床面としており，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ48cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 2 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 3 | 5YR | 4/2 | 灰 褐 色 | ：ロームブロック微量，焼土粒子中量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性あり，締まり弱い |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：焼土ブロック微量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 色 | ：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量 |
| 7 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量 |
| 8 | 5YR | 3/4 | 暗赤褐色 | ：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い |

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：21×32cm，深さ６cmである。



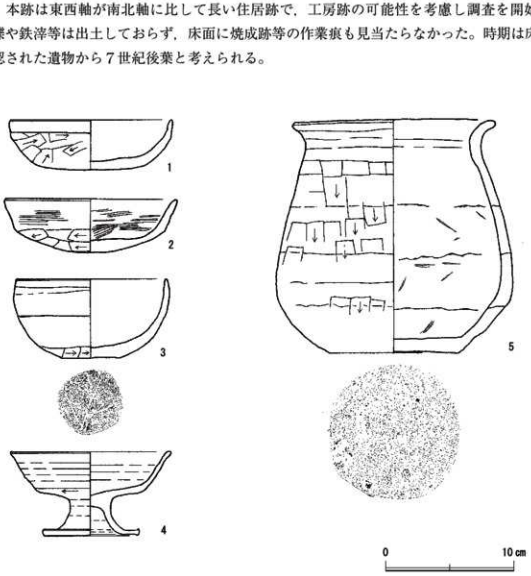

第105図　第67号住居跡実測図

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏・高台付坏類１・高坏１），土師器片12点（坏・高台付坏類１・甕類９）。１の土師器坏は東部の覆土下層から，２の土師器坏は竈東側の覆土下層から，３の土師器坏は北東部の床面から，４の須恵器高坏は中央部の覆土上層から，５の土師器甕は南西部からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡は東西軸が南北軸に比して長い住居跡で，工房跡の可能性を考慮し調査を開始したが，礫や鉄滓等は出土しておらず，床面に焼成跡等の作業痕も見当たらなかった。時期は床面から確認された遺物から７世紀後葉と考えられる。




**第106図　第67号住居跡出土遺物実測図**

**表59　第67号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 3.9 | － | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | 明黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り | NO.3 1区覆土中 | 95% PL51 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (13.4) | 4.2 | － | 長石，石英，白色粒子 | にぶい黄橙 | 口縁部内外面横ナデ体部下半～底部外面手持ちヘラ削り | NO.2 覆土中 | 50% PL51 |
| 3 | 土師器 | 塊 | 11.8 | 6.3 | 4.6 | 長石，石英，白雲母，白色粒子，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面下端ヘラ削り，底部木葉痕 | 1区覆土中 NO.1 | 90% PL51 |
| 4 | 須恵器 | 高坏 | (12.4) | 6.6 | (7.2) | 石英，白色粒子，黒色粒子 | 黄灰色 | 口縁部脚部内外面ロクロナデ，底部内面指頭痕 | NO.4 | 40% PL51 |
| 5 | 土師器 | 甕 | 15.6 | 18.2 | 10.2 | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，底部ナデ，内面ヘラナデ | NO.6 NO.7 | 90% PL51 |

### 第68号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区E4c3グリッド，標高33.80m地点に位置する。

**規模と形状**　北部が第２号掘立柱建物跡Ｐ４・Ｐ５と第260号土坑に壊されている。長軸3.74m，短軸（3.80）mの方形を呈し，主軸方向はN―15°―Wである。壁高は確認面から最大高８cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部は第２号掘立柱建物跡Ｐ４・５と第260号土坑に掘り込まれている。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。北部に砂質粘土ブロックが散在している。

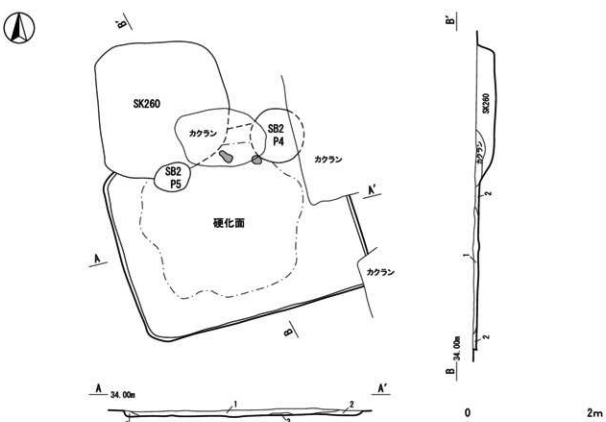
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁部にあったものと推測されるが，後世の遺構により壊されている。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片20点（坏・高台付坏類６，甕類14）。遺構全体が削平されているため層厚が薄く遺物数は少なかった。なお，遺物はすべて細片で図化できなかった。

**所見**　床面に硬化した面が広がっていることや，竈構築材である砂質粘土ブロックが確認できたことから住居跡と判断した。時期は，住居廃絶後まもなく遺棄された遺物からみて８世紀後葉と推測されるが遺物数が少なく時期を断定するには至らなかった。




第107図　第68号住居跡実測図

### 第69号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区E4g2グリッド，標高33.70m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.14m，短軸3.00mの方形を呈し，主軸方向はN―20°―Wである。壁高は確認面から最大高９㎝を測る。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

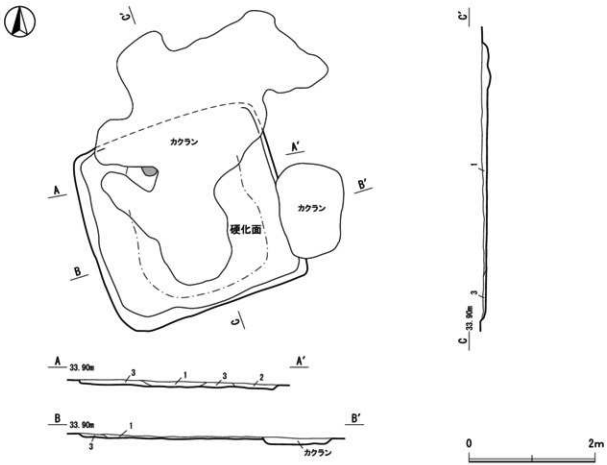
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，北壁部に付設されていたと推測されるが，攪乱により壊されている。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片16点(坏・高台付坏類３，甕類13)。遺物はすべて細片で図化できなかった。

**所見**　床面に硬化した面が広がっていることや，竈構築材である砂質粘土ブロックが確認できたことから住居跡と判断した。遺物の大半は平安時代の産物であるが，すべて細片であり，時期を特定するには至らなかった。




第108図　第69号住居跡実測図

## 第70号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区E35グリッド，標高33.80m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸8.48m，短軸8.24mの方形を呈し，主軸方向はN－0°である。壁高は確認面から最大高14cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土ブロックが含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/1 | 黒 | 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 3/2 | 黒 | 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 | 10YR | 3/4 | 暗 | 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 10YR | 3/4 | 暗 | 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量（壁溝覆土第１層） |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅４～22cmで巡る。断面は逆台形状である。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量（住居跡覆土第６層） |

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは122cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第７層が崩落土と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており，内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。基部の最大幅は約72cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ10cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

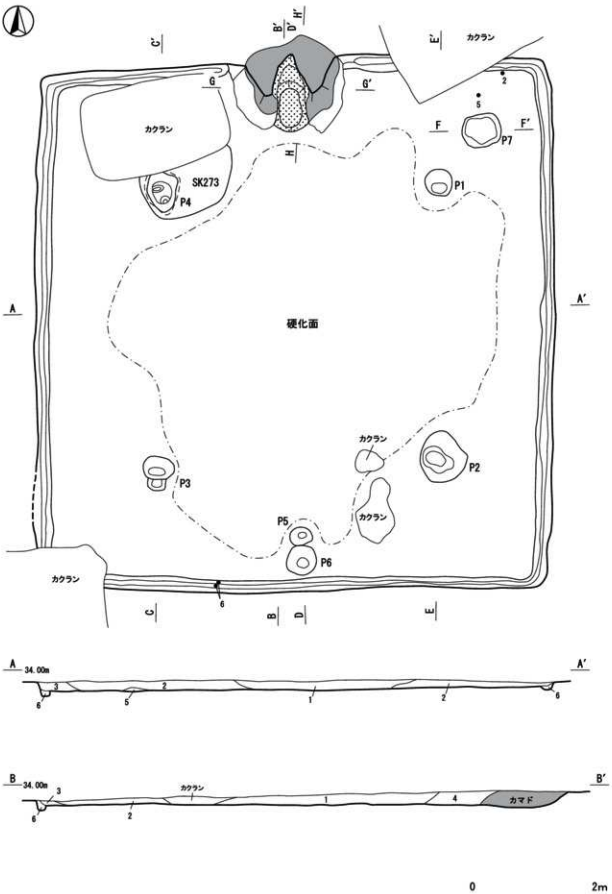
土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 | 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まり弱い |
| 3 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | 色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 5 | 5YR | 4/2 | 灰 | 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 3/2 | 黒 | 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，締まり弱い |
| 7 | 5YR | 4/6 | 赤 | 褐 色：焼土ブロック多量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱く締まりあり |
| 8 | 5YR | 4/2 | 灰 | 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土粒子少量 |
| 9 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり |
| 10 | 5YR | 4/6 | 赤 | 褐 色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い |
| 11 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | 色：焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量 |
| 12 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 13 | 5YR | 4/6 | 赤 | 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量 |

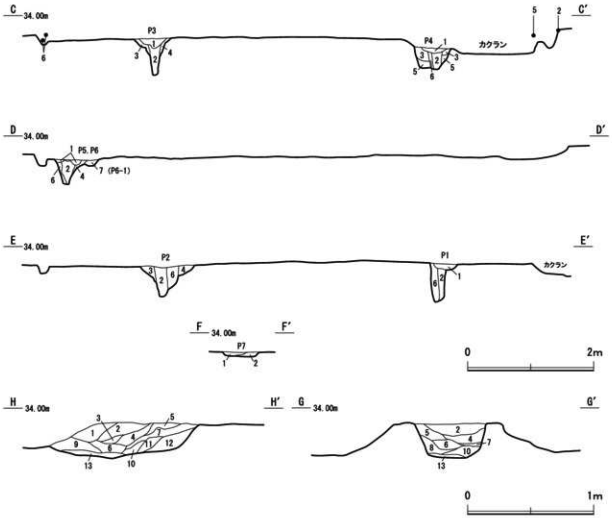
**柱穴**　７ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ４は主柱穴でＰ５は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：41×43cm，深さ60cm，Ｐ２：75×80cm，深さ46cm，Ｐ３：49×54cm，深さ56cm，Ｐ４：52×（62）cm，深さ33cm，Ｐ５：46×48cm，深さ39cm，Ｐ６：28cm×36cm，深さ９cm，Ｐ７：59cm×56cm，深さ６cmである。

Ｐ１～６土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 | 褐 色：炭化粒子少量，締まり弱い（柱抜き取り痕） |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子少量，締まりややあり |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 5 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量 |
| 6 | 10YR | 3/4 | 暗 | 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量 |
| 7 | 10YR | 3/3 | 暗 | 褐 色：ローム粒子微量，鹿沼パミス微量 |




第109図　第70号住居跡実測図（1）




第110図　第70号住居跡実測図（2）

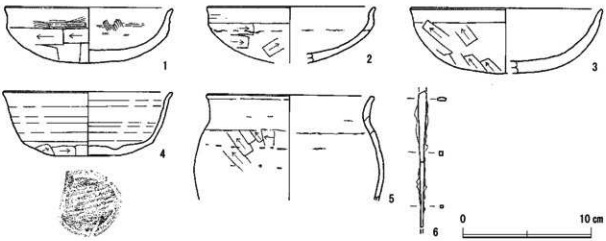
P７土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，締まり弱い

2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い

**遺物出土状況**　須恵器片７点（坏・高台付坏類１，甕類６），土師器片232点（坏・高台付坏類72，甕類160），金属製品１点（不明１）。１・２の土師器坏，４の須恵器坏，５の土師器甕は北東部の床面から出土しており，遺棄されたものと考えられる。また６の鏃は南壁際の覆土下層から出土しており，埋土に混入していたものと考えられる。

**所見**　７世紀代の鬼高様式を引き継ぐ大型住居である。遺物から住居廃絶時期は８世紀初頭と考えられるが，竈の使用頻度の高さから見ても，長期間営まれた住居と推測される。時期は７世紀後葉～８世紀初頭と考えられる。




**第111図　第70号住居跡出土遺物実測図**

**表60　第70号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.2) | 4.4 | － | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | 浅黄橙色 | 口縁部内外面ヘラミガキ，体部～底部外面手持ちヘラ削り | 1区覆土中 | 50% PL51 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (13.2) | 4.4 | － | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り | NO.10 | 50% PL52 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (15.0) | 5.1 | － | 長石，石英，白色粒子 | 明黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り | カマド覆土中 | 40% PL52 |
| 4 | 須恵器 | 坏 | 13.2 | 5.1 | － | 長石，石英，白色粒子，小礫 | 灰白色 | 口縁部・体部ロクロナデ，体部外面下端手持ちヘラ削り，底部ヘラ切り後一方向の粗いヘラナデ | 1区覆土中 | 70% PL52 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (13.0) | (8.2) | － | 石英，金雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，輪積痕 | NO.12 | 10% PL52 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 金属製品（鎌） | (10.8) | 0.2～0.65 | 0.2～0.4 | (8.4) | 鉄 | 鎌先部欠損，茎部断面方形 | NO.35 NO.36 | PL63 |

## 第71号竪穴住居跡

**位置**　第4調査区C4j4グリッド，標高33.90m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.94m，短軸4.81mの方形を呈し，主軸方向はN－75°－Eである。壁高は確認面から最大高10cmを測る。

**重複関係**　単独で位置する。

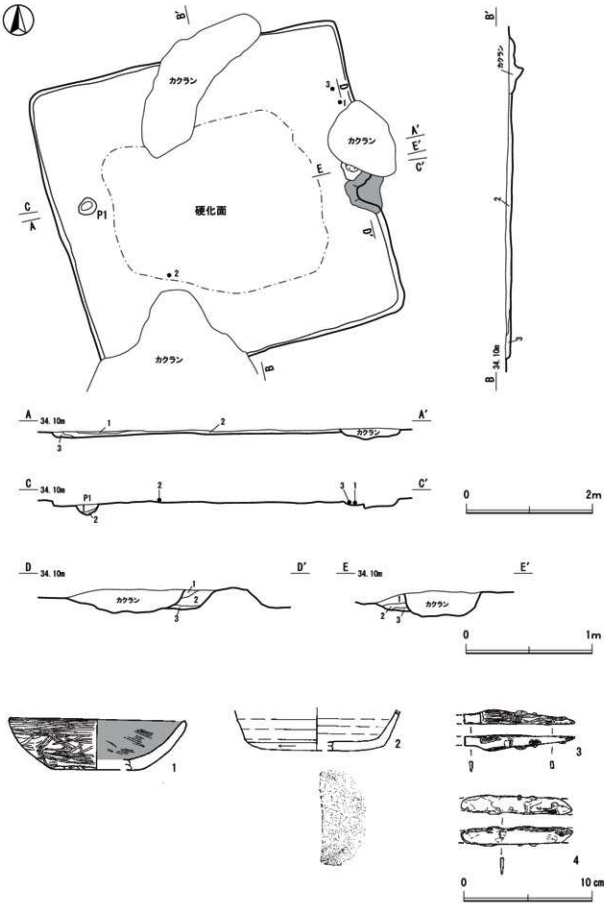
**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかったが，ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示していると推測される。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。




第112図　第71号住居跡・出土遺物実測図

**表61　第71号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.6) | 4.0 | (7.2) | 石英，白雲母，白色粒子，黒色粒子 | 黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内外面ヘラミガキ，体部外面下端手持ちヘラ削り | NO.3 | 40%<br>PL52 |
| 2 | 須恵器 | 坏 | － | (3.3) | (8.4) | 白色粒子，黒色粒子，針状鉱物 | 灰白色 | ロクロナデ，外面下端回転ヘラ削り，底部ヘラ切り後丁寧なナデ | NO.1 | 30%<br>PL52 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 金属製品(刀子) | (8.7) | 0.35～1.4 | 0.2～0.35 | (8.9) | 鉄 | 刃部断面三角形，茎部断面方形，不片付着 | NO.5 | PL63 |
| 4 | 金属製品(刀子) | 8.7 | 1.2 | 0.2 | (8.0) | 鉄 | 刃部断面三角形 | 3区覆土中 | PL63 |

**竈**　北東壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，大半が攪乱により壊されており，詳細は不明である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第１層が崩落土と考えられる。また袖部の遺存状態は非常に悪く，内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量

**柱穴**　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：27×30cm，深さ16cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

**遺物出土状況**　須恵器片10点（坏･高台付坏類８，甕類２），土師器片104点（坏･高台付坏類７，甕類97）。１の土師器坏と３の刀子は，北東部の床面からやや浮いた状態で出土している。また，２の土師器坏は中央部やや南西寄りの覆土中層から，４の刀子は北西部の覆土中から出土している。いずれも住居廃絶後，埋め戻す段階で埋土中に混入あるいは投棄されたものと考えられる。

**所見**　竈の北半分と北部と南部の一部が後世の攪乱で壊され，覆土の層厚が薄く，十分に情報を得ることができなかったが，遺物から時期は７世紀後葉～８世紀前葉と考えられる。

## 第72号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区C4f6グリッド，標高34.00m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が攪乱により壊されており，調査できた範囲は長軸（1.96）m，短軸2.50mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－4°－Eである。壁高は確認面から最大高13cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，粘性・締まりややあり
2　10YR　3/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部から出入口付近までがやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，北壁部に付設されていたと推測されるが，後世の攪乱により壊されている。

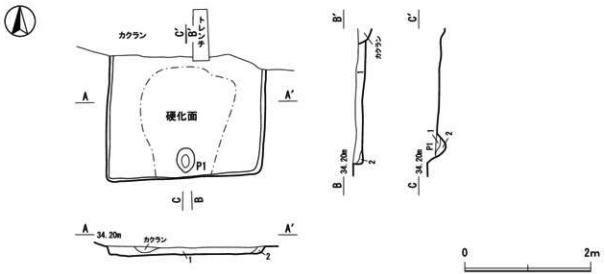
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：29×38cm，深さ16cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　土師器片２点（甕類２）。本跡に伴う遺物は出土していない。

**所見**　竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。なお，出土した２点の土師器甕片は細片で覆土中から確認されたもので，住居廃絶後の埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。時期は特定できなかった。




第113図　第72号住居跡実測図

## 第73号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区C4c2グリッド，標高33.90m地点に位置する。

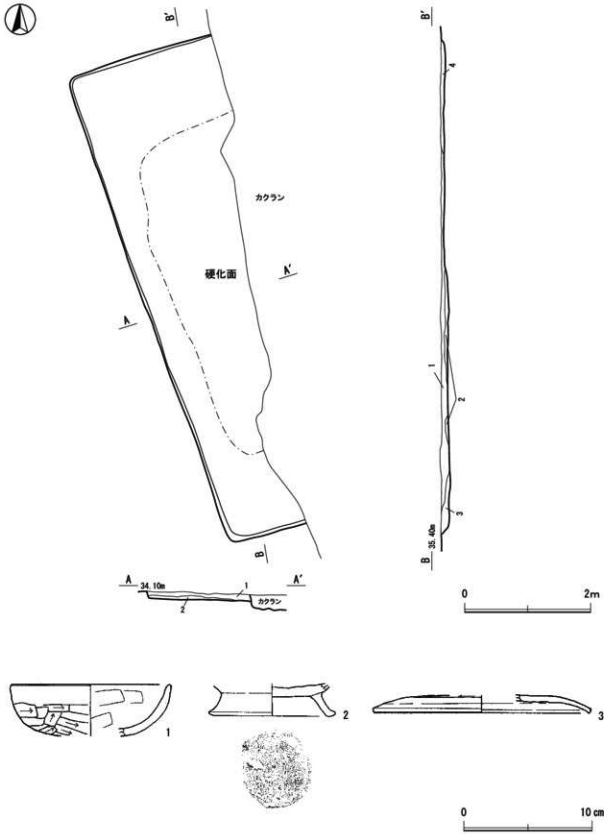
**規模と形状**　長軸（2.37）m，短軸6.80mである。東部が攪乱によって壊されているため明確ではないが，床部の硬化面の範囲から方形または長方形と推定される。壁高は確認面から最大高15cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物微量，炭化粒子少量，締まり弱い
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量




第114図　第73号住居跡・出土遺物実測図

表62　第73号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (12.8) | (4.8) | － | 石英，白雲母，白色粒子 | 明黄褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面～底部ヘラ削り | 4区覆土中 | 40% PL52 |
| 2 | 須恵器 | 高台付坏 | － | (2.6) | 9.4 | 長石，石英，白色粒子，小礫 | 褐灰色 | 底部切り離し後高台貼付，指ナデ | 覆土中 | 20% PL52 |
| 3 | 須恵器 | 蓋 | (16.9) | (1.4) | － | 長石，石英，白雲母，白色粒子 | 黄灰色 | 天井部ヘラ削り，ツマミ部欠損 | 4区覆土中 | 20% PL52 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　遺物から判断して竈を付設している時期ではあるが，遺存範囲からは確認できない。攪乱によって壊されたものと考えられる。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片18点（坏・高台付坏類10，甕類５，蓋３），土師器片133点（坏・高台付坏類16，甕類116，蓋１）。１の土師器坏・３の須恵器蓋は南部の覆土中から，２の須恵器高台付坏は中央部やや南寄りからそれぞれ出土している。なお，２は攪乱部のすぐ西側から確認されており，本跡に伴うかどうか判然とはしなかった。

**所見**　住居跡の南半分以上が攪乱により壊されており，また覆土の層厚が薄いため，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。なお，出土遺物は住居廃絶後の埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものであり，細片が多数を占めており，破片の断面が摩耗している土器も多数見られた。時期は７世紀後葉～８世紀初頭と推測される。

## 第74号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区B4d10グリッド，標高34.80m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸3.03m，短軸2.66mの長方形を呈し，主軸方向はN－６°－Eである。壁高は確認面から最大高15cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第285・310号土坑に，西部を第４号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

**土層**　削平により遺存している土層は２層のみであるが，覆土にロームブロックや炭化粒子が含まれており，人為的な埋没が見られる。

土層解説

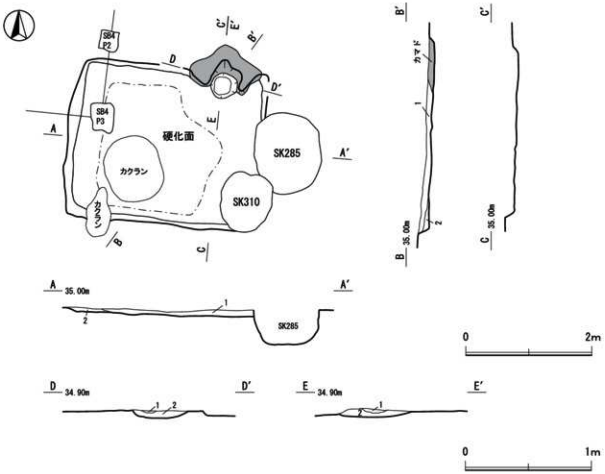
1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量，締まりややあり

2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁部東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは59cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約40cmである。火床部は床面から３cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ20cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。




第115図　第74号住居跡実測図

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，締まりあり

2　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片10点（坏・高台付坏類１，甕類９）。遺物は少なく，いずれも細片であり，図化できなかった。

**所見**　竈は北壁のかなり東に寄った部分に構築されている。当遺跡では９世紀中葉段階から竈の構築位置に多様化が見られる。また，時期を遺物から特定するには至らなかったが，本跡と建物構造が似ている第55号住居跡の廃絶時期が９世紀後葉であることから，同時期に営まれた可能性がある。

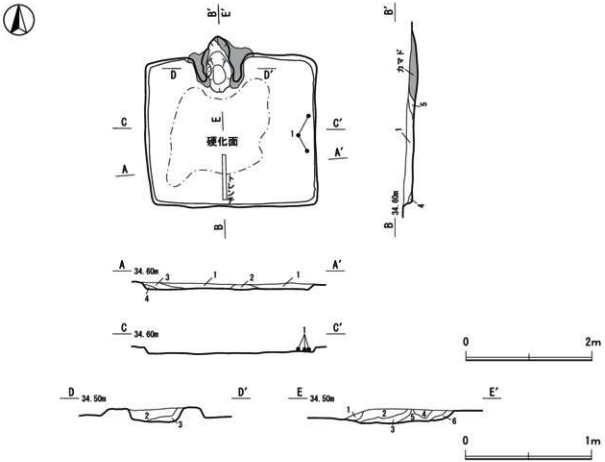
## 第75号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区B4f7グリッド，標高34.40m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸2.68m，短軸2.66mの方形・長方形を呈し，主軸方向はN－０°である。壁高は確認面から最大高13cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。




**第116図　第75号住居跡出土遺物実測図**

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，蕗沼パミス微量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，粘性・締まりややあり
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，締まりあり
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。砂質粘土ブロックが竈前から中央部にかけて広がっている。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは86cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第２層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約30cmである。火床部は床面から４cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ32cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

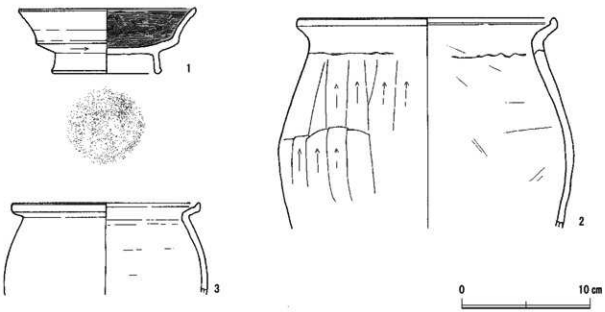
土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
2　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：炭化物微量，炭化粒子少量，締まり弱い
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類３，甕類１），土師器片39点（坏・高台付坏類11，甕類28）。１の土師器坏は東壁際の床面から出土した破片が接合したものである。また２の土師器甕は東部の覆土中から，３の土師器甕は竈内からそれぞれ出土している。なお，床面から多数の礫が確認された。

**所見**　床面から多数の礫が確認されたが，これらは加工痕や擦り痕等，被熱痕等のない自然礫で，いわゆる河原石の類いである。住居廃絶直後に投棄されたと考えられるが，理由は不明である。




**第117図　第75号住居跡出土遺物実測図**

**表63　第75号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.8 | 5.1 | (8.2) | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | にぶい赤褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後高台貼付，ナデ | NO1～3 2区覆土中 | 70% PL52 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (20.2) | (16.5) | － | 石英，白色粒子，赤色粒子，小礫 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面指ナデ | 1区覆土中 2区掘方覆土中 | 30% PL53 |
| 3 | 土師器 | 甕 | (15.2) | [5.7] | － | 石英，金雲母，白色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ | カマド覆土中 | 10% PL53 |

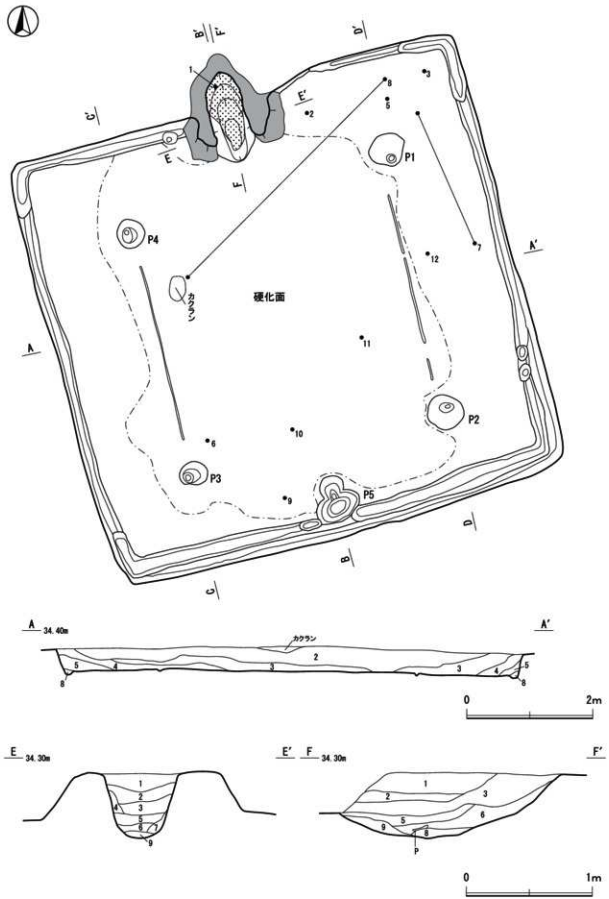
## 第76号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区B4e2グリッド，標高34.20m地点に位置する。

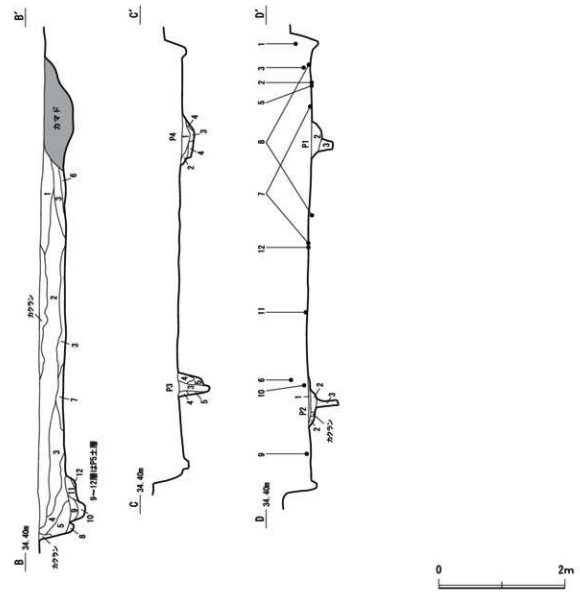
**規模と形状**　長軸7.60m，短軸6.36mの方形を呈し，主軸方向はN―15°―Wである。壁高は確認面から最大高57cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。また第３・６層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。




第118図　第76号住居跡実測図（1）




第119図　第76号住居跡実測図（２）

土層解説

1　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　6/2　灰黄褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量　砂質粘土ブロック多量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，締まりあり
5　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量
7　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量，締まりあり
8　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子少量，締まり弱い（壁溝覆土第１層）
9　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い（Ｐ５覆土第１層）
10　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量（Ｐ５覆土第２層）
11　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，粘性・締まりややあり（Ｐ５覆土第３層）
12　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり（Ｐ５覆土第４層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，柱穴間を結んだかのように，住居空間を仕切った痕跡がみとめられた。

**壁溝**　ほぼ全周し，幅８～20cmで巡る。断面は逆台形状である。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子少量，締まり弱い（住居跡覆土第８層）

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは144cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第３層が崩落土と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており，内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。基部の最大幅は約62cmである。火床部は床面から40cmほど掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は赤変硬化しており，焼土のブロック化がみとめられた。なお，煙道は壁外へ55cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：焼土ブロック微量，炭化物少量，砂質粘土ブロック多量，鹿沼パミス微量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
5　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量，鹿沼パミス少量
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量
7　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い
8　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量
9　10YR　6/1　褐 灰 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量

**柱穴**　５ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ４は主柱穴でＰ５は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：52×60cm，深さ33cm，Ｐ２：55×55cm，深さ46cm，Ｐ３：54×44cm，深さ48cm，Ｐ４：44×49cm，深さ19cm，Ｐ５：64×73cm，深さ22cmである。

**Ｐ１～４土層解説**

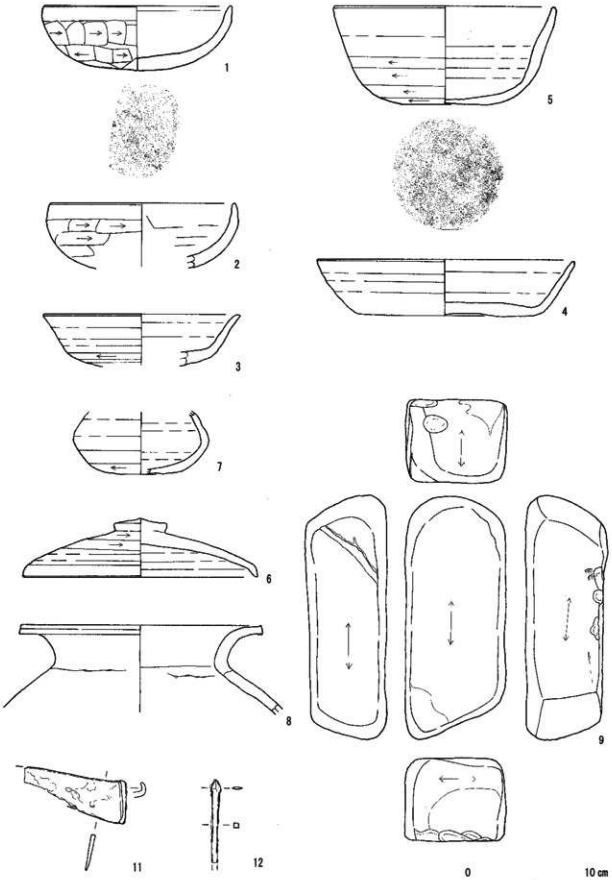
1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量

**Ｐ５土層解説**

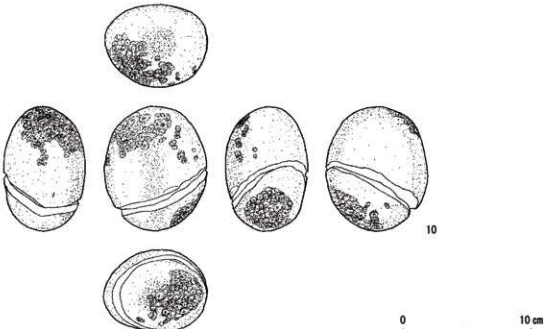
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い（住居跡覆土第９層）
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量（住居跡覆土第１０層）
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，粘性・締まりややあり（住居跡覆土第１１層）
4　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり（住居跡覆土第１２層）

**遺物出土状況**　須恵器片119点（坏・高台付坏類43，甕類55，蓋20，瓶１），土師器片682点（坏・高台付坏類76，甕類606），石製品１点（砥石１），金属製品２点（不明２）。竈前から中央部にかけてと北東部から東壁周辺部にかけての出土が目立つ。１の土師器坏は竈の内壁から，２の土師器坏は北壁中央部やや東寄りの覆土中から，３の須恵器坏は北東部の覆土下層から，６の須恵器蓋は南西部の覆土中層から，それぞれ出土している。７の坩は北東部と東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。９・10の敲石は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。11の鎌は中央部やや南東寄りの床面から出土している。

**所見**　７世紀代の建物構造を引き継ぐ大型住居である。遺物から住居廃絶時期は８世紀初頭と考えられるが，竈の使用頻度の高さから見ても，長期間営まれた住居と推測され，第70号住居跡と同時期に機能していたと考えられる。




第120図　第76号住居跡出土遺物実測図（1）




**第121図　第76号住居跡出土遺物実測図（2）**

**表64　第76号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (15.6) | 5.1 | － | 長石，石英，金雲母，白色粒子，赤色粒子，黒色粒子 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面ヘラ削り． | NO.3 | 60% PL53 |
| 2 | 土師器 | 坏 | [14.6] | (5.0) | － | 石英，白色粒子，赤色粒子 | 橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | NO.12 | 40% PL53 |
| 3 | 須恵器 | 坏 | (15.4) | 3.5 | (7.8) | 長石，石英，白色粒子，小礫 | 灰白色 | ロクロナデ，体部外面下端ヘラ削り | 1区1層覆土中 3区2層覆土中 | 40% PL53 |
| 4 | 須恵器 | 坏 | 20.1 | 4.5 | 14.0 | 石英，金雲母，白色粒子 | 灰白色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後，指ナデ | NO.39 カマド覆土中 | 90% PL53 |
| 5 | 土師器 | 椀 | [17.7] | 7.8 | 8.6 | 長石，石英，黒雲母，白色粒子 | 褐灰色 | 口縁部～体部横ナデ，体部外面回転ヘラ削り，底部切り離し後一方向のヘラ削りナデ | NO.9 | 35% PL53 |
| 6 | 須恵器 | 蓋 | 18.5 | 4.6 | － | 石英，白色粒子，小礫 | 黄灰色 | 天井部ヘラ削り，ツマミは扁平 | NO.33 3区1層覆土中 3区2層覆土中 | 60% PL53 |
| 7 | 須恵器 | 坩 | － | [4.9] | － | 石英，白色粒子 | 灰黄褐色 | ロクロナデ，剥落の為手法不明 | NO.18 NO.23 | 40% PL53 |
| 8 | 須恵器 | 壺 | (18.8) | [6.9] | － | 石英，白色粒子，小礫 | 灰色 | 口縁部横ナデ，頸部～体部外面平行叩き，輪積痕 | NO.8 NO.43 | 10% PL54 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 石器(砥石) | 19.1 | 7.9 | 6.5 | 1959 | 凝灰岩 | 砥面5面，その他は自然面 | NO.31 | |
| 10 | 石器(敲石) | 9.8 | 8.0 | 6.4 | 718 | ホルンフェルス | 両端に敲き痕 | NO.27 | PL54 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 金属製品(鎌) | (8.1) | 3.3 | 0.35 | (25.3) | 鉄 | 刃部断面三角形，柄付部全面折り曲げ | NO.26 | PL63 |
| 12 | 金属製品(鏃ヵ) | (6.5) | 0.5～0.8 | 0.4 | (4.9) | 鉄 | 鏃身部圭頭形？茎部断面方形 | NO.25 | PL63 |

## 第77号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区B4g10グリッド，標高35.00m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.28m，短軸3.64mの方形・長方形を呈し，主軸方向はN―74°―Eである。壁高は確認面から最大高34cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　西部を第284号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 5 | 10YR | 6/1 | 褐 灰 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス中量 |
| 6 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 7 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　東壁際以外で確認でき，幅４～10cmで巡る。断面はU字形状である。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 10YR | 3/3 | 暗 褐 | 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり |

**竈**　東壁中央部やや南寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは56cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを比較的多量に含む第１層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約44cmである。火床部は床面から４cmほど掘りくぼめて構築されており，焼土が厚く堆積している。火床面と推測される面は赤変硬化しており，焼土のブロック化がみとめられた。なお，煙道は壁外へ17cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス少量，締まりあり |
| 2 | 5YR | 4/1 | 褐 灰 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック中量，締まりあり |
| 4 | 5YR | 4/2 | 灰 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック少量 |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

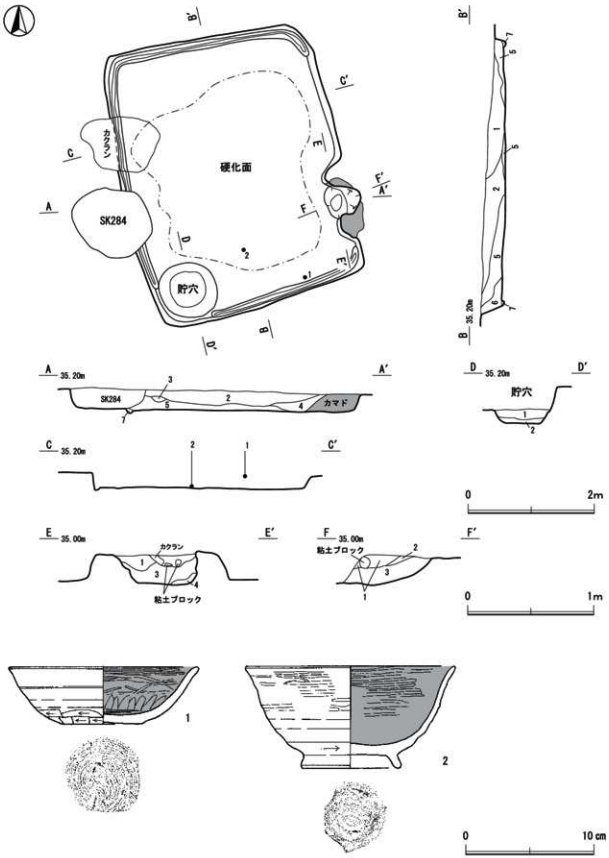
**貯蔵穴**　南西部に付設され，88×88cm，深さ22cmである。底面は平坦で，硬化している部分はなかった。遺物は出土していない。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/2 | 黒 褐 | 色：炭化物中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス微量，締まりあり |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物粒子少量，鹿沼パミス少量 |

**遺物出土状況**　須恵器片４点（甕類４），土師器片69点（坏・高台付坏類23，甕類46）。１の土師器坏は南壁際の覆土中層から，２の土師器高台付坏は中央部やや南寄りの床面から出土している。なお，床面から多数の礫が確認されている。

**所見**　床面と覆土中から多数の礫が確認された。加工痕や擦り痕等のない自然礫である。住居廃絶時に遺棄されたものや廃絶直後に投棄あるいは埋土中に混入したものと推測される。時期は遺物から判断して９世紀後葉から10世紀初頭と考えられる。




第122図　第77号住居跡・出土遺物実測図

表65　第77号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 15.0 | 4.5 | 6.0 | 長石，石英，白色粒子，白雲母 | 灰黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転糸切り後，指ナデ | NO.1 | 90%<br>PL54 |
| 2 | 土師器 | 高台付坏 | (16.4) | 8.0 | (7.7) | 長石，石英，白色粒子 | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内外面ヘラミガキ，底部回転糸切り後，高台貼付，ナデ | NO.2<br>3区覆土中<br>4区覆土中 | 40%<br>PL54 |

## 第78号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区A4j7グリッド，標高34.60m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の大半は削平されており規模は捉えられないが，長軸（2.62）m，短軸（2.00）mの範囲だけを確認し，調査を行った。主軸方向は竈の位置からN―84°―Wと推定できる。壁高は確認面から最大高４cmを測る。

**重複関係**　東部で第311号土坑を掘り込んでいる。

**土層**　層厚が薄く，埋没状況は不明である。

土層解説

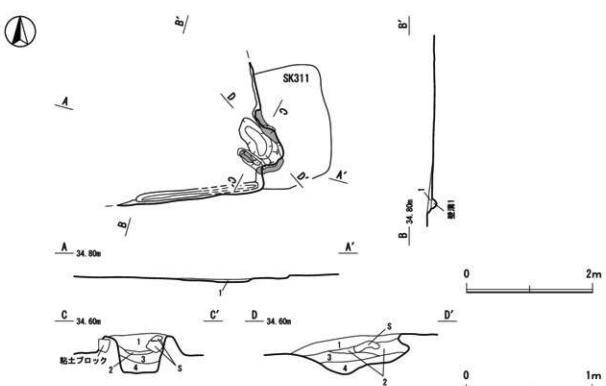
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

**床**　床面は露出あるいは削平されており，情報は得られなかった。

**壁溝**　南壁際で一部確認でき，幅４～５cmである。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量




第123図　第78号住居跡実測図

**竈**　東壁最南部にあり，砂質粘土で構築されているが，上面が削平されている。焚口部から煙道までは［94］cmである。袖部の基部の最大幅は約20cmである。火床部は床面から17cmほど掘りくぼめて火床面としており，赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ35cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして立ち上がる。

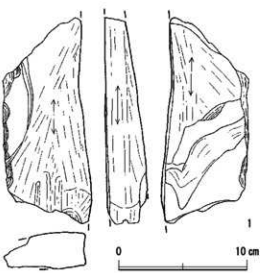
**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片18点（坏・高台付坏類４，甕類14），石製品１点（砥石１）。１の砥石は竈西側の床面から出土している。ほかに土師器片が18点出土しているが，すべて破片である。

**所見**　本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため，十分に情報を得ることができず，時期は不明である。




**第124図　第78号住居跡出土遺物実測図**

**表66　第78号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 石製品(砥石) | (16.3) | 7.5 | 3.0 | 450 | 砂岩 | 砥面３面，その他は自然面 | NO.1 | |

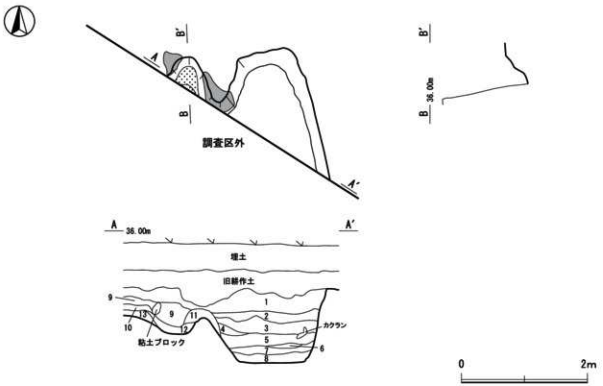
## 第79号竪穴住居跡

**位置**　第４調査区A4h8グリッド，標高35.80m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南半分が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（2.38）m，短軸（2.04）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－7°－Wである。壁高は確認面から最大高110cmを測り，直立・外傾して立ち上がる。

**重複関係**　調査範囲内では単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。




第125図　第79号住居跡実測図

土層解説

1　10YR　4/6　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
4　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス微量，締まりあり
5　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物粒子少量，鹿沼パミス少量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり
7　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，締まりあり
8　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，粘性弱い
9　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量
10　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量
11　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，締まり弱い
12　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い
13　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量

**床**　調査した床の範囲内が狭く，詳細は不明である。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されているが，大半が調査外に位置する。土層断面図中，第9～12層が竈土層である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第・10層が崩落土と考えられる。第12層は袖部の構築土で，基部の最大幅は約（66）cmである。火床部は床面から26cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ26cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量（住居跡第9土層）
2　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量（住居跡第10土層）
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，締まり弱い（住居跡覆土第11土層）
4　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い（住居跡覆土第12土層）
5　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック中量（住居跡覆土第13土層）

**柱穴**　床調査範囲内からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片３点（坏・高台付坏類１，甕類２），土師器片32点（甕類32）。遺物は主に埋土中に混入した破片と推測され，細片が多く図化できなかった。

**所見**　本跡の大半が調査区外へ延びており，十分に情報を得ることができなかった。遺物は細片であり，詳細に時期を把握するには至らなかったが，平安時代に比定されるものと推測される。

### 第81号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区J2a2グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　住居跡東部を第１号地下式坑・第291号土坑に，西部が第294土坑に，南部が後世の攪乱によって壊され不明な点は多いが，長軸（4.33）m，短軸（3.98）mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。主軸方向はN―３°―Wである。壁高は確認面から最大高21cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第１号地下式坑・第２９１号土坑に，西部を第２９４号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。なお，また第４層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で，竈材が流れたものと考えられる。

土層解説

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性弱い |
| 2 | 10YR | 3/2 | 黒褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量，締まりあり |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　遺存した床面からは検出されていない。

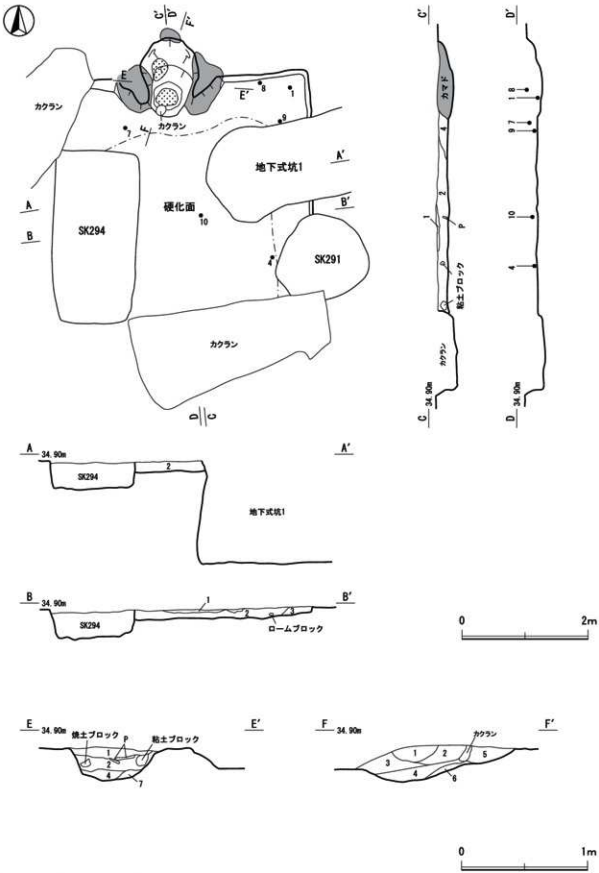
**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは125cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土ブロック化した砂質粘土を含む第２層が崩落土と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており，基部の最大幅は約55cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ48cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

土層解説

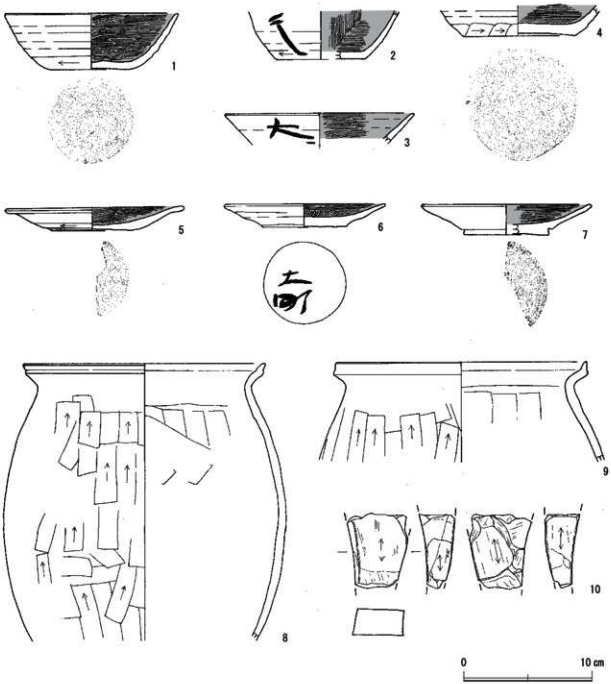
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 2 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量 |
| 3 | 10YR | 4/4 | 褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量 |
| 4 | 5YR | 4/6 | 赤褐色：ローム粒子少量，焼土ブロック中量，炭化粒子微量，締まり弱い |
| 5 | 5YR | 4/2 | 灰褐色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い |
| 6 | 5YR | 3/2 | 暗赤褐色：焼土粒子中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い |
| 7 | 5YR | 4/3 | にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量 |

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片16点（坏・高台付坏類２，甕類11，鉢１，瓶１，蓋１），土師器片518点（坏・高台付坏類68，甕類450），石製品１点（砥石１）。１～４は土師器坏で，１は北東部床面から，２・３は北東部の覆土中から，４は南東部の床面からそれぞれ出土している。５～７は土師器皿で，いずれも北東部の覆土中から出土しており，８・９の土師器甕は北東部と竈内から出




第126図　第81号住居跡実測図




**第127図　第81号住居跡出土遺物実測図**

土した破片が接合したものである。なお，２・３・６は墨書土器で，２は判読不明であるが，３は「大」，６は「土町」と墨書されている。

**所見**　時期は９世紀中～後葉と考えられる。なお，竈の直上から土師器坏が出土しているが，火熱を受けておらず，完形である。また第31・40・52・62・81号住居跡でも同様な状態が見られ，時期も本跡とほぼ一致することから，当該期に竈祭祀儀礼として行われていた可能性がある。

**表67　第81号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.6 | 4.4 | 6.4 | 石英，白色粒子，赤色粒子 | 明黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後，指ナデ | NO.1 | 80% PL54 |
| 2 | 土師器 | 坏 | － | 〔3.7〕 | 〔7.0〕 | 石英，白色粒子 | にぶい赤褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 1区覆土中 | 10%　墨書「□」PL62 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 〔14.8〕 | 〔2.4〕 | － | 白色粒子，赤色粒子 | 明黄褐色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 1区覆土中 | 5%　墨書「□」PL62 |
| 4 | 土師器 | 坏 | － | 〔2.4〕 | 8.8 | 長石，石英，金雲母，白色粒子 | にぶい橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，ナデ | NO.5 | 40% PL54 |
| 5 | 土師器 | 皿 | 13.9 | 1.9 | 6.3 | 石英，黒雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 1区覆土中 | 50% PL54 |
| 6 | 土師器 | 皿 | 〔12.5〕 | 1.8 | 6.6 | 石英，白色粒子 | 橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 1区覆土中 | 30%　墨書「上町」PL62 |
| 7 | 土師器 | 皿 | 〔13.2〕 | 2.4 | 〔6.6〕 | 石英，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | NO.6 | 20% PL54 |
| 8 | 土師器 | 甕 | 〔18.8〕 | 〔21.8〕 | － | 石英，長石，白雲母，赤色粒子，黒雲母 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面ヘラナデ，体部外面縦位のヘラナデ，下端ヘラ削り | NO.3 カマド覆土中 | 15% PL54 |
| 9 | 土師器 | 甕 | 19.7 | 〔7.8〕 | － | 長石，石英，白色粒子，黒色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面ヘラナデ | NO.2 カマド覆土中 | 10% PL55 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 石製品（紡石） | 〔5.6〕 | 4.3 | 2.1 | 〔92.3〕 | 凝灰岩 | 紡面4面，規格性有り | NO.11 | PL55 |

## 第82号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区J1a10グリッド，標高34.80m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸2.85m，短軸2.61mの方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高９cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部を第97号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

**土層解説**

1　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/2　黒褐色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量

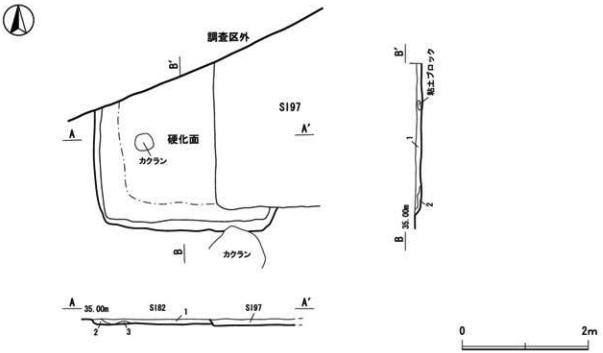
**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，調査区外にある北壁部に付設されていたと推測される。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１），土師器片22点（坏・高台付坏類１，甕類21）。遺物の大半は土師器甕の破片で，覆土中から出土している。

**所見**　本跡の北部が調査区外にあり東部を第97号住居跡に掘り込まれていることから，十分な情報を得ることができず，遺物も少なく大半が土師器甕の破片であるため，詳細は不明である。しかし，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。




第128図　第82号住居跡実測図

## 第83号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2i2グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.90m，短軸4.82mの方形を呈し，主軸方向はN―13°―Eである。壁高は確認面から最大高18cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南西部を第85・86号住居跡に，東部を第291号土坑に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

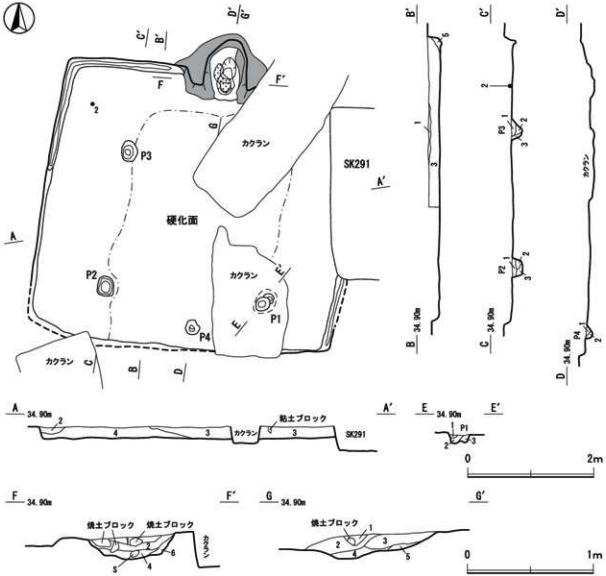
土層解説

1　10YR　3/1　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，締まりあり
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック微量
5　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，粘性・締まりややあり

**床**　ほぼ平坦で，竈前面部から出入口ピット周辺部にかけてよく硬化している。竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが竈前部の床面に飛散していた。

**壁溝**　東壁際と西壁コーナー際で幅16 ～ 36cmで巡っている。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは140cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１層が崩落土と考えられる。第２層内の焼土ブロックは袖部の内壁と推測され，基部の最大幅は約35cmである。火床部は床面から7.5cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ89cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。




第129図　第83号住居跡実測図

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，鹿沼パミス少量
2　5YR　3/3　暗赤褐色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量，締まり弱い
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
4　5YR　3/4　暗赤褐色：ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量，締まり弱い
5　5YR　3/2　暗赤褐色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック中量，締まり弱い
6　5YR　3/3　暗赤褐色：ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量

**柱穴**　４ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ３は主柱穴でＰ４は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：14×34cm，深さ13cm，Ｐ２：26×32cm，深さ15cm，Ｐ３：24×33cm，深さ16cm，Ｐ４：20×23cm，深さ10cmである。

Ｐ１～３土層解説

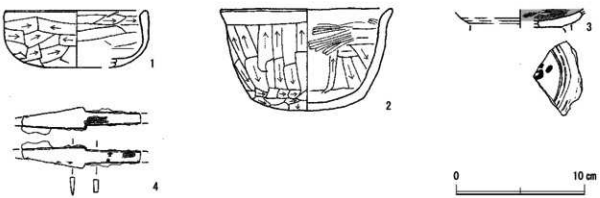
1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まりややあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，締まり弱い

Ｐ４土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，鹿沼パミス微量

**遺物出土状況**　須恵器片11点（坏・高台付坏類５，甕類４，蓋２），土師器片115点（坏・高台付坏類32，甕類78，皿５），金属製品１点（刀子１）。１の土師器塊は南東部，２の土師器塊は北西部，３の土師器坏は南東部，４の刀子は北西部のそれぞれ覆土中から出土している。３のように後世の攪乱により混入したものや，住居廃絶後の埋戻しの段階で埋土に混入したものが多く，様々な時代の土器が混在している。なお，３は墨書土器であるが，判読不明である。

**所見**　本跡は遺構確認時，プランを明確に把握できず，重複している第55・56号住居跡の重複部分を壊してしまう結果となってしまった。また，住居廃絶後に投棄あるいは埋土に混入した遺物が多く，時期を判断するのに苦慮したが，最も新しい土器が第86号住居跡に帰属すると想定し，時期を７世紀中～後葉と推測した。




**第130図　第83号住居跡出土遺物実測図**

**表68　第83号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (11.2) | (4.5) | － | 長石，石英，金雲母，白色粒子，赤色粒子 | 黒色 | 体部内面ヘラナデ，体部外面～底部ヘラ削り | 2区覆土中 | 30% |
| 2 | 土師器 | 塊 | 13.4 | 7.9 | － | 白雲母，白色粒子，赤色粒子，小礫 | 黄橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部～底部内外面ヘラ削り | NO.1 | 70% PL.55 |
| 3 | 土師器 | 坏 | － | (1.5) | (6.2) | 白色粒子，黒色粒子，針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ，底部高台部欠損 | 2区覆土中 | 10%　墨書 [□] PL.62 |

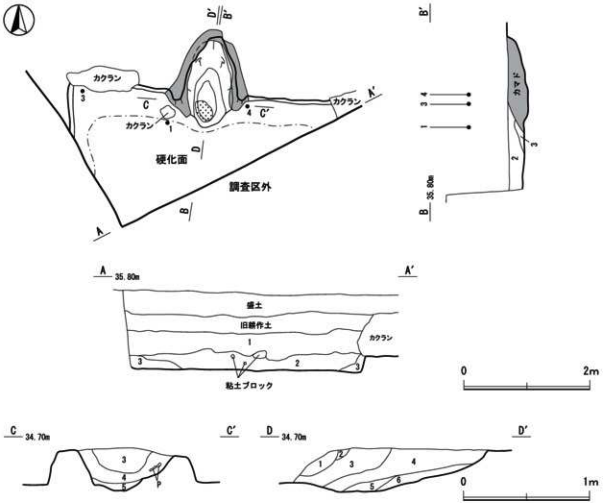
| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 金属製品(刀子) | (9.35) | 1.75 | 0.45 | (17.4) | 鉄 | 切先欠損，刃部断面三角形，茎部断面方形 | 4区覆土中 | PL.63 |

## 第84号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2h6グリッド，標高35.60m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の大半が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（3.00）m，短軸（4.27）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN―０°である。壁高は確認面から最大高58cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　調査範囲内では単独で位置する。




第131図　第84号住居跡実測図

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化物少量，締まりあり

**床**　ほぼ平坦で，竈前面が硬化している。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは140cmである。袖部の基部の最大幅は約35cmである。最終火床面は第5層上面であるが，床面から7.5cmほど掘りくぼめた面で竈構築時の火床面も確認された。いずれも火熱を受けて赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ89cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

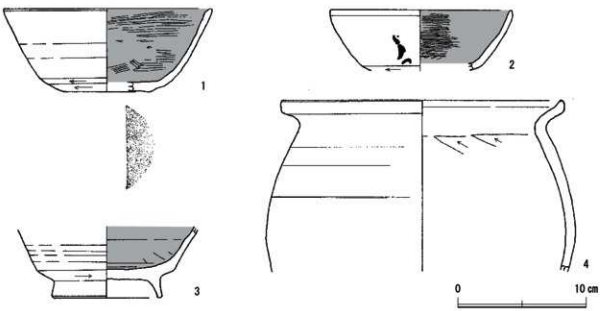
土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　5YR　4/3　にぶい褐色：焼土ブロック多量，炭化物微量
6　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック微量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片５点（坏・高台付坏類２，甕類１，瓶２），土師器片288点（坏・高台付坏類19，甕類268，甑１）１の土師器坏は竈西袖部際の床面から，２の土師器坏は西部の覆土中から，３の土師器高台付坏は北西部の床面から，それぞれ出土している。また，４の土師器甕は竈東袖部の東側から出土した破片と東部覆土中の破片が接合したものである。なお，２は墨書されているが，判読不明である。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかった。時期は，床面から確認された遺物の大半が９世紀前～中葉に比定できることから当該期に廃絶された住居跡と考えられる。




**第132図　第84号住居跡出土遺物実測図**

**表69　第84号住居跡出土遺物観察表**

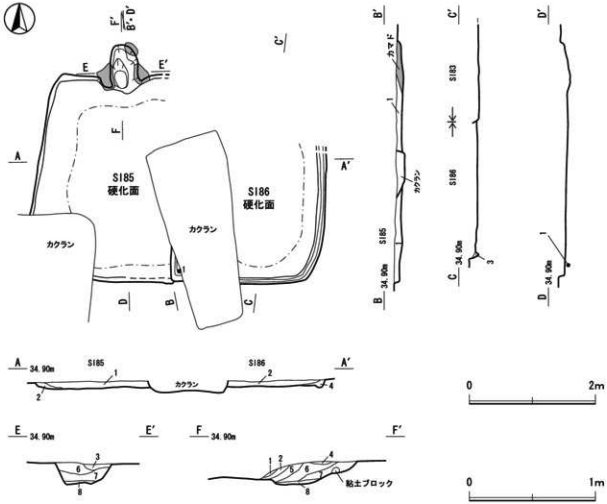
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (16.3) | 6.5 | (7.0) | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | 明黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り | NO.6 | 40% PL.55 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (14.1) | (4.7) | － | 石英，白色粒子，赤色粒子 | 明黄褐色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 2区覆土中 | 10% 墨書 [□] PL.62 |
| 3 | 土師器 | 高台付坏 | － | (5.5) | 8.3 | 長石，石英，白雲母，白色粒子，黒色粒子 | 橙色 | 内面黒色処理，底部切り離し後指ナデ | NO.1 | 70% PL.55 |
| 4 | 土師器 | 甕 | 21.8 | (13.5) | － | 長石，石英，黒雲母，金雲母，白色粒子，小礫 | 橙色 | 口縁部横ナデ，体部外面横位のヘラナデ，内面ヘラナデ | NO.11 1区覆土中 | 40% PL.55 |

## 第85号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2h4グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　北東部で第83号住居跡を掘り込み，東部を第86号住居跡に掘り込まれている。長軸3.72m，短軸（2.42）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－6°－Eである。壁高は確認面から最大高10cmを測る。壁の傾斜は判断できなかった。

**重複関係**　北東部で第83号住居跡を掘り込み，東部を86号住居跡に掘り込まれている。




第133図　第85・86号住居跡実測図

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

**土層解説**

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは77cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第６層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約27cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ49cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

**土層解説**

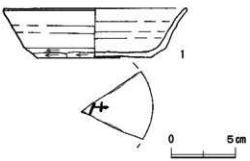
1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　10YR　4/4　褐　　色：焼土ブロック少量，炭化物多量，炭化粒子多量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子少量
4　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量
5　10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子ブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
6　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，炭化物少量，炭化粒子少量

7　10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり
8　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏・高台付坏類１，甕類１），土師器片31点（坏・高台付坏類７，甕類24）。１の須恵器坏は北東部の床面から，やや浮いた状態で出土している。

**所見**　覆土の層厚が薄く，一部床面が露出している状態であり，十分な情報を得ることができなかった。時期は，遺物が少なく判然としないが，８世紀中～後葉と推測される。




**第134図　第85号住居跡出土遺物実測図**

**表70　第85号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | (14.4) | 3.8 | (9.0) | 白色粒子，針状鉱物 | 灰色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 1区覆土中 | 10% PL55 |

## 第86号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2i4グリッド，標高34.70m地点に位置する。

**規模と形状**　東部で第83号住居跡を，西部で第85号住居跡を掘り込んでいる。調査できた範囲は長軸3.7m，短軸2.40mの長方形である。壁高は確認面から最大高10cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部で第83号住居跡を，西部で第８５号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

**土層解説**

1　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
3　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量（壁溝覆土第１層）
4　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，粘性・締まりややあり

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　遺存部では全範囲で確認でき，幅６～14cmで巡る。断面はU字形状である。

**土層解説**

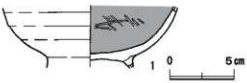
1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量（住居跡覆土第３層）

**竈**　検出されなかった。竈構築材である砂質粘土ブロックの出土も見られなかった。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（甕類１点），土師器片18点（坏・高台付坏類２点，甕類16点）。１の土師器坏は南西コーナー部の床面からやや浮いた状態で確認された。

**所見**　硬化した床面が確認されたため，住居としたが，竈の検出もないため，竪穴状遺構の可能性もある。また，遺物の出土数が少なく大半が細片であるため，時期を断定することはできなかった。




**第135図　第86号住居跡出土遺物実測図**

**表71　第86号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | － | (5.0) | － | 長石，石英，白色粒子，黒色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | NO.1 | 40% PL55 |

## 第87号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区K2a2グリッド，標高34.90m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の南東部分が調査区外へと延びているため調査できた範囲は長軸3.32m，短軸（1.82）mで方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN―47°―Eである。壁高は確認面から最大高16cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　竈北袖部を第296号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量（壁溝覆土第１層）
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

**壁溝**　南西壁際で幅６～12cmで巡る。断面はU字形状である。

土層解説

3　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量（住居跡覆土第３層）

**竈**　北東壁部にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは67cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土化した砂質粘土ブロックを含む第１～３層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約43cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としているが，硬化はしていない。なお，煙道は壁外へ54cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

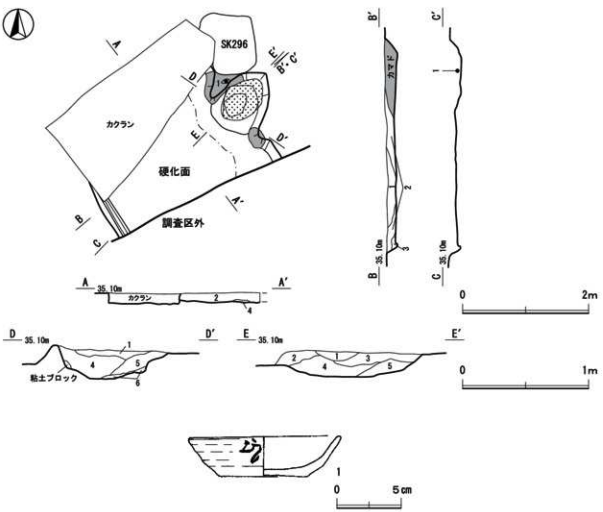
土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
2　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性あり，締まり弱い
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり，締まり弱い
5　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性・締まりともに弱い
6　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック中量，焼土粒子中量，炭化粒子微量，粘性弱く締まりあり

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片４点（坏・高台付坏類１，甕類３）。１の土師器坏は竈の北袖部際と南部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

**所見**　南部が調査区外へと延びており，北部が攪乱によって壊されているため，十分に情報を得ることができなかった。時期は，遺物が９世紀後葉に比定できることから当該期に廃絶された住居跡と考えられる。




第136図　第87号住居跡・出土遺物実測図

表72　第87号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 11.8 | 3.0 | 7.0 | 石英，金雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | ロクロナデ，底部回転糸切り後，指ナデ | NO.1 2区覆土中 | 80% PL55 |

### 第88号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区J16グリッド，標高36.20m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の北部が調査区外にあり，東部が後世の攪乱により壊されているため，調査できた範囲は長軸（1.74）m，短軸（1.12）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高32cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　調査した範囲内では単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

土層解説

1　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子少量，粘性・締まりややあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。また，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが散見された。

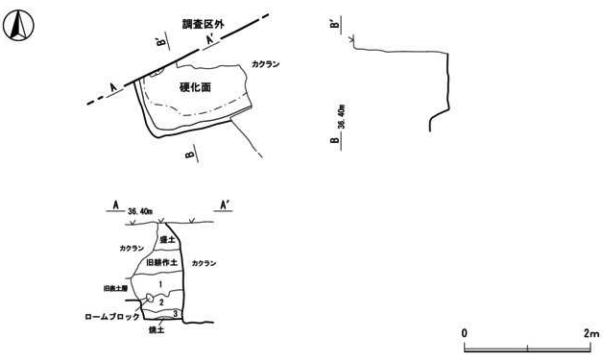
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　調査範囲内では検出されていないが，床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることや出土した遺物の時期から，竈は調査区外に延びた部分に付設されていると推測される。

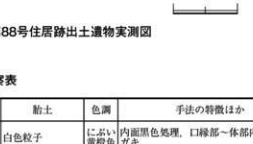
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片３点（甕類３），土師器片８点（坏・高台付坏類３，甕類５）。１の土師器坏は，覆土中から出土したものである。判読不明だが，体部外面に墨痕がみとめられる。

**所見**　南部が調査区外へと延びており，調査面積は小さいが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると想定し調査を行った。時期は断定できないが，９世紀後葉に比定できる遺物が多いことから，当該期に廃絶された住居跡の可能性がある。




第137図　第88号住居跡実測図




第138図　第88号住居跡出土遺物実測図

表73　第88号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (14.4) | (2.4) | － | 白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ | 覆土中 | 5%　墨書「□」 PL62 |

## 第89号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区K1b10グリッド，標高34.90m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸4.02m，短軸3.70mの方形・長方形を呈し，主軸方向はN－8°－Eである。壁高は確認面から最大高18cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部で第90号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第３層のロームブロックは，壁部崩落土と推測される。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い（カマド覆土第１層）
5　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，締まり弱い（カマド覆土第２層）

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，大半を後世の攪乱により壊されている。調査できた範囲は火床部の一部と煙道である。第２層内の焼土ブロックは赤く焼きしめられた煙道の内壁である。なお，煙道は壁外へ［52］cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

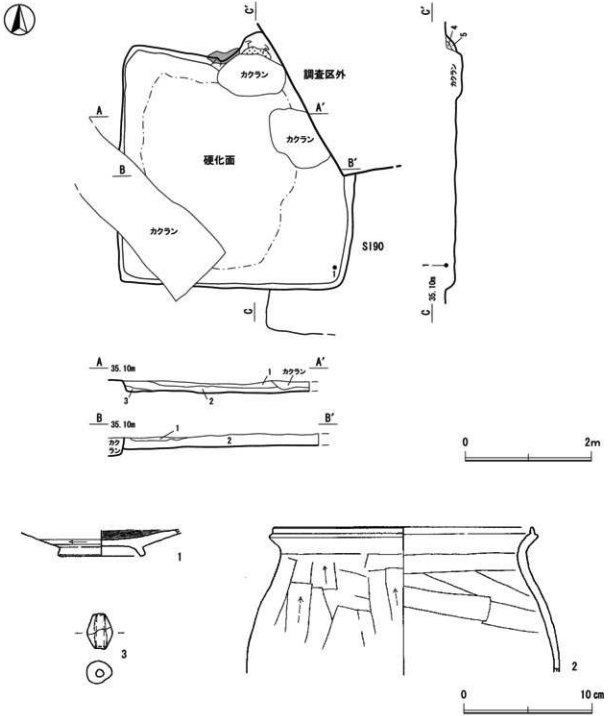
土層解説

1　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子少量，締まり弱い（住居跡覆土第４層）
2　5YR　3/3　暗赤褐色：焼土ブロック少量，炭化粒子少量，締まり弱い（住居跡覆土第５層）

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類１），土師器片50点（坏・高台付坏類１・甕類49），土製品１点（管状土錘１）。１の土師器高台付皿は南東部の覆土中から，２の土師器甕は北東部の覆土中からいずれも出土している。３の管状土錘は覆土中から確認されており，住居廃絶後，埋め戻しの段階で埋土に混入したものと考えられる。

**所見**　重複する第90号住居跡とは規模や形状が酷似しており，建て替えの可能性を視野に入れて調査を行った。第90号住居跡は遺物の出土が若干数で時期を特定できず，建て替えの可能性は残るものの断定には至らなかった。なお，時期は，出土遺物は少ないものの，９世紀後葉段階の遺物が出土しており，当該期に廃絶された住居の可能性が示唆される。




第139図　第89号住居跡・出土遺物実測図

表74　第89号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付皿 | － | (2.1) | (6.2) | 長石，石英，白色粒子，赤色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，体部内面ヘラミガキ | 2区覆土中 | 60% PL55 |
| 2 | 土師器 | 甕 | (20.3) | (11.5) | － | 石英，金雲母，白色粒子，赤色粒子 | 明赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内面指頭痕 | 1区覆土中 掘り方2区覆土中 | 30% PL56 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 土製品(須恵土師) | 2.7 | 2.0 | 0.6 | 9.4 | 金雲母・黒色粒子 | 算盤状 | NO.1 | PL56 |

### 第90号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区K2d1グリッド，標高34.90m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外に延びており，後世の攪乱で北東部と南部が壊され，西部を第89号住居跡に掘り込まれているため調査できた範囲は長軸（2.82）m，短軸3.74mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高14cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　西部を第89号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 5YR | 4/2 | 灰褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量 |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

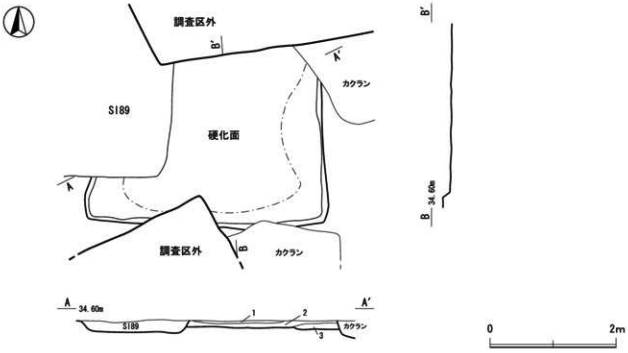
**壁溝**　検出されていない。

**竈**　床面に広がる竈構築材の範囲から，東壁部の調査区外部分に付設されていたと推測される。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類２，甕類２），土師器片８点（坏・高台付坏類１，甕類７）。床面から確認された遺物はなく，いずれの土器も細片で，図化できなかった。

**所見**　竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると想定し調査を行った。しかし，遺物出土数は少なくいずれも細片であるため，時期を特定するには至らなかった。




第140図　第90号住居跡実測図

### 第91号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2c3グリッド，標高34.40m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡の北部と南部が調査区外へ延びており，調査できた範囲は長軸（4.10）m，短軸（2.80）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高32cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南東部を第100号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |
| 2 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い |

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

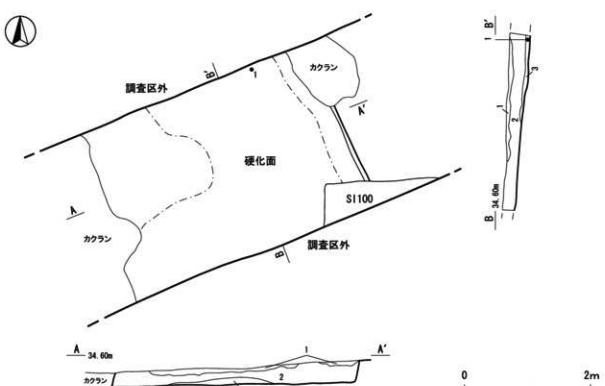
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。

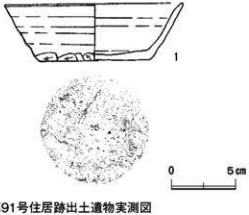
**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片４点（坏・高台付坏類１，甕類３），土師器片16点（甕類16）。１の須恵器坏は北東部の床面から潰された状態で確認された。

**所見**　北部と南部が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。時期は遺物が少なく断定できないものの，８世紀中～後葉と推測される。




第141図　第91号住居跡実測図




第142図　第91号住居跡出土遺物実測図

表75　第91号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | 14.0 | 4.5 | 8.6 | 石英，金雲母，白雲母，白色粒子 | 褐灰色 | 口縁部～体部ロクロナデ，体部外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，ナデ | NO.1 | 80% PL56 |

## 第92号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区H2h4グリッド，標高34.20m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸（2.86）m，短軸2.86mの方形を呈し，主軸方向はN－0°である。壁高は確認面から最大高20cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　第１層はロームブロック主体の層で厚く堆積しており，住居廃絶後の一括投棄と考えられる。なお，第２層のロームブロックは，壁部崩落土である。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロッ中量，炭化物微量，鹿沼パミス微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

**壁溝**　検出されていない。

**竈**　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは（68）cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１層が崩落土と考えられる。また袖部はロームブロックを芯材としており，基部の最大幅は約32cmである。火床部は床面から６cmほど掘りくぼめて火床面としているが，火熱を受けて赤変していたが，はっきりとした硬化はみとめられなかった。なお，煙道は壁外へ27cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　4/6　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
3　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，粘性あり
4　5YR　4/3　にぶい赤褐色：焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
5　5YR　3/4　暗赤褐色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物少量，炭化粒子少量，締まり弱い
6　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック多量，締まりあり

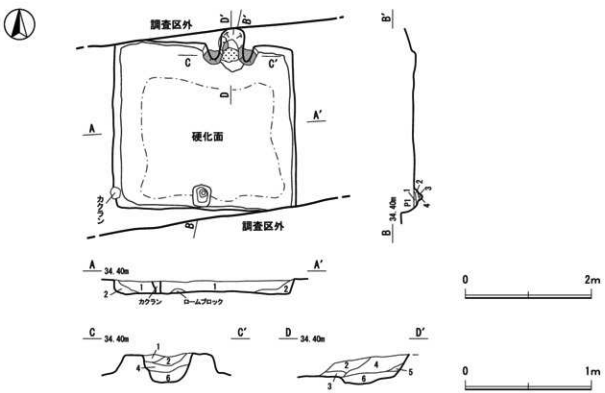
**柱穴**　1ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：28×34cm，深さ12cmである。

**Ｐ１土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　3/4　暗 褐 色：炭化物微量，炭化粒子少量，締まり弱い
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況**　須恵器片４点（甕類４），土師器片71点（坏・高台付坏類３，甕類68）。出土数は少なく，大半は土師器甕片である。覆土中から出土した須恵器片は断面が摩耗しており，住居廃絶後の埋め戻しの段階で埋土に混入したものと推測される。

**所見**　時期は，出土遺物が少なく特定するだけの根拠に乏しいが，床上に主柱を持たない建物構造であることや，土師器甕の破片が常総甕であることから，８～９世紀の住居と想定した。




第143図　第92号住居跡出土遺物実測図

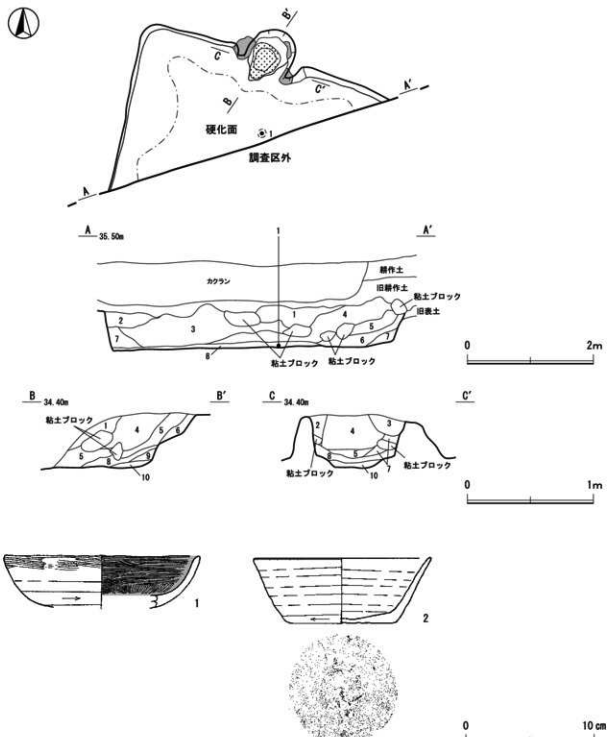
## 第93号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区H2b6グリッド，標高35.30m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南東部分が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸(3.26)m，短軸（3.94）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－20°－Eである。壁高は確認面から最大高60cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ブロック状の堆積状況を示しているため人為堆積と考えられる。




第144図　第93号住居跡・出土遺物実測図

表76　第93号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (15.2) | 4.0 | − | 黒雲母，白色粒子，黒色粒子，赤色粒子 | 浅黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部〜体部内面ヘラミガキ | 覆土中 | 40% PL56 |
| 2 | 須恵器 | 坏 | 13.8 | 5.2 | 8.9 | 長石，白色粒子，針状鉱物 | 灰色 | 口縁部〜体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後，指ナデ | NO.1 | 95% PL56 |

土層解説

1　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，締まりあり
3　10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
4　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，炭化物微量
5　10YR　3/3　暗褐色：焼土粒子微量，炭化粒子微量，締まり弱い
6　10YR　3/2　黒褐色：ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
8　10YR　3/3　暗褐色：焼土ブロック微量，砂質粘土ブロック微量，粘性弱い

**床**　ほぼ平坦で，竈前面がよく踏み固められている。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　北東壁中央部やや西寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは94cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多量に含む第４層が崩落土と考えられる。また袖部の基部の最大幅は約32cmである。火床部は床面と同レベルであり，ゴツゴツと赤く硬化している。なお，煙道は壁外へ44cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，締まりあり
2　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量
5　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
6　10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱く締まりあり
7　5YR　4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック少量，締まり弱い
8　5YR　3/2　暗赤褐色：焼土粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
9　5YR　5/4　にぶい赤褐色：焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，締まりややあり
10　5YR　4/6　赤 褐 色：焼土ブロック少量，焼土粒子中量，炭化物微量，炭化粒子少量

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片１点（坏・高台付坏類１），土師器37点（坏・高台付坏類３，甕類31，鉢３）。１の土師器坏は覆土下層から，２の須恵器坏は竈前の床面からそれぞれ出土している。

**所見**　住居跡の南半分が調査区外へ延びており，十分に情報を得ることができなかったが，時期は坏の形状から，８世紀後葉と考えられる。

## 第94号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区G2i7グリッド，標高34.10m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡南部が調査区外に延び，北部が第96号住居跡に掘り込まれているため，調査できた範囲は長軸（2.68）m，短軸3.30mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高８cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部を第96号住居跡に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況が看取される。

土層解説

1　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
3　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
4　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

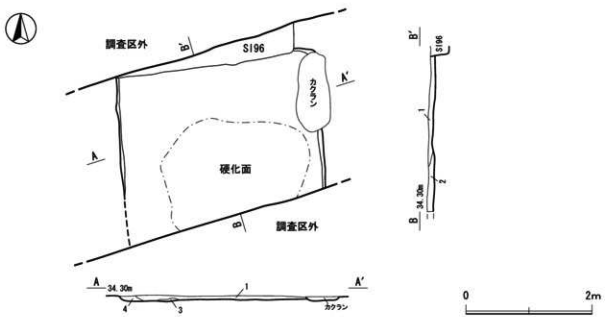
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土師器片10点（甕類10）。遺物はすべて土師器甕の細片のため図化できなかったが，覆土中から出土したものである。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。時期は特定できる遺物がなく，不明である。




第145図　第94号住居跡実測図

## 第95号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2g1グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　本跡北半分が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（2.30）m，短軸4.68mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高74cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　調査できた範囲内では単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1　10YR　4/6　褐　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
2　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，粘性・締まりややあり
3　5YR　4/2　灰 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量
4　10YR　4/2　灰黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。なお，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが北部で散見された。

**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。

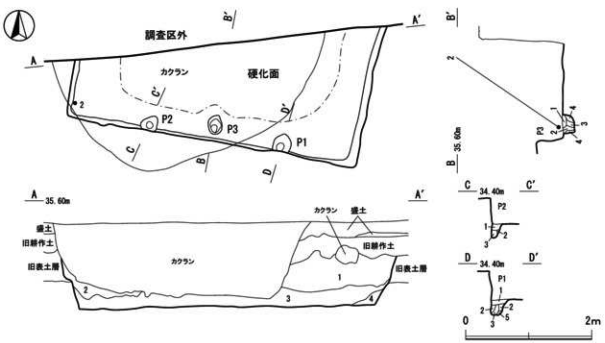
**柱穴**　３ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性が高く，Ｐ３は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：28×28cm，深さ24cm，Ｐ２：26×26cm，深さ20cm，Ｐ３：22×30cm，深さ18cmである。

**Ｐ１・２土層解説**

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まり弱い
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
4　10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり
5　10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量

**遺物出土状況**　須恵器片３点（坏・高台付坏類１，甕類１，蓋１），土師器片30点（坏・高台付坏類27，甕類３），石製品１点（砥石１）。１の須恵器坏は南西部の床面から，２の砥石は覆土中から出土している。

**所見**　北半分が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。なお，壁部に主柱穴をもつ建物構造であると考えられるが，当遺跡では第66号住居跡が同様の構造を持っている。時期は，８世紀前～中葉と考えられる。

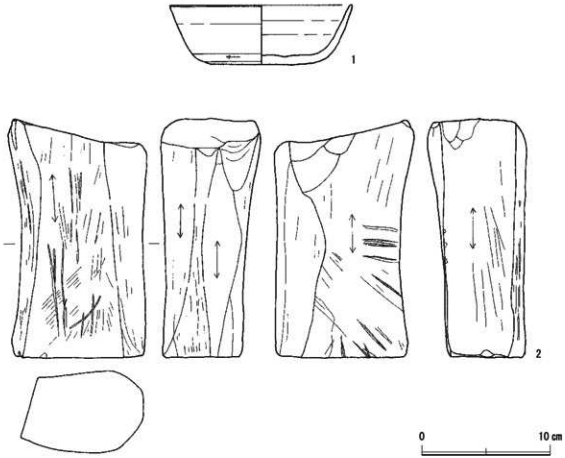



第146図　第95号住居跡実測図

表77　第95号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | (14.2) | 4.7 | 7.8 | 石英，黒雲母，白色粒子 | 灰白色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 1区覆土中 | 35% PL56 |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 石製品(砥石) | (18.8) | 11.0 | 6.5 | 2185 | 砂岩 | 砥面５面，その他は自然面 | NO.1 | PL56 |




第147図　第95号住居跡出土遺物実測図

## 第96号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区G2i6グリッド，標高35.40m地点に位置する。

**規模と形状**　大半が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（0.92）m，短軸3.32mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高64cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

**重複関係**　南部で第94号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量 |
| 2 | 10YR | 4/6 | 褐 | 色：ローム粒子少量，鹿沼パミス少量 |
| 3 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い |
| 4 | 10YR | 4/4 | 褐 | 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，粘性・締まりややあり |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | 色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量 |

**床**　調査範囲が狭く，詳細は不明であるが，硬化した部分は確認できた。

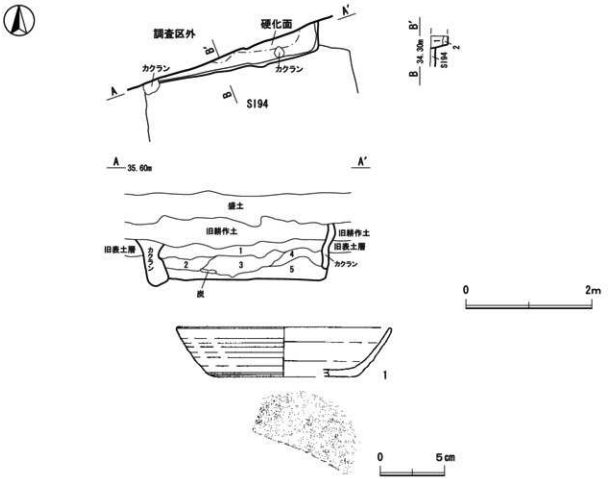
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片２点（坏･高台付坏類２），土師器片10点（坏･高台付坏類１，甕類９）。１の須恵器坏は東部の覆土中から出土している。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが床面から一部確認されたことや，床の一部が硬化していたことなどから，住居であると判断した。時期は，特定できる遺物がなく不明である。




**第148図　第96号住居跡・出土遺物実測図**

**表78　第96号住居跡出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 坏 | 〔16.7〕 | 3.8 | 〔11.0〕 | 白色粒子，針状鉱物 | 灰色 | 口縁部～体部ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 覆土中 | 30%<br>PL56 |

## 第97号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区J1a0グリッド，標高34.80m地点に位置する。

**規模と形状**　長軸（2.94）m，短軸〔2.46〕mの長方形を呈し，主軸方向はN－2°－Eである。壁高は確認面から最大高10cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　東部で第82号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，粘性・締まりややあり
2　10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まりあり
3　10YR　3/2　黒 褐 色：炭化物少量，炭化粒子微量，締まり弱い

**床**　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められていた。

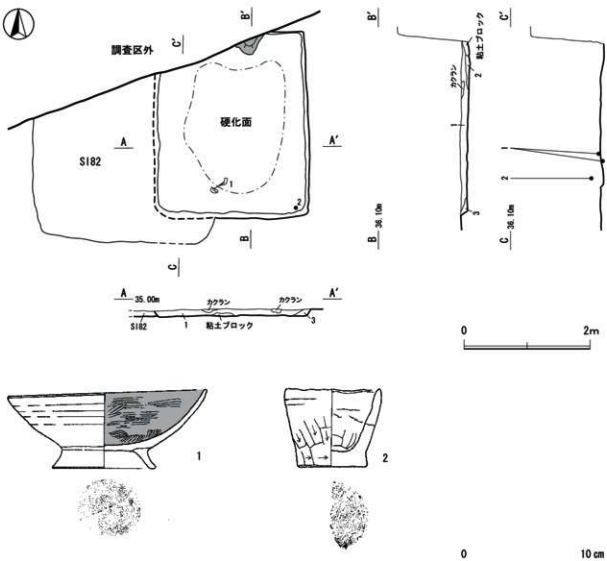
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　大半が調査区外にあり，東袖部の一部が検出されただけである。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　須恵器片８点（坏・高台付坏類３，甕類３，鉢２），土師器片59点（坏・高台付坏類12，甕類47），手捏土器１点。１の土師器高台付坏は南部の床面から，２の手捏土器は南東部の覆土下層から，それぞれ出土している。

**所見**　時期は土師器の坏や高台付坏の形状から判断して，10世紀前半と考えられる。




第149図　第97号住居跡・出土遺物実測図

表79　第97号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 15.6 | 5.7 | 7.8 | 石英，白雲母，黒雲母，白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部切り離し後高台貼付，指ナデ | NO.4<br>NO.5 | 50%<br>PL56 |
| 2 | 手捏 | － | － | (6.1) | (5.4) | 石英，小礫，白色粒子， | 明赤褐色 | 口縁部内外面横ナデ，体部内外面指ナデ | NO.1 | 60%<br>PL56 |

## 第100号竪穴住居跡

**位置**　第３調査区I2d3グリッド，標高35.10m地点に位置する。

**規模と形状**　大半が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（1.74）m，短軸（0.67）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。壁高は確認面から最大高52cmを測り，外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北東部で第91号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子が含まれており，人為的な埋没状況が見られる。

土層解説

1　10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，炭化粒子微量
2　10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量
3　5YR　4/2　灰褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，砂質粘土ブロック中量
4　10YR　3/2　黒褐色：炭化物少量，炭化粒子中量，焼土ブロック少量，粘性・締まりともに弱い
5　5YR　4/2　灰褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，砂質粘土ブロック中量

**床**　調査範囲が狭く，詳細は不明である。一部硬化している面が確認された。

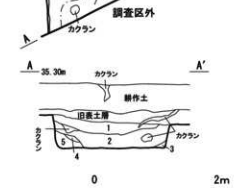
**壁溝**　調査範囲内では検出されていない。

**竈**　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。

**柱穴**　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

**遺物出土状況**　土器片の出土はなく，竈構築材である砂質粘土ブロックが確認されたのみである。

**所見**　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができず，時期も不明である。また，竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが一部確認されたことで住居であることを想定し調査を行ったが，床面を明確に把握することはできなかった。




第150図　第100号住居跡実測図

## 2　掘立柱建物跡

第４調査区から４棟の掘立柱建物跡が確認された。第１号掘立柱建物跡は調査区北東部から，第２～４号掘立柱建物跡は西部から確認されたものである。

### 第１号掘立柱建物跡

**位置**　第４調査区E3a9～E4c1グリッド，標高33.80m地点にある。

**規模・構造**　桁行３間，梁間２間の側柱建物で，桁行方向はN―8°―Wである。規模は桁行長6.06m，梁間4.46mで，柱間寸法は1.8mを基調としている。

**重複関係**　第68住居跡北部を掘り込み，南部で第260号土坑に掘り込まれている。

**柱穴**　11ヶ所確認され，平面形は円形または楕円形である。Ｐ１：70×44cm，深さ34cm，Ｐ２：64×54cm，深さ12cm，Ｐ３：46×42cm，深さ18cm，Ｐ４：94×70cm，深さ48cm，Ｐ５：44×38cm，深さ42cm，Ｐ６：66×50cm，深さ40cm，Ｐ７：66×48cm，深さ38cm，Ｐ８：52×42cm，深さ40cm，Ｐ９：62×50cm，深さ34cm，P10：60×38cm，深さ50cm，P11：54×44cm，深さ18cmである。

**土層**　ロームブロック主体の人為堆積である。なお，柱の抜き取り痕と柱の当たり面がＰ１・９・10で確認された。

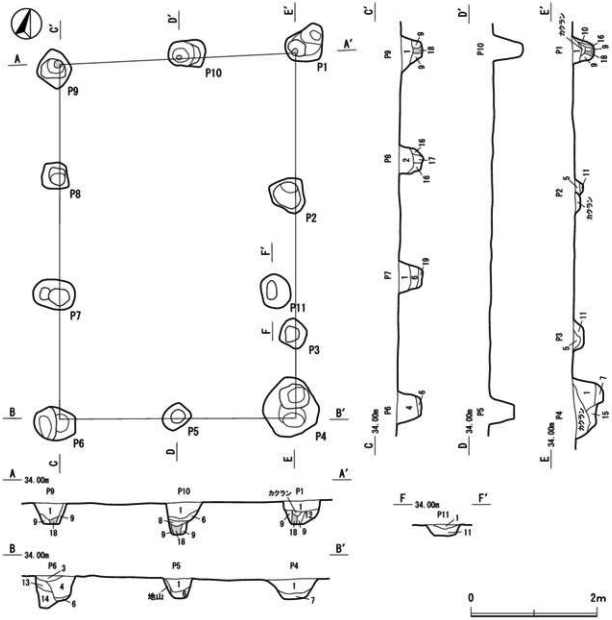
土層解説（各柱穴共通）

1．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック少量，締まりあり
2．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
4．10YR　3/3　暗褐色：ローム粒子微量，締まりあり
5．10YR　3/4　暗褐色：ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
6．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
7．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
8．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，焼土粒子微量
9．10YR　4/6　褐　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
10．10YR　4/4　褐　色：ローム粒子中量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり
11．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，炭化粒子微量
12．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，鹿沼パミス少量，やや締まりあり
13．10YR　3/3　暗褐色：ローム粒子微量，炭化粒子微量
14．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス中量
15．10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
16．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量
17．10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，，締まり弱い（柱抜き取り痕）
18．10YR　3/2　暗褐色：ロームブ粒子微量，炭化粒子少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
19．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，粘性弱い

**遺物**　須恵器片1点（甕類1），土師器片2点（甕類2）。出土した遺物はすべて細片で，混入したものと推測される。

**所見**　本跡は第68号住居跡を掘り込んでいるため8世紀後葉以降に建てられた建物であるが，桁行３間，梁間２間の一般的な側柱建物で時代的特徴を持つ構造ではなく，また，柱穴から確認された遺物はすべて埋土中に混入したものであるため，遺物から時期を特定することもできなかった。

なお，今回の調査の結果，竪穴住居跡の軒数は律令期に機能していたものを中心に93軒確認されており，当集落内において倉庫群が存在した可能性は高いと言える。しかし，当遺跡から確認された４棟の掘立柱建物跡はいずれも規模や構造に違いがあり，柱筋を揃えて並列して配置されるなどの位置的な関連性も感じられないため，調査区外に構築されているであろう倉庫群との関連性は薄いと推測される。




第151図　第１号掘立柱建物跡実測図

### 第２号掘立柱建物跡

**位置**　第４調査区E3b0 ～ E4b0グリッド，標高34.20m地点にある。

**規模・構造**　調査区外に延びていることが予想されるが，東西軸の柱穴列（Ｐ１～Ｐ５）以外の情報を得ることができず，建物構造は不明である。この東西軸の方向はN―62°―Eで，規模は8.8m，柱間寸法は2.0 ～ 2.2mである。

**重複関係**　単独で位置する。

**柱穴**　６ヶ所確認され，いずれも平面形は隅丸方形である。Ｐ１：48×34cm，深さ50cm，Ｐ２：60×40cm，深さ48cm，Ｐ３：50×46cm，深さ46cm，Ｐ４：48×34cm，深さ34cm，Ｐ５：48×40cm，深さ58cm，Ｐ６：46×40cm，深さ46cmである。

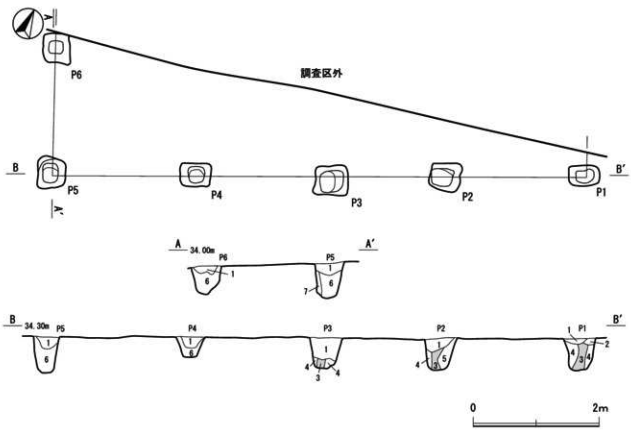
**土層**　ロームブロック・炭化粒子を含む人為堆積である。

**土層解説（各柱穴共通）**

1．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
2．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
3．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
4．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
5．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子微量，鹿沼パミス微量
6．10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
7．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，締まりあり

**遺物**　土師器片１点（甕類１）。出土した遺物は埋土中に混入したものと推測される。

**所見**　調査開始時は欠列を想定していたが，調査区北側を精査したところ，同形状の柱穴がＰ１～Ｐ５に直交するように検出されたため，掘立柱建物跡と想定して調査を行った。当遺跡内には本跡と柱筋を揃えて並列している掘立柱建物跡はなく，時期を特定できる遺物も出土していないため，時期は不明である。




**第152図　第２号掘立柱建物跡実測図**

## 第３号掘立柱建物跡

**位置**　第４調査区B4b5～B4c7グリッド，標高34.60m地点にある。

**規模・構造**　桁行・梁間ともに２間の建物で，桁行方向はN―０°である。規模は桁行長3.20m，梁間3.26mで，柱間寸法は1.4mを基調としている。

**重複関係**　北東部でＰ21を掘り込んでいる。

**柱穴**　８ヶ所確認され，平面形は楕円形または隅丸方形である。Ｐ１：40×28cm，深さ28cm，Ｐ２：48×30cm，深さ24cm，Ｐ３：48×28cm，深さ34cm，Ｐ４：40×26cm，深さ37cm，Ｐ５：50×30cm，深さ44cm，Ｐ６：51×28cm，深さ30cm，Ｐ７：44×30cm，深さ40cm，Ｐ８：38×28cm，深さ32cmである。

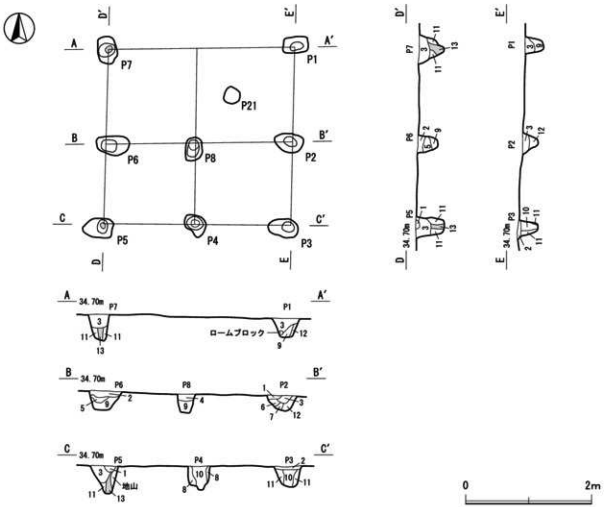
**土層**　ロームブロック主体の人為堆積である。なお，柱の抜き取り痕と柱の当たり面が，Ｐ５・７で確認された。

**土層解説（各柱穴共通）**

1．10YR　3/2　黒 褐 色：炭化粒子微量，締まり弱い
2．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，締まりあり
4．10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス微量
5．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
6．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子少量
7．10YR　4/2　灰黄褐色：ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性弱く締まりあり
8．5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
9．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，締まり弱い
10．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化物少量，炭化粒子少量
11．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりあり
12．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック中量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
13．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い（柱痕）

**遺物**　土師器片１点（甕類１）。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。

**所見**　第４号掘立柱建物跡と構造上の相違はあるものの，双方とも柱間寸法は1.4mを基調としており，同時期に構築された可能性はあろう。なお，時期を特定できる遺物の出土はなく，また柱筋を揃えて並列している建物もないため，時期・性格等は不明である。




第153図　第３号掘立柱建物跡実測図

## 第４号掘立柱建物跡

**位置**　第４調査区B4b2 ～ B4c4グリッド，標高34.20m地点にある。

**規模・構造**　柱穴６基がほぼ等間隔に並列して位置していることや，３基から柱の抜き取り痕が明瞭に確認されたことから掘立柱建物跡と想定して調査を行った。桁行方向はN－14°－Eである。規模は桁行長3.08m，梁間3.00mで，梁行柱間寸法は1.4mを基調としている。

**重複関係**　単独で位置する。

**柱穴**　６ヶ所確認され，平面形は楕円形または隅丸方形である。Ｐ１：39×28cm，深さ40cm，Ｐ２：36×30cm，深さ44cm，Ｐ３：54×22cm，深さ42cm，Ｐ４：46×28cm，深さ42cm，Ｐ５：60×34cm，深さ36cm，Ｐ６：46×32cm，深さ40cmである。

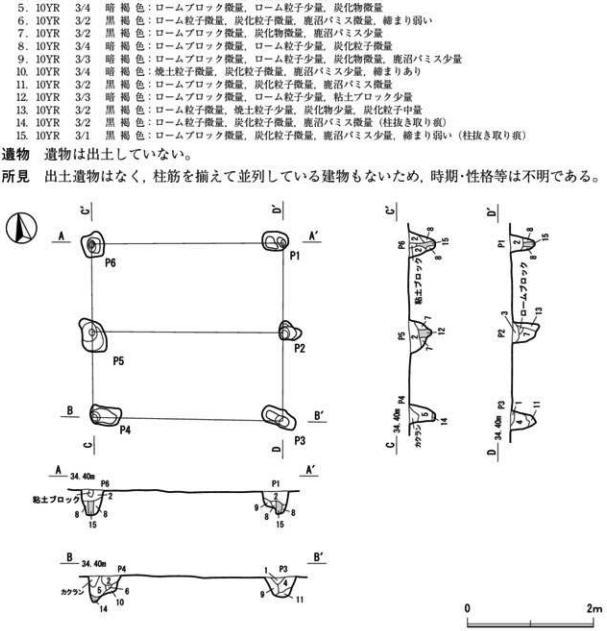
**土層**　ロームブロック・炭化粒子を含む人為堆積である。なお，柱の抜き取り痕がＰ１・４～６で，柱の当たり面がＰ１・６で確認された。

土層解説（各柱穴共通）

1．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，炭化粒子微量
2．10YR　3/3　暗 褐 色：炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
3．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量
4．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
5．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
6．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，締まり弱い
7．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
8．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
9．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
10．10YR　3/4　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
11．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
12．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，粘土ブロック少量
13．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子中量
14．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量（柱抜き取り痕）
15．10YR　3/1　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）

**遺物**　遺物は出土していない。

**所見**　出土遺物はなく，柱筋を揃えて並列している建物もないため，時期･性格等は不明である。




第154図　第４号掘立柱建物跡実測図

## 3　溝　跡

第１調査区から３条の溝跡が確認された。第２号溝跡は調査区中央を横断している。第３・４号溝跡は造り替えと考えられ，北西部で確認された。

### 第２号溝跡

**位置**　第１調査区C7f8 ～ E7e4グリッド，標高35.30m地点にある。

**規模・形状**　調査区を横断しており，東端と西端は調査区外へと延びる。上幅2.3 ～ 4.4m，下幅1.8 ～ 3.8m，全長約（44.2）mで，確認面からの深さは20 ～ 26cmである。断面は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**方向**　N―80°―Eの方向にほぼ直線的に延びる。

**土層**　第１～４層は粒子目の細かい自然堆積層で，第６・７層は壁部崩落土である。特に第５層の上面は締まりがあり炭化粒子等の汚れが見られることから，本跡の溝としての機能が失われた後，道へと用途が替わった可能性が示唆される。

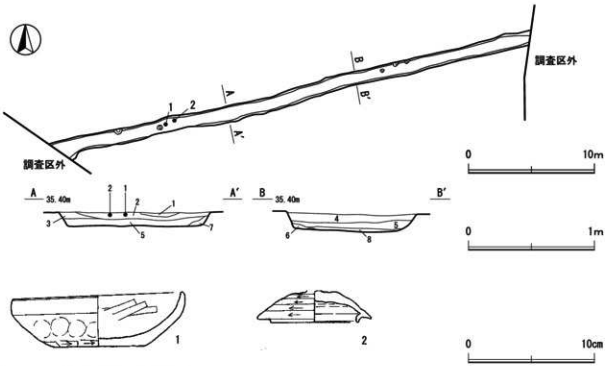
**土層解説**

1．10YR　3/1　黒 褐 色：ローム粒子少量，締まりなし，粒子細かい
2．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
3．10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性あり
4．10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
5．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
6．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物微量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量
7．10YR　4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
8．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり

**遺物**　須恵器片18点（坏・高台付坏類６，蓋１，甕類11），土師器片32点（坏・高台付坏類12，甕類20）。１の土師器坏と２の須恵器蓋は，第５層上面から確認されたもので，投棄されたものと考えられる。その他の遺物の大半は埋土中に混入したものと推測されるが，古墳時代後期～平安時代に比定されるもので占められている。

**所見**　本跡は調査区中央を44mの長さに渡って横断しているが，この調査区には古墳時代～平安時代までに比定される42軒の住居跡が密集している。しかし，これらの住居跡と本跡に重複関係はまったくなく，溝跡である本跡を避けるかように住居跡が構築されており，互いに意識したかのうような遺構配置である。また，土層断面の観察結果でも，流水の痕跡が認められないため，本跡には集落を区画する溝としての役割があったものと推測される。

なお，確認された遺物はすべて７世紀から10世紀に比定されるもので占めており，本跡は７世紀のある時期に構築されたものと考えられる。その後，７世紀後葉に一旦埋没したものの，道としてその姿を変えて機能し，少なくとも10世紀代に比定される住居跡が機能していた頃までは存続していたと推測される。




第155図　第２号溝跡・出土遺物実測図

表80　第２号溝出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | 13.4 | 4.2 | 7.2 | 石英，長石，小礫 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部内外面弱いヘラミガキ，体部外面指頭痕，内面ナデ，底部ヘラ切り後ヘラナデ | NO.3 | 95% PL57 |
| 2 | 須恵器 | 蓋 | 6.8 | (2.4) | － | 長石，石英 | 灰色 | 天井部石回りの回転ヘラ削り，ツマミ欠損 | NO.1 | 95% PL57 |

## 第３号溝跡

**位置**　第１調査区B6d6～B6e9グリッド，標高35.506m地点にある。

**規模・形状**　上幅28～48cm，下幅18～42cm，全長約7.5mで，確認面からの深さは６～８cmである。断面は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。

**重複関係**　第４号溝跡に掘り込まれている。

**方向**　N－５°－Wの方向にほぼ直線的に延びる。

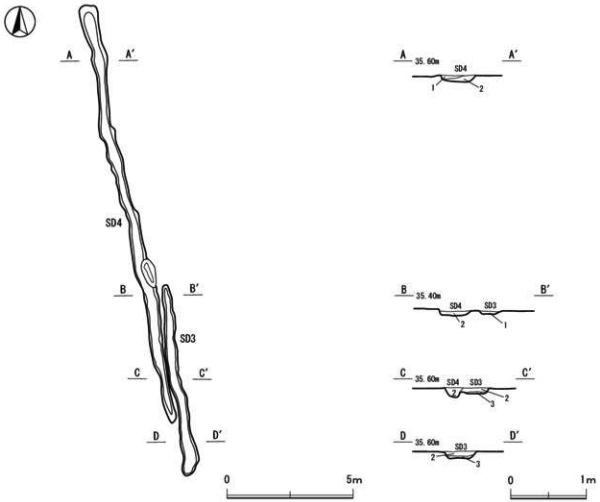
**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，炭化物少量，炭化粒子微量
2．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子少量

**遺物**　遺物は出土していない。

**所見**　流水の痕跡はなく，根切り溝あるいは区画溝と推測される。時期は本跡に伴う遺物は認められず不明である。なお，第４号溝跡と重複関係にあり，方向も同様であることから，造り替えの可能性が高い。




第156図　第３・４号溝跡実測図

### 第４号溝跡

**位置**　第１調査区B5c0 ～ B6d9グリッド，標高35.50m地点にある。

**規模・形状**　上幅20～40cm，下幅16～34cm，全長約18.6mで，確認面からの深さは5～12cmである。断面は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

**重複関係**　南部で第３号溝跡を掘り込んでいる。

**方向**　N―14°―Wの方向にほぼ直線的に延びる。

**土層**　炭化物・炭化粒子を含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1．10YR　3/3　暗 褐 色：炭化粒子微量，締まり弱い，粒子細かい

2．10YR　3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス微量，粘性ややあり

**遺物**　須恵器片７点（坏・高台付坏類１，蓋１，甕類５），土師器片12点（甕類12），鉄砲玉。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。鉄砲玉は径1.26cm，重量10.6gの鉛製である。

**所見**　流水の痕跡はなく，根切り溝あるいは区画溝と推測される。時期は本跡に伴う遺物は認められず不明である。なお，第３号溝跡と重複関係にあり，方向も同様であることから，造り替えの可能性が高い。

## 4　地下式坑

1基の地下式坑が第3調査区から確認された。当遺跡で検出された地下式坑は本跡のみである。

### 第1号地下式坑

**位置**　第3調査区J2b1・J2c1グリッド，標高34.80m地点にある。

**主室**　長軸1.46m，短軸1.32mで，深さは1.20mである。壁はほぼ直立して立ち上がり，一部ハングしている。底面はほぼ水平で，形状は楕円形である。

**竪坑**　長軸2.46m，短軸1.90mで，深さは1.26mである。壁は直立して立ち上がり，一部ハングしている。底面はほぼ水平で，形状は長方形である。

**重複関係**　主室で第81号住居跡を掘り込んでいる。

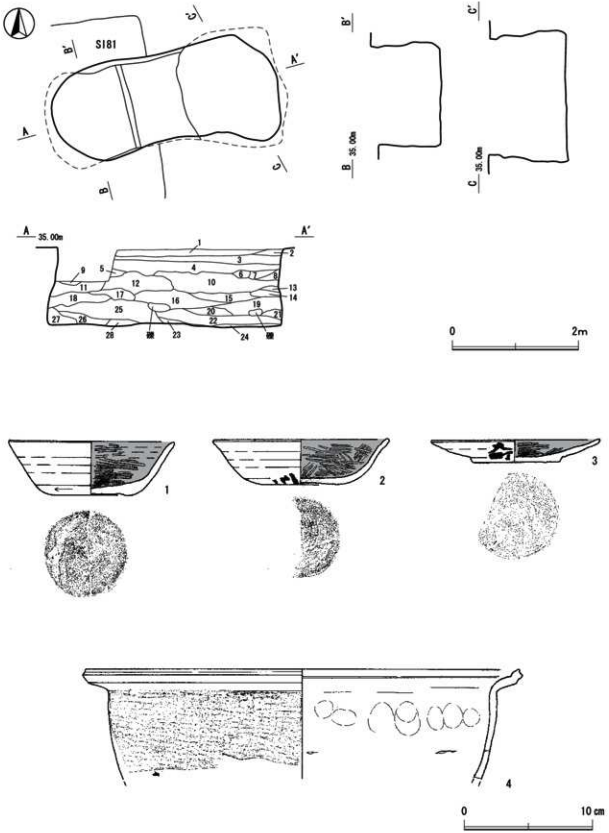
**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

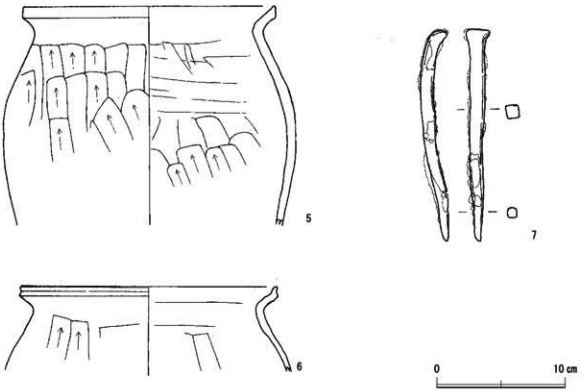
1．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
2．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量
3．10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化粒子中量，砂質粘土ブロック微量
4．10YR　3/3　暗褐色：焼土粒子微量，炭化物中量，炭化粒子中量，鹿沼パミス少量
5．5YR　4/2　灰褐色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量，砂質粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
6．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い
7．5YR　4/2　灰褐色：炭化粒子微量，粘土ブロック少量，鹿沼パミス少量
8．10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
9．10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
10．10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
11．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，鹿沼パミス微量
12．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック多量，ローム粒子微量，鹿沼パミス微量，粘性あり（天井部崩落土）
13．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い
14．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
15．10YR　3/2　黒褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まり弱い
16．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，粘性あり（天井部崩落土）
17．10YR　3/3　暗褐色：ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
18．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量
19．10YR　4/6　褐　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，鹿沼パミス微量，粘性あり（天井部崩落土）
20．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量（天井部崩落土）
21．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量
22．10YR　3/3　暗褐色：ローム粒子少量，炭化粒子少量，鹿沼パミス少量
23．10YR　3/4　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，締まりあり
24．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック少量，炭化物少量，鹿沼パミス少量
25．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，締まりやや弱い
26．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，鹿沼パミス微量
27．10YR　6/1　褐灰色：ローム粒子少量，粘土ブロック少量，粘性あり締まり弱い
28．10YR　3/3　暗褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

**遺物**　須恵器片16点（坏・高台付坏類1，甕類15），土師器片30点（坏・高台付坏類8，甕類22）。出土した遺物はすべて埋土中に混入したものと推測され，図化した遺物も同様である。

**所見**　本跡に伴う遺物は出土しておらず，詳細は不明である。本跡は第81号住居跡を掘り込んでおり，また8・9世紀に比定される住居跡と隣接しているためか，埋土中からは8・9世紀の遺物が多数確認されている。なお，当遺跡で検出された地下式坑は本跡のみで，他に中世の遺構は確認されていない。




第157図　第１号地下式坑・出土遺物実測図




**第158図　第１号地下式坑出土遺物実測図**

**表81　第１号地下式坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | (13.0) | 4.2 | 6.4 | 長石，石英，黒雲母，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後指ナデ | 覆土中 | 65% PL57 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (13.8) | 3.5 | 6.0 | 長石，石英，白雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，外面下端ヘラ削り | 覆土中 | 40%　墨書「福」か PL62 |
| 3 | 土師器 | 皿 | (13.2) | 1.7 | 6.7 | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，黒色粒子，小礫 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理，口縁部～体部内面ヘラミガキ，底部回転ヘラ切り後指ナデ | 覆土中 | 50%墨書「口町」 PL62 |
| 4 | 須恵器 | 甕 | (34.0) | (8.7) | － | 長石，石英，白雲母，小礫，赤色粒子 | 灰黄色 | 体部外面格子目叩き，内面横ナデ，指頭痕 | 覆土中 | 10% PL57 |
| 5 | 土師器 | 甕 | 19.8 | (17.3) | － | 長石，石英，金雲母，白雲母 | にぶい橙色 | 口縁部内外面横ナデ，体部外面下端縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ | NO.1 | 25% PL57 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (20.2) | (6.6) | － | 長石，石英，金雲母，黒雲母，小礫，黒色粒子，針状鉱物 | にぶい橙色 | 口縁部横ナデ，体部内面指ナデ | 覆土中 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 金属製品(釘) | 16.6 | 2.0 | 2.25 | 75.5 | 鉄 | 断面方形 | 覆土中 | PL63 |

## 5　墓壙

２基の墓壙が第１調査区と第２調査区からそれぞれ確認された。

### 第１号墓壙

**位置**　第１調査区B8d0 ～ D8d0グリッド，標高35.10m地点にある。

**規模と形状**　長軸0.74m，短軸0.64mの正方形で，深さは0.76mである。底面はほぼ水平で，壁は直立して立ち上がる。

**重複関係**　南部で第35号住居跡を掘り込んでいる。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
2．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，鹿沼パミス少量
3．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，鹿沼パミス少量，締まり弱い
4．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
5．10YR　3/4　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物微量，炭化粒子少量
6．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
7．5YR　4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量
8．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，灰少量，粘性・締まりともに弱い
9．10YR　3/3　暗 褐 色：炭化粒子微量，鹿沼パミス少量
10．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，締まり弱い
11．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
12．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量
13．10YR　3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子少量，締まり弱い
14．10YR　3/3　暗 褐 色：炭化粒子微量，鹿沼パミス微量

**遺物**　土師器片２点（甕類２），人骨・歯。出土した土器片はすべて埋土中に混入したものと推測される。

**所見**　上野嬬正歯科医院長の上野氏に人骨・歯の分析をして頂いた。その結果，埋葬された人の性別は若い成人女性の可能性が高いということであった。時期は，形状が酷似している第２号墓壙が江戸時代に比定されることから，同時期であると考えられる。

第159図　第１号墓壙実測図・出土遺物写真

## 第２号墓壙

**位置**　第３調査区J1j6グリッド，標高34.60m地点にある。

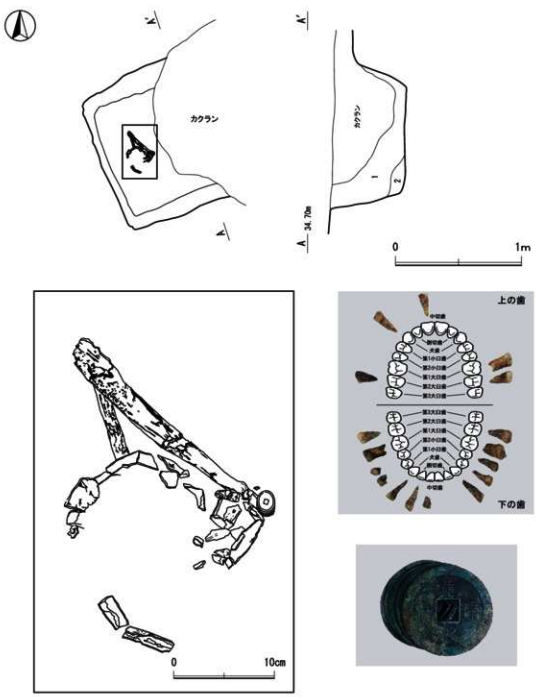
**規模と形状**　長軸1.2m，短軸［1.2］mの正方形で，深さは0.6mである。底面はほぼ水平で，壁は外傾して立ち上がる。

**重複関係**　単独で位置する。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

**土層解説**

1．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，粘性ややあり
2．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量




第160図　第２号墓壙・出土遺物実測図

**遺物**　土師器片１点（甕類１），金属製品１点（釘１），銭貨６点（寛永通宝６），人骨・歯。出土した土器片は埋土中に混入したもので，釘は棺桶を留める際に打ち付けたものと推測される。銭貨は６枚確認されており，六文銭と考えられる。

**所見**　棺桶の類いは確認されなかったものの釘は木質が遺存した状態で確認された。また六文銭には寛永通宝が使用されており江戸時代に比定される。人骨・歯の分析結果では，埋葬された人は成人女性の可能性が高いということであった。

**表82　第２号墓墳出土遺物観察表**

| 番号 | 器種 | 長さ（cm） | 幅（cm） | 厚さ（cm） | 重量（g） | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 金属製品（釘） | (1.8) | 0.3 | 0.3 | (1.9) | 鉄 | 断面方形，不片付着 | NO.2 | PL63 |

| 番号 | 銭種 | 径（cm） | 孔（cm） | 重量（cm） | 初鋳年 | 材質 | 特　　徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 寛永通寶 | 2.6 | 0.54 | 23.2 | － | 銅 | 「新寛永」 | NO.1 | 重量は6枚分 PL57 |

## 6　ピット列

第１調査区北西部から溝跡が１条確認された。当遺跡で検出されたピット列は本跡のみである。

### 第１号ピット列

**位置**　第１調査区A5d8 ～ A5f8グリッド，標高35.30m地点にある。

**規模**　長軸4.5mで，軸線上に４カ所のピットが検出された。Ｐ１：46×40cm，深さ42m，Ｐ２：38×28cm，深さ32cm，Ｐ３：48×40cm，深さ22cm，Ｐ４：42×32cm，深さ28cmである。柱間寸法は70 ～ 74cmである。

**方向**　N―78°―E

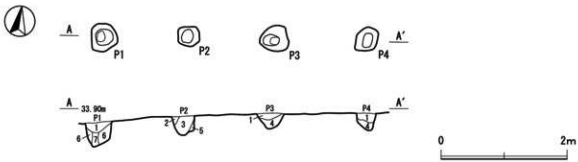
**土層**　ロームブロック主体の人為堆積である。

**土層解説**

1．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量
2．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量
3．10YR　3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性・締まりやや弱い
4．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子微量，
5．10YR　3/3　暗 褐 色：焼土ブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり
6．10YR　4/4　褐　　色：ロームブロック少量，炭化粒子微量
7．10YR　3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化粒子微量，締まり弱く粒子細かい

**遺物**　検出されていない。

**所見**　当遺跡で確認されたピット列は本跡のみである。しかし周辺に関連する遺構もないためどのような意図で，いつ構築されたかは不明である。




第161図　第１号ピット列実測図

## 7　性格不明遺構

第１調査区南部から１基確認された。

### 第１号性格不明遺構

**位置**　第１調査区E8b4・c4グリッド，標高35.10m地点にある。

**規模・形状**　上幅20～28cm，下幅14～20cm，全長約4.4mで，確認面からの深さは6～12cmである。断面は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。弧を描くように構築され，端部は調査区外へと延びている。

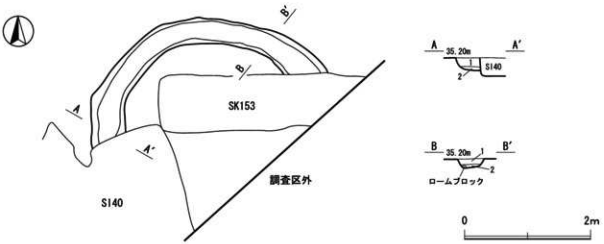
**重複関係**　第40住居跡と第153号土坑に掘り込まれている。

**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説
1．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2．10YR　4/4　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり弱い

**遺物**　遺物は出土していない。

**所見**　第40号住居跡より古い段階の遺構であり，また形状が環状であったため，注意深く調査を行った。しかし，遺構内から遺物の出土はなく，また溝状の中心部は地山が露出しているだけであったため，詳細は不明である。




第162図　第１号性格不明遺構実測図

## 8　土　坑

当遺跡からは287基の土坑が確認された。ここでは第20号土坑を取り上げ，そのほか個別に掲載できなかった土坑については一覧表と図で一括して掲載した。

### 第20号土坑

**位置**　第１調査区A5h8グリッド，標高35.20m地点にある。

**規模と形状**　長軸3.2m，短軸［3.2］mの円形で，漏斗状に深さ1.52mほど掘り込まれる。底面ほぼ水平で，壁は外傾して立ち上がる。

**重複関係**　北部を第22・35号土坑に掘り込まれている。

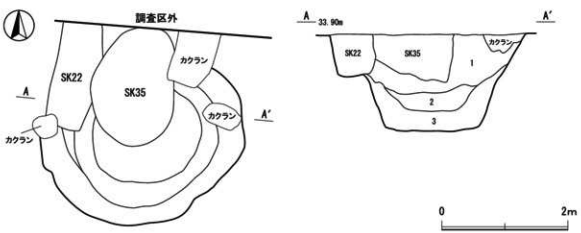
**土層**　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1．10YR　4/6　褐　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，鹿沼パミス少量
2．10YR　3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス微量，粘性あり
3．10YR　3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，炭化粒子微量，鹿沼パミス少量，礫少量，締まりあり

**遺物**　須恵器片１点（甕類１），土師器片３点（甕類３）。出土した遺物はすべて細片であり埋土中に混入したものと推測される。

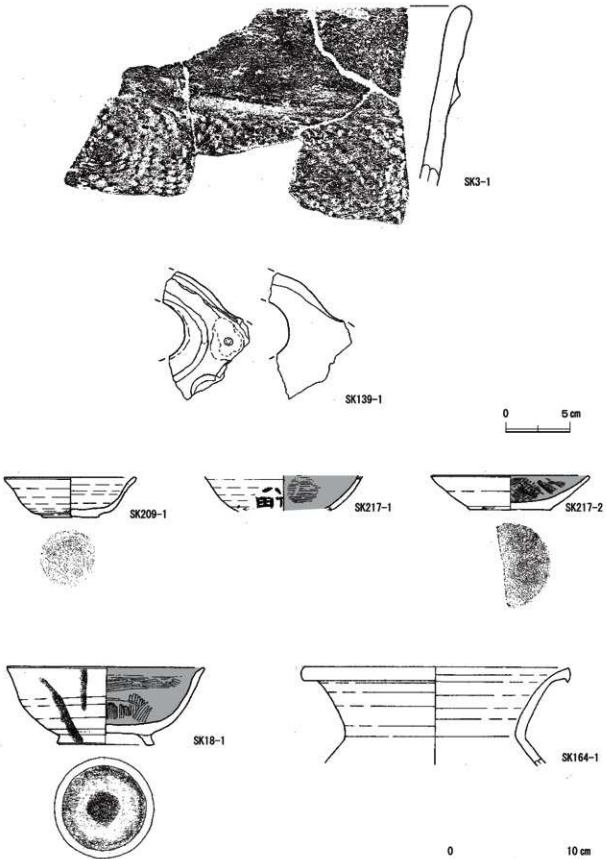
**所見**　本跡の形状は漏斗状で，所謂「氷室状土坑」と言われる土坑と酷似している。しかし，他の遺跡から確認される「氷室状土坑」からは投棄された遺物が多数確認されるのに対して，本跡からは投棄遺物は確認されていない。また，本県出土の「氷室状土坑」の大半が平安時代に比定されることから，本跡もまた当該期に構築された可能性が残るが，詳細は不明である。




第163図　第20号土坑実測図

表83　第３号土坑出土遺物観察表

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢(口縁部～胴部) | － | (10.5) | － | 長石，石英，白雲母，赤色粒子，小礫 | にぶい橙色 | 幅広の口縁部無文帯を断面三角形の隆帯で区画し，単節RL縄文を横位と斜位に施す。口唇部は丸味をもち，内面は横位にナデを加える。 | 覆土中 | 5%　中期・加曽利EⅣ式　PL58 |




第164図　土坑出土遺物実測図

**表84　第18号土坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 高台付坏 | 15.5 | 6.1 | 7.0 | 長石、石英、金雲母、白雲母、小礫、針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、口縁部～体部内面ヘラミガキ、底部高台貼付後ナデ | NO.1覆土中 | 優転用か火襷90%PL58 |

**表85　第139号土坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢(把手部) | － | (7.5) | － | 長石、石英、小礫 | にぶい黄橙色 | 円孔を有する橋状把手。表面に弧状沈線をめぐらし、下位に半円状の沈線を施す。右端には刺突を伴う円形貼付文を加える。側面には沈線をめぐらす。内面は沈線をめぐらし、円形刺突文を加える。下位に断面三角形の隆帯を施す。 | 覆土中 | 5%後期・称名寺Ⅱ式PL58 |

**表86　第164号土坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 甕 | (20.8) | (7.7) | － | 長石、石英、小礫 | 灰黄色 | 口縁部～頸部ロクロナデ | 覆土中 | 5%PL58 |

**表87　第209号土坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 小皿 | (10.2) | 3.1 | 4.4 | 長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子、小礫 | 浅黄橙色 | 口縁部～体部ロクロナデ、底部回転糸切り後ナデ | NO.1 | 55%PL58 |

**表88　第217号土坑出土遺物観察表**

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 坏 | － | (2.7) | － | 長石、石英、白色粒子 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、体部内面ヘラミガキ | 1区覆土中 | 5%墨書「口町」か PL62 |
| 2 | 土師器 | 皿 | (12.4) | 2.2 | 6.5 | 長石、石英、黒雲母、白雲母、金雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、ヘラミガキ、外面ロクロナデ、面り出し高台 | NO.3 | 50%PL58 |

**表89　その他の土坑一覧表**

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 1 | C6d4 | 長方形 | 1.40 | 0.60 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 2 | A6j5 | 楕円形 | 1.06 | 0.76 | 0.26 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 3 | E6c6 | 円形 | 1.06 | 1.04 | 0.44 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・縄文土器片 |
| 4 | E6g5 | 長方形 | 1.26 | 0.68 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 5 | E6d8 | 楕円形 | 1.36 | 1.04 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 6 | E6e7 | 円形 | 0.70 | 0.63 | 0.67 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 7 | E6d1 | 楕円形 | [0.86] | 0.56 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 8 | E6c1 | 長方形 | (0.72) | (0.70) | 0.18 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 9 | E5c9 | 長方形 | (2.02) | (1.00) | 0.47 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 10 | E5d9 | 長方形 | (1.30) | (0.88) | 0.66 | 皿状 | 外傾 | 自然 | |
| 11 | D6d8 | 楕円形 | 1.40 | 0.78 | 0.52 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 12 | E6e3 | 長方形 | 2.66 | 0.48 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 13 | D8c2 | 円形 | 0.88 | 0.88 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 縄文土器片 |
| 14 | D8c3 | 楕円形 | 1.08 | 0.50 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 15 | C6i1 | 長方形 | 1.30 | 0.40 | 0.48 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | 須恵器片 |
| 16 | C6j0 | 楕円形 | 1.52 | 1.12 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 17 | C6g1 | 長方形 | 0.92 | 0.50 | 0.72 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 18 | A6f2 | 円形 | 1.02 | 1.00 | 0.24 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 19 | A5h0 | 長方形 | 2.32 | 0.70 | 0.30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 20 | A5h8 | 楕円形 | 3.24 | [2.60] | 1.52 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 21 | C6i0 | 楕円形 | 0.68 | 0.52 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 22 | A5g8 | 長方形 | 1.66 | 7.00 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 23 | B6f4 | 楕円形 | 1.20 | 0.96 | 0.28 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 24 | B6f3 | 円形 | 0.98 | 0.98 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 25 | B6f2 | 楕円形 | 1.02 | 0.76 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 26 | B6a6 | 長方形 | 1.66 | 0.80 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 27 | A6j4 | 不整形 | (2.60) | 0.94 | 0.56 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 28 | E6e2 | 長方形 | 1.06 | 0.46 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 29 | A5d0 | 楕円形 | 1.42 | 0.86 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 30 | D8j1 | 円形 | 1.10 | 1.12 | 0.50 | 皿状 | 外傾 | 自然 | |
| 31 | C6j5 | 円形 | 1.06 | 0.98 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 32 | C6j9 | 長方形 | 0.90 | 0.86 | 0.33 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 33 | A6j2 | 長方形 | 3.70 | 1.14 | 0.56 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 34 | B6g3 | 円形 | 0.90 | 0.82 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 35 | A5h8 | 長方形 | 1.84 | 1.34 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 36 | B6g1 | 円形 | 1.12 | 1.08 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 37 | B6g2 | 方形 | 0.42 | 0.38 | 0.64 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 38 | A6e1 | 楕円形 | [1.40] | 1.16 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 39 | B6f1 | 楕円形 | 1.24 | 0.92 | 0.44 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 40 | A5h0 | 長方形 | 3.70 | 1.50 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 41 | A5g0 | 楕円形 | 1.24 | 0.78 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 42 | C6c5 | 円形 | 1.00 | 0.92 | 0.23 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 43 | C6d5 | 円形 | 0.92 | 0.90 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 44 | E6d2 | 長方形 | 3.76 | 0.48 | 0.42 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 45 | D6c3 | 円形 | 0.66 | 0.62 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 46 | D6d2 | 楕円形 | [0.58] | 0.44 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 47 | D6d2 | 楕円形 | 0.80 | 0.64 | 0.40 | 凹凸 | 外傾 | 自然 | 土師器片 |
| 48 | D6b4 | 長方形 | 1.16 | 0.72 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 縄文土器片 |
| 49 | D6d4 | 楕円形 | 0.90 | 0.58 | 0.58 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 50 | A5h0 | 楕円形 | (1.64) | 1.30 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 51 | A5i0 | 方形 | 1.32 | 1.10 | 0.60 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 土師器片 |
| 52 | B5d0 | 不整形 | 1.02 | 0.76 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 53 | B6h5 | 楕円形 | 2.62 | 0.84 | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 54 | B6j7 | 楕円形 | 1.56 | 1.24 | 0.28 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 55 | B6j6 | 楕円形 | 1.14 | 0.90 | 0.72 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 56 | C6a7 | 長方形 | 1.12 | 0.90 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 57 | B6j8 | 方形 | 0.64 | 0.62 | 0.82 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 58 | B6i7 | 方形 | 0.76 | 0.70 | 0.70 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 59 | B6i6 | 方形 | 0.74 | 0.66 | 0.66 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 60 | B6h5 | 楕円形 | 1.04 | 0.84 | 0.64 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 61 | E6g8 | 長方形 | 1.72 | 0.64 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 陶器片 |
| 62 | E6g5 | 方形 | 0.62 | 0.56 | 0.58 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 63 | E6f9 | 長方形 | 2.70 | 0.82 | 0.38 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 64 | C6b6 | 円形 | 1.04 | 1.02 | 0.42 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 65 | B6j9 | 長方形 | (0.90) | 0.60 | 0.38 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 66 | B6j9 | 方形 | 0.62 | 0.62 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 67 | C6d9 | 長方形 | 1.34 | 0.74 | 0.26 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 68 | C6a9 | 長方形 | 2.54 | [0.74] | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 69 | C6d8 | 円形 | 0.70 | 0.66 | 0.67 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 70 | C7c2 | 長方形 | 1.10 | 0.68 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 71 | B6j6 | 方形 | 0.50 | 0.56 | 0.77 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 72 | D7h0 | 円形 | 1.46 | 1.20 | 0.30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 73 | C6b0 | 長方形 | (0.48) | 0.40 | 0.34 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 74 | C6b5 | 楕円形 | 1.12 | 0.80 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 75 | C7a1 | 不整形 | 0.88 | 0.80 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 76 | B6f7 | 方形 | 0.67 | 0.63 | 0.90 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 77 | C6f0 | 円形 | 0.66 | 0.56 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 78 | C6f0 | 方形 | 0.62 | 0.60 | 0.90 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 土師器片 |
| 79 | C6a0 | 楕円形 | 1.20 | 0.76 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 80 | E6e4 | 円形 | 0.80 | 0.74 | 0.50 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 81 | E6e4 | 長方形 | 0.90 | 0.70 | 0.55 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 82 | B7j1 | 方形 | 0.80 | 0.78 | 0.84 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 83 | B7j2 | 方形 | 0.70 | 0.58 | 0.68 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 84 | B6h8 | 円形 | 0.70 | 0.70 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 85 | C7a1 | 長方形 | 3.12 | 0.72 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 86 | C6b0 | 長方形 | 0.90 | 0.70 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 87 | E6e2 | 長方形 | 1.76 | 1.46 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 88 | B6f6 | 方形 | 0.80 | 0.76 | 0.84 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 89 | B6g7 | 方形 | 0.76 | 0.70 | 0.54 | 平坦 | 垂直 | 自然 | |
| 90 | B7j1 | 方形 | 0.70 | 0.60 | 0.88 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 91 | C6f0 | 楕円形 | 2.00 | 1.06 | 0.66 | 皿状 | 外傾 | 自然 | |
| 92 | D6d1 | 円形 | 0.60 | 0.58 | 0.18 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 93 | C6h0 | 不整形 | 1.20 | 0.80 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 94 | C7h1 | 長方形 | 1.94 | 0.96 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 95 | C7j1 | 円形 | 0.88 | 0.84 | 0.33 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 96 | C7j2 | 円形 | 1.08 | 1.00 | 0.46 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 97 | C7i3 | 長方形 | 1.20 | 0.90 | 0.25 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 98 | D7a5 | 不整形 | 0.84 | 0.76 | 0.38 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 99 | C6a9 | 方形 | 0.68 | 0.58 | 0.72 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 土師器片 |
| 100 | C6a9 | 方形 | [0.70] | 0.70 | 0.87 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 101 | D6b7 | 円形 | 1.28 | 1.14 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 102 | E6f6 | 長方形 | 4.14 | 0.70 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 鉄滓 |
| 103 | E6f4 | 不整形 | 1.30 | 1.20 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片・陶器片 |
| 104 | C6i9 | 円形 | 0.82 | 0.76 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・砥石 |
| 105 | E5b0 | 長方形 | 1.54 | 0.92 | 0.35 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 106 | E5b0 | 長方形 | 0.94 | 0.46 | 0.50 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 107 | D6c6 | 円形 | 0.60 | 0.58 | 0.44 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 108 | D6d6 | 長方形 | 1.46 | 0.08 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 109 | D6e6 | 長方形 | 1.16 | 0.86 | 0.51 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 110 | D6e5 | 円形 | 1.14 | 1.04 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 111 | D7c1 | 長方形 | 1.08 | 0.50 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 112 | E6e2 | 長方形 | (2.10) | (0.70) | 0.12 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 113 | A6a0 | 円形 | 0.86 | 0.80 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 114 | E6a9 | 円形 | 0.84 | 0.84 | 0.24 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 115 | E6c0 | 円形 | 1.06 | 1.02 | 0.33 | 平坦 | 外傾 | 自然 | 土師器片 |
| 116 | E6c8 | 円形 | 1.12 | 1.12 | 0.46 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 117 | E6a5 | 長方形 | 1.72 | 0.50 | 0.59 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 118 | A5j0 | 不整形 | (1.20) | 1.22 | 0.72 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 119 | D6i0 | 円形 | 1.08 | 1.04 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 120 | D6j7 | 楕円形 | 1.04 | 0.70 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 121 | B6g9 | 楕円形 | 0.87 | 0.50 | 0.32 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | 土師器片・縄文土器片 |
| 122 | E6a5 | 楕円形 | 1.00 | 0.70 | 0.43 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 123 | D6j6 | 楕円形 | 1.06 | 0.84 | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 124 | D6i2 | 円形 | 0.72 | 0.72 | 0.57 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 125 | D6i1 | 円形 | 0.58 | 0.52 | 0.64 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片・陶器片 |
| 126 | D6c9 | 楕円形 | 0.80 | 0.44 | 0.71 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 127 | B6d7 | 長方形 | 1.84 | 0.74 | 0.58 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 128 | B6c7 | 長方形 | 1.94 | 0.80 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 129 | D6c7 | 円形 | 0.82 | 0.76 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 130 | E6d2 | 長方形 | 1.12 | (0.50) | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 131 | E6f4 | 長方形 | 1.90 | 0.60 | 0.30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 132 | E6d3 | 長方形 | 1.40 | 0.86 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 133 | B6f1 | 楕円形 | 1.10 | 0.44 | 0.72 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 134 | E6c4 | 円形 | 1.42 | 1.34 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 135 | C6b0 | 長方形 | 0.74 | 0.64 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 136 | B6g7 | 方形 | [0.60] | 0.68 | 0.87 | 平坦 | 垂直 | 人為 | |
| 137 | D5j0 | 楕円形 | 1.10 | 0.94 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 138 | D5e0 | 円形 | 0.82 | 0.76 | 0.67 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 139 | D5e0 | 楕円形 | 0.74 | 0.60 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 須恵器片・縄文土器片 |
| 140 | D6d5 | 楕円形 | 0.66 | [0.66] | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 141 | E5a9 | 長方形 | (2.64) | 0.70 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 142 | E5b0 | 長方形 | (0.80) | (0.50) | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 143 | E5b9 | 長方形 | 2.98 | 0.60 | 0.53 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 須恵器片 |
| 144 | C7j9 | 不整形 | 1.14 | 0.94 | 0.60 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 145 | B6j0 | 方形 | 0.90 | 0.88 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 146 | D7b9 | 不整形 | 1.50 | 1.26 | 0.18 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 147 | D8b1 | 方形 | 0.92 | 0.84 | 0.58 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 土師器片 |
| 148 | B6e6 | 円形 | 0.46 | 0.38 | 0.54 | 凹凸 | 外傾 | 自然 | |
| 149 | D8i5 | 楕円形 | 1.46 | 0.44 | 0.60 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 150 | D8j6 | 長方形 | 0.62 | 0.40 | 0.43 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片・手捏土器 |
| 151 | D8j6 | 長方形 | 0.56 | 0.40 | 0.79 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 152 | D8j6 | 長方形 | 1.12 | 0.78 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 153 | E8b4 | 長方形 | (3.28) | 0.88 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 154 | E8c3 | 長方形 | [1.02] | 0.56 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

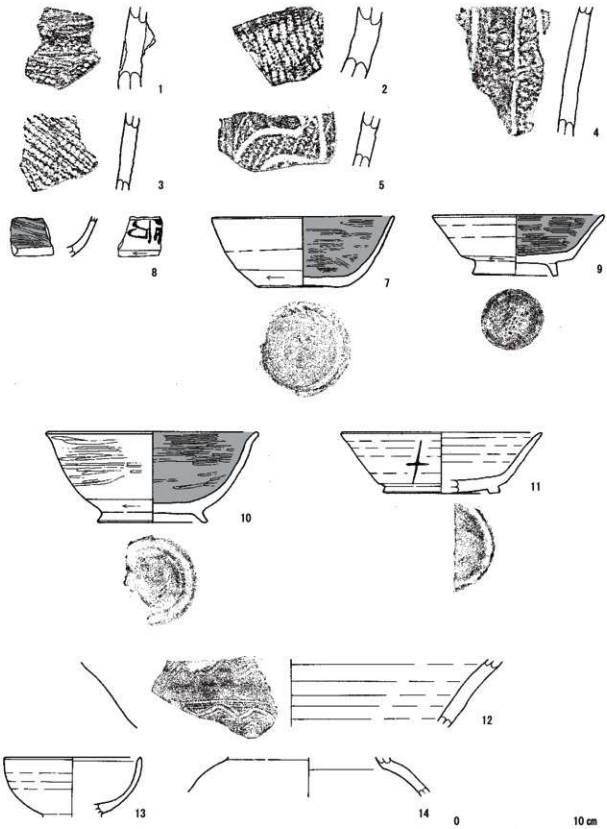
| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 155 | E8d3 | 長方形 | (1.52) | 0.58 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 156 | E7e0 | 長方形 | 1.46 | (0.70) | 0.22 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 157 | E8e1 | 長方形 | (1.50) | (0.48) | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 158 | E7d9 | 楕円形 | 1.42 | 0.50 | 0.33 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 159 | E7e8 | 長方形 | 1.62 | 0.58 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 160 | C7b5 | 長方形 | (1.18) | (0.80) | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 161 | C7c5 | 長方形 | (1.00) | (1.00) | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 162 | E7e6 | 楕円形 | 3.30 | 0.54 | 0.23 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 163 | E7e6 | 長方形 | 2.04 | 0.54 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 164 | E7a0 | 長方形 | 2.42 | 0.60 | 0.61 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 165 | E7a9 | 楕円形 | 0.95 | 0.82 | 0.33 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 166 | D7f0 | 不整形 | 1.06 | 0.93 | 0.35 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 167 | E5b0 | 長方形 | 2.74 | 0.76 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 168 | C6c0 | 円形 | 0.92 | 0.84 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 169 | B5c9 | 円形 | 1.06 | 0.98 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 170 | D7d0 | 方形 | 0.70 | 0.60 | 0.68 | 平坦 | 垂直 | 自然 | 土師器片 |
| 171 | D7a9 | 楕円形 | 1.44 | 0.96 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 172 | E8a1 | 楕円形 | 0.74 | 0.64 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 173 | E6f4 | 不整形 | 1.36 | (0.60) | 0.56 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 174 | E6g8 | 長方形 | 3.00 | 0.70 | 0.43 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 175 | E6f4 | 長方形 | 3.30 | 0.50 | 0.27 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 176 | E6b1 | 長方形 | (2.52) | 0.54 | 0.42 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 177 | B6g0 | 楕円形 | 0.76 | 0.64 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 178 | A6i5 | 不整形 | (1.20) | 1.16 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 179 | A6f2 | 長方形 | 0.84 | 0.58 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 180 | A6f2 | 円形 | 0.86 | 0.86 | 0.52 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 181 | A6e2 | 円形 | 1.06 | 0.94 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 182 | B6g0 | 円形 | 0.88 | 0.78 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 183 | C7b4 | 長方形 | 0.92 | 0.60 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 184 | C7c3 | 円形 | 0.74 | 0.72 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 185 | B6h3 | 方形 | 0.54 | 0.44 | 0.39 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 186 | B6h1 | 長方形 | 1.04 | 0.46 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 187 | B6h2 | 長方形 | 3.10 | 0.50 | 0.37 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 188 | B6h3 | 長方形 | 1.10 | 0.38 | 0.36 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 189 | D7b4 | 円形 | 1.12 | 1.06 | 0.35 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 190 | E6c2 | 長方形 | 1.44 | 0.50 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 191 | E6c4 | 不整形 | (2.20) | 0.88 | 0.33 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 203 | M1b9 | 不整形 | (1.74) | (0.52) | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 204 | L2f2 | 長方形 | (2.18) | (0.96) | 0.28 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 205 | K2i5 | 長方形 | 2.34 | (0.70) | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 206 | K2i6 | 円形 | 0.84 | 0.82 | 0.52 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 207 | K2g7 | 長方形 | (1.40) | (0.48) | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 208 | J3g6 | 長方形 | 1.00 | 0.70 | 0.35 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 209 | J3g5 | 不整形 | 0.84 | 0.80 | 0.51 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 210 | G5e5 | 円形 | 0.46 | 0.42 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 211 | G5e3 | 円形 | 0.42 | 0.40 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 212 | I4b6 | 円形 | 1.30 | 1.20 | 0.30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 213 | G5h3 | 円形 | 0.42 | 0.40 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 214 | I4d4 | 長方形 | 2.24 | 0.60 | 0.35 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 215 | I4c6 | 円形 | (1.28) | (0.46) | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 216 | K2i6 | 長方形 | 2.34 | (0.76) | 0.72 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 217 | J3j3 | 不整形 | 2.86 | 2.08 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 218 | J3d7 | 円形 | 0.70 | 0.66 | 0.28 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・陶器片 |
| 219 | J3e7 | 円形 | 0.58 | 0.58 | 0.66 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 220 | J3d7 | 楕円形 | 0.58 | 0.42 | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 221 | E4h2 | 円形 | 0.92 | 0.88 | 0.22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・陶器片 |
| 222 | E4f7 | 円形 | 1.00 | 1.00 | 0.21 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 223 | E4a6 | 楕円形 | 0.74 | 0.64 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 224 | D4h5 | 楕円形 | 1.12 | 0.90 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 225 | D4j1 | 円形 | 1.22 | 1.10 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 226 | J3d7 | 楕円形 | 0.56 | 0.40 | 0.25 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 227 | E3c6 | 円形 | 1.04 | 0.98 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 228 | E3a8 | 楕円形 | 1.08 | 0.44 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 229 | D3j9 | 楕円形 | 0.88 | 0.70 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 230 | D4e0 | 長方形 | 1.42 | 0.44 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 231 | D4b4 | 長方形 | 2.08 | 0.54 | 0.35 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 232 | D4b2 | 長方形 | 1.64 | 0.40 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 233 | D4b1 | 楕円形 | 1.14 | 0.72 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 234 | C3j0 | 円形 | 1.10 | 1.08 | 0.67 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 235 | C3a8 | 長方形 | 1.64 | 0.90 | 0.54 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 236 | D3f7 | 楕円形 | [1.20] | 1.00 | 0.41 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 237 | C3a9 | 長方形 | 1.10 | 0.64 | 0.52 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 238 | C4c6 | 楕円形 | 0.90 | 0.80 | 0.46 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 239 | C5b3 | 楕円形 | 1.50 | 0.82 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 240 | C4a6 | 楕円形 | 1.54 | 0.52 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 241 | B4h8 | 長方形 | (1.38) | 0.40 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 242 | B4b9 | 円形 | 0.90 | 0.82 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 243 | B4a9 | 楕円形 | [2.46] | 1.30 | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 244 | B4a8 | 円形 | 0.98 | 0.94 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 245 | A4h3 | 楕円形 | 2.74 | 0.64 | 0.20 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 246 | B4e6 | 不整形 | 1.08 | 0.89 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 247 | E4b6 | 楕円形 | 0.66 | 0.52 | 0.50 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片・瓦質土器 |
| 248 | B4b9 | 円形 | 0.82 | 0.80 | 0.27 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 249 | D5i2 | 円形 | 1.60 | 1.56 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 250 | D5g1 | 長方形 | 3.30 | 0.84 | 0.29 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 251 | D5f2 | 長方形 | 2.32 | 0.80 | 0.54 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・鉄滓 |
| 252 | D5g3 | 長方形 | 3.06 | 0.76 | 0.34 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・陶器片・鉄滓 |
| 253 | D5g5 | 楕円形 | 1.20 | 0.62 | 0.52 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 254 | D5h4 | 長方形 | 3.40 | 0.88 | 0.22 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 255 | D5h3 | 長方形 | 1.74 | 0.64 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 256 | B4a7 | 不整形 | 1.68 | (1.08) | 0.29 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 257 | B4e0 | 不整形 | 1.20 | 1.02 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

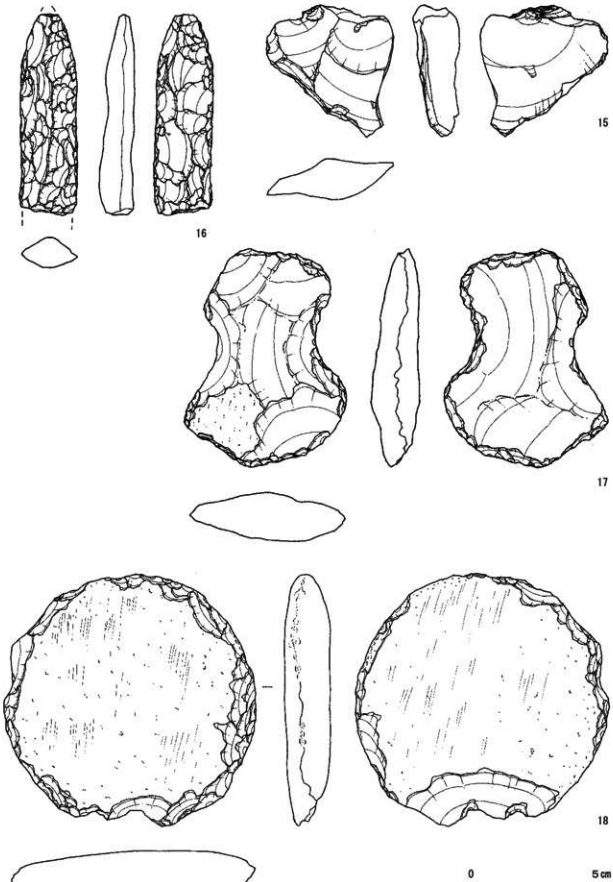
| 番号 | 位置 | 平面形 | 規模（m） | | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | <断面> | | | |
| 258 | D5h5 | 楕円形 | 1.20 | 1.02 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 259 | D5b3 | 楕円形 | 1.04 | 0.70 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 260 | E4b1 | 方形 | 2.12 | 2.06 | 0.46 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 261 | D5i1 | 長方形 | 3.40 | 0.74 | 0.56 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 262 | D5j3 | 長方形 | 6.66 | (0.88) | 0.66 | 平坦 | 外傾 | 自然 | 土師器片 |
| 263 | D5j3 | 長方形 | 3.42 | 0.64 | 0.38 | 平坦 | 外傾 | 自然 | 土師器片 |
| 264 | D5j4 | 長方形 | 3.00 | 0.86 | 0.42 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 265 | E5a4 | 長方形 | (1.22) | (0.44) | 0.30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 266 | E5a4 | 長方形 | (2.00) | 0.86 | 0.31 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 267 | E5a5 | 不整形 | (1.00) | 1.04 | 0.27 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片・陶器片 |
| 268 | D5i1 | 長方形 | 2.20 | 1.74 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 269 | D4e7 | 長方形 | 2.10 | 0.76 | 0.21 | 平坦 | 外傾 | 自然 | |
| 270 | D4e8 | 長方形 | 2.82 | 0.52 | 0.44 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 砥石 |
| 271 | D5i2 | 円形 | 1.60 | 1.56 | 0.13 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 272 | D4c4 | 長方形 | 2.38 | 0.70 | 0.56 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 273 | D5g5 | 楕円形 | 1.20 | 0.62 | 0.46 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片・管状土錘 |
| 274 | C3i7 | 長方形 | 1.40 | 0.68 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 275 | C3j6 | 長方形 | (2.20) | 0.68 | 0.26 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 276 | C3j6 | 長方形 | (1.02) | 0.66 | 0.32 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 277 | C3j7 | 長方形 | 2.82 | 0.70 | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 278 | C3h5 | 方形 | 0.76 | 0.70 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 279 | C3h5 | 楕円形 | (1.20) | 0.80 | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 280 | C3g5 | 楕円形 | 1.76 | 0.46 | 0.22 | 凹凸 | 外傾 | 人為 | |
| 281 | C3h5 | 楕円形 | (3.16) | 0.80 | 0.48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 282 | C3d4 | 円形 | 0.76 | 0.72 | 0.40 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 283 | D5b2 | 長方形 | 2.70 | 0.56 | 0.28 | 皿状 | 外傾 | 自然 | |
| 284 | B5f1 | 楕円形 | 1.28 | 1.06 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 285 | B4e0 | 楕円形 | 1.25 | 1.02 | 0.24 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 291 | J2c2 | 円形 | 1.42 | 1.31 | 0.21 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 292 | J1f0 | 不整形 | 0.86 | 0.44 | 0.20 | 皿状 | 外傾 | 人為 | |
| 293 | J1g0 | 長方形 | 2.92 | 0.78 | 0.18 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 294 | J2a1 | 長方形 | 2.38 | 1.30 | 0.54 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 295 | J2a1 | 不整形 | (1.00) | (0.70) | 0.36 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 296 | K2b1 | 不整形 | (0.92) | (0.80) | 0.50 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 297 | J1j8 | 方形 | (1.22) | (0.92) | 0.61 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 第2号墓壙へ変更 |
| 298 | J2f1 | 不整形 | 1.02 | 0.65 | 0.45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片・須恵器片 |
| 299 | H2j3 | 長方形 | 1.74 | 1.04 | 0.47 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 300 | H2j4 | 方形 | 1.30 | 1.10 | 0.67 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 301 | G2g8 | 不整形 | 1.48 | 1.20 | 0.32 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 土師器片 |
| 302 | G2d9 | 長方形 | 1.60 | 0.94 | 0.35 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |
| 303 | F3e2 | 楕円形 | (3.36) | (1.06) | 0.28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | |

## 第２節　遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない遺物が出土しているため、特徴的なものについて掲載する。




第165図　遺構外出土遺物実測図（１）




第166図　遺構外出土遺物実測図（2）

## 表90　遺構外出土遺物観察表（土器類）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 胎土 | 色調 | 手法の特徴ほか | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | － | (5.4) | － | 石英、長石、赤色粒子 | 暗褐色 | 口縁部無文帯を断面三角形の隆帯で区画、以下に単節ＬＲ縄文を斜位に施す、内面は横位に丁寧なナデ | SI41 覆土中混入 | 5%<br>中期・加曽利ＥⅣ式<br>PL64 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | － | (4.8) | － | 白雲母、石英、長石 | 暗褐色 | 上端に口縁部区画隆帯下の横位のナデ、以下に多条の単節RL縄文を斜位に施す | SI67 覆土中混入 | 5%<br>中期・加曽利ＥⅣ式<br>PL64 |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | － | (4.5) | － | 石英、長石、赤色粒子 | 暗褐色 | 全面に単節ＬＲ縄文を縦位に施す | SI44 覆土中混入 | 5%<br>中期・加曽利ＥⅣ式<br>PL64 |
| 4 | 縄文土器 | 深鉢 | － | (7.8) | － | 白雲母、石英、長石 | 暗褐色 | 粗い無節Ｒ縄文の地文上に縦位の沈線文を施す | SD2 西区覆土中混入 | 5%<br>中期・加曽利ＥⅣ式～後期・堀之内１式<br>PL64 |
| 5 | 縄文土器 | 深鉢 | － | (3.2) | － | 石英、長石、赤色粒子 | 暗茶褐色 | 磨消縄文による区画内に単節ＬＲ縄文を横位に施す | SD2 西区覆土中混入 | 5%<br>後期・称名寺１式<br>PL64 |
| 7<br>(表採1) | 土師器 | 坏 | (14.4) | 5.5 | 6.6 | 長石、石英、白雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、口縁部～体部内面ヘラミガキ、体部外面下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り | 表採 | 50%<br>PL58 |
| 8<br>(表採2) | 土師器 | 坏 | － | (3.0) | － | 長石、石英、白雲母、黒雲母、小礫 | にぶい褐色 | 内面黒色処理、体部内面ヘラミガキ | 表採 | 5%<br>墨書「□万」<br>PL62 |
| 9<br>(表採3) | 土師器 | 高台付坏 | 13.3 | 4.9 | 6.5 | 長石、石英、金雲母、赤色粒子、小礫、針状鉱物 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、口縁部～体部内面ヘラミガキ、底部高台貼付後指ナデ | 表採 | 70%<br>PL58 |
| 10<br>(攪乱1) | 土師器 | 高台付坏 | (16.7) | 7.1 | (8.6) | 長石、石英、金雲母、白雲母、黒雲母 | にぶい黄橙色 | 内面黒色処理、口縁部～体部内外面ヘラミガキ、底部回転糸切り後高台貼付、ナデ | 攪乱部 | 35%<br>PL64 |
| 11 | 須恵器 | 高台付坏 | (15.8) | 4.8 | (8.2) | 長石、石英、小礫 | 灰色 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後高台貼付、ナデ | SI76 覆土中混入 | 40%<br>PL64 |
| 12 | 須恵器 | 甕 | | (5.2) | | 長石、石英、赤色粒子、小礫 | 暗灰黄色 | 体部外面柳葉状工具による波状文 | SI8　4区覆土中混入 | 5%<br>PL64 |
| 13<br>(攪乱2) | 陶器 | 碗 | (10.8) | (4.7) | － | 黒色粒子 | 灰黄色<br>釉：暗赤褐色 | 内外面飴釉、漬け掛け | 3区攪乱部 | 10%<br>PL64 |
| 14<br>(攪乱3) | 陶器 | 甕 | － | (3.1) | － | 長石、石英、黒色粒子 | 灰色<br>釉：黒色 | 内外面黒釉 | 3区攪乱部 | 5%<br>PL64 |

## 表91　遺構外出土遺物観察表（石器）

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 剥片 | 5.2 | (5.0) | 1.8 | 27.7 | 頁岩 | 複剥離打面をもつ剥片、横打ち、打瘤発達、右側縁捩れ | SI46 覆土中混入 | PL64 |
| 16 | 尖頭器 | (7.8) | 2.3 | 1.4 | 24.8 | 頁岩 | 槍先形尖頭器、両面全面調整、両端部欠損 | 第２調査区 | PL64 |
| 17 | 打製石斧 | 8.6 | 6.4 | 1.9 | 94.1 | ホルンフェルス | 分銅形石斧、粗い素材、片面に自然面を残す、剥離痕の稜線が不明瞭 | 第２調査区 | |
| 18 | 円盤状石器ヵ | 10.0 | 10.0 | 1.8 | 244.6 | 凝灰岩 | 扁平な円礫素材、表裏周縁に加工痕、敲打状部位多い、両面に広範な磨痕、磨石に転用カ | 第２調査区 | PL64 |

# 第4章　総　括

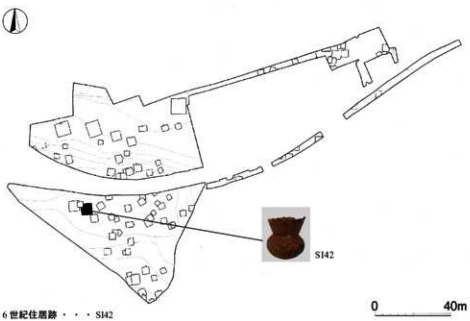
北原遺跡は，竪穴住居跡93軒，掘立柱建物跡４棟，溝跡３条，地下式坑１基，墓壙２基，性格不明遺構１基，土坑287基，柱穴38基が確認され，７世紀後半～10世紀の間に拠点的集落が営まれていたことが明らかとなった。

ここでは住居跡の変遷を中心に当集落跡の特徴及び性格について迫っていきたいと思う。

## 1　集落の変遷

### （1）Ⅰ期（６世紀前半）

１軒（SI42）のみ第１調査区から確認された。焼失家屋であるが，失火ではなく住居廃絶時あるいは廃絶直後に意図的に焼失させた住居である。ほかに調査範囲内では当該期の遺構は確認されていない。しかし，周辺の遺跡や地形からみて，岩崎古墳群の位置する東方向や馬場先遺跡及び宿東遺跡の位置する南西方向に古墳時代後期の集落が存在していたものと予想される。




第167図　北原遺跡の住居配置（６世紀）

### （2）Ⅱ期（７世紀中葉～８世紀初頭）

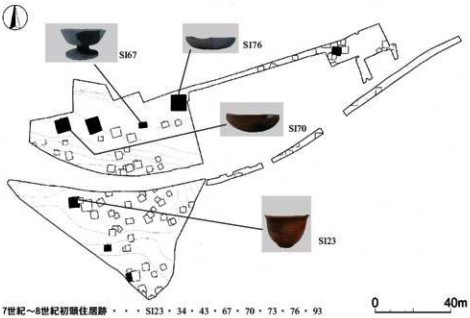
８軒の住居跡が確認された。第１調査区３軒，第３調査区１軒，第４調査区４軒である。

当該期は集落の萌芽期で住居数は少なく開散としているものの，調査区北部の低位に4軒が集中している。また，住居はいわゆる鬼高期特有の建物構造で，住居内に４本の主柱穴を持ち，壁際に溝を有する大型の建物が主となる。特にSI70が１辺8.5mで全期を通じて最も大きく，次にSI76が挙げられる。なお，この２軒の住居跡の廃絶時期はいずれも８世紀初頭と考えられるが，構築時期が７世紀であることや鬼高期特有の建物構造であることから，Ⅱ期に位置付けた。

次に住居の主軸方向について傾向を探ると，真北軸のもの（SI23・43），真北軸からやや東に振れるもの（SI67・70・83），やや西に振れるもの（SI34・73・76）など様々である。その理由としては，集落内での血縁関係によるグループ間の相違，大型竪穴住居とその周りの小型竪穴住居や倉庫等のセット関係を含めたグループ間の相違などが予想されるが，当集落に関しては特にこれらの要因は当てはまらず，統一性は感じられない。しかし，当遺跡は久慈川流域の変化に富んだ地形上に位置しており，地形に大きく左右されたことが予想される。そのため，当該期の住

居跡は蛇行した久慈川に沿って立地しており，地形を強く意識した配置となっているためと推測できる。

当該期の遺物は７世紀の第４四半期のものが大半を占め，坏は埦形坏と須恵器坏の模倣坏が混在し，その大半に黒色処理が施されている。また土師器甕は長胴のものが主体となっており体部外面にヘラ磨きが施される。須恵器製品もわずかではあるが確認され，坏蓋・坏身等が出土しており，東海系の搬入品もみられる。

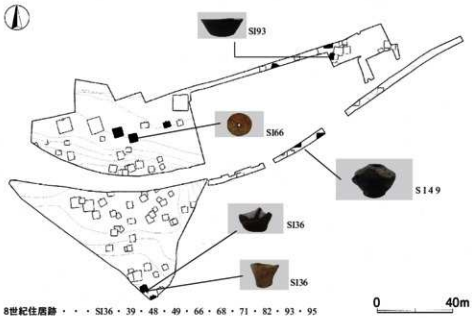



第168図　北原遺跡の住居配置（７世紀）

（３）Ⅲ期（８世紀前葉～後葉）

10軒の住居跡が確認された。第１調査区2軒，第２調査区2軒，第３調査区3軒，第４調査区3軒である。住居の形態を見ると，本期初頭には前期からの系譜である竪穴部に４ヵ所の主柱穴を持ち床にローム土を厚く貼った大型住居が依然存在する。しかしその後は小型化し竪穴外に柱を有するタイプ（SI36・38・48・49・68・93）が現れ，形態に大きな変化が見られる時期と言える。なお，大型住居にいくつかの小型住居と掘立柱建物が付帯する配置形態は認められず，住居跡の規模や遺棄された遺物を見ても，等質な集団であったと推測される。これらの単位集団が等質な住居の集合体で構成されているということは，在地の豪族を体制内に取り込んでいく過程で，官主導型で集落が作り直されたひとつの根拠とみることもできき，注目されるところである。以上から，本期は律令国家体制の地方支配が確立し安定をみた時期でもあり，久慈郡八部郷に属した当集落もまた，人民支配の遂行と併行して経済基盤の強化が図られたものと考えられる。

遺物を見ると，那珂川以南と様相が大きく異なる。那珂川以南の地域では，8世紀中葉以降，土師器坏が激減し供膳具における須恵器への転換が急激に押し進められる時期であるが，当集落では全期を通して土師器製品が主体であり，在地窯産の須恵器製品が安定的に供給されることなく集落の終焉を迎えるのである。しかし，当該期中頃からは胎土に海綿骨針を含む木葉下産の須恵器製品が，後期以降には胎土に雲母を含む新治窯産の製品が，その他の須恵器製品に混じって見られるようになる。次に土師器製品の形状を見ると，坏と高台付坏は大半が内面黒色処理が施され，口縁部は若干開き気味となっている。甕は，口縁部が外反する長胴甕が前期に引き続き見られ，口縁部を摘み上げる常総型系統の甕が主体となるのは来期以降となる。

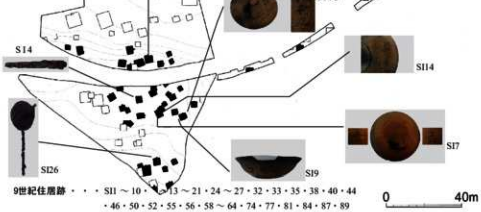



第169図　北原遺跡の住居配置（８世紀）

（４）Ⅳ期（９世紀代）

47軒の住居跡が確認された。第１調査区28軒，第２調査区4軒，第３調査区4軒，第４調査区11軒である。当遺跡では集落が最も繁栄し，比較的人口密度の高い時期と言え，前期よりも標高の高い地点に建て替えを繰り返しながら立地している。

住居の形態は，床上に主柱を持たない竪穴外柱建物が主体となるが，規模は大型のものと小型のものに細分される。また，大型住居跡の主軸方向はほぼ北を向き，その周辺に小型の住居が見られる。また，東壁部やコーナー部に竈を持つ住居も出現する（SI4・8・9・13・15～17・19・25・60・62・64・77・87）。




第170図　北原遺跡の住居配置（９世紀）

なお，第２調査区の第46号住居跡は，年代比定の材料に乏しいが，ひとつの可能性として，当期に位置付けるものである。

当該期の遺物を見ると，前期に引き続き土師器製品が主体である。本期から新たに体部が内彎気味に立ち上がり，底部径が須恵器製品より大きい土師器坏が登場する。内面は黒色処理が施されており，ヘラ磨きも丁寧である。体部下端は手持ちヘラ削りが施されているものと回転ヘラ削りのものとがある。ほかに土師器の蓋や皿，高盤等が出土しているが，これらの製品には黒色処理が施されている。また，９世紀中葉に入ると常陸国内では須恵器製品の多種化が顕著になるが，当集落内では須恵器製品ではなく土師器製品において同様の傾向が認められる。須恵器製品の供給量の少ない地域でありながら，土師器製品に同傾向が看取されるのは大いに注目されるところである。

なお，須恵器製品の供給量は前期同様，非常に少ないものであるが，坏は口径12～14cmほどで底部径の縮小化がさらに進み，口縁部が肥厚するものも現れ始める。また体部下端の調整は供給元の窯地により大きく異なるが，回転ヘラ削りと手持ちヘラ削りの両方が認められ，無調整のものは少ない。須恵器高台付坏は口径12～13cmのものが主流であるが，小形のものも前期に引き続いて供給されている。

なお，当遺跡において5軒の住居跡で竈煙道直上から火熱を受けていない完形の共膳具が出土している（SI31・40・52・62・81）が，偶然としては多い事例である。火を受けるべき場所で火を受けず，煮炊き具を据えるべき場所に共膳具を据えるという非日常性を感じざるを得ず，当集落においての竈廃絶に伴う祭祀的営みの跡と捉え検討する必要がある。

次に，当遺跡で出土した墨書土器について検討していきたい。今回の調査では，33点の墨書土器が確認されたが，大半が９世紀中葉から後葉に比定される住居跡から出土したもので，中でも「万」・「福」・「福良」・「吉」等，吉祥文字が多いのが特徴である。さらに「占」と書された墨書の出土も加味し，当集落内で何らかの祭祀が執り行われていた可能性が示唆される。次に蓋の天井部に記された「稲村卍」（SI15）であるが，この蓋は須恵器製品ではなく土師器製品であり，内面は丁寧な黒色処理が施されているものである。また「卍」と記されていることも併せ，非常に特異性を感じせざるを得ない。しかしながら，「卍」は村落内寺院の可能性を示唆する遺物として意識すべき資料ではあるが，「卍=万字」と解釈した吉祥文字としての概念で書されたものの可能性も残る。ちなみに「卍」は県内でも「御園生遺跡」で12点の出土が認められたように，古代から中・近世まで多岐に渡って多く認められる資料であるが，「稲村」は「任海宮田遺跡」

**表93　北原遺跡出土の墨書土器一覧表**

| 遺構名 | 器種 | 墨書 | 遺構名 | 器種 | 墨書 |
|---|---|---|---|---|---|
| SI　7 | 土師器 坏 | 「吉・吉」 | SI　59 | 土師器 高台付坏 | 「福」ヵ |
| | 土師器 坏 | 「本」ヵ | SI　61 | 土師器 坏 | 「□本」 |
| | 土師器 皿 | 「本町」ヵ | | 土師器 坏 | 「後□」 |
| SI　9 | 土師器 坏 | 「占・上家」 | | 土師器 坏 | 「□」 |
| | 土師器 坏 | 「□」 | | 土師器 坏 | 「□」 |
| | 土師器 高台付坏 | 「万」 | SI　65 | 土師器 坏 | 「大町」ヵ |
| SI　14 | 土師器 皿 | 「真家」 | SI　81 | 土師器 坏 | 「□」 |
| SI　15 | 土師器 坏 | 「得」 | | 土師器 坏 | 「大」ヵ |
| | 土師器 高台付坏 | 「□」 | | 土師器 皿 | 「土町」 |
| | 土師器 蓋 | 「稲村卍」 | SI　83 | 土師器 坏 | 「□」 |
| SI　16 | 土師器 坏 | 「□」 | SI　84 | 土師器 坏 | 「□」 |
| SI　26 | 土師器 坏 | 「□」 | SI　88 | 土師器 坏 | 「□」 |
| | 土師器 高台付坏 | 「川代」 | 地下式坑1(混入) | 土師器 坏 | 「福」ヵ |
| | 須恵器 蓋 | 「□」 | | 土師器 皿 | 「□町」 |
| SI　38 | 土師器 高台付坏 | 「代」ヵ | SK217 | 土師器 坏 | 「□町」 |
| SI　50 | 土師器 坏 | 「福良・福良」 | 表　採 | 土師器 坏 | 「□万」 |
| SI　55 | 土師器 坏 | 「□」 | | | |

（富山県）で２点確認されているものの，全国的にみても類例の少ない文字資料である。他に「真家」（SI14）と「上家」（SI9）が確認されたが，「上=本=真」と解釈すれば，「郷家」あるいは中心的役割を担う首長層の居住区である「家一区」（ヤケ）を示すものとも考えられよう。また「上家」の類例は多く，県内でも「下大井遺跡」や「思川遺跡」で確認されているが，「真家」は当遺跡の所在する常陸大宮市内に位置する「上ノ宿遺跡」で出土例があるものの，全国的にみても類例の少ない文字資料である。また「町」（SI65・81・地下式坑１（混入）・SK217）は，県内では「木工台遺跡」で，隣県では「矢田遺跡」（群馬県）や「芳賀輪遺跡」（千葉県）等多くの遺跡で確認されており，地名，単位，人名等の意味合いを持つ墨書である。当遺跡の例は，「大町」が表す通り，場所を示す墨書であろうが，具体的にどの地点を指しているのかは不明である。

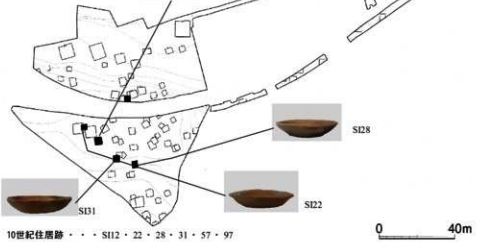
これら墨書土器は当時の集落の性格を知る唯一の文字資料であるが，今回の調査では，吉祥文字や呪術文字の資料が多く確認されており，「郷」単位の一般集落に近い出土傾向を示していると言えよう。

（５）Ｖ期（10世紀初頭～前半）

６軒の住居が確認された。第１調査区４軒，第３調査区１軒，第４調査区１軒である。

当集落の消滅期であり，集落中心部では住居の形跡はまったくなくなり，遺跡西端に偏在している程度である。また住居形態はすべて竪穴外柱建物となっており，竪穴規模は小型化が進行している。竈の附設位置の多様性は前期から継承され，東壁部に竈を持つ住居が3軒（SI12・22・28）確認されている。

遺物の器種構成を見ると，土師器坏・小皿・高台付埦が主体である。また土師器坏は口径11～14cmと多様化しており，体部が直線的に立ち上がるものと，内彎して立ち上がるものとに分かれる。また，内面は黒色処理や磨きが施されているものとそうでないものとがあるが，前者の比率が高い傾向にある。高台付埦は高台部が「ハの字」状に踏ん張るものが多くなり，高台部は底部の外寄りに付く形態から内寄りに付くものへと移行していく。小皿は10世紀中葉以降に出現し，口径は10～12cmほどである。底部は，ヘラ切り離しされている初期の段階の小皿片が見つかったが，糸切り離しされているものが主体である。土師器甕は体部外面にヘラ削りが施され，口縁端部が上方へつまみ上げられている。なお，東濃産の灰釉陶器碗片が１点確認されている。




第171図　北原遺跡の住居配置（10世紀）

## 2 まとめ

当遺跡の性格については，墨書土器や刀子の存在等から郡衙関連遺跡としての特徴とも一部合致するが，住居構造に古墳時代後期の影響が継続して窺われる点や倉庫としての掘立柱建物が少ない点，須恵器製品の安定的供給がなされていない点など，未だ不明瞭な点も多く，どちらかと言えば「郷」単位の一般集落に近い様相を示していると言える。しかし，当集落が繁栄していくまでの時期は，在地の豪族が体制内に取り込まれ，律令国家体制の地方支配が確立していく時期でもあり，今回の調査で，久慈郡八部郷の姿が一部ではあるが垣間見れたと思われる。また，当集落内の最終期は10世紀第２四半期頃であるが，その後中世には地下式坑，近世には墓壙が確認されており，中世以降も継続して岩崎地域の人々の足跡は残されていくのである。

なお，調査期間中，常陸大宮市長を初め地元の多くの方々が来跡され，その都度当遺跡が郷土の方々の誇りであり宝であることを痛感した次第である。今回の調査成果が今後の郷土の歴史と文化に対する理解を深める一助になることを切に願いむすびとしたい。　（宮田）

【参考文献】


浅井 哲也　1992　「茨城県内における奈良・平安時代・平安時代の土器（Ⅰ）」
『研究ノート』創刊号（財）茨城県教育財団

浅井 哲也　1993　「茨城県内における奈良・平安時代・平安時代の土器（Ⅱ）」
『研究ノート』2号（財）茨城県教育財団

浅井 哲也　1994　「東国の古代の集落」『茨城県史研究』72集 茨城県立歴史館

小笠原 好彦　1989　「古墳時代の竪穴住居集落にみる単位集団の移動」
『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史民俗博物館

小川和博ほか　2008　『上ノ宿遺跡 発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会

小川和博ほか　2009　『上ノ宿遺跡-第2次調査Ⅰ-発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会

小川和博ほか　2009　『上ノ宿遺跡-第2次調査Ⅱ-発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会

川井正一ほか　2011　「茨城県域における文字資料集成12」『埋蔵文化財部年報』30

木下 良　1991　「計画的古代道の復元-常陸国を事例に-」
『第二回シンポジウム常陸の道』

笹生 衛　1998　「古代集落と仏教信仰」『仏のすまう区間－古代霞ヶ浦の仏教信仰－』
上高津貝塚ふるさと歴史の広場

佐々木義則　2009　「武田遺跡群における平安時代土師器坏・小皿編年」
『婆良岐考古』第31号 婆良岐考古同人会

志田諄一，瓦吹堅 2000「常陸路の終点と梁津」『北茨城市史』北茨城市

富永 樹之　1994　「村落内寺院の展開－地方に於ける仏教の受容」（上）
『神奈川考古』第30号 神奈川考古同人会

平川 南　2000　『墨書土器の研究』吉川弘文館

松村 恵司　1995　「古代東国集落の諸相……村と都の暮らしぶり」
『第9回企画展図録 古代集落－しもつけのムラとその生活－』
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

松村 恵司　1998　「律令国家の末端支配と集落」「律令国家の地方末端支配機構をめぐって
－研究集会の記録－』奈良国立文化財研究所

山中 敏史　2000　「地方官衙と末端支配」『茨城県考古学協会誌』第12号

インターネット検索　画像データベース『墨書土器字典』独立行政法人国立文化財機 構奈良文化 財研究所

# 付章　自然科学分析

## 北原遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

### 1．はじめに

常陸大宮市に所在する北原遺跡から出土した炭化材について樹種同定を行った。

### 2．試料と方法

試料は，第42号住居跡の北壁際から出土した炭化材が１点（No.1）と，第44号住居跡の中央部床面から出土した炭化材が１点（No.2）の，計２点である。発掘調査所見から，第42号住居跡は６世紀初頭，第44号住居跡は９世紀前半と推測されている。

炭化材は，現場で試料の一部が分析用に採取された。この分析用試料を乾燥させた後，カミソリまたは手で３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し，直径１ｃｍの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後，イオンスパッタで金コーティングを施し，走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

### 3．結果

樹種同定の結果，広葉樹であるコナラ属アカガシ亜属（以下，アカガシ亜属）とトネリコ属シオジ節（以下，シオジ節）の２分類群が確認された。結果の一覧を表１に示す。第42号住居跡から出土した炭化材はシオジ節，第44号住居跡から出土した炭化材はアカガシ亜属であった。

**表1　北原遺跡出土炭化材の樹種同定結果**

| No. | 遺構 | 地点 | 樹種 | 遺構の時期 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 第 42 号住居跡 | 北壁際 | トネリコ属シオジ節 | 6 世紀初頭 |
| 2 | 第 44 号住居跡 | 中央部床面 | コナラ属アカガシ亜属 | 9 世紀前半 |

以下に，同定根拠となった木材組織の特徴を記載し，走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（1）コナラ属アカガシ亜属　*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*　ブナ科　図版1　1a-1c（No.2）

円形でやや大型の道管が，単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で，単列と広放射組織がある。

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で，アカガシやシラカシ，ツクバネガシ，アラカシなど８種がある。イチイガシ以外は木材組織からは識別困難なため，イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材は，きわめて堅硬および強靱で，水湿に強い。

（2）トネリコ属シオジ節　*Fraxinus sect. Fraxinaster*　モクセイ科　図版1　2a-2c（No.1）

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で，晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に２～３個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で，１～３列幅である。

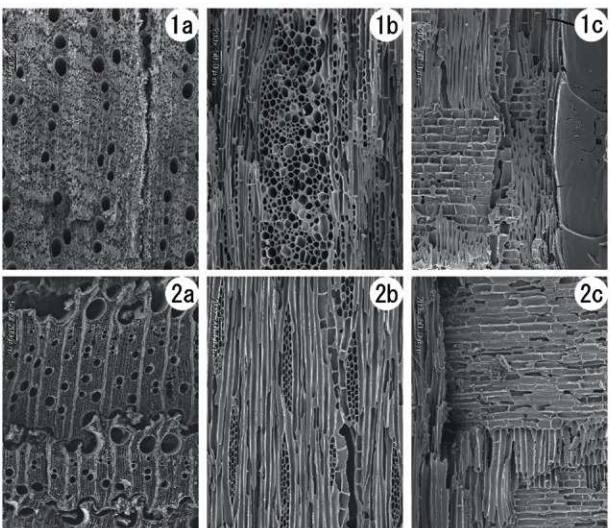
シオジ節は温帯に分布する落葉高木で，シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり，加工性および保存性は中庸である。

## 4．考察

第42号住居跡で確認されたシオジ節と，第44号住居跡で確認されたアカガシ亜属は，ともに重硬な材質の樹木である。茨城県における古墳時代から平安時代の木材利用傾向をみると，アカガシ亜属は建築部材が多く，農耕土木具や工具にも利用されている。トネリコ属は，ひたちなか市の半分山遺跡と武田石高遺跡で，建築部材としての利用が少数ではあるが確認されている（伊東・山田編，2012）。今回の試料は２点とも住居跡から出土しているため，建築材や器具材などの可能性があるが，用途については試料の形状や木取りと合わせて検討する必要がある。


引用文献

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．


図版1　北原遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c．コナラ属アカガシ亜属（No.2）、2a-2c．トネリコ属シオジ節（No.1）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

# 写　真　図　版

第１調査区完掘状況（上方が北）

第２調査区中央部～西部完掘状況（東方向から）

第２調査区西部完掘状況（西方向から）

第３調査区西部完掘状況（上方が北）

第３調査区東部完掘状況（上方が北）

第４調査区完掘状況（上方が北）

第４調査区北部完掘状況（南西方向から）

第３テストピット（西方向から）

第１号住居跡完掘状況(南東方向から)

第１号住居跡遺物出土状況(南東方向から)

第１号住居跡竈堆積状況(東方向から)

第２号住居跡完掘状況(南方向から)

第２号住居跡遺物出土状況(南方向から)

第２号住居跡竈遺物出土状況(南東方向から)

第３号住居跡完掘状況(南東方向から)

第４号住居跡完掘状況(西方向から)

第４号住居跡遺物出土状況(西方向から)

第５号住居跡完掘状況(西方向から)

第５号住居跡遺物出土状況(西方向から)

第６号住居跡完掘状況(南東方向から)

第６号住居跡遺物出土状況(南東方向から)

第７･14号住居跡完掘出土状況(南東方向から)

第７･14号住居跡遺物出土状況(南東方向から)

第14号住居跡遺物出土状況(南東方向から)

第14号住居跡遺物出土状況(東方向から)

第７号住居跡竈遺物出土状況(南東方向から)

第７号住居跡竈遺物出土状況(南東方向から)

第７号住居跡竈埋没状況(東方向から)

第８号住居跡完掘状況(西方向から)

第８号住居跡遺物状況(西方向から)

第９･15号住居跡完掘状況(西方向から)

第９･15号住居跡遺物出土状況(西方向から)

第9・15号住居跡遺物出土状況(北方向から)

第10号住居跡完掘状況(南方向から)

第10号住居跡遺物出土状況(南方向から)

第11号住居跡遺物出土状況(南方向から)

第12号住居跡完掘状況(西方向から)

第13・16号住居跡完掘状況(南東方向から)

第13・16号住居跡遺物出土状況(南西方向から)

第17号住居跡完掘状況(西方向から)